



# Sun™ Identity Manager 8.0 リソースリファレンス

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 820-5456

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

この製品は SUN MICROSYSTEMS, INC. の機密情報と企業秘密を含んでいます。SUN MICROSYSTEMS, INC. の書面による許諾を受けることなく、この製品を使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、Solaris、Sun Java System Identity Manager、Sun Java System Identity Manager Service Provider Edition サービス、Sun Java System Identity Manager Service Provider Edition ソフトウェアおよび Sun Identity Manager は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下であり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

# 目次

<b>はじめに</b> .....	<b>xix</b>
対象読者 .....	xix
内容の紹介 .....	xix
表記上の規則 .....	xx
書体の表記規則 .....	xx
記号 .....	xxi
関連ドキュメントとヘルプ .....	xxi
オンライン上の Sun リソースへのアクセス .....	xxii
Sun テクニカルサポートへのお問い合わせ .....	xxiii
関連するサードパーティー Web サイト .....	xxiii
ご意見、ご要望の送付先 .....	xxiii
<b>リソースリファレンス</b> .....	<b>1</b>
アダプタに関する節の内容の紹介 .....	6
トピックの説明 .....	6
<b>Access Enforcer</b> .....	<b>21</b>
リソースを設定する際の注意事項 .....	21
Identity Manager 上で設定する際の注意事項 .....	21
使用上の注意 .....	22
セキュリティに関する注意事項 .....	25
プロビジョニングに関する注意事項 .....	26
アカウント属性 .....	26
リソースオブジェクトの管理 .....	28
アイデンティティテンプレート .....	28
サンプルフォーム .....	28
トラブルシューティング .....	28
<b>Tivoli Access Manager</b> .....	<b>29</b>
リソースを設定する際の注意事項 .....	29
Identity Manager 上で設定する際の注意事項 .....	31
使用上の注意 .....	32
セキュリティに関する注意事項 .....	33

プロビジョニングに関する注意事項	33
アカウント属性	33
リソースオブジェクトの管理	34
アイデンティティテンプレート	34
サンプルフォーム	35
トラブルシューティング	35
<b>ACF2</b>	<b>37</b>
リソースを設定する際の注意事項	37
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	37
使用上の注意	39
セキュリティに関する注意事項	40
プロビジョニングに関する注意事項	40
アカウント属性	41
リソースオブジェクトの管理	49
サンプルフォーム	49
トラブルシューティング	49
<b>Active Directory</b>	<b>51</b>
リソースを設定する際の注意事項	51
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	55
使用上の注意	55
セキュリティに関する注意事項	60
プロビジョニングに関する注意事項	63
アカウント属性	63
リソースオブジェクトの管理	92
アイデンティティテンプレート	92
サンプルフォーム	93
トラブルシューティング	93
<b>AIX</b>	<b>95</b>
リソースを設定する際の注意事項	95
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	95
使用上の注意	95
セキュリティに関する注意事項	96
プロビジョニングに関する注意事項	98
アカウント属性	98
リソースオブジェクトの管理	100
アイデンティティテンプレート	100
サンプルフォーム	100
トラブルシューティング	100
<b>BridgeStream SmartRoles</b>	<b>101</b>
リソースを設定する際の注意事項	101
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	101
使用上の注意	103
セキュリティに関する注意事項	106

プロビジョニングに関する注意事項	107
アカウント属性	107
リソースオブジェクトの管理	110
アイデンティティテンプレート	111
サンプルフォーム	111
トラブルシューティング	111
<b>ClearTrust</b>	113
リソースを設定する際の注意事項	113
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	113
使用上の注意	114
セキュリティに関する注意事項	114
プロビジョニングに関する注意事項	114
アカウント属性	115
リソースオブジェクトの管理	115
アイデンティティテンプレート	115
サンプルフォーム	115
トラブルシューティング	116
<b>データベーステーブル</b>	117
リソースを設定する際の注意事項	117
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	117
使用上の注意	117
セキュリティに関する注意事項	120
プロビジョニングに関する注意事項	120
アカウント属性	120
リソースオブジェクトの管理	121
アイデンティティテンプレート	121
サンプルフォーム	121
トラブルシューティング	121
<b>DB2</b>	123
リソースを設定する際の注意事項	123
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	123
使用上の注意	124
セキュリティに関する注意事項	124
プロビジョニングに関する注意事項	124
アカウント属性	125
リソースオブジェクトの管理	125
アイデンティティテンプレート	125
サンプルフォーム	125
トラブルシューティング	126
<b>Domino</b>	127
リソースを設定する際の注意事項	127
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	128
使用上の注意	128

追加情報	135
セキュリティーに関する注意事項	137
プロビジョニングに関する注意事項	138
アカウント属性	138
アイデンティティーテンプレート	142
サンプルフォーム	143
トラブルシューティング	143
フラットファイル Active Sync	145
リソースを設定する際の注意事項	145
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	146
使用上の注意	146
セキュリティーに関する注意事項	149
プロビジョニングに関する注意事項	149
アカウント属性	150
リソースオブジェクトの管理	150
アイデンティティーテンプレート	150
サンプルフォーム	150
トラブルシューティング	150
HP OpenVMS	151
リソースを設定する際の注意事項	151
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	151
使用上の注意	151
セキュリティーに関する注意事項	151
プロビジョニングに関する注意事項	151
アカウント属性	152
サンプルフォーム	154
トラブルシューティング	154
HP-UX	155
リソースを設定する際の注意事項	155
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	155
使用上の注意	155
セキュリティーに関する注意事項	156
プロビジョニングに関する注意事項	158
アカウント属性	158
リソースオブジェクトの管理	159
アイデンティティーテンプレート	160
サンプルフォーム	160
トラブルシューティング	160
INISafe Nexess	161
リソースを設定する際の注意事項	161
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	161
使用上の注意	161
セキュリティーに関する注意事項	161

プロビジョニングに関する注意事項	162
アカウント属性	162
リソースオブジェクトの管理	163
アイデンティティテンプレート	163
サンプルフォーム	163
トラブルシューティング	163
<b>JMS リスナー</b>	165
リソースを設定する際の注意事項	165
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	165
使用上の注意	165
セキュリティに関する注意事項	170
プロビジョニングに関する注意事項	170
アカウント属性	171
リソースオブジェクトの管理	171
アイデンティティテンプレート	171
サンプルフォーム	171
トラブルシューティング	171
<b>LDAP</b>	173
リソースを設定する際の注意事項	173
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	174
使用上の注意	174
セキュリティに関する注意事項	181
プロビジョニングに関する注意事項	182
アカウント属性	182
リソースオブジェクトの管理	187
アイデンティティテンプレート	188
サンプルフォーム	188
トラブルシューティング	189
<b>Microsoft Identity Integration Server</b>	191
リソースを設定する際の注意事項	191
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	191
使用上の注意	192
セキュリティに関する注意事項	192
プロビジョニングに関する注意事項	192
アカウント属性	193
リソースオブジェクトの管理	193
アイデンティティテンプレート	193
サンプルフォーム	193
トラブルシューティング	193
<b>Microsoft SQL Server</b>	195
リソースを設定する際の注意事項	195
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	195
使用上の注意	196

セキュリティに関する注意事項	197
プロビジョニングに関する注意事項	198
アカウント属性	199
リソースオブジェクトの管理	200
アイデンティティテンプレート	200
サンプルフォーム	200
トラブルシューティング	200
MySQL	201
リソースを設定する際の注意事項	201
Identity Manager 上で設定する際の注意事項	201
使用上の注意	201
セキュリティに関する注意事項	202
プロビジョニングに関する注意事項	202
アカウント属性	202
リソースオブジェクトの管理	202
アイデンティティテンプレート	203
サンプルフォーム	203
トラブルシューティング	203
NetWare NDS	205
リソースを設定する際の注意事項	205
Identity Manager 上で設定する際の注意事項	207
使用上の注意	207
セキュリティに関する注意事項	211
プロビジョニングに関する注意事項	212
アカウント属性	212
リソースオブジェクトの管理	220
アイデンティティテンプレート	220
サンプルフォーム	220
トラブルシューティング	221
Oracle	223
リソースを設定する際の注意事項	223
Identity Manager 上で設定する際の注意事項	223
使用上の注意	224
セキュリティに関する注意事項	225
プロビジョニングに関する注意事項	226
アカウント属性	226
リソースオブジェクトの管理	227
アイデンティティテンプレート	227
サンプルフォーム	227
トラブルシューティング	228
Oracle ERP	229
リソースを設定する際の注意事項	229
Identity Manager 上で設定する際の注意事項	229

使用上の注意	230
リソースアクションの使用	237
セキュリティーに関する注意事項	244
プロビジョニングに関する注意事項	246
アカウント属性	248
リソースオブジェクトの管理	252
アイデンティティーテンプレート	252
サンプルフォーム	253
トラブルシューティング	253
<b>OS/400</b>	255
リソースを設定する際の注意事項	255
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	255
使用上の注意	255
セキュリティーに関する注意事項	256
プロビジョニングに関する注意事項	257
アカウント属性	257
リソースオブジェクトの管理	259
アイデンティティーテンプレート	259
サンプルフォーム	259
トラブルシューティング	259
<b>PeopleSoft コンポーネント</b>	261
リソースを設定する際の注意事項	261
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	274
使用上の注意	274
セキュリティーに関する注意事項	275
プロビジョニングに関する注意事項	275
アカウント属性	276
リソースオブジェクトの管理	277
アイデンティティーテンプレート	277
サンプルフォーム	277
トラブルシューティング	277
<b>PeopleSoft コンポーネントインタフェース</b>	279
リソースを設定する際の注意事項	279
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	279
使用上の注意	280
セキュリティーに関する注意事項	286
プロビジョニングに関する注意事項	286
アカウント属性	287
リソースオブジェクトの管理	288
アイデンティティーテンプレート	288
サンプルフォーム	288
トラブルシューティング	288
<b>RACF</b>	289

リソースを設定する際の注意事項	289
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	289
使用上の注意	291
セキュリティーに関する注意事項	293
プロビジョニングに関する注意事項	294
アカウント属性	294
アイデンティティーテンプレート	296
サンプルフォーム	296
トラブルシューティング	297
<b>RACF LDAP</b>	299
リソースを設定する際の注意事項	299
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	299
使用上の注意	301
セキュリティーに関する注意事項	303
プロビジョニングに関する注意事項	303
アカウント属性	304
リソースオブジェクトの管理	307
アイデンティティーテンプレート	307
サンプルフォーム	307
トラブルシューティング	307
<b>Red Hat Linux および SuSE Linux</b>	309
リソースを設定する際の注意事項	309
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	309
使用上の注意	309
セキュリティーに関する注意事項	310
プロビジョニングに関する注意事項	312
アカウント属性	313
リソースオブジェクトの管理	313
アイデンティティーテンプレート	314
サンプルフォーム	314
トラブルシューティング	314
<b>Remedy</b>	315
リソースを設定する際の注意事項	315
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	315
使用上の注意	315
セキュリティーに関する注意事項	317
プロビジョニングに関する注意事項	318
アカウント属性	318
リソースオブジェクトの管理	319
アイデンティティーテンプレート	319
サンプルフォーム	319
トラブルシューティング	320
<b>SAP</b>	321

リソースを設定する際の注意事項	321
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	321
使用上の注意	322
セキュリティーに関する注意事項	325
プロビジョニングに関する注意事項	325
アカウント属性	326
リソースオブジェクトのサポート	329
アイデンティティーテンプレート	330
サンプルフォーム	330
トラブルシューティング	331
<b>SAP HR Active Sync</b>	333
リソースを設定する際の注意事項	333
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	340
使用上の注意	341
セキュリティーに関する注意事項	342
プロビジョニングに関する注意事項	343
アカウント属性	343
リソースオブジェクトの管理	352
アイデンティティーテンプレート	352
サンプルフォーム	352
トラブルシューティング	352
<b>SAP Enterprise Portal</b>	355
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	355
リソースを設定する際の注意事項	355
使用上の注意	355
セキュリティーに関する注意事項	356
プロビジョニングに関する注意事項	356
アカウント属性	356
リソースオブジェクトの管理	357
アイデンティティーテンプレート	358
サンプルフォーム	358
トラブルシューティング	358
<b>スクリプトゲートウェイ</b>	359
リソースを設定する際の注意事項	359
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	359
使用上の注意	359
セキュリティーに関する注意事項	362
プロビジョニングに関する注意事項	363
アカウント属性	363
リソースオブジェクトの管理	363
アイデンティティーテンプレート	363
サンプルフォーム	364
トラブルシューティング	364

スクリプトホスト	365
リソースを設定する際の注意事項	365
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	365
使用上の注意	367
セキュリティに関する注意事項	381
プロビジョニングに関する注意事項	381
アカウント属性	382
リソースオブジェクトの管理	382
アイデンティティテンプレート	382
サンプルフォーム	382
トラブルシューティング	382
スクリプト JDBC	383
上で設定する際の注意事項	383
リソースを設定する際の注意事項	383
使用上の注意	384
<b>create</b> アクション	386
<b>getUser</b> アクション	387
<b>delete</b> アクション	389
<b>update</b> アクション	390
<b>enable</b> アクション	391
<b>disable</b> アクション	392
<b>listAll</b> アクション	393
<b>getAccountIterator</b> アクション	395
<b>getActiveSyncIterator</b> アクション	397
<b>authenticate</b> アクション	399
<b>test</b> アクション	400
プロビジョニングに関する注意事項	401
セキュリティに関する注意事項	401
リソースオブジェクトの管理	402
アイデンティティテンプレート	402
サンプルフォーム	402
トラブルシューティング	402
SecurID ACE/Server	405
リソースを設定する際の注意事項	405
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	406
使用上の注意	406
セキュリティに関する注意事項	411
プロビジョニングに関する注意事項	412
アカウント属性	412
リソースオブジェクトの管理	415
アイデンティティテンプレート	415
サンプルフォーム	415
トラブルシューティング	416

シェルスクリプト	417
リソースを設定する際の注意事項	417
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	417
使用上の注意	417
スクリプト	418
結果処理	419
セキュリティに関する注意事項	420
プロビジョニングに関する注意事項	421
アカウント属性	421
リソースオブジェクトの管理	421
アイデンティティテンプレート	421
サンプルフォーム	422
トラブルシューティング	422
<b>Siebel CRM</b>	423
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	423
リソースを設定する際の注意事項	423
使用上の注意	424
プロビジョニングに関する注意事項	427
セキュリティに関する注意事項	429
リソースオブジェクトの管理	429
アイデンティティテンプレート	430
サンプルフォーム	430
トラブルシューティング	430
<b>SiteMinder</b>	433
リソースを設定する際の注意事項	433
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	434
使用上の注意	435
セキュリティに関する注意事項	435
プロビジョニングに関する注意事項	435
アカウント属性	436
リソースオブジェクトの管理	438
アイデンティティテンプレート	438
サンプルフォーム	438
トラブルシューティング	438
<b>Solaris</b>	439
リソースを設定する際の注意事項	439
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	439
使用上の注意	439
セキュリティに関する注意事項	440
プロビジョニングに関する注意事項	442
アカウント属性	443
リソースオブジェクトの管理	444
アイデンティティテンプレート	444

サンプルフォーム	444
トラブルシューティング	444
<b>Sun Access Manager</b>	445
リソースを設定する際の注意事項	445
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	449
使用上の注意	450
セキュリティに関する注意事項	450
プロビジョニングに関する注意事項	451
アカウント属性	451
リソースオブジェクトの管理	452
アイデンティティテンプレート	453
サンプルフォーム	453
トラブルシューティング	453
<b>Sun Access Manager</b> レルム	455
リソースを設定する際の注意事項	455
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	457
セキュリティに関する注意事項	458
プロビジョニングに関する注意事項	459
アカウント属性	459
リソースオブジェクトの管理	460
アイデンティティテンプレート	460
サンプルフォーム	460
トラブルシューティング	461
<b>Sun Java System Communications Services</b>	463
リソースを設定する際の注意事項	463
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	464
使用上の注意	464
セキュリティに関する注意事項	465
プロビジョニングに関する注意事項	465
アカウント属性	466
リソースオブジェクトの管理	477
アイデンティティテンプレート	478
サンプルフォーム	478
トラブルシューティング	478
<b>Sybase ASE</b>	479
リソースを設定する際の注意事項	479
<b>Identity Manager</b> 上で設定する際の注意事項	479
使用上の注意	479
セキュリティに関する注意事項	479
プロビジョニングに関する注意事項	480
アカウント属性	481
リソースオブジェクトのサポート	481
アイデンティティテンプレート	482

サンプルフォーム	482
トラブルシューティング	482
Top Secret	483
リソースを設定する際の注意事項	483
Identity Manager 上で設定する際の注意事項	484
使用上の注意	486
プロビジョニングに関する注意事項	487
セキュリティーに関する注意事項	488
アカウント属性	488
アイデンティティテンプレート	490
サンプルフォーム	490
トラブルシューティング	491
<b>AttrParse オブジェクトの実装</b>	<b>493</b>
設定	493
AttrParse 要素とトークン	494
AttrParse 要素	494
collectCsvHeader トークン	496
collectCsvLines トークン	497
eol トークン	498
flag トークン	498
int トークン	500
loop トークン	501
multiLine トークン	501
opt トークン	502
skip トークン	503
skipLinesUntil トークン	504
skipToEol トークン	504
skipWhitespace トークン	505
str トークン	505
t トークン	508
<b>リソースへのアクションの追加</b>	<b>509</b>
アクションとは	509
サポートされるプロセス	510
アクションの定義	510
環境変数の使用	511
後アクションの実装	512
アクションファイルの作成	512
Identity Manager へのアクションファイルの読み込み	513
アクションの実装	514
手順 1: Identity Manager ユーザーフォームフィールドを定義する	514

手順 2: スキーママップエントリを追加する .....	514
Active Directory の例 .....	515
例 1: ユーザーの作成後のアクション .....	515
例 2: ユーザーアカウントの更新または編集後のアクション .....	516
例 3: ユーザーの削除後のアクション .....	517
Domino の例 .....	518
LotusScript の例 .....	518
cmd シェルの例 .....	519
LotusScript の実行 .....	519
メインフレームの例 .....	521
リソースアクションのコンテキスト .....	521
SendKeys メソッドのニーマニックキーワード .....	522
サンプルリソースアクション .....	523
ビューの拡張 .....	526
属性の登録 .....	526
<b>LDAP パスワードの同期 .....</b>	<b>529</b>
概要 .....	529
パスワードキャプチャー処理 .....	530
旧バージョン形式の更新履歴ログデータベース内のパスワード .....	530
スキーマの変更 .....	531
LDAP パスワード同期に関する Identity Manager の設定 .....	531
手順 1: LDAP リソースアダプタを設定する .....	531
手順 2: パスワード同期機能を有効にする .....	532
パスワードキャプチャープラグインのインストールと設定 .....	534
<b>Active Directory 同期フェイルオーバー .....</b>	<b>537</b>
必要なコンポーネント .....	537
「On Synchronization Failure Process」リソース属性 .....	538
Active Directory 失敗時のプロセス .....	538
Active Directory Recovery Collector タスク .....	538
Active Directory Failover タスク .....	539
フェイルオーバーモード .....	540
Active Directory 同期フェイルオーバーのセットアップ .....	542
同期失敗ワークフローの例 .....	543
<b>メインフレーム接続 .....</b>	<b>547</b>
Host On Demand による SSL 設定 .....	547
SSL または TLS を使用してアダプタを Telnet/TN3270 サーバーに接続する .....	547
PKCS #12 ファイルの生成 .....	548
トラブルシューティング .....	549
WRQ による SSL 設定 .....	549

<b>SNC (Secure Network Communications) 接続の有効化</b> .....	<b>551</b>
SNC 通信のクレデンシャルを作成する .....	551
Identity Manager の証明書を取得する .....	552
Identity Manager の識別名 (DN) を取得する .....	552
SAP システムの識別名 (DN) を取得する .....	552
Identity Manager アプリケーションサーバーを設定する .....	553
アダプタを設定する .....	553
<b>非推奨のリソースアダプタ</b> .....	<b>555</b>



# はじめに

本書『Sun™ Identity Manager リソースリファレンス』では、リソースに接続し、これらのリソース上のアカウントを管理する場合に役立つ参照情報と手順について説明します。

## 対象読者

『Sun™ Identity Manager リソースリファレンス』は、Identity Manager を設定および配備してリソースを管理するデプロイヤーと管理者に向けて作成されました。

デプロイヤーは、プログラミングに関する予備知識があり、XML、Java、Emacs や IDE (Eclipse または NetBeans など) に精通していることが望まれます。

管理者にはプログラミングに関する予備知識は必ずしも必要ではありませんが、LDAP、Active Directory、SQL などのリソースドメインの 1 つ以上について、高度に熟練していることが望まれます。

## 内容の紹介

『Identity Manager リソースリファレンス』は、次の章で構成されています。

- **第 1 章「リソースリファレンス」**- Identity Manager リソースのインストール、設定、および実装に関する情報を特定します。
- **第 2 章「AttrParse オブジェクトの実装」**- AttrParse 機能をカスタマイズするために必要な情報を提供します。メインフレームベースのリソースアダプタは、この機能を使用してリソースから情報を抽出します。
- **第 3 章「リソースへのアクションの追加」**- Identity Manager のさまざまなタイプのリソースに、アクションを作成および実装する方法について説明します。

- 第4章「LDAPパスワードの同期」- Sun Java™ System Directory Server から Identity Manager システムへのパスワード同期をサポートする Identity Manager 製品の拡張機能について説明します。
- 第5章「Active Directory 同期フェイルオーバー」- 新しいドメインコントローラに切り替えたときに発生する繰り返しいベントの数を制限する方法について説明します。
- 第6章「メインフレーム接続」- IBM の Host on Demand や Attachmate 3270 Mainframe Adapter for Sun Emulator Class Library を使用して、メインフレームリソースに接続する方法について説明します。
- 第7章「SNC (Secure Network Communications) 接続の有効化」- Access Enforcer、SAP、および SAP HR リソースアダプタが SNC (Secure Network Communications) を使用して安全に SAP システムと通信できるようにする方法について説明します。

## 表記上の規則

この節の表では、このガイドで使用する表記規則について説明します。

### 書体の表記規則

次の表では、このガイドで使用する書体の違いについて説明します。

表 1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123 (モノスペース)	API および言語要素、HTML タグ、Web サイトの URL、コマンド名、ファイル名、ディレクトリパス名、画面上のコンピュータ出力、サンプルコード。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b> (太字のモノスペース)	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% <b>su</b> Password:
<i>AaBbCc123</i> (イタリック)	実際の名前または値によって置き換えられるコマンドまたはパス名の可変部分。	これらを、 <i>class</i> オプションと呼びます。  このファイルは、 <i>install-dir</i> /bin ディレクトリにあります。

## 記号

次の表は、本書で使用する記号の表記規則を示しています。

表 2 記号の表記規則

記号	説明	例	意味
[ ]	省略可能なコマンドオプションが入ります。	ls [-l]	-l オプションは省略可能です。
{   }	必須のコマンドオプションの選択肢を囲みます。	-d {y n}	-d オプションでは、y か n のどちらかの引数を使用する必要があります。
-	同時に押すキーを連結します。	Control-A	Ctrl キーと A キーを同時に押します。
+	連続して押すキーを連結します。	Ctrl+A+N	Ctrl キーを押し、離してから、以後のキーを続けて押します。
>	グラフィカルユーザーインタフェースで選択するメニュー項目を示します。	「ファイル」>「新規」>「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから、「テンプレート」を選択します。

## 関連ドキュメントとヘルプ

Sun Microsystems は、Identity Manager をインストール、使用、および設定する際に役立つ次のような追加のドキュメントと情報を提供しています。

- 『Identity Manager インストールガイド』: Identity Manager と関連ソフトウェアをインストールおよび設定する手順と参照情報が記載されています。
- 『Identity Manager Upgrade』: Identity Manager と関連ソフトウェアをアップグレードおよび設定する手順と参照情報が記載されています。
- 『Identity Manager 管理ガイド』: Identity Manager を使用して企業情報システムへのセキュリティ保護されたユーザーアクセスを実現するために、手順、チュートリアル、実例を説明します。
- 『Identity Manager の配備に関する技術情報』: Identity Manager 製品の概念に関する概要 (オブジェクトアーキテクチャーを含む) および基本的な製品コンポーネントの紹介が記載されています。

- 『Identity Manager 配備ツール』: Identity Manager のさまざまな配備ツールの使用方法を示す参照情報と手順が記載されています。これらの情報は、Identity Manager サーバーによって提供される規則と規則ライブラリ、共通のタスクとプロセス、辞書サポート、および SOAP ベースの Web サービスインタフェースを対象としています。
- 『Identity Manager ワークフロー、フォーム、およびビュー』: Identity Manager のワークフロー、フォーム、および画面の使用法を示す参照情報と手順が記載されています。この中には、これらのオブジェクトをカスタマイズするのに必要なツールに関する情報が含まれます。
- 『Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』: Identity Manager のチューニングに関するガイダンス、問題の追跡とトラブルシューティングの手順、およびこの製品を操作したときに発生する可能性があるエラーメッセージと例外についての説明を提供する参照情報と手順が記載されています。
- 『Identity Manager Service Provider Deployment』: Identity Manager Service Provider の計画と実装の方法を示す参照情報と手順が記載されています。
- Identity Manager ヘルプ

Identity Manager の完全な手順、参照情報、用語の説明を記載したオンラインガイダンス、オンライン情報です。ヘルプにアクセスするには、Identity Manager メニューバーの「ヘルプ」リンクをクリックします。主要なフィールドには、ガイダンス (フィールド固有の情報) があります。

## オンライン上の Sun リソースへのアクセス

製品のダウンロード、プロフェッショナルサービス、パッチとサポート、および開発者向け追加情報については、次の Web サイトにアクセスしてください。

- ダウンロードセンター  
<http://www.sun.com/software/download/>
- プロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone/index.html>
- Sun Enterprise サービス、Solaris パッチ、およびサポート  
<http://sunsolve.sun.com/>
- 開発者向け情報  
<http://developers.sun.com/prodtech/index.html>

# Sun テクニカルサポートへのお問い合わせ

製品のドキュメントで解決できない、本製品に関する技術的な質問については、次のいずれかの方法でカスタマサポートにお問い合わせください。

- オンラインサポート Web サイト <http://www.sun.com/service/online/us>
- 保守契約に基づいて提供されるサポート電話番号

## 関連するサードパーティー Web サイト

このマニュアルで取り上げる他社の Web サイトが使用可能かどうかについて、Sun は関知いたしません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆる内容、広告、製品、およびその他素材を保証するものではなく、責任または義務を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、製品、またはサービスによって生じる、または生じたと主張される、または使用に関連して生じる、または信頼することによって生じる、いかなる損害または損失についても責任または義務を負いません。

## ご意見、ご要望の送付先

Sun ではマニュアルの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。

コメントをお送りになる場合は、<http://docs.sun.com> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームで、ドキュメントのタイトルと Part No. を入力します。Part No. は、マニュアルのタイトルページまたは最上部に記載されている 7 桁または 9 桁の番号です。

たとえば、本書のタイトルは『Sun Java™ System Identity Manager リソースリファレンス』であり、Part No. は 820-5456 です。



# リソースリファレンス

ここでは、Identity Manager に付属して提供されるリソースアダプタについて説明します。

次の表に、これらのアダプタをタイプ別に並べ替えた一覧を示します。また、各アダプタについて、サポートされるバージョン、Active Sync のサポート、接続方法、および通信プロトコルの概要を説明します。

---

<b>注</b>	サポートされる各リソースのバージョンを確認するには、リリースノートを参照してください。
----------	---

---

リソースアダプタは、次のカテゴリに分類されます。

- CRM および ERP システム
- データベース
- ディレクトリ
- メッセージプラットフォーム
- その他
- オペレーティングシステム
- セキュリティーマネージャー
- Web シングルサインオン (SSO)

表 1-1 CRM および ERP システム

リソースアダプタ	サポートされるアプリケーション	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
Oracle アプリケーション	Oracle Financials on Oracle Applications	使用不可	使用不可	JDBC
PeopleSoft コンポーネント	PeopleTools PeopleTools with HRMS	使用可 Smart ポーリング、リスナー	使用不可	Client Connection Toolkit (同期のみ)
PeopleSoft コンポーネントインタフェース	PeopleTools	使用不可	使用不可	Client Connection Toolkit (読み取り / 書き込み)
SAP	SAP R/3	使用不可	使用不可	SAP Java Connector 経由の BAPI
	SAP HR	使用可 Smart ポーリング、リスナー		ALE
	Governance, Risk, and Compliance (GRC) Access Enforcer	使用不可	使用不可	SAP Java Connector 経由の BAPI
	Enterprise Portal	使用不可	使用不可	SAP User Management Engine
Siebel CRM		使用不可	使用不可	Siebel Data API

表 1-2 データベース

リソースアダプタ	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
DB2	使用不可	使用不可	JDBC、SSL
Microsoft SQL Server	使用不可	使用不可	JDBC、SSL
MySQL	使用不可	使用不可	JDBC、SSL
Oracle	使用不可	使用不可	JDBC、SSL
Sybase	使用不可	使用不可	JDBC、SSL

表 1-3 ディレクトリ

リソースアダプタ	サポートされるアプリケーション	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
LDAP		使用可 Smart ポーリング、 リスナー	使用不可	LDAP v3、JNDI、 SSL
Microsoft Active Directory		使用可 Smart ポーリング	使用可	ADSI
NetWare NDS	Netware Netware with eDirectory Novell SecretStore	使用可 Smart ポーリング	使用可	NDS Client、 LDAP、SSL

表 1-4 メッセージプラットフォーム

リソースアダプタ	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
Lotus Domino Gateway	使用可 Smart ポーリング	使用可	RMI、IIOP (Toolkit for Java、CORBA を使用)
Novell GroupWise	使用不可	使用可	NDS Client、 LDAP、SSL

表 1-5 その他

リソースアダプタ	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
データベーステーブル	使用可 Smart ポーリング	使用不可	JDBC
フラットファイル ActiveSync	使用可 Smart ポーリング (Internal Diff エンジン)	使用不可	
INISafe Nexess		com.initech. am.api クラ ス	
JMS リスナー	使用可	使用不可	リソースごとに異 なる

表 1-5 その他 ( 続き )

リソースアダプタ	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
Microsoft Identity Integration Server	使用不可	使用不可	JDBC
Remedy Help Desk	使用可 Smart ポーリング	使用可	Remedy API
スクリプトゲートウェイ		使用可	リソースごとに異なる
スクリプトホスト		使用不可	TN3270
Sun Java™ System Communications Services	使用可	使用不可	SSL または TCP/IP 経由の JNDI

表 1-6 オペレーティングシステム

リソースアダプタ	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
AIX	使用不可	使用不可	Telnet、SSH、SSHPubKey
HP-UX	使用不可	使用不可	Telnet、SSH、SSHPubKey
OS/400	使用不可	使用不可	Java toolkit for AS400
Red Hat Linux	使用不可	使用不可	Telnet、SSH、SSHPubKey
Solaris	使用不可	使用不可	Telnet、SSH、SSHPubKey
SuSE Linux	使用不可	使用不可	Telnet、SSH、SSHPubKey

表 1-7 セキュリティーマネージャー

リソースアダプタ	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
ACF2	使用不可	使用不可	Secure TN3270
ClearTrust	使用不可	使用不可	Server Proxy API、JNDI、SSL

表 1-7 セキュリティーマネージャー ( 続き )

リソースアダプタ	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
RACF	使用不可	使用不可	Secure TN3270
SecurID ACE/Server (Windows および UNIX)	使用不可	使用可 SecurID TCL インタ フェース	SecurID Admin API、 SSHPubKey (UNIX のみ)
Top Secret	使用可 Smart ポーリング (TSS 監査イベントを フィルタ)	使用不可	Secure TN3270

表 1-8 Web シングルサインオン (SSO)

リソースアダプタ	Active Sync のサポート	ゲートウェイ	通信プロトコル
IBM/Tivoli Access Manager	使用不可	使用不可	JNDI、SSL
Netegrity Siteminder	使用不可	使用不可	Netegrity SDK、 JNDI、SSL
Sun Access Manager	使用不可	使用不可	JNDI、SSL

Identity Manager のアダプタは、多くの場合デフォルトの状態で使用できます。

アダプタを有効にするには、次の手順に従います。

1. この章にあるアダプタの「Identity Manager 上で設定する際の注意事項」に説明されている手順に従って、インストールと設定を行います。
2. 『Identity Manager 管理ガイド』の説明に従って、リソースウィザードを使用してリソースを Identity Manager に追加します。

カスタマイズされたアダプタの作成については、『Sun Identity Manager 配備ツール』を参照してください。

# アダプタに関する節の内容の紹介

この章のリソースアダプタに関する節は、次のように構成されています。

- 「**概要**」：サポートされているリソースバージョンを一覧にして示します。このリストに対する更新情報については、最新のサービスパックバージョンに付属している `Readme` ファイルを参照してください。
- 「**リソースを設定する際の注意事項**」：Identity Manager からリソースを管理できるようにするために、リソース上で実行する必要がある追加の手順を示します。
- 「**Identity Manager 上で設定する際の注意事項**」：リソースを操作するために必要なインストールと設定の手順を詳細に示します。
- 「**使用上の注意**」：リソースの使用に関する依存関係と制限について示します。
- 「**セキュリティに関する注意事項**」：サポートされている接続や、基本的なタスクを実行するためにリソース上で必要とされる認証について説明します。
- 「**プロビジョニングに関する注意事項**」：アダプタが、アカウントの有効化 / 無効化、アカウント名の変更などのタスクを実行できるかどうかと、パススルー認証を許可するかどうかについて、示します。
- 「**アカウント属性**」：リソースに対してサポートされているデフォルトユーザー属性について説明します。
- 「**リソースオブジェクトの管理**」：アダプタが管理できるオブジェクトを一覧にして示します。
- 「**アイデンティティテンプレート**」：リソースのアイデンティティテンプレートの構築方法や操作方法に関する注意点について説明します。
- 「**サンプルフォーム**」：カスタムなユーザー作成 / 更新用フォームの構築に使用できるサンプルフォームの場所を示します。特に指定がないかぎり、サンプルフォームは `InstallDir\idm\sample\forms` ディレクトリに置かれています。
- 「**トラブルシューティング**」：トレースおよびデバッグに使用できるクラスを一覧にして示します。

各トピックの詳細については、この節の残りの部分で説明します。

## トピックの説明

ここでは、各アダプタに関する情報を提供します。それぞれのトピックが次のように構成されています。

- [概要](#)
- [リソースを設定する際の注意事項](#)
- [Identity Manager 上で設定する際の注意事項](#)

- [使用上の注意](#)
- [ActiveSync 設定](#)
- [セキュリティーに関する注意事項](#)
- [プロビジョニングに関する注意事項](#)
- [アカウント属性](#)
- [リソースオブジェクトの管理](#)
- [アイデンティティーテンプレート](#)
- [サンプルフォーム](#)
- [トラブルシューティング](#)

## 概要

「概要」の節では、アダプタによってサポートされているリソースのバージョンを一覧にして示します。これ以外にもサポートされているバージョンがあるかもしれませんが、それらはテストが完了していません。

ここでは、アダプタの Java クラス名についても示します。クラス名はトレース時に常に使用されます。また、リソースがカスタムリソースである場合は、「管理するリソースの設定」 ページでクラス名を指定してください。カスタムリソースの詳細については、「[Identity Manager 上で設定する際の注意事項](#)」を参照してください。

リソースの中には、複数のアダプタを備えているものもあります。たとえば、Identity Manager では、Windows Active Directory と Windows Active Directory ActiveSync 用のアダプタが提供されます。このような場合、「概要」の節には次のような表が示されます。

GUI 名	クラス名
Windows 2000 / Active Directory	com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter
Windows 2000 / Active Directory ActiveSync	com.waveset.adapter.ActiveDirectoryActiveSyncAdapter

GUI 名は、「リソース」 ページにドロップダウンメニューで表示されます。この名前は、リソースを Identity Manager に追加すると、リソースのブラウザに表示されません。

## リソースを設定する際の注意事項

ここでは、Identity Manager からリソースを管理できるようにするためにリソース上で実行する追加の手順を示します。Identity Manager との接続を確立するには、リソースが完全に機能していることが前提です。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

インストールの観点から見ると、アダプタは次の 2 種類に分けられます。

- Identity Manager アダプタ
- カスタムアダプタ

Identity Manager アダプタには、追加のインストール手順は必要ありません。次の手順に従って、「リソース」 ページ上のアクションメニューにリソースを表示させます。

1. Identity Manager 管理インタフェースから、「リソース」をクリックし、次に「**タイプの設定**」をクリックします。
2. Identity Manager の「リソース」セクションで、適切なオプションを選択します。
3. ページの下部にある「**保存**」をクリックします。

カスタムアダプタの場合は、追加のインストール手順を実行する必要があります。通常は、1 つ以上の jar ファイルを *InstallDir\idm\WEB-INF\lib* ディレクトリにコピーし、アダプタの Java クラスをアダプタのリストに追加します。jar ファイルは通常、インストールメディアから入手するか、インターネットからダウンロードすることができます。

次の例は、DB2 対応のリソースアダプタについて、この手順を示したものです。

1. db2java.jar ファイルを *InstallDir\idm\WEB-INF\lib* ディレクトリにコピーします。
2. Identity Manager 管理インタフェースから、「リソース」をクリックし、次に「**タイプの設定**」をクリックします。
3. ページの下部にある「**カスタムリソースの追加**」をクリックします。
4. 下部のテキストボックスに、アダプタの完全なクラス名 (たとえば、`com.waveset.adapter.DB2ResourceAdapter`) を入力します。
5. ページの下部にある「**保存**」をクリックします。

次の表は、Identity Manager サーバー上に jar ファイルをインストールする必要のあるアダプタの一覧です。

アダプタ	必要なファイル
Access Enforcer	<ul style="list-style-type: none"> <li>• sapjco.jar</li> <li>• axis.jar</li> <li>• commons-discovery-0.2.jar</li> <li>• commons-logging-1.0.4.jar</li> <li>• jaxrpc.jar</li> <li>• log4j-1.2.8.jar</li> <li>• saaj.jar</li> <li>• wsdl4j-1.5.1.jar</li> </ul>
Access Manager	pd.jar
ACF2	habeans.jar -または- <ul style="list-style-type: none"> <li>• habase.jar</li> <li>• hacp.jar</li> <li>• ha3270.jar</li> <li>• hassl.jar</li> <li>• hodbase.jar</li> </ul> -または- <ul style="list-style-type: none"> <li>• RWebSDK.jar</li> <li>• wrqtls12.jar</li> <li>• profile.jaw</li> </ul>

アダプタ	必要なファイル
ClearTrust	ct_admin_api.jar  SSLを使用する場合は、次の .jar ファイルも必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• asn1.jar</li> <li>• certj.jar</li> <li>• jce1_2-do.jar</li> <li>• jcert.jar</li> <li>• jnet.jar</li> <li>• jsafe.jar</li> <li>• jsaveJCE.jar</li> <li>• jsse.jar</li> <li>• rsajsse.jar</li> <li>• sslj.jar</li> </ul>
DB2	db2java.jar
INISafe Nexess	<ul style="list-style-type: none"> <li>• concurrent.jar</li> <li>• crimson.jar</li> <li>• external-debug.jar</li> <li>• INICrypto4Java.jar</li> <li>• jdom.jar</li> <li>• log4j-1.20.6.jar</li> </ul>
MS SQL Server	Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver と接続する場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• mssqlserver.jar</li> </ul> Microsoft SQL Server 2000 JDBC Driver と接続する場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• msbase.jar</li> <li>• mssqlserver.jar</li> <li>• msutil.jar</li> </ul>
MySQL	mysqlconnector-java- <i>Version</i> -bin.jar
Oracle および Oracle ERP	oraclejdbc.jar
PeopleSoft コンポーネントおよび PeopleSoft コンポーネントインタ フェース	psjoa.jar

アダプタ	必要なファイル
RACF	habeans.jar -または- <ul style="list-style-type: none"> <li>• habase.jar</li> <li>• hacp.jar</li> <li>• ha3270.jar</li> <li>• hassl.jar</li> <li>• hodbase.jar</li> </ul> -または- <ul style="list-style-type: none"> <li>• RWebSDK.jar</li> <li>• wrqtls12.jar</li> <li>• profile.jaw</li> </ul>
SAP	<ul style="list-style-type: none"> <li>• sapjco.jar</li> <li>• sapidoc.jar</li> </ul>
SAP HR Active Sync	<ul style="list-style-type: none"> <li>• sapjco.jar</li> <li>• sapidoc.jar</li> <li>• sapidocjco.jar</li> </ul>
スクリプトホスト	habeans.jar -または- <ul style="list-style-type: none"> <li>• habase.jar</li> <li>• hacp.jar</li> <li>• ha3270.jar</li> <li>• hassl.jar</li> <li>• hodbase.jar</li> </ul> -または- <ul style="list-style-type: none"> <li>• RWebSDK.jar</li> <li>• wrqtls12.jar</li> <li>• profile.jaw</li> </ul>

アダプタ	必要なファイル
Siebel CRM	<p><b>Siebel 6:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SiebelDataBean.jar</li> <li>• SiebelTC_enu.jar</li> <li>• SiebelTcCommon.jar</li> <li>• SiebelTcOM.jar</li> </ul> <p><b>Siebel 7.0:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SiebelJI_Common.jar</li> <li>• SiebelJI_enu.jar</li> <li>• SiebelJI.jar</li> </ul> <p><b>Siebel 7.7、7.8</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Siebel.jar</li> <li>• SiebelJI_enu.jar</li> </ul>
SiteMinder	<ul style="list-style-type: none"> <li>• smjavaagentapi.jar</li> <li>• smjavasdk2.jar</li> </ul>
Sun Java System Access Manager	<p>7.0 より前のバージョン:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リリースによって異なる</li> </ul> <p>Version 7.0 以降</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• am_sdk.jar</li> <li>• am_services.jar</li> </ul>
Sun Java System Access Manager Realm	<ul style="list-style-type: none"> <li>• am_sdk.jar</li> <li>• am_services.jar</li> </ul>
Sybase	jconn2.jar

アダプタ	必要なファイル
Top Secret	habeans.jar -または- <ul style="list-style-type: none"> <li>• habase.jar</li> <li>• haccp.jar</li> <li>• ha3270.jar</li> <li>• hassl.jar</li> <li>• hodbase.jar</li> </ul> -または- <ul style="list-style-type: none"> <li>• RWebSDK.jar</li> <li>• wrqtls12.jar</li> <li>• profile.jaw</li> </ul>

## 使用上の注意

ここでは、リソースの使用に関連する依存関係と制限について示します。この節で説明する内容は、アダプタによって異なります。

## ActiveSync 設定

このセクションでは、「同期ポリシーの編集」ページに表示できるリソース固有の設定情報について説明します。次の属性は、ほとんどの Active Sync アダプタに適用されます。

パラメータ	説明
処理規則	<p>TaskDefinition の名前、またはフィールド内のすべてのレコードに対して実行される TaskDefinition の名前を返す規則のいずれかです。この処理規則は、activeSync 名前空間内のリソースアカウント属性を、リソース ID およびリソース名とともに取得します。</p> <p>このパラメータは、ほかのすべてのパラメータよりも優先されます。この属性が指定されると、このアダプタ上にほかのどんな設定があっても、すべての行に対してこのパラメータで定義された処理が実行されます。</p>

パラメータ	説明
<p>関連規則</p>	<p>リソースアカウントを所有する <b>Identity Manager</b> ユーザーのリソース情報が特定されない場合、関連規則が呼び出され、(アカウントの名前空間内の)リソースアカウント属性に基づいて、ユーザーの照合に使用する、一致する可能性のあるユーザーまたはアカウント ID の候補のリスト、あるいは属性条件を特定します。</p> <p>規則は、エントリを既存の <b>Identity Manager</b> アカウントに関連付けるために使用できる次のいずれかの情報を返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Identity Manager</b> ユーザー名</li> <li>• <b>WSAttribute</b> オブジェクト (属性ベースの検索に使用)</li> <li>• <b>AttributeCondition</b> 型または <b>WSAttribute</b> 型の項目のリスト (AND 結合による属性ベースの検索)</li> <li>• <b>String</b> 型の項目のリスト (各項目は <b>Identity Manager</b> アカウントの <b>Identity Manager ID</b> またはユーザー名)</li> </ul>
<p>確認規則</p>	<p>関連規則によって複数の <b>Identity Manager</b> アカウントが識別された場合は、複数の候補の中から一致させるべきアカウントを特定するために確認規則または解決プロセス規則が必要になります。</p> <p>データベーステーブル、フラットファイル、および <b>PeopleSoft</b> コンポーネントの <b>Active Sync</b> アダプタの場合は、デフォルトの関連規則はリソース上の調整ポリシーから継承されます。</p> <p>関連規則によって返されるすべてのユーザーを対象にして評価される規則です。ユーザーごとに、<b>Identity Manager</b> の ID と (「account.」名前空間にある)リソースアカウント情報の相関を示す完全なユーザー表示が確認規則に渡されます。確認規則は、ブール値で表すことができる値を返すことが期待されます。たとえば、「true」または「1」または「yes」と、「false」または「0」または NULL です。</p> <p>データベーステーブル、フラットファイル、および <b>PeopleSoft</b> コンポーネントの <b>Active Sync</b> アダプタの場合は、デフォルトの確認規則はリソース上の調整ポリシーから継承されます。</p>
<p>削除規則</p>	<p><code>activeSync.</code> または <code>account.</code> という形式のキーを持つ値すべてのマップを期待できる規則です。プロキシ管理者のセッションに基づく <b>LighthouseContext</b> オブジェクト (<code>display.session</code>) は、この規則のコンテキストで利用できます。この規則は、ブール値で表すことができる値を返すことが期待されます。たとえば、「true」または「1」または「yes」と、「false」または「0」または NULL です。</p> <p>あるエントリに関してこの規則によって <b>true</b> が返された場合、アダプタの設定方法に応じて、フォームとワークフローを介してアカウント削除リクエストが処理されます。</p>

パラメータ	説明
解決プロセス規則	<p><b>TaskDefinition</b> の名前、またはフィールド内のあるレコードに対して複数の一致がある場合に実行される <b>TaskDefinition</b> の名前を返す規則のいずれかです。解決プロセス規則は、リソースアカウント属性をリソース ID およびリソース名とともに取得します。</p> <p>この規則は、一致がなく、「一致しないアカウントの作成」が選択されていない場合にも必要です。</p> <p>このワークフローは、管理者による手動操作を求める処理にすることもできます。</p>
一致しないアカウントの作成	<p><b>true</b> に設定すると、一致する <b>Identity Manager</b> ユーザーが見つからない場合に、リソース上にアカウントが作成されます。<b>false</b> に設定すると、処理規則が設定され、その規則が識別するワークフローによって新しいアカウントが保証されていることが確認されないかぎり、アカウントは作成されません。デフォルトは <b>true</b> です。</p>
グローバルで利用	<p><b>true</b> に設定すると、<b>activeSync</b> 名前空間に加えてグローバル名前空間にも値が入力されます。デフォルト値は、<b>false</b> です。</p>

## セキュリティに関する注意事項

「セキュリティに関する注意事項」では、接続や認証について説明します。

「サポートされる接続」: **Identity Manager** とリソースとの間の接続に使用する接続のタイプを一覧にして示します。次の接続タイプが一般的に使用されます。

- Sun Identity Manager Gateway
- SSH (Secure Shell)
- SSL (Secure Sockets Layer) 経由の JDBC (Java Database Connectivity)
- SSL 経由の JNDI (Java Naming and Directory Interface)
- Telnet/TN3270

ほかの接続タイプである可能性もあります。

「必要な管理特権」: **Identity Manager** 内からユーザーを作成したり他のタスクを実行したりするために、管理者アカウントが必要とする特権を一覧にして示します。管理者アカウントはリソース編集ページで指定します。

すべての **Active Sync** アダプタで、管理者アカウントには、「**Active Sync** の動作設定」の「**ログファイルパス**」フィールドで指定したディレクトリに対する読み取り、書き込み、および削除のアクセス権が必要です。

## プロビジョニングに関する注意事項

ここでは、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を表に示します。機能には次のようなものがあります。

- **アカウントの有効化 / 無効化** - ユーザーアカウントを有効化および無効化する方法は、リソースによって異なります。たとえば、一部の UNIX システムでは、パスワードをランダムな値に変更することでアカウントが無効化されます。
- **アカウントの名前の変更** - ユーザーアカウント名を変更する方法は、リソースによって決定されます。
- **パススルー認証** - リソースユーザーが Identity Manager ユーザーインターフェースにログインできるようにする、Identity Manager の機能。
- **前アクションと後アクション** - スクリプトアクションに対するネイティブサポートが存在する場合、アクションは管理リソースのコンテキスト内で実行されるスクリプトです。

たとえば、UNIX システムでは、アクションは UNIX シェルコマンドの処理になります。Microsoft Windows 環境では、アクションは CMD コンソール内で実行可能な DOS 形式のコンソールコマンドになります。

- **データ読み込みメソッド** - データを Identity Manager に読み込む方法を示します。次の方法がサポートされています。
  - **Active Sync** - アイデンティティ情報の源泉として信頼性の高い外部リソース (アプリケーションやデータベースなど) に格納された情報を、Identity Manager のユーザーデータと同期させることができます。アダプタは、リソースアカウントの変更を Identity Manager に適用したり、読み込ませたりすることができます。
  - **探索 (リソースから読み込み)** - 読み込みの前に表示確認など行わずに、最初からリソースアカウントを Identity Manager に読み込ませます。リソースアカウント情報を、ファイルからインポート、またはファイルへエクスポートすることもできます。
  - **調整** - 定期的に関数リソースアカウントを Identity Manager に読み込ませ、設定されたポリシーに従って各アカウントに対してアクションを実行します。調整機能は、Identity Manager のリソースアカウントと実際にリソースに存在するアカウントの不整合をハイライト表示し、アカウントデータを定期的に相互に関連付けるために使用します。

## アカウント属性

「アカウント属性」ページ (スキーママップ) では、Identity Manager アカウント属性をリソースアカウント属性にマップします。属性のリストはリソースごとに異なります。使用していない属性はすべて、スキーママップページから削除するようにしてください。属性を追加すると、多くの場合、ユーザーフォームやその他のコードを編集する必要が生じます。

Identity Manager ユーザー属性は、規則、フォーム、およびその他の Identity Manager 固有の機能で使用できます。リソースユーザー属性は、アダプタがリソースと通信しているときにだけ使用されます。

Identity Manager は、次のタイプのアカウント属性をサポートしています。

- String
- Integer
- Boolean
- Encrypted
- Binary

---

**注** バイナリ属性には、グラフィックスファイル、オーディオファイル、証明書などが含まれます。ほとんどのリソースはバイナリアカウント属性をサポートしません。現在、バイナリ属性を処理できるのは、特定のディレクトリアダプタ、フラットファイルアダプタ、データベースアダプタのみです。フォームやワークフローでは、そのバイナリ属性をサポートしていないリソースに、バイナリ属性を適用しないようにする必要があります。使用中のアダプタがバイナリ属性をサポートしているかどうかは、そのアダプタのマニュアルの「アカウント属性」の節を参照してください。

また、バイナリ属性で参照するファイルのサイズは、できるだけ小さくしておきます。たとえば、非常に大きなサイズのグラフィックスファイルを読み込むと、Identity Manager のパフォーマンスが低下する可能性があります。

---

ほとんどのアダプタはバイナリアカウント属性をサポートしません。一部のアダプタは、グラフィックス、オーディオ、証明書などのバイナリ属性をサポートします。使用中のアダプタに対してサポートされているかどうかは、そのアダプタのマニュアルの「アカウント属性」の節を参照してください。

name はビューの予約語であるため、リソーススキーママップのアイデンティティシステムユーザー属性として使用しないようにしてください。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager によって管理できるリソース上のオブジェクトを一覧にして示します。

## アイデンティティテンプレート

ユーザーに対するアカウント名の構文を定義します。ほとんどのリソースについて、構文はアカウント ID と同じですが、リソースが階層構造の名前空間を使用する場合は、構文が異なります。

## サンプルフォーム

フォームはページに関連付けられたオブジェクトであり、ブラウザでユーザー表示属性をそのページにどのように表示するかについての規則が含まれています。フォームにはビジネスロジックを組み込むことができ、通常は、ユーザーに表示する前に、表示データを処理するために使用します。

フォームは Identity Manager 統合開発環境 (IDE) で編集できます。詳細については、『Identity Manager 配備ツール』を参照してください。

### 組み込みのフォーム

一部のフォームは、デフォルトで Identity Manager リポジトリに読み込まれます。リポジトリ内のフォームのリストを表示するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザで、<http://IdentityManagerHost/idm/debug> に移動します。  
ブラウザに「System Settings」ページが表示されます。
2. オプションメニューから、「List Objects」の隣の「Type: ResourceForm」を選択します。
3. 「List Objects」をクリックします。「List Objects of Type: ResourceForm」ページが表示されます。このページには、Identity Manager リポジトリに存在する編集可能なすべてのフォームが一覧表示されます。

### その他の利用可能なフォーム

Identity Manager には、デフォルトではロードされない多くの追加フォームが用意されています。これらのフォームは `InstallDir\idm\sample\forms` ディレクトリに置かれています。

## トラブルシューティング

アダプタに発生した問題を特定して解決する場合には、トレース出力が役立ちます。問題を特定して解決するためにトレースを使用する場合は、一般的に次のような手順を実行します。

1. トレースをオンにします。
2. 問題を再現し、結果を評価します。
3. 必要に応じて、追加のパッケージやクラスのトレースをオンにしたり、トレースのレベルを上げたりして、手順 2 と 3 を繰り返します。
4. トレースをオフにします。

トレースをオンにするには、次の手順に従います。

1. Configurator アカウントで Identity Manager にログインします。
2. デバッグページ (<http://IdentityManagerHost:Port/idm/debug>) に移動します。

3. 「**Show Trace**」をクリックします。
4. 「**Trace Enabled**」にチェックマークが付いていることを確認します。
5. 「**Method/Class**」テキストボックスに完全なクラス名を入力します。
6. トレースレベル(1～4)を入力します。取得する情報のタイプは、レベルに応じて次のように異なります。
  - **1** - public メソッドの **entry** および **exit** と、主要な例外。
  - **2** - すべてのメソッドの **entry** および **exit**。
  - **3** - メソッドの呼び出しごとに一度だけ発生する重要な情報表示 (フローを制御する変数の値など)。
  - **4** - メソッドの呼び出しごとに  $n$  回発生する情報表示。
7. 必要に応じて、ページのその他の項目を入力します。トレースの準備ができたなら「**Save**」をクリックします。

トレース機能を無効にするには、「**Show Trace**」オプションを選択解除するか、「**Method/Class**」テキストボックスからクラス名を削除します。



# Access Enforcer

SAP GRC (Governance, Risk, and Compliance) Access Enforcer リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.AccessEnforcerResourceAdapter` クラスで定義されます。このクラスは、`SAPResourceAdapter` クラスを拡張します。

## リソースを設定する際の注意事項

アダプタが正常に動作するには、Access Enforcer の自動プロビジョニング設定を「true」に設定してください。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

Access Enforcer リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 次の URL から JCo (Java Connection) ツールキットをダウンロードします。

<http://service.sap.com/connectors>

SAP JCo ダウンロードページにアクセスするには、ログインとパスワードが必要です。このツールキットには、`sapjco-ntintel-2.1.8.zip` のような名前が付けられます。この名前は、選択したプラットフォームやバージョンによって異なります。

---

**注**                    ダウンロードする JCo ツールキットが、アプリケーションサーバーが動作する Java のビットバージョンと一致していることを確認します。たとえば、JCo は Solaris x86 プラットフォーム上の 64 ビットバージョンでのみ使用できます。したがって、アプリケーションサーバーが Solaris x86 プラットフォーム上の 64 ビットバージョンで実行されている必要があります。

---

2. ツールキットを解凍し、インストール手順に従います。必ずライブラリファイルを正しい場所に配置し、環境変数を指示どおりに設定してください。
3. `sapjco.jar` ファイルを `InstallDir\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。
4. 次の URL から Apache Axis SOAP ツールキットをダウンロードします。  
[http://www.apache.org/dyn/closer.cgi/ws/axis/1\\_4/](http://www.apache.org/dyn/closer.cgi/ws/axis/1_4/)
5. ツールキットを解凍し、インストール手順に従います。
6. 次のファイルを `InstallDir\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。
  - o `axis.jar`
  - o `commons-discovery-0.2.jar`

- commons-logging-1.0.4.jar
- jaxrpc.jar
- log4j-1.2.8.jar
- saaj.jar
- wsdl4j-1.5.1.jar

---

**注**            これ以外のバージョンの commons-discovery、commons-logging、log4j、wsdl4j JAR ファイルが代わりに使用されている可能性があります。

---

7. **Access Enforcer** リソースを **Identity Manager** のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。  
`com.waveset.adapter.AccessEnforcerResourceAdapter`
8. `$WSHOME/sample/accessenforcer.xml` をインポートして、**Access Enforcer** のサポートを有効にします。

## 使用上の注意

ここでは、**Access Enforcer** リソースアダプタの使用に関する情報を示します。次のトピックで構成されています。

- [非同期プロビジョニング](#)
- [Access Enforcer 規則ライブラリ](#)
- [Web サービス](#)
- [ユーザーフォーム](#)
- [Secure Network Communications \(SNC\) 接続を有効化する](#)

### 非同期プロビジョニング

このアダプタでは、非同期プロビジョニングの概念が導入されています。**Access Enforcer** には独自の承認システムがあり、ユーザーをプロビジョニングまたは変更する前に、この承認システムのネゴシエーションを行う必要があります。

SubmitRequest Web サービス呼び出しが正常に戻る場合、プロビジョニングリクエストを実行する Identity Manager タスクは、リクエストが完了したかどうかを確認するため、定期的に Access Enforcer をポーリングします。ポーリング間隔は、リソースウィザードの「アイデンティティシステムのパラメータ」ページにある「非同期再試行間の遅延 (秒)」パラメータで設定します。

リクエストが完了したか、または Access Enforcer で実行された場合、Identity Manager ユーザーオブジェクトは、リクエストのステータスで更新されます。次に Identity Manager は、ワークフローでの定義に従ってプロビジョニングリクエストを処理します。

「作成時に IDM パスワードを使用」パラメータが選択されている場合は、Identity Manager では、Identity Manager 内で定義されたパスワードがユーザーアカウントに割り当てられます。このパラメータが選択されていない場合は、Access Enforcer で定義されたパスワードが割り当てられます。Access Enforcer では、常に Access Enforcer で生成されたパスワードが含まれる電子メールがユーザーに送信されます。この Access Enforcer の機能は無効化できません。

## Access Enforcer 規則ライブラリ

Access Enforcer には、特定の種類のオブジェクトを取得する方法がありません。これらのオブジェクトを管理しやすくするために、Identity Manager にはオブジェクトの名前を指定できるようにする Access Enforcer 規則ライブラリが用意されています。これらの名前は、文字列として規則ライブラリに手動で入力する必要があります。

次の表に、Access Enforcer オブジェクト、対応する Identity Manager 規則、およびデフォルト値の一覧を示します。使用している環境に合わせて値を編集するには、デバッグページまたは Identity Manager IDE を使用します。

Access Enforcer オブジェクト	規則名	デフォルト値
Applications	getApplications CELAENO.CENTR AL。	この値は変更してください。
Access Enforcer Roles	getRoles	TestRoles。この値は変更してください。
Requests	getRequests	NEW NEW_HIRE CHANGE DELETE LOCK UNLOCK INFORMATION

Access Enforcer オブジェクト	規則名	デフォルト値
Priorities	getPriorities	LOW MEDIUM HIGH  この値は変更が必要な場合があります。
Employee Type	getEmployeeType	TEMP PERM CONTRACT  この値は変更が必要な場合があります。
Service Level Agreements	getSLAs	Level0 Level1 Level2  この値は変更が必要な場合があります。

## Web サービス

Access Enforcer アダプタは、Web サービスリクエストを Access Enforcer に送信することにより動作します。Web サービスは、Apache AXIS ツールを使用して実行されます。SubmitRequest プロビジョニング Web サービスでサポートされるアクションは次のとおりです。

- create (NEW)
- update (CHANGE)
- delete (DELETE)
- enable (UNLOCK)
- disable (LOCK)

ユーザーの取得は `SAPResourceAdapter.getUser()` メソッドにより行われます。Access Enforcer がこの情報を問い合わせるための Web サービスを提供しないためです。

## ユーザーフォーム

デフォルトの Access Enforcer User Form では、Create/Edit User Form で取得できるビューから利用可能な値で、マネージャーおよび要求者のアカウント属性を設定しようと試みます。

- マネージャーのフィールドは、idmManager ユーザーの値が利用可能な場合はその値から設定されます。
- 要求者のフィールドは、作成 / 編集操作を実行している Identity Manager 管理者の値から設定されます。

listObjects メソッドを呼び出すことにより、ユーザーフォームでは次のオブジェクトの一覧を返すことがあります。

- AccessEnforcerApplications - AE が管理する Access Enforcer バックエンドアプリケーションの一覧。
- AccessEnforcerVersions - Access Enforcer のサポートされるバージョンの一覧。サポートされるバージョンを確認するには、リリースノートを参照してください。

ユーザーを無効、有効、および削除するには、Access Enforcer EnableDisableDelete Form をインポートして、個別に Disable Form、Enable Form、および Deprovision Form に追加する必要があります。詳細については、  
\$WSHOME/sample/forms/AE-EnableDisableDeleteForm.xml のコメントを参照してください。

## Secure Network Communications (SNC) 接続を有効化する

デフォルトでは、SAP アダプタは SAP Java Connector (JCo) を使用して SAP アダプタと通信します。SNC 接続の実装の詳細については、[551 ページの「SNC \(Secure Network Communications\) 接続の有効化」](#)を参照してください。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、getUser メソッド、listObjects メソッド、およびアカウント反復子について、SAP Java Connector (JCo) 経由の BAPI を使用して SAP システムと通信します。

### 必要な管理特権

SAP に接続するユーザー名を、SAP ユーザーにアクセスできるロールに割り当ててください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースからのインポート (SAPResourceAdapter クラス経由)</li><li>調整 (SAPResourceAdapter クラス経由)</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、Access Enforcer に固有のアカウント属性に関する情報を示します。一般的な SAP 属性については、SAP アダプタのマニュアルを参照してください。特に明記されていないかぎり、すべての属性は **String** 型であり、書き込み専用です。次に示すすべての属性の値は、大文字に変換されます。

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソース 属性名	説明
aeUserId	UserId	必須。Access Enforcer アカウントのユーザー ID
aeEmailAddress	EmailAddress	必須。ユーザーに割り当てられた電子メール
aeFirstName	FirstName	必須。ユーザーの名
aeLastName	LastName	必須。ユーザーの姓
aeRequestorId	RequestorId	必須。アカウントをリクエストしているユーザーのユーザー ID。
aeRequestorLastName	RequestorLastName	必須。要求者の姓
aeRequestorFirstName	RequestorFirstName	必須。要求者の名
aeRequestorEmailAddr	RequestorEmailAddr	必須。要求者の電子メールアドレス
aePriority	Priority	必須。リクエストの優先順位。

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソース 属性名	説明
aeApplication	Application	必須。アクセス権を付与するために追加するアプリケーション
aeLocation	Location	ユーザーの場所
aeCompany	Company	ユーザーの会社
aeDepartment	Department	ユーザーの部署
aeEmployeeType	EmployeeType	ユーザーの在籍区分ステータス
aeRequestReason	RequestReason	アクセスがリクエストされる理由
aeRoles	Roles	<b>Complex</b> 。ユーザーに割り当てられたロール。この属性には、 <b>ValidFrom</b> 、 <b>ValidTo</b> 、および <b>Rolename</b> の値が格納されます。
aeValidFrom	ValidFrom	リクエストの開始時刻
aeValidTo	ValidTo	リクエストの終了時刻
aeTelephone	Telephone	ユーザーの電話番号
aeManagerId	ManagerId	必須。ユーザーのマネージャーのアカウント ID。この値は、 <b>Access Enforcer</b> で有効な既存の値である必要があります。
aeManagerFirstName	ManagerFirstName	必須。マネージャーの名。この値は、 <b>Access Enforcer</b> で有効な既存の値である必要があります。
aeManagerLastName	ManagerLastName	必須。マネージャーの姓。この値は、 <b>Access Enforcer</b> で有効な既存の値である必要があります。
aeManagerEmailAddr	ManagerEmailAddr	必須。マネージャーの電子メールアドレス。この値は、 <b>Access Enforcer</b> で有効な既存の値である必要があります。

**注** 必須であると指定されている属性は、**Submit Request** サービス呼び出しで送信される必要があります。ただし、その他のリソースが割り当てられているユーザーを更新するときに競合が発生する可能性があるため、それらの属性はスキーママップで必須であるとマークされていません。

ほかの属性がスキーママップに追加されることがありますが、**Access Enforcer** ではカスタム属性であると見なされます。カスタム属性を識別するには、任意のリソースユーザー属性に **AE** を付加する必要があります。たとえば、**AEMyAttribute** とします。カスタム属性の値は、大文字に変換されません。

## リソースオブジェクトの管理

適用不可

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

- Access Enforcer User Form
- Access Enforcer EnableDisableDelete Form

## トラブルシューティング

**Identity Manager** のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.AccessEnforcerResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SAPResourceAdapter`

インストールされている **SAP Java Connector (JCO)** のバージョンを判定し、それが正しくインストールされているかどうかを判定するには、次のコマンドを実行します。

```
java -jar sapjco.jar
```

このコマンドは、**JCO** のバージョンとともに、**SAP** システムと通信する **JNI** プラットフォーム依存ライブラリおよび **RFC** ライブラリを返します。

プラットフォーム依存ライブラリが見つからない場合は、**SAP** のマニュアルを参照して、**SAP Java Connector** の正しいインストール方法を調べてください。

# Tivoli Access Manager

Tivoli Access Manager リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.AccessManagerResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

ここでは、Access Manager リソースの設定手順を説明します。次のような手順があります。

- IBM Tivoli Access Manager リソースを Identity Manager で使用するための一般的な設定手順
- Access Manager を Identity Manager の Web Access Control として使用するための手順

### 一般的な設定

IBM Tivoli Access Manager リソースを Identity Manager で使用するよう設定する場合は、次の手順に従います。

1. IBM Tivoli Access Manager Java Runtime Component を Identity Manager サーバーにインストールします。
2. 使用しているアプリケーションサーバーの JVM へのパスを含むように PATH 変数を設定します。
3. `pdjrtecfg -action config` コマンドを実行して、次の Access Manager .jar ファイルを JRE の lib/ext ディレクトリにインストールします。
  - o `ibmjceprovider.jar`
  - o `ibmjsse.jar`
  - o `ibmpkcs.jar`
  - o `jaas.jar`
  - o `local_policy.jar`
  - o `PD.jar`
  - o `US_export_policy.jar`
  - o `ibmjcefw.jar`

詳細については、『IBM Tivoli Access Manager Base インストール・ガイド』を参照してください。

4. `InstallDir\idm\WEB-INF\lib` ディレクトリから次の jar ファイルを削除します。ただし、使用しているアプリケーションサーバーによっては、これらのファイルが Identity Manager 製品のインストール時に削除されていることもあります。
  - o `jsse.jar`

- jcert.jar
- jnet.jar
- cryptix-jce-api.jar
- cryptix-jce-provider.jar

5. 次の行が java.security ファイルにない場合は、追加します。

```
security.provider.2=com.ibm.crypto.provider.IBMJCE
security.provider.3=com.ibm.net.ssl.internal.ssl.Provider
```

各行の **security.provider** のあとに続く数字は、Java がセキュリティープロバイダクラスを参照する順序を指定するものであるため、一意になるようにしてください。ユーザーの環境によってシーケンス番号はさまざまである可能性があります。java.security ファイル内にすでに複数のセキュリティープロバイダがある場合は、上記で指定された順序で新しいセキュリティープロバイダを挿入し、既存のセキュリティープロバイダの番号を付け直します。既存のセキュリティープロバイダを削除したり、プロバイダを重複させたりしないでください。

6. アプリケーションサーバーに VM パラメータを追加します。

```
-Djava.protocol.handler.pkgs=com.ibm.net.ssl.internal.www.protocol
```

必要に応じて、複数のパッケージを | (パイプ記号) で区切って追加できます。たとえば、次のようにします。

```
-Djava.protocol.handler.pkgs=sun.net.www.protocol| \
  com.ibm.net.ssl.internal.www.protocol
```

7. IBM Tivoli Access Manager Authorization Server が設定済みで稼動していることを確認します。

8. SvrSslCfg コマンドを実行します。

たとえば、次のようにします。

```
java com.tivoli.pd.jcfg.SvrSslCfg -action config \
-admin_id sec_master -admin_pwd secpw \
-appsvr_id PDPermissionjapp -host amazn.myco.com \
-mod local -port 999 -policysvr ampolicy.myco.com:7135:1 \
-authzsvr amazn.myco.com:7136:1 -cfg_file c:/am/configfile \
-key_file c:/am/keystore -cfg_action create
```

am ディレクトリがあらかじめ存在する必要があります。正常に完了したら、次のファイルが c: \am ディレクトリに作成されます。

- configfile
- keystore

詳細については、『IBM Tivoli Access Manager Authorization Java Classes デベロッパーズ・リファレンス』および『IBM Tivoli Access Manager Administration Java Classes デベロッパーズ・リファレンス』を参照してください。

## Web Access Control の設定

次に、Tivoli Access Manager を Identity Manager の Web Access Control として使用するための一般的な設定手順について説明します。この手順の一部では、Tivoli Access Manager ソフトウェアに関する詳細な知識が必要になります。

1. IBM Tivoli Access Manager Java Runtime Component を Identity Manager サーバーにインストールして設定します。
2. Identity Manager サーバーで JDK セキュリティー設定を設定します。
3. Identity Manager サーバーで Access Manager SSL Config ファイルを作成します。
4. Access Manager 内に Identity Manager URL に対するジャンクションを作成します。詳細については、Tivoli Access Manager の製品マニュアルを参照してください。

次の pdadmin コマンドの例は、ジャンクションの作成方法を示しています。

```
pdadmin server task WebSealServer create -t Connection /  
-p Port -h Server -c ListOfCredentials -r -i JunctionName
```

5. WebSeal Proxy Server 用に Identity Manager Base HREF プロパティーを設定します。
6. Access Manager リソースアダプタを設定します。
7. Access Manager ユーザーを Identity Manager にロードします。
8. Identity Manager の Access Manager に対するパススルー認証を設定します。

ユーザーが Access Manager 経由で Identity Manager URL にアクセスしようとする場合、ユーザーの識別情報は HTTP ヘッダーによって Identity Manager に渡されます。次に Identity Manager はその識別情報を使用して、ユーザーが Access Manager や Identity Manager に存在していることを確認します。ユーザーが Identity Manager 管理者インタフェースにアクセスしようとする場合は、Identity Manager がそのユーザーに関する Identity Manager のセキュリティ設定をチェックして、Identity Manager 管理権限があることを確認します。エンドユーザーは Access Manager に対しても検証され、Identity Manager アカウントがあるかどうか確認されます。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

---

**注** IBM Tivoli Access Manager を WebSphere アプリケーションサーバーと一緒にインストールする場合は、Identity Manager のインストール中に jsse.jar、jcert.jar、および jnet.jar ファイルを WEB-INF\lib ディレクトリにコピーしないでください。コピーすると、競合が発生します。

---

Access Manager リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. pd.jar ファイルを、Access Manager のインストールメディアから \$WSHOME/WEB-INF/lib ディレクトリにコピーします。
2. 「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加します。

```
com.waveset.adapter.AccessManagerResourceAdapter
```

## 使用上の注意

ここでは、Access Manager リソースアダプタの使用に関連する依存関係と制限について示します。

このリソースで Identity Manager のシングルサインオンまたはパススルー認証機能を使用する場合は、Access Manager を Identity Manager プロキシサーバーとして使用してください。プロキシサーバーの詳細については、『Identity Manager 配備ツール』を参照してください。

## GSO クレデンシャルの作成

Identity Manager の「ユーザーの作成」ページから、GSO Web リソースまたは GSO リソースグループのクレデンシャルを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「GSO Web クレデンシャルの追加」または「GSO リソースグループクレデンシャル」を選択します。
2. 該当する GSO クレデンシャルのドロップダウンメニューから、ターゲットを選択します。
3. リソースのユーザー ID とパスワードをテキストフィールドに入力します。
4. 該当するフィールドを編集することで、リソースクレデンシャルのユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方を編集できます。セキュリティ上の理由により、クレデンシャルのパスワードを検出することはできません。

## GSO クレデンシャルの削除

クレデンシャルを削除するには、削除対象のクレデンシャルをテーブルから選択して、対応する「削除」ボタンをクリックします。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL 経由の JNDI を使用して Access Manager と通信します。

### 必要な管理特権

管理ユーザーには、ユーザー、グループ、Web リソース、およびリソースグループを作成、更新、および削除するための十分な特権を与えてください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、Access Manager アカウント属性に関する情報を示します。

属性	データの種類	説明
firstname	String	必須。ユーザーの名。
lastname	String	必須。ユーザーの姓。
registryUID	String	必須。ユーザーレジストリに格納されているアカウント名。
description	String	ユーザーについて説明したテキスト。

属性	データの種類	説明
groups	String	ユーザーがメンバーになっている Access Manager グループ。
noPwdPolicy	Boolean	パスワードポリシーを適用するかどうかを示します。
ssoUser	Boolean	ユーザーにシングルサインオン機能を持たせるかどうかを示します。
expirePassword	Boolean	パスワードが期限切れになるかどうかを示します。
importFromRgy	Boolean	ユーザーレジストリからグループデータをインポートするかどうかを示します。
deleteFromRgy	Boolean	ユーザーを削除するべきかどうかを示します。
syncGSOCredits	Boolean	GSO のパスワードを Access Manager のパスワードと同期させるかどうかを示します。
gsoWebCredits	String	ユーザーがアクセス権を持つ Web リソースクレデンシャルのリスト。
gsoGroupCredits	String	ユーザーがアクセス権を持つリソースグループクレデンシャルのリスト。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次のオブジェクトをサポートしています。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Group	作成、検索、更新、削除	name、description、registry name、member

## アイデンティティテンプレート

アカウント名の構文は次のとおりです。

```
$accountId$
```

## サンプルフォーム

Identity Manager には、AccessManagerUserForm.xml サンプルフォームが用意されています。

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.AccessManagerResourceAdapter
```



# ACF2

ACF2 リソースアダプタは、OS/390 メインフレーム上のユーザーアカウントとメンバーシップの管理をサポートします。このアダプタは、TN3270 エミュレータセッションで ACF2 を管理します。

ACF2 リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.ACF2ResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

ACF2 リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. ACF2 リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.ACF2ResourceAdapter
```

2. 適切な JAR ファイルを Identity Manager インストールの `WEB-INF/lib` ディレクトリにコピーします。

コネクションマネージャー	JAR ファイル
Host On Demand	<p>IBM Host Access Class Library (HACL) は、メインフレームへの接続を管理します。HACL が含まれる推奨 JAR ファイルは <code>habeans.jar</code> です。これは、HOD に付属する HOD Toolkit (または Host Access Toolkit) とともにインストールされます。HACL のサポートされるバージョンは、HOD V7.0、V8.0、V9.0、および V10 に含まれるバージョンです。</p> <p><code>habeans.jar</code> ファイルただし、このツールキットを利用できない場合は、HOD のインストールに含まれる次の JAR ファイルを <code>habeans.jar</code> の代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>habase.jar</code></li> <li>• <code>hacp.jar</code></li> <li>• <code>ha3270.jar</code></li> <li>• <code>hassl.jar</code></li> <li>• <code>hodbase.jar</code></li> </ul> <p>詳細は、  <a href="http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/">http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/</a> を参照してください。</p>
Attachmate WRQ	<p>Sun 製品向け Attachmate 3270 メインフレームアダプタには、メインフレームへの接続の管理に必要なファイルが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>RWebSDK.jar</code></li> <li>• <code>wrqtls12.jar</code></li> <li>• <code>profile.jaw</code></li> </ul> <p>この製品の入手については、Sun プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。</p>

3. `Waveset.properties` ファイルに次の定義を追加して、端末セッションを管理するサービスを定義します。

```
serverSettings.serverId.mainframeSessionType=Value
serverSettings.default.mainframeSessionType=Value
```

*Value* は、次のように設定できます。

- 1 - IBM Host On-Demand (HOD)
- 3 - Attachmate WRQ

これらのプロパティを明示的に設定しない場合、Identity Manager は WRQ、HOD の順に使用を試みます。

4. Attachmate ライブラリが WebSphere または WebLogic アプリケーションサーバーにインストールされている場合は、`com.wrq.profile.dir=LibraryDirectory` プロパティを `WebSphere/AppServer/configuration/config.ini` または `startWeblogic.sh` ファイルに追加します。

これにより、Attachmate コードでライセンスファイルを検索できます。

5. `Waveset.properties` ファイルに加えた変更を有効にするために、アプリケーションサーバーを再起動します。
6. リソースへの SSL 接続を設定する詳細は、547 ページの「メインフレーム接続」を参照してください。

## 使用上の注意

ここでは、ACF2 リソースアダプタの使用に関連する依存関係と制限について示します。

### 管理者

TSO セッションでは、複数の同時接続は許可されません。Identity Manager ACF 操作の同時実行を実現するには、複数の管理者を作成します。したがって、2 人の管理者を作成すれば、2 つの Identity Manager ACF 操作を同時に実行できます。少なくとも 2 人 (できれば 3 人) の管理者を作成するようにしてください。

クラスタ環境で実行する場合は、クラスタ内のサーバーごとに 1 人の管理者を定義します。これは、各サーバーの管理者が同じ管理者である場合にも適用されます。TSO の場合は、クラスタ内のサーバーごとに異なる管理者にします。

クラスタを使用しない場合は、各行のサーバー名が同じ (Identity Manager ホストマシンの名前) になるようにしてください。

---

### 注

ホストリソースアダプタは、同じホストに接続している複数のホストリソースでの親和性管理者に対して最大接続数を強制しません。代わりに、各ホストリソース内部の親和性管理者に対して最大接続数が強制されません。

同じシステムを管理する複数のホストリソースがあり、現在それらが同じ管理者アカウントを使用するように設定されている場合は、同じ管理者がリソースに対して同時に複数のアクションを実行しようとしていないことを確認するために、それらのリソースを更新しなければならない可能性があります。

---

## リソースアクション

ACF2アダプタに必要なリソースアクションは **login** と **logout** です。login アクションは、認証されたセッションに関してメインフレームとネゴシエーションを行います。logout アクションは、そのセッションが不要になったときに接続を解除します。

login リソースアクションおよび logout リソースアクションの作成の詳細については、[521 ページの「メインフレームの例」](#)を参照してください。

## SSL 設定

Identity Manager は TN3270 接続を使用してリソースと通信します。

ACF2 リソースへの SSL 接続を設定する詳細は、[547 ページの「メインフレーム接続」](#)を参照してください。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は TN3270 接続を使用して ACF2 と通信します。

### 必要な管理特権

ACF2 と接続する管理者には、ACF2 ユーザーの作成と管理を行うための十分な特権が与えられている必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、ACF2 アカウント属性に関する情報を示します。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
NAME	String	ログインおよびセキュリティー違反レポートに表示されるユーザー名
PHONE	String	ユーザーの電話番号
ACCESS.ACC-CNT	String	このログイン ID の作成以降に、このログイン ID によってシステムにアクセスした回数
ACCESS.ACC-DATE	String	このユーザーが最後にシステムにアクセスした日付
ACCESS.ACC-SRCE	String	このログオン ID が最後にシステムにアクセスした論理的または物理的な入力ソース名またはソースグループ名
ACCESS.ACC-TIME	String	このユーザーが最後にシステムにアクセスした時刻
CANCEL/SUSPEND.CANCEL	Boolean	ログオン ID は、システムへのアクセスをキャンセルおよび拒否されます
CANCEL/SUSPEND.CSDATE	String	CANCEL フィールドまたは SUSPEND フィールドの設定された日付
CANCEL/SUSPEND.CSWHO	String	CANCEL、SUSPEND、または MONITOR フィールドを設定するログオン ID
CANCEL/SUSPEND.MON-LOG	Boolean	このユーザーがシステムに入るたびに、ACF2 は SMF レコードを書き込みます
CANCEL/SUSPEND.MONITOR	Boolean	このユーザーがシステムに入るたびに、CA-ACF2 がセキュリティーコンソールと指定されたユーザー (CSWHO) にメッセージを送信します
CANCEL/SUSPEND.SUSPEND	Boolean	ログオン ID は、システムへのアクセスを中断および拒否されます
CANCEL/SUSPEND.TRACE	Boolean	このユーザーによるすべてのデータ参照は、トレースおよび記録されます
CICS.ACF2CICS	Boolean	このアドレス空間のログオン ID で実行されているすべての CICS/ESA 4.1 以降の領域で、CA-ACF2 CICS セキュリティーが初期化されることを示します
CICS.CICSCL	String	CICS オペレータクラス
CICS.CICSID	String	CICS オペレータ ID

リソースユーザー属性	データの種類	説明
CICS.CICSKEY	String	CICS リリース 1.6 以降をサポートするトランザクションセキュリティキーの値の最初の 3 バイト
CICS.CICSKEYX	String	CICS リリース 1.6 以降をサポートするトランザクションセキュリティキーの値の末尾の 5 バイト
CICS.CICSPRI	String	CICS オペレータの優先順位
CICS.CICSRSL	String	CICS リソースアクセスキー
CICS.IDLE	String	このユーザーの端末トランザクション間隔として許可された最大時間 (分)
IMS.MUSDLID	String	MUSASS アドレス空間のデフォルトのログオン ID
IDMS.IDMSPROF	String	ユーザーが CA-IDMS にサインオンするときに実行されるサインオンプロファイル CLIST の名前
IDMS.IDMSPRVS	String	ユーザーが CA-IDMS にサインオンするときに実行されるサインオンプロファイル CLIST のバージョン
MUSASS.MUSID	String	IMS レコードが適切な管理領域に確実に関連付けられるように、Infostorage データベース内の IMS レコードをグループ化します
MUSASS.MUSIDINF	Boolean	CA-ACF2 Info タイプのシステムエントリ呼び出しのために、MUSID フィールドを使用して MUSASS 領域へのアクセスを制限するようにしてください。
MUSASS.MUSOPT	String	CAIDMS アドレス空間を管理する CA-ACF2 CA-IDMS オプションモジュールの名前
MUSASS.MUSPGM	String	CA-IDMS 起動プログラムの名前
MUSASS.MUSUPDT	Boolean	ユーザーが CA-ACF2 データベースを更新できるようにします
PRIVILEGES.ACCOUNT	Boolean	ユーザーは、範囲を制限されながらもログオン ID を挿入、削除、および変更できます
PRIVILEGES.ACTIVE	String	このフィールドに含まれる日付の午前 0 時 1 分に、ログオン ID が自動的にアクティブ化されます。
PRIVILEGES.AUDIT	Boolean	この特権を使用して、ユーザーは CAACF2 システムのパラメータを検査できますが、変更はできません。
PRIVILEGES.AUTODUMP	Boolean	データ設定やリソース違反が発生したときに作成されるダンプ
PRIVILEGES.AUTONOPW	Boolean	この仮想マシンには、パスワードを指定しなくても自動ログオンできます。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
PRIVILEGES.BDT	Boolean	このログオン ID のアドレス空間は、Bulk Data Transfer (BDT) 製品に属しています。
PRIVILEGES.CICS	Boolean	ログオン ID には CICS にサインオンする権限があります。
PRIVILEGES.CMD-PROP	Boolean	これは、ユーザーが SET TARGET コマンドまたは TARGET パラメータを使用して、グローバル CPF ターゲットリストをオーバーライドできることを示しています。
PRIVILEGES.CONSUULT	Boolean	ユーザーはほかのログオン ID を表示できます。
PRIVILEGES.DUMPAUTH	Boolean	このユーザーは、アドレス空間が実行専用環境またはパソコントロール環境にある場合でも、ダンプを生成できます。
PRIVILEGES.EXPIRE	String	一時的なログオン ID が期限切れになる日付。
PRIVILEGES.IDMS	Boolean	ログオン ID には CA-IDMS にサインオンする権限があります。
PRIVILEGES.JOB	Boolean	ユーザーは、バッチおよびバックグラウンドの端末監視プログラム (Terminal Monitor Program、TMP) ジョブを入力できます。
PRIVILEGES.JOBFROM	Boolean	ユーザーは //*JOBFROM 管理ステートメントを使用できます。
PRIVILEGES.LEADER	Boolean	ユーザーは、ほかのユーザーのほかのログオン ID の特定のフィールドを表示して変更できます。
PRIVILEGES.LOGSHIFT	Boolean	ユーザーは、ログオン ID レコードの SHIFT フィールドで指定した期間外にシステムにアクセスできます。
PRIVILEGES.MAINT	Boolean	ユーザーは、指定のライブラリから実行される指定のプログラムを使用して、ロギングまたは検証なしでリソースにアクセスできます。
PRIVILEGES.MUSASS	Boolean	このログオン ID は、複数ユーザーのシングルアドレス空間システム (MUSASS) です。
PRIVILEGES.NO-INH	Boolean	ネットワークジョブは、送信者からこのログオン ID を継承できません。
PRIVILEGES.NO-SMC	Boolean	Step-must-complete (SMC) コントロールがバイパスされ、重要な VSAM 更新操作の実行中は、ジョブはキャンセル不可であるとみなされます。
PRIVILEGES.NO-STORE	Boolean	このユーザーは、規則セットの格納または削除を承認されていません。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
PRIVILEGES.NON-CNCL	Boolean	規則によってこのアクセスが禁止されている場合でも、ユーザーはすべてのデータにアクセスできます。
PRIVILEGES.PGM	String	このログオン ID のジョブを送信するために指定された APF 承認のプログラム。
PRIVILEGES.PPGM	Boolean	ユーザーは、GSO PPGM レコードで指定されたこれらの保護されたプログラムを実行できます。
PRIVILEGES.PRIV-CTL	Boolean	ユーザーがシステムにアクセスして自分に付与された追加の特権や権限を確認したときに、特権管理リソース規則をチェックします。
PRIVILEGES.PROGRAM	String	このログオン ID のジョブを送信するために指定された APF 承認のプログラム。
PRIVILEGES.READALL	Boolean	ログオン ID には、そのサイトのすべてのデータに対する読み取りアクセス権のみがあります。
PRIVILEGES.REFRESH	Boolean	このユーザーは、オペレータのコンソールから F ACF2,REFRESH オペレータコマンドを発行することを承認されています。
PRIVILEGES.RESTRICT	Boolean	この限定されたログオン ID は本番稼働用で、ユーザー検証用のパスワードは必要ありません。
PRIVILEGES.RSRCVLD	Boolean	ユーザーの行うすべてのアクセスをリソース規則が承認する必要があることを指定します。
PRIVILEGES.RULEVLD	Boolean	このユーザーがアクセスするすべてのデータに対してアクセス規則が存在する必要があります。
PRIVILEGES.SCPLIST	String	この特権ユーザーのアクセスを制限する Infostorage 範囲のレコード。
PRIVILEGES.SECURITY	Boolean	このユーザーは、自分の制限範囲内で、アクセス規則、リソース規則、および Infostorage レコードを作成、維持、削除できるセキュリティー管理者です。
PRIVILEGES.STC	Boolean	開始済みタスクのみがこのログオン ID を使用します。
PRIVILEGES.SUBAUTH	Boolean	APF 承認のプログラムのみが、このログオン ID を指定するジョブを送信できます。
PRIVILEGES.SYNCNODE	String	Logonid データベース内で、このログオン ID と同期されるログオン ID の存在するノード

リソースユーザー属性	データの種類	説明
PRIVILEGES.TAPE-BLP	Boolean	このユーザーは、テープデータセットにアクセスしたときに、完全なラベルバイパス処理 (BLP) を使用できます。
PRIVILEGES.TAPE-LBL	Boolean	このユーザーは、テープデータセットにアクセスしたときに、制限された BLP を使用できます。
PRIVILEGES.TSO	Boolean	このユーザーは、TSO へのサインオンを承認されています。
PRIVILEGES.VAX	Boolean	このログオン ID は VAX (UAF) infostorage レコードと関連付けられています。
PRIVILEGES.VLDRSTCT	Boolean	RESTRICT ログオン ID に対してこのフィールドがオンになっていると、ログオン ID が継承される場合でも PROGRAM および SUBAUTH が検証されません。
PASSWORD.MAXDAYS	String	パスワードの期限が切れる前に、パスワードの変更間隔として許可される最大日数。値が 0 の場合、制限は何も適用されません。
PASSWORD.MINDAYS	String	ユーザーがパスワードを変更できるようになる前に経過する必要がある最小日数
PASSWORD.PSWD-DAT	String	最後の無効なパスワード試行のあった日付
PASSWORD.PSWD-EXP	Boolean	ユーザーのパスワードは、手動で強制的に期限切れにされました。
PASSWORD.PSWD-INV	String	最後にログオンに成功して以来、パスワード違反の発生した回数
PASSWORD.PSWD-SRCE	String	このログオン ID の無効なパスワードを最後に受信した論理的または物理的な入力ソース名、またはソースグループ名
PASSWORD.PSWD-TIM	String	このログオン ID の無効なパスワードを最後に受信した時刻
PASSWORD.PSWD-TOD	String	パスワードの最終変更日時
PASSWORD.PSWD-VIO	String	PSWD-DAT で発生したパスワード違反の回数
PASSWORD.PSWD-XTR	Boolean	このログオン ID のパスワードは暗号化が不十分なので、APF 承認のプログラムによって抽出できません。
RESTRICTIONS.AUTHSUP1 ~ AUTHSUP8	Boolean	これらのフィールドによって、それぞれに指定されたシステムユーザーの拡張ユーザー認証 (EUA) をアクティブ化できます。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
RESTRICTIONS.GROUP	String	このユーザーに関連付けられたグループ名またはプロジェクト名
RESTRICTIONS.PREFIX	String	このユーザーが所有してアクセスできるデータセットの高いレベルのインデックス
RESTRICTIONS.SHIFT	String	ユーザーがシステムへのログオンを許可されるタイミングを定義するシフトレコード
RESTRICTIONS.SOURCE	String	このログオン ID がシステムにアクセスする必要がある論理的または物理的な入力ソース名、またはソースグループ名
RESTRICTIONS.VMACCT	String	仮想マシンのデフォルトのアカウント番号を保持している loginID フィールド
RESTRICTIONS.VMIDLEMN	String	アイドル終了処理が開始される前に、このユーザーがシステム上でアイドル状態でいられる時間 (分)
RESTRICTIONS.VMIDLEOP	String	ユーザーがアイドル時間の制限を超えたときに実行されるアイドル終了処理のタイプ
RESTRICTIONS.ZONE	String	このログオン ID が通常システムにアクセスするタイムゾーン (つまり、ユーザーのローカルタイムゾーン) を定義する Infostorage Database ゾーンレコードの名前
STATISTICS.SEC-VIO	String	このユーザーのセキュリティ違反の総回数
STATISTICS.UPD-TOD	String	このログオン ID の最終更新日時
TSO.ACCTPRIV	Boolean	ユーザーに TSO アカウンティング特権があるかどうかを示します
TSO.ALLCMDS	Boolean	ユーザーは特別なプレフィックス文字を入力することで、CA-ACF2 に制限されたコマンドリストをバイパスすることができます。
TSO.ATTR2	String	IBM プログラム管理機能 (PCF) が、コマンドの制限やデータセット保護のために PSCBATR2 フィールドを使用します。
TSO.CHAR	String	このユーザーの TSO 文字削除の文字
TSO.CMD-LONG	Boolean	TSO コマンドリストの使用時には、リストされたコマンドとエイリアスのみが受け入れられることを示します
TSO.DFT-DEST	String	TSO 回転 SYSOUT データセットのデフォルトのリモート宛先

リソースユーザー属性	データの種類	説明
TSO.DFT-PFX	String	ログオン時にユーザーのプロファイル内に設定されるデフォルトの TSO プレフィックス
TSO.DFT-SOUT	String	デフォルトの TSO SYSOUT クラス
TSO.DFT-SUBC	String	デフォルトの TSO 送信クラス
TSO.DFT-SUBH	String	デフォルトの TSO 送信保持クラス
TSO.DFT-SUBM	String	デフォルトの TSO 送信メッセージクラス
TSO.INTERCOM	Boolean	このユーザーは、TSO SEND コマンドを經由してほかのユーザーからのメッセージを受け入れます。
TSO.JCL	Boolean	このユーザーは、TSO からのバッチジョブの送信や、SUBMIT、STATUS、CANCEL、および OUTPUT コマンドの使用ができます。
TSO.LGN-ACCT	Boolean	このユーザーは、ログオン時にアカウント番号を指定できます。
TSO.LGN-DEST	Boolean	このユーザーは TSO ログイン時に DFT-DEST フィールドで指定された値をオーバーライドするリモートの出力先を指定できます。
TSO.LGN-MSG	Boolean	このユーザーはログオン時にメッセージクラスを指定できます。
TSO.LGN-PERF	Boolean	このユーザーはログオン時にパフォーマンスグループを指定できます。
TSO.LGN-PROC	Boolean	このユーザーはログオン時に TSO プロシージャ名を指定できます。
TSO.LGN-RCVR	Boolean	このユーザーは、TSO または TSO/E コマンドパッケージの復元オプションを使用できます。
TSO.LGN-SIZE	Boolean	このユーザーは、ログオン時に任意の領域サイズを指定することを承認されています。
TSO.LGN-TIME	Boolean	このユーザーはログオン時に TSO セッション時間制限を指定できます。
TSO.LGN-UNIT	Boolean	このユーザーはログオン時に TSO ユニット名を指定できます。
TSO.LINE	String	TSO 行削除の文字
TSO.MAIL	Boolean	ログオン時に TSO からメールメッセージを受信します
TSO.MODE	Boolean	TSO からモーダルメッセージを受信します

リソースユーザー属性	データの種類	説明
TSO.MOUNT	Boolean	このユーザーはデバイスのマウントを発行できません。
TSO.MSGID	Boolean	プレフィックス TSO メッセージ ID
TSO.NOTICES	Boolean	ログオン時に TSO 通知を受信します
TSO.OPERATOR	Boolean	このユーザーは TSO オペレータ特権を持ちます
TSO.PAUSE	Boolean	CLIST 内で実行されたコマンドが多重メッセージを発行すると、プログラムを一時停止させます。
TSO.PMT-ACCT	Boolean	このユーザーがログオン時にアカウント番号を指定するように強制します。
TSO.PMT-PROC	Boolean	このユーザーがログオン時に TSO プロシージャ名を指定するように強制します。
TSO.PROMPT	Boolean	不足しているパラメータや不正なパラメータを指定し直すように求めます
TSO.RECOVER	Boolean	TSO または TSO/E コマンドパッケージの復元オプションを使用します
TSO.TSOACCT	String	ユーザーのデフォルトの TSO ログオンアカウント
TSO.TSOCMDS	String	このユーザーが使用を承認されているコマンドのリストを含む TSO コマンドリストモジュールの名前。
TSO.TSOFSCRN	Boolean	このユーザーには全画面ログオンが表示されます。
TSO.TSOPERF	String	ユーザーのデフォルトの TSO パフォーマンスグループ
TSO.TSOPROC	String	ユーザーのデフォルトの TSO プロシージャ名
TSO.TSORBA	String	このユーザーのメールインデックスレポートポインタ (MIRP)
TSO.TSORGN	String	ユーザーがログオン時にサイズ指定しない場合の、ユーザーのデフォルトの TSO 領域サイズ (K バイト単位)
TSO.TSOSIZE	String	ユーザーが LGS-SIZE フィールドを指定していない場合の、ユーザーの TSO 領域の最大サイズ (K バイト単位)
TSO.TSOTIME	String	ユーザーのデフォルトの TSO 時間パラメータ
TSO.TSOUNIT	String	ユーザーのデフォルトの TSO ユニット名
TSO.VLD-ACCT	Boolean	CA-ACF2 によって TSO アカウント番号が検証されることを示します

リソースユーザー属性	データの種類	説明
TSO.VLD-PROC	Boolean	CA-ACF2 によって TSO プロシージャー名が検証されることを示します
TSO.WTP	Boolean	Write-To-Programmer (WTP) メッセージを表示します

## リソースオブジェクトの管理

なし

## サンプルフォーム

ACF2UserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.HostAccess`
- `com.waveset.adapter.ACF2ResourceAdapter`



# Active Directory

Windows 2000 / Active Directory リソースアダプタは、  
`com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

ここでは、Identity Manager で使用する次の Active Directory リソースの設定手順を説明します。次のような手順があります。

- [Sun Identity Manager Gateway の場所](#)
- [Sun Identity Manager Gateway サービスアカウント](#)
- [不在メッセージ](#)
- [Exchange Server 2007 の要件](#)

### Sun Identity Manager Gateway の場所

「LDAP ホスト名」リソース属性が設定されていない場合、ゲートウェイはディレクトリに対してサーバーレスバインドを実行します。サーバーレスバインドが機能するためには、ドメイン内にあって、管理対象のドメインまたはディレクトリを「認識している」システム上に、ゲートウェイをインストールする必要があります。一般に、管理対象のドメインと同じフォレストにあるドメイン内にゲートウェイが存在するか、ドメイン間にトラスト関係が存在する場合は、サーバーレスバインドが成功します。

「LDAP ホスト名」リソース属性は、ゲートウェイに特定の DNS ホスト名または IP アドレスとバインドするように指示します。これはサーバーレスバインドとは正反対です。ただし、LDAP ホスト名では、必ずしも特定のドメインコントローラを指定する必要はありません。AD ドメインの DNS 名を使用できます。ゲートウェイシステムの DNS サーバーが、その DNS 名に対して複数の IP アドレスを返すように設定されている場合、そのうちの 1 つがディレクトリバインドに使用されます。これによって単一のドメインコントローラに依存する必要がなくなります。

パススルー認証や前アクションと後アクションを含む一部の操作では、ゲートウェイシステムがドメインのメンバーであることが求められます。

### Sun Identity Manager Gateway サービスアカウント

デフォルトでは、ゲートウェイサービスはローカルシステムアカウントとして実行されます。これは、「サービス」MMC スナップインで設定できます。

Exchange Server 2007 サポートが有効になっている Active Directory アダプタでゲートウェイが使用されている場合、ゲートウェイの実行に使用されるアカウントには特別な権限が必要です。

そのアカウントは、Exchange Server 2007 がインストールされているドメインにあるドメインアカウントである必要があります。使用されるアカウントは、標準 Exchange Server 2007 グループ Exchange Recipient Administrators のメンバーである必要もあります。このアカウントは、ゲートウェイによるすべての Exchange Server 2007 固有のアクションを実行します。リソースで指定された管理アカウントは使用されません。

許可されたゲートウェイアカウントでのこの制限は、Exchange Server 2007 API の制限に起因します。

これを正しく設定しないと、「PowerShell exception: Access to the address list service on all Exchange 2007 servers has been denied.」のような PowerShell エラーメッセージが表示されたあとに、スタックトレースが表示されます。

ゲートウェイをローカルシステム以外のアカウントとして実行する場合は、ゲートウェイサービスアカウントに「Act As Operating System」ユーザー権限と「Bypass Traverse Checking」のユーザー権限が必要です。ゲートウェイは、パススルー認証や、特定の状況でのパスワードの変更およびリセットに、これらの権限を使用します。

AD の管理の大部分は、リソース内で指定された管理アカウントを使用して行います。ただし、一部の操作はゲートウェイサービスアカウントで実行します。つまり、ゲートウェイサービスアカウントには、これらの操作を実行するための適切なアクセス権が必要です。現在、これに該当する操作は次のとおりです。

- ホームディレクトリの作成
- アクションの実行 ( 前アクションと後アクションを含む )

Active Directory アダプタ 「認証のタイムアウト」リソース属性 ( パススルー認証のみの場合 ) を使用すると、ゲートウェイ側で問題が発生してもアダプタが滞らずにすみます。

事前のアクションや事後のアクションのスク립トを実行するときは、ゲートウェイに「プロセスレベルトークンの置き換え」の権限が必要な場合があります。この権限は、ゲートウェイが別のユーザー ( リソース管理ユーザーなど ) としてスク립トのサブプロセスを実行しようとする場合に必要です。この場合、ゲートウェイプロセスには、そのサブプロセスに関連付けられたデフォルトのトークンを置き換える権限が必要です。

この権限がない場合は、サブプロセスの作成中に次のエラーが返されることがあります。

```
"Error creating process: A required privilege is not held by the client"
```

「プロセスレベルトークンの置き換え」権限は、デフォルトのドメインコントローラのグループポリシーオブジェクトと、ワークステーションおよびサーバーのローカルセキュリティポリシーで定義されます。この権限をシステムに設定するには、「管理ツール」フォルダの「ローカルセキュリティポリシー」アプリケーションを開き、「ローカルポリシー」>「ユーザー権利の割り当て」>「プロセスレベルトークンの置き換え」に移動します。

## 不在メッセージ

outOfOfficeEnabled および outofOfficeMessage アカウント属性を使用すると、前者では不在時の自動返信機能の有効化、後者では不在メッセージの設定がそれぞれできます。これらは Exchange 2000 または 2003 アカウントで使用できます。これらの属性が設定されるのはアカウントの更新時のみで、アカウントの作成時には設定されません。

このアダプタでは、ゲートウェイマシン上に Messaging Application Programming Interface (MAPI) をインストールする必要があります。MAPI サブシステムをインストールするには、少なくとも 2 とおりの方法があります。もっとも単純な方法は、ゲートウェイマシン上に Microsoft Outlook クライアントをインストールすることです。この場合、これ以外の設定は必要ありません。

Messaging Application Programming Interface (MAPI) もう 1 つの方法は、Exchange Server CD にある Exchange System Management Tools をインストールすることです。この管理ツールは、通常の Exchange Server のコンポーネントとしてインストールされます。ただし、このインストールによって MAPI サブシステムのファイルはインストールされますが、これで設定が完了するわけではありません。

mapisvc.inf ファイル (通常は c:\winnt\system32 にある) には使用可能な MAPI サービスが格納されていますが、このファイルを更新して Exchange メッセージサービスエントリを含むようにする必要があります。msems.inf ファイル (gateway zip ファイルに格納されている) に格納されているエントリは、Exchange メッセージサーバーを設定するために、mapisvc.inf ファイルにマージします。msems.inf ファイルは、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手動で mapisvc.inf ファイルにマージできます。また、Microsoft Platform SDK には MergeIni.exe という名前のツールも用意されています。これは Microsoft SDK\Bin ディレクトリの Windows Core SDK にあります。

MergeIni を実行するには、次のコマンドを使用します。

```
MergeIni msems.inf -m
```

Out of Office 属性は、msExchHideFromAddressLists 属性が有効になっている場合は取得できません。msExchHideFromAddressLists が true になっているときに、ユーザーフォームに Out of Office 属性を表示しようとしても、値は定義されません。サンプルの Active Directory ユーザーフォームには、msExchHideFromAddressLists が有効になっているときは Identity Manager に Out of Office 属性を表示させないロジックが組み込まれています。

Exchange Server 2007 では、ユーザーに対する Out Of Office メッセージの設定はサポートされていません。このメッセージはユーザーエントリの一部として格納されておらず、ユーザーのメールボックスの一部を形成します。Out of Office 返信を管理するには、エンドユーザーが Outlook または Outlook Web Access を使用することをお勧めします。

## Exchange Server 2007 の要件

Exchange Server 2007 では、Exchange Management Shell を使用した API のプロビジョニングのみがサポートされています。このシェルでは、ユーザーとサーバーを管理およびプロビジョニングするコマンド行インタフェースが提供されます。このシェルは Microsoft Windows PowerShell 上でビルドされます。

ゲートウェイは、Microsoft Windows 32 ビット版オペレーティングシステムで実行する必要があります。さらに、ゲートウェイマシン上に次のアイテムをインストールする必要があります。

- [Microsoft Exchange Server 2007 「管理ツール」、32 ビット](#)
- [Microsoft Windows PowerShell 1.0](#)
- [Microsoft .NET 2.0](#)

これらの要件については、次の節で詳細に説明します。

### *Microsoft Exchange Server 2007 「管理ツール」、32 ビット*

Exchange 管理シェルは、Exchange 用の管理ツールの一部です。Microsoft では、本稼働環境で 32 ビット版の Exchange Server 2007 を実行することはサポートされていません。管理ツールには、「Exchange Server 2007 システム要件」に記述したような例外があります。

ゲートウェイマシンには、32 ビット版の管理ツールのみをインストールします。64 ビット版のオペレーティングシステム上に 32 ビット版のツールをインストール、または両方の版のツールをインストールすると、予測不能な動作が発生する可能性があります。

32 ビット版の管理ツールは、次の Microsoft Web サイトからダウンロードできます。

<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=82335>

ダウンロードしてインストールするツールのバージョンは、残りの Exchange 環境にインストールされている Exchange Server 2007 バージョンと一致するようにしてください。

管理ツールのインストールを開始する前に、Microsoft Windows PowerShell 1.0 および Microsoft .NET 2.0 Framework がインストールされていることを確認してください。

インストールされている必要のあるパッケージは、次の 2 つです。

- Microsoft Windows PowerShell 1.0
- Microsoft .NET 2.0 Framework

### *Microsoft Windows PowerShell 1.0*

Exchange 管理ツールは、Microsoft PowerShell の拡張 (またはスナップイン) として実装されます。現在は、PowerShell version 1.0 のみがサポートされ、サーバーにはこれをインストールする必要があります。

<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=75790&clcid=0x09>

### *Microsoft .NET 2.0*

PowerShell を使用するには、Microsoft .NET 2.0 Framework をインストールする必要があります。この Framework はデフォルトでインストールされません。次の場所にある Microsoft Download Center からインストールできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=0856EACB-4362-4B0D-8EDD-AAB15C5E04F5>

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

ここでは、Active Directory リソースアダプタの使用に関連する依存関係と制限について示します。説明する内容は次のとおりです。

- [パスワード履歴の確認](#)
- [Microsoft Exchange Server 2000 および 2003 をサポートする](#)
- [Exchange 2007 をサポートする](#)
- [Active Sync の設定](#)

- パススルー認証用のドメインを指定する
- ゲートウェイのタイムアウト

## パスワード履歴の確認

エンドユーザーが自分のパスワードを変更するときに Active Directory アカウントのパスワード履歴を確認するには、AD パスワードを入力する必要があります。AD リソース上でこの機能を有効にするには、「変更時にユーザーがパスワードを入力」リソース属性を 1 に設定し、WS\_USER\_PASSWORD 属性のタイプを encrypted にしてアカウント属性に追加します。WS\_USER\_PASSWORD は、Identity Manager ユーザー属性およびリソースユーザー属性として追加します。

waveset.properties ファイル内の sources.ResourceName.hosts プロパティを使用して、Active Sync を使用してリソースの同期を行うのにクラスタ内のどのホストを使用するかを制御できます。ResourceName は、リソースオブジェクトの名前に置き換えてください。

## Microsoft Exchange Server 2000 および 2003 をサポートする

Microsoft Exchange Server 2000 および 2003 をサポートするには、次のアカウント属性を有効にします。

- homeMDB
- homeMTA
- mailNickname
- msExchHomeServerName

次のアカウント属性はデフォルトでスキーママップに表示され、Exchange アカウントの管理にも使用されます。

- garbageCollPeriod
- mDBOverHardQuotaLimit
- mDBOverQuotaLimit
- mDBStorageQuota
- mDBUseDefaults

Exchange Server の属性を管理するのに Active Directory リソースを使用していない場合、Identity Manager で Active Directory アカウントを正常にプロビジョニングするには、これらのアダプタのスキーママップからこれらの属性を削除します。

Exchange Server 2000/2003 と 2007 がインストールされた混合 Microsoft Exchange 環境は管理可能です。この Active Directory リソースが混合環境の管理に使用されず、Exchange Server 2007 のみが存在する場合は、前述の指示に従って、Exchange 属性をスキーマから削除します。

Active Directory アダプタは、プリンタ、コンピュータ、またはその他の Active Directory オブジェクトをサポートするように変更できます。次の例は、プリンタオブジェクトをサポートするように、該当する Java クラス内の XML コードを変更する方法を示しています。

```
<ObjectType name='Printer' icon='group'>
  <ObjectClasses operator='AND'>
    <ObjectClass name='printQueue' />
  </ObjectClasses>
  <ObjectFeatures>
    <ObjectFeature name='create' />
    <ObjectFeature name='update' />
    <ObjectFeature name='delete' />
  </ObjectFeatures>
  <ObjectAttributes idAttr='distinguishedName' displayNameAttr='cn'
descriptionAttr='description'>
    <ObjectAttribute name='cn' type='string' />
    <ObjectAttribute name='description' type='string' />
    <ObjectAttribute name='managedby' type='string' />
    <ObjectAttribute name='distinguishedName' type='string' />
  </ObjectAttributes>
</ObjectType>
```

プリンタオブジェクトをサポートするためには、少なくとも 1 つの新しいフォームを作成します。

Windows Active Directory リソースによって Exchange 2000 の連絡先を管理できるようにするには、オブジェクトクラスを contact に変更し、password、accountId、および expirePassword リソース属性を削除します。

## Exchange 2007 をサポートする

Microsoft Exchange Server 2007 は、Windows Server 2003 R2 または Windows Server 2003 Service Pack 1 以上でのみサポートされます。

Active Directory アダプタでは、デフォルトで Exchange 2007 電子メールアカウントは管理されません。これらのアカウントのサポートを有効にするには、次の操作を実行します。

- Exchange 2007 Support リソースパラメータを選択します。

- Exchange Recipient Administrators グループのメンバーであり、Windows ドメインにログインされているユーザーとして、ゲートウェイが動作していることを確認します。
- 次のアカウント属性をスキーママップに追加します。これらの属性の「必須」チェックボックスは選択しないでください。

属性名	説明
RecipientType (文字列)	<p>リソースに対するユーザータイプ。Exchange 2007 対応のリソースでのアカウントの作成中に必要となります。指定可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- User (Active Directory 専用ユーザー)</li> <li>- UserMailbox (ローカルメール記憶領域を持つ Active Directory および Exchange ユーザー)</li> <li>- MailUser (ローカルメール記憶領域を持たない Active Directory および Exchange ユーザー)</li> </ul> <p>Active Directory 専用ユーザー (RecipientType = User) から Exchange ユーザータイプ (RecipientType UserMailbox または MailUser) への変更時を除いて、この属性は読み取り専用です。RecipientType を User に戻したり、MailUser を UserMailbox (およびその逆) に変更したりすることはできません。</p>
Database (文字列)	<p>ユーザーのメールボックスを格納するデータベース。この値は、<i>Server\StorageGroup\MailboxDatabase</i> の形式で指定する必要があります。RecipientType が UserMailbox に設定されている場合は、この属性は値を持つ必要があります。RecipientType のほかの値がある場合は、この属性は無視されます。</p>
ExternalEmailAddress (文字列)	<p>Exchange 組織外部の電子メールアドレス。この属性は、RecipientType MailUser に対して Exchange 組織で一意の値に設定する必要があります。RecipientType のほかの値がある場合は、この属性は無視されます。</p>

## Active Sync の設定

Active Sync は常に同じドメインコントローラに接続する必要があるため、「子ドメインの検索」リソースパラメータが選択されていない場合は、特定のドメインコントローラのホスト名を指定するように LDAP ホスト名を設定します。「子ドメインの検索」オプションが選択されている場合は、グローバルカタログホスト名フィールドに、特定のグローバルカタログサーバーを設定します。

新しいドメインコントローラに切り替えたときに発生する繰り返しイベントの数を制限する方法については、537ページの第5章「Active Directory 同期フェイルオーバー」を参照してください。

## パススルー認証用のドメインを指定する

デフォルト設定では、ユーザー ID とパスワードのみを送信することによって、パススルー認証が実現されます。これらの2つの属性は、w2k\_user および w2k\_password として、リソースオブジェクトの XML の AuthnProperties 要素で設定されます。ドメイン指定がない場合は、ゲートウェイで既知の全ドメインが検索され、ユーザーを含むドメイン内のユーザー認証が試みられます。

信頼されたマルチドメイン環境では、次の2つの状況が考えられます。

- すべてのドメインに同期されたユーザー / パスワードの組み合わせが含まれる。
- ユーザー / パスワードの組み合わせがドメインに依存する。

ユーザー / パスワードの組み合わせが同期される場合は、Active Directory リソースが共通リソースとなるように設定します。共通リソースの設定の詳細については、「Identity Manager 管理ガイド」を参照してください。

ユーザー / パスワードの組み合わせがドメインに依存する場合、およびユーザーがドメイン情報を知るように要求される場合は、ログイン画面でドメイン情報を入力することをユーザーに許可できます。このオプションは、共通リソースを含む組み合わせで使用できます。

ログインページでドメインの入力をユーザーに許可するには、リソースオブジェクトの XML で <AuthnProperties> 要素に次のプロパティを追加します。

```
<AuthnProperty name='w2k_domain' displayName='Domain:'  
formFieldType='text' dataSource='user' doNotMap='true' />
```

グローバルカタログにはフォレスト間の情報は含まれていないため、信頼される複数のドメインと Active Directory フォレストを含む環境では、これらの設定のいずれかを使用した認証に失敗する可能性があります。ドメイン数がロックアウトのしきい値よりも大きい場合は、ユーザーが不正なパスワードを入力すると、ユーザーのドメインでアカウントがロックアウトされる可能性もあります。

複数のゲートウェイ (フォレストごとに1つずつ) が配備されている場合にも、フォレスト間のユーザー管理が可能です。この場合、ユーザーがドメインを指定する必要がなく、アダプタごとに認証用に事前定義されたドメインを使用するようにアダプタを設定できます。これを実現するには、リソースオブジェクトの XML で <AuthnProperties> 要素に次の認証プロパティを追加します。

```
<AuthnProperty name='w2k_domain' dataSource='resource attribute'  
value='MyDomainName' />
```

ユーザーを認証するドメインで *MyDomainName* を置き換えます。

ユーザーがドメインに存在し、パスワードが同期されない場合は、ドメインでログインに失敗します。

1つの Login Module Group で、ドメイン情報用に複数のデータソースを使用することはできません。

## ゲートウェイのタイムアウト

Active Directory アダプタでは、RA\_HANGTIMEOUT リソース属性を使用してタイムアウト値を秒単位で指定できます。この属性は、ゲートウェイに対する要求がタイムアウトしてハングしているとみなされるまでの時間を制御します。

次のように、この属性を Resource オブジェクトに手動で追加する必要があります。

```
<ResourceAttribute name='Hang Timeout'  
displayName='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT'  
type='int'  
description='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT_HELP value='NewValue'>  
</ResourceAttribute>
```

この属性のデフォルト値は0であり、これは Identity Manager がハングした接続を確認しないことを示します。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

「暗号化タイプ」リソースパラメータでは、Identity Manager ゲートウェイが Active Directory サーバーとの通信に使用する暗号化タイプを入力できます。このフィールドの有効な値は、None (デフォルト値)、Kerberos、および SSL です。

SSLを使用するには、ドメイン内で認証局を設定します。また、Active Directory へのアクセスに使用するユーザー名は UPN 形式 (例: *DomainName\UserName*) にします。

### 必要な管理特権

ここでは、必要な Active Directory のアクセス許可とパスワードのリセット権の要件について説明します。

### Active Directory アクセス権

Active Directory リソース内で設定する管理アカウントには、Active Directory における適切なアクセス権が必要です。

Identity Manager の機能	Active Directory アクセス権
Active Directory ユーザーアカウントの作成	<p>ユーザーオブジェクトの作成</p> <p>アカウントを有効な状態で作成するには、<b>userAccountControl</b> プロパティの読み取り / 書き込み権が必要です。パスワードの期限が切れた状態で作成するには、アカウント制限のプロパティセット (<b>userAccountControl</b> プロパティを含む) の読み取り / 書き込みができるようにします。</p>
Active Directory ユーザーアカウントの削除	<p>ユーザーオブジェクトの削除</p>
Active Directory ユーザーアカウントの更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すべてのプロパティの読み取り</li> <li>• すべてのプロパティの書き込み</li> </ul> <p><b>注意:</b> プロパティのサブセットのみが <b>Identity Manager</b> から管理されている場合、読み取り / 書き込みアクセスをこれらのプロパティのみに許可できます。</p>
AD ユーザーアカウントパスワードの変更 / リセット	<p>ユーザーオブジェクトに関するアクセス許可:</p>
AD ユーザーアカウントのロック解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内容の一覧表示</li> </ul>
AD ユーザーアカウントの期限設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すべてのプロパティの読み取り</li> <li>• 読み取りアクセス権</li> <li>• パスワードの変更</li> <li>• パスワードのリセット</li> </ul>
	<p>ユーザープロパティに対するアクセス許可:</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>lockoutTime</b> の読み取り / 書き込み</li> <li>• アカウント制限の読み取り / 書き込み</li> <li>• <b>accountExpires</b> の読み取り</li> </ul>
	<p><b>lockoutTime</b> プロパティに対するアクセス許可を設定するには、<b>Windows 2000 Server</b> リソースキットにある <b>cacls.exe</b> プログラムを使用してください。</p>

## パスワードのリセット

リソースオブジェクトの作成、削除、更新を実行する権限は期待するとおりのものです。アカウントには対応するオブジェクトタイプに対する作成権と削除権が必要で、ユーザーには、更新する必要があるプロパティに対する適切な読み取り / 書き込み権が必要になります。

## パススルー認証

Active Directory (AD) のパススルー認証をサポートするための要件は、次のとおりです。

- ゲートウェイをユーザーとして実行するように設定する場合、そのユーザーアカウントには「Act As Operating System」および「Bypass Traverse Checking」のユーザー権限が必要です。デフォルトでは、ゲートウェイはローカルシステムアカウントとして実行され、このアカウントにはこれらの権限はすでに備わっています。また、「Bypass Traverse Checking」ユーザー権限は、デフォルトですべてのユーザーに有効になっています。

---

**注** ユーザー権限を更新する必要がある場合、更新されたセキュリティポリシーが伝播されるまでに遅延が生じる可能性があります。ポリシーが伝達されたら、ゲートウェイを再起動します。

---

- 認証されるアカウントには、ゲートウェイシステム上で “Access This Computer From The Network” ユーザー権限が必要です。

ゲートウェイでは、LogonUser 関数に LOGON32\_LOGON\_NETWORK ログオンタイプおよび LOGON32\_PROVIDER\_DEFAULT ログオンプロバイダを設定して、パススルー認証を実行します。LogonUser 関数は、Microsoft Platform Software Development Kit で提供されています。

## 削除済みオブジェクトへのアクセス

管理アカウントには、Active Directory の削除済みオブジェクトコンテナへのアクセス権が必要です。デフォルトでは、管理者とシステムアカウントのみが、このコンテナにアクセスできます。その他のユーザーにこのコンテナへのアクセス権を許可することもできます。削除済みオブジェクトコンテナへのアクセス許可については、Microsoft ナレッジベースの記事 892806 を参照してください。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用可 「認証のタイムアウト」リソース属性 (パススルー認証のみの場合) を使用すると、ゲートウェイ側で問題が発生しても Active Directory アダプタが滞らずにすみます。
前アクションと後アクション	使用可。 Active Directory リソースは、前アクションと後アクションをサポートしています。このアクションは、ユーザーが要求を作成、更新、および削除するときに、Active Directory ゲートウェイシステム上でバッチスクリプトを使用してアクティビティを実行します。詳細については、 <a href="#">第3章「リソースへのアクションの追加」</a> を参照してください。
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li><li>Active Sync</li></ul>

## アカウント属性

属性がサポートされるかどうかは、通常、属性の構文 (または型) によって決まります。一般に、Identity Manager は boolean 型、文字列型、および整数型の構文をサポートします。バイナリ文字列と、それに類似した構文はサポートされていません。

### 属性構文のサポート

ここでは、サポートされるアカウント構文とサポートされないアカウント構文について説明します。

#### サポートされる構文

次の表は、Identity Manager によってサポートされている Active Directory 構文の一覧です。

AD 構文	Identity Manager 構文	構文 ID	OM ID	ADS タイプ
Boolean	Boolean	2.5.5.8	1	ADSTYPE_BOOLEAN
Enumeration	String	2.5.5.9	10	ADSTYPE_INTEGER
Integer	Int	2.5.5.9	2	ADSTYPE_INTEGER
DN String	String	2.5.5.1	127	ADSTYPE_DN_STRING
Presentation Address	String	2.5.5.13	127	ADSTYPE_CASE_IGNORE_STRING
IA5 String	String	2.5.5.5	22	ADSTYPE_PRINTABLE_STRING
Printable String	String	2.5.5.5	19	ADSTYPE_PRINTABLE_STRING
Numeric String	String	2.5.5.6	18	ADSTYPE_NUMERIC_STRING
OID String	String	2.5.5.2	6	ADSTYPE_CASE_IGNORE_STRING
Case Ignore String (teletex)	String	2.5.5.4	20	ADSTYPE_CASE_IGNORE_STRING
Unicode String	String	2.5.5.12	64	ADSTYPE_OCTET_STRING
Interval	String	2.5.5.16	65	ADSTYPE_LARGE_INTEGER
LargeInteger	String	2.5.5.16	65	ADSTYPE_LARGE_INTEGER

### サポートされない構文

次の表は、Identity Manager によってサポートされない Active Directory 構文の一覧です。

構文	構文 ID	OM ID	ADS タイプ
DN with Unicode string	2.5.5.14	127	ADSTYPE_DN_WITH_STRING
DN with binary	2.5.5.7	127	ADSTYPE_DN_WITH_BINARY
OR-Name	2.5.5.7	127	ADSTYPE_DN_WITH_BINARY
Replica Link	2.5.5.10	127	ADSTYPE_OCTET_STRING
NT Security Descriptor	2.5.5.15	66	ADSTYPE_NT_SECURITY_DESCRIPTOR
Octet String	2.5.5.10	4	ADSTYPE_OCTET_STRING
SID String	2.5.5.17	4	ADSTYPE_OCTET_STRING
UTC Time String	2.5.5.11	23	ADSTYPE_UTC_TIME

構文	構文 ID	OM ID	ADS タイプ
Object(Access-Point)	2.5.5.14	127	n/a

Identity Manager は、Replica Link 構文を使用する jpegPhoto および thumbnailPhoto アカウント属性をサポートしています。これ以外にもサポートされている Replica Link 属性があるかもしれませんが、それらはテストが完了していません。

## Microsoft Exchange 2007 属性構文のサポート

このセクションでは、Microsoft Exchange 2007 専用のサポート済みおよび未サポートのアカウント構文に関する情報を提供します。

### サポートされる構文

Identity Manager では、次の PowerShell 構文がサポートされます。

構文	説明
String	Unicode 文字列。
Integer	Exchange 2007 では文字列として表現されます。
Nullable	値を含む必要のない属性。別のタイプなしで使用される場合、文字列が示されます。
Boolean	「True」または「False」の標準 boolean 値
Unlimited	特別に許可された値として文字列「Unlimited」を含む文字列として表現される整数。
ByteQuantifiedSize	サイズ修飾子あり、またはサイズ修飾子なしの文字列として表現される整数のサイズ。許可される修飾子は、なし、B (デフォルト)、KB、MB、または GB です。

Unlimited と ByteQuantifiedSize の組み合わせはサポートされています。

### サポートされない構文

次の表は、Identity Manager によってサポートされない PowerShell 構文の一覧です。

構文	説明
SwitchParameter	Boolean 値の特殊なコマンド行形式。

構文	説明
Encrypted	パスワード属性

## アカウント属性のサポート

ここでは、Active Directory アカウント属性について、Identity Manager によってサポートされるものとサポートされないものを説明します。

### サポートされるアカウント属性

次の表は、Identity Manager によってサポートされるアカウント属性の一覧です。これ以外の属性 (Exchange の属性など) もサポートされる可能性があります。

スキーマ名	属性タイプ	説明
accountExpires	String	ユーザーのアカウントが期限切れになる日付。
AccountLocked	Boolean	アカウントがロックアウトされているかどうかを示します。true に設定することはできません (true に設定できるのは Windows システムのみ)。
accountNameHistory	String	アカウントがアクティブであった時間の長さ。読み取り専用。
aCSPolicyName	String	このユーザーに適用される ACS ポリシーの名前の文字列。
adminCount	String	指定されたオブジェクトが、管理グループの 1 つのメンバーであったために、システムによって、よりセキュリティー保護された値に (直接的または推移的に) その ACL が変更されたことを示します。システムによって設定されます。読み取り専用。
adminDescription	String	管理者の画面に表示される説明。
adminDisplayName	String	管理者画面に表示される名前。
altSecurityIdentities	String	認証目的のために、X.509 証明書または外部 Kerberos ユーザーアカウントのこのユーザーへのマッピングを格納します。
assistant	String	ユーザーの管理補佐の識別名。
badPasswordTime	String	ユーザーが最後に不正なパスワードを使用してアカウントにログオンを試みた時刻。

スキーマ名	属性タイプ	説明
badPwdCnt	String	読み取り専用。不正なパスワードによるログイン試行回数。この値は、問い合わせ先のドメインコントローラで失敗したログイン回数のみ場合があります。
businessCategory	String	組織で実施されているビジネスの種類を示します。
c	String	ユーザーの住所にある 2 文字の国番号。
cn	String	Common Name ( 共通名 )。この属性は、DN 内の CN の値から設定されます。読み取り専用。
co	String	Text-Country ( 国名 )
company	String	ユーザーの会社名。
codePage	Int	ユーザーの選択言語のコードページを指定します。
countryCode	String	ユーザーの選択言語の国番号を指定します。
Database	String	この属性は、RecipientType の値が UserMailbox である場合に必要となります。デフォルトでは表示されません。Exchange 2007 アカウントを管理するには、これを追加する必要があります。  完全データベースパス (Server\Storage\Database の形式)。
defaultClassStore	String	指定されたユーザーのデフォルトの Class Store。
department	String	ユーザーが勤務する部署の名前を格納します。
description	String	オブジェクトの表示説明を格納します。この値はシステムによって単一値として処理されません。
desktopProfile	String	ユーザーまたはユーザーグループのデスクトッププロファイルの場所。
destinationIndicator	String	Active Directory では使用されません。
displayName	String	特定のユーザーのアドレス帳に表示される名前。通常は、名、ミドルネームのイニシャル、姓の組み合わせです。
displayNamePrintable	String	displayName のプリント可能なバージョン。

スキーマ名	属性タイプ	説明
distinguishedName	String	直接設定することはできません。読み取り専用。DN テンプレートまたは <code>accountId</code> アカウント属性を使用して、作成時に DN を設定します。
division	String	ユーザーの部門。
dynamicLDAPServer	String	このアカウントの動的プロパティを渡すサーバーの DNS 名。
employeeID	String	従業員の ID。
extensionName	String	ディレクトリオブジェクトの UI を拡張するために使用されるプロパティページの名前。
ExternalEmailAddress	String	この属性は、 <code>RecipientType</code> の値が <code>MailUser</code> である場合に必要となります。デフォルトでは表示されません。Exchange 2007 アカウントを管理するには、これを追加する必要があります。  Exchange サーバーで一意であり、 <code>User@Domain</code> 形式の電子メールアドレス。
facsimileTelephoneNumber	String	ユーザーの勤務先の FAX 番号。
flags	Int	ビット情報を格納するためにオブジェクトによって使用されます。
garbageCollPeriod	Int	この属性は、 <code>CN=DirectoryService,CN=WindowsNT,CN=Services,CN=Configuration,...</code> オブジェクトに配置されています。DS ガベージコレクションの実行間隔 (時間単位) を表します。
generationQualifier	String	人物の世代を示します。Jr. や II など。
givenName	String	ユーザーの名を格納します。
groupPriority	String	使用しません
groups	String	Windows のセキュリティーグループと配布グループ。
groupsToIgnore	String	使用しません

スキーマ名	属性タイプ	説明
homeDirectory	String	<p>ユーザーのホームディレクトリ。homeDrive が設定され、ドライブ文字が指定されている場合、homeDirectory は UNC パスにするようにしてください。このパスは \\server\share\directory という形式のネットワーク UNC パスにします。この値は NULL 文字列にすることもできます。</p> <p>ユーザーのホームディレクトリは次の場合に作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 値が、共有名ではない UNC パスである (share ディレクトリ上のディレクトリを指している)</li> <li>• すべての親ディレクトリが存在</li> <li>• 「ホームディレクトリの作成」リソース属性が 1 に設定されている</li> <li>• ゲートウェイサービスの実行ユーザーには、ディレクトリの作成権が必要</li> </ul> <p>ユーザーには、作成したディレクトリの完全な制御権が付与されます。</p>
homeDrive	String	<p>ホームディレクトリのマップ先になるドライブ文字 (コロンを含む)。「Z:」など。homeDirectory が UNC パスの場合のみ指定するようにしてください。</p>
homeMDB	String	<p>このメールボックスのメッセージデータベース (MDB) の識別名。次のような形式になります。CN=Mailbox Store (SERVERNAME),CN=First Storage Group, CN=InformationStore, CN=SERVERNAME,CN=Servers, CN=First Administrative Group, CN=Administrative Groups, CN=EXCHANGE ORG, CN=Microsoft Exchange, CN=Services, CN=Configuration,DC=DOMAIN, DC=YOURCOMPANY,DC=com'</p>

スキーマ名	属性タイプ	説明
homeMTA	String	このオブジェクトをサービスするメッセージ転送エージェント (MTA) を指します。次のような形式になります。CN=Microsoft MTA, CN=SERVERNAME, CN=Servers, CN=First Administrative Group, CN=Administrative Groups, CN=EXCHANGE ORG, CN=Microsoft Exchange, CN=Services, CN=Configuration, DC=DOMAIN, DC=YOURCOMPANY, DC=com
homePhone	String	ユーザーの自宅のメイン電話番号。
homePostalAddress	String	ユーザーの自宅の住所。
info	String	ユーザーに関するコメント。NULL 文字列にすることもできます。
initials	String	ユーザーのフルネームの一部を表すイニシャルを格納します。
internationalISDNNumber	String	オブジェクトに関連付けられた国際 ISDN 番号を指定します。
ipPhone	String	電話の TCP/IP アドレス。テレフォニーで使用します。
jpegPhoto	Binary	ユーザーの画像。(Windows 2003 Server 以上が必要)
l	String	ユーザーの住所の地域 (町村など)。
lastLogon	String	ユーザーが最後に DC にログオンした時刻。
lastLogonTimestamp	String	ユーザーが最後にドメインにログインした時刻。この値が更新されるのは、前回この値が更新されてから 1 週間以上が経過している状態で、ユーザーがログインしたときだけです。
lastLogoff	String	ユーザーが最後にログオフした時刻。
legacyExchangeDN	String	これまで Exchange によって使用されていた識別名。
localeID	Int	この属性には、このアプリケーションによってサポートされるロケール ID の一覧が格納されます。ロケール ID は地理的な場所 (フランスなど) を表します。
lockoutTime	String	不正なログオンカウントがリセットされるまでの待機時間 (分)。

スキーマ名	属性タイプ	説明
logonCount	Int	ユーザーがこのアカウントへのログオンを試みて成功した回数。このプロパティは、ドメイン内でドメインコントローラ別に維持されません。
mail	String	1つ以上の電子メールアドレス。
mailNickName	String	Exchange のニックネーム。
managedObjects	String	ユーザーによって管理されるオブジェクトの一覧を格納します。システムによって設定されません。読み取り専用。
manager	String	ユーザーのマネージャーのディレクトリ名。
maxStorage	String	ユーザーの使用できる最大ディスク容量。
mDBOverHardQuotaLimit	String	メールボックスの最大サイズ (K バイト)。これを超えるとメールを送受信できなくなります。
mDBOverQuotaLimit	String	メールボックスに割り当てられたオーバードラフト制限 (K バイト)。
mDBStorageQuota	String	メッセージデータベース割り当て (K バイト)。
mDBUseDefaults	String	メッセージを保存する際に、メールボックスごとの割り当て制限ではなく、デフォルトの割り当て制限を適用すべきかどうかを示します。
mhsORAddress	String	X.400 アドレス。
middleName	String	ユーザーのミドルネーム。
mobile	String	第一携帯電話番号。
msCOM-PartitionSetLink	String	COM+ パーティションを COM+ PartitionSet オブジェクトに関連付けるために使用するリンク。読み取り専用。
msCOM-UserLink	String	COM+ PartitionSet をユーザーオブジェクトに関連付けるために使用するリンク。読み取り専用。
msCOM-UserPartitionSetLink	String	ユーザーを COM+ PartitionSet に関連付けるために使用するリンク。読み取り専用。
msDS-AllowedToDelegateTo	String	サービスプリンシパル名 (SPN) のリストを格納します。この属性は、Constrained Delegation (制限付き委任) に使用できるサービスチケットを取得できるようサービスを設定するために使用されます。

スキーマ名	属性タイプ	説明
ms-DS-Approx-Immed-Subordinates	Int	このユーザーの部下のおよその数。読み取り専用。
msDS-Cached-Membership-Time-Stamp	String	セキュリティーアカウントマネージャーによって、トークン評価時にグループ拡張のために使用されます。読み取り専用。
ms-DS-ConsistencyChildCount	Int	この属性は、子オブジェクトの数を比較することで、ディレクトリとその他のオブジェクト、データベース、またはアプリケーションとの間の整合性をチェックするために使用されます。
msExchHomeServerName	String	Exchange Server の名前。次のような形式になります。/o=EXCHANGEORG/ou=First Administrative Group/cn=Configuration/cn=Servers/cn=SERVERNAME
ms-DS-KeyVersionNumber	Int	このアカウントの現在のキーの Kerberos パージョン番号。これは動的に構築される属性です。読み取り専用。
ms-DS-Mastered-By	String	msDS-hasMasterNC にバックリンクします。読み取り専用。
ms-DS-Members-For-Az-Role-BL	String	メンバーアプリケーショングループまたはユーザーから、そこにリンクしている Az-Role オブジェクトへバックリンクします。読み取り専用。
ms-DS-NC-Repl-Cursors	String	過去および現在のレプリケーションパートナーと、それぞれによる更新状況のリスト。読み取り専用。
ms-DS-NC-Repl-Inbound-Neighbors	String	このパーティションのレプリケーションパートナー。このサーバーは、ここに含まれる他のサーバー (ソースとして機能) からレプリケーションデータを取得します。読み取り専用。
ms-DS-NC-Repl-Outbound-Neighbors	String	このパーティションのレプリケーションパートナー。このサーバーは、ここに含まれる他のサーバー (宛先として機能) にレプリケーションデータを送信します。このサーバーは、新しいデータが使用可能になると、これらの他のサーバーに通知します。読み取り専用。
ms-DS-Non-Members-BL	String	メンバーでないグループ / ユーザーから、そこにリンクしている Az グループへバックリンクします。読み取り専用。

スキーマ名	属性タイプ	説明
ms-DS-Operations-For-Az-Role-BL	String	Az-Operation から、そこにリンクしている Az-Role オブジェクトへバックリンクします。読み取り専用。
ms-DS-Operations-For-Az-Task-BL	String	Az-Operation から、そこにリンクしている Az-Task オブジェクトへバックリンクします。読み取り専用。
ms-DS-Repl-Attribute-Meta-Data	String	レプリケートされた各属性のメタデータのリスト。読み取り専用。
ms-DS-Repl-Value-Meta-Data	String	属性の各値のメタデータのリスト。読み取り専用。
ms-DS-Tasks-For-Az-Role-BL	String	Az-Task から、そこにリンクしている Az-Role オブジェクトへバックリンクします。読み取り専用。
ms-DS-Tasks-For-Az-Task-BL	String	Az-Task から、そこにリンクしている Az-Task オブジェクトへバックリンクします。読み取り専用。
ms-DS-User-Account-Control-Computed	Int	期限切れのユーザーパスワードとロックアウトされたユーザーアカウントを求めるために使われる属性。
msExchMailboxSecurityDescriptor	String	この属性は、ユーザーの Exchange Mailbox 権限を決定します。  詳細については、 <a href="#">85 ページの「ACL リストの管理」</a> を参照してください。
ms-Exch-Owner-BL	String	所有者属性へのバックリンク。オブジェクトの所有者のリストを格納します。読み取り専用。
ms-IIS-FTP-Dir	String	ファイルサーバーの共有に関連するユーザーのホームディレクトリ。ms-IID-FTP-Root と組み合わせて使用することで、FTP ユーザーホームディレクトリを決定します。
ms-IIS-FTP-Root	String	ファイルサーバーの共有を決定する属性。ms-IID-FTP-Dir と組み合わせて使用することで、FTP ユーザーホームディレクトリを決定します。

スキーマ名	属性タイプ	説明
name	String	ユーザーの相対識別名 (RDN)。直接設定することはできません。読み取り専用。DN テンプレートまたは <code>accountId</code> アカウント属性を使用して、作成時に RDN を設定します。「name」は予約された属性名なので、スキーママップの左側には使用しないでください。
networkAddress	String	ネットワークセグメントの TCP/IP アドレス。
nTSecurityDescriptor	String	スキーマオブジェクトの NT セキュリティー記述子。  詳細については、 <a href="#">85 ページの「ACL リストの管理」</a> を参照してください。
o	String	会社または組織の名前。
objectCategory	N/A	このクラスまたは派生したクラスのオブジェクトのグループ化に使用するオブジェクトクラス名。  システムによって設定されます。読み取り専用。
objectClass	N/A	このクラスの派生元のクラスのリスト。  この属性の値は、「オブジェクトクラス」リソース属性を使用して設定するようにしてください。読み取り専用。
objectVersion	Int	オブジェクトのバージョン番号。
operatorCount	Int	コンピュータ上のオペレータの数。
otherFacsimileTelephoneNumber	String	代替の FAX 番号のリスト。
otherHomePhone	String	代替の自宅電話番号のリスト。
otherIpPhone	String	電話用の代替の TCP/IP アドレスのリスト。テレフォニーで使用します。
otherLoginWorkstations	String	ここに指定した 非 NT ワークステーションまたは LAN Manager ワークステーションからユーザーがログインできます。
otherMailbox	String	フォームにその他の追加メールアドレスを格納します (CCMAIL: JohnDoe など)。
otherMobile	String	追加の携帯電話番号
otherPager	String	追加のポケットベル番号。
otherTelephone	String	追加の電話番号。

スキーマ名	属性タイプ	説明
ou	String	組織単位
outOfOfficeEnabled	Boolean	不在時の自動返信機能を有効にします
outOfOfficeMessage	String	不在メッセージのテキスト。
pager	String	ポケットベル番号
personalTitle	String	ユーザーの役職 / 肩書き
PasswordNeverExpires	Boolean	ユーザーのパスワードが期限切れになるかどうかを示します。
physicalDeliveryOfficeName	String	配達物の送付先となるオフィス。
postalAddress	String	ユーザーの勤務先オフィスの所在地。
postalCode	String	郵便配達用の郵便番号。
postOfficeBox	String	このオブジェクトの私書箱番号。
preferredDeliveryMethod	String	受取人への X.500 優先送付方式。
preferredOU	String	デフォルトでユーザーのデスクトップ上に表示される組織単位。
primaryGroupID	Int	ユーザーがまだグループのメンバーでない場合は、 <b>primaryGroupID</b> は 2 段階の手順で設定します。つまり、まずユーザーをグループに追加して、次に <b>primaryGroupId</b> を設定します。
primaryInternationalISDNNumber	String	第一 ISDN 番号。
primaryTelexNumber	String	第一テレックス番号。
profilePath	String	ユーザーのプロファイルへのパスを指定します。この値には、NULL 文字列、ローカル絶対パス、または UNC パスを設定できます。
proxyAddresses	String	プロキシアドレスは、 <b>Microsoft Exchange Server</b> の受信者オブジェクトが外国のメールシステムで認識されるためのアドレスです。プロキシアドレスは、カスタム受信者や配信リストなど、すべての受信者オブジェクトに必要です。

スキーマ名	属性タイプ	説明
pwdLastSet	String	この属性は、ユーザーが最後にパスワードを変更した時刻を示します。この値は、1601年1月1日0時0分0秒からの経過秒数を表す大きな整数として格納されます (FILETIME)。この値がゼロに設定され、ユーザーアカウントの「パスワードを無期限にする」プロパティが <b>false</b> に設定されている場合、ユーザーは次のログオン時にパスワードを設定する必要があります。
RecipientType	String	すべての Exchange 2007 アカウントタイプで必要です。指定可能な値は、User、UserMailbox、または MailUser です。  この属性はデフォルトでは表示されません。Exchange 2007 アカウントを管理するには、これを追加する必要があります。
revision	Int	セキュリティ記述子やその他の変更のバージョン。読み取り専用。
rid	Int	オブジェクトの相対識別子。読み取り専用。
sAMAccountName	String	ログイン名。
sAMAccountType	Int	この属性には、すべてのアカウントタイプのオブジェクトに関する情報が格納されます。システムによって設定されます。読み取り専用。
scriptPath	String	ユーザーのログオンスクリプトのパス。この文字列は <b>null</b> にできます。
seeAlso	String	関連するオブジェクトの DN。
serialNumber	String	ユーザーのシリアル番号。Active Directory では使用されません。
servicePrincipalName	String	オブジェクトに関連する識別名のリスト。
showInAddressBook	String	この属性は、オブジェクトの表示される MAPI アドレス帳を示すために使用されます。通常は Exchange 受信者更新サービスによって維持されます。
showInAdvancedViewOnly	Boolean	この属性が UI の詳細モードに表示される場合は <b>true</b> になります。
sn	String	姓
st	String	州名または都道府県名
street	String	街路住所

スキーマ名	属性タイプ	説明
Structural-Object-Class	String	クラス階層に含まれるクラスのリストを格納します ( <b>abstract</b> クラスを含む)。読み取り専用。
telephoneNumber	String	第一電話番号。
Terminal Services Initial Program	String	ユーザーのログオン時に実行される初期プログラムのパス。
Terminal Services Initial Program Directory	String	初期プログラムの作業用ディレクトリのパス
Terminal Services Inherit Initial Program	Boolean	クライアントが初期プログラムを指定できるかどうかを示します。  <b>true</b> - クライアントはプログラムを指定できます。  <b>false</b> - <b>Terminal Services Initial Program</b> の値が使用され、プログラムの終了時にクライアントはログオフされます。
Terminal Services Allow Logon	Boolean	<b>false</b> - ユーザーはログオンできません。  <b>true</b> - ユーザーはログオンできます。
Terminal Services Active Session Timeout	Integer	時間 (ミリ秒)。値が 0 の場合は、接続タイマーが無効であることを示しています。
Terminal Services Disconnected Session Timeout	Integer	端末サーバーが切断されたセッションを保持する最大時間 (ミリ秒)。この時間を経過すると、ログオンは強制終了となります。値が 0 の場合は、切断タイマーが無効であることを示しています。
Terminal Services Idle Timeout	Integer	最大アイドル時間 (ミリ秒)。指定した間隔にキーボードやマウスの動きが何もなく、ユーザーのセッションは、 <b>Terminal Services End Session On Timeout Or Broken Connection</b> で指定されている値に基づいて、切断または終了します。値が 0 の場合は、アイドルタイマーが無効であることを示しています。

スキーマ名	属性タイプ	説明
Terminal Services Connect Client Drives At Logon	Boolean	<p>端末サーバーがログオン時にクライアントドライブのマッピングを自動的に再確立するかどうかを示します。</p> <p><b>false</b> - サーバーは以前にマップされたクライアントドライブに自動的に接続しません。</p> <p><b>true</b> - サーバーはログオン時に、以前にマップされたクライアントドライブに自動的に接続します。</p>
Terminal Services Connect Client Printers At Logon	Boolean	<p>端末サーバーがログオン時にクライアントプリンタのマッピングを自動的に再確立するかどうかを示します。</p> <p><b>false</b> - サーバーは以前にマップされたクライアントプリンタに自動的に接続しません。</p> <p><b>true</b> - サーバーはログオン時に、以前にマップされたクライアントプリンタに自動的に接続します。</p>
Terminal Services Default To Main Client Printer	Boolean	<p>クライアントプリンタがデフォルトのプリンタかどうかを示します。</p> <p><b>false</b> - クライアントプリンタはデフォルトのプリンタではありません。</p> <p><b>true</b> - クライアントプリンタはデフォルトのプリンタです。</p>
Terminal Services End Session On Timeout Or Broken Connection	Boolean	<p>接続タイマーかアイドルタイマーの期限が切れたとき、または接続エラーによって接続が失われたときのアクションを指定します。</p> <p><b>false</b> - セッションが切断されます。</p> <p><b>true</b> - セッションが終了します。</p>
Terminal Services Allow Reconnect From Originating Client Only	Boolean	<p>このユーザーの切断されたセッションを再接続できるようにする方法を示します。</p> <p><b>false</b> - ユーザーは、任意のクライアントコンピュータにログオンして、切断されたセッションに再接続することができます。</p> <p><b>true</b> - ユーザーは、切断されたセッションの確立時に使用したクライアントコンピュータにログオンすることで、その切断されたセッションに再接続できます。</p>

スキーマ名	属性タイプ	説明
Terminal Services Callback Settings	Integer	<p>端末サーバーのハングアップしたダイヤルアップ接続の設定を示し、接続を確立するためにクライアントをコールバックします。</p> <p>0 - コールバック接続が無効です。</p> <p>1 - サーバーがユーザーに電話番号の入力を求め、その電話番号でユーザーをコールバックします。</p> <p>2 - サーバーは、Terminal Services Callback Phone Number 属性によって指定された電話番号で、自動的にユーザーをコールバックします。</p>
Terminal Services Callback Phone Number	String	コールバック接続に使用する電話番号。
Terminal Services Remote Control Settings	Integer	<p>ユーザーセッションを追跡できるかどうかを示します。追跡によって、ユーザーは別のユーザーの画面上の操作をリモートで監視できません。</p> <p>0 - 無効</p> <p>1 - 入力可能、通知あり</p> <p>2 - 入力可能、通知なし</p> <p>3 - 入力不可、通知あり</p> <p>4 - 入力不可、通知なし</p>
Terminal Services User Profile	String	端末サーバーにログオンするためのユーザーのプロファイルのパス。
Terminal Services Local Home Directory	String	端末サーバーにログオンするためのユーザーのホームディレクトリのパス。
Terminal Services Home Directory Drive	String	Terminal Services Local Home Directory 属性で指定された UNC パスのマップ先のドライブ名 (ドライブ文字とコロン)。
textEncodedORAddress	String	X.400 アドレスをテキスト形式でサポートします。
thumbnailPhoto	Binary	ユーザーの画像。

スキーマ名	属性タイプ	説明
title	String	ユーザーの役職を格納します。このプロパティは、一般に、プログラマーのような職種ではなく、「シニアプログラマー」のような正式な役職を示すために使用されます。通常、Esq. や DDS などの敬称には使用されません。
userAccountControl	Int	ユーザーのパスワード、ロックアウト、有効化 / 無効化、スクリプト、およびホームディレクトリの動作を制御するフラグを指定します。このプロパティには、オブジェクトのアカウントタイプを示すフラグも格納されます。フラグは LMAccess.H で定義されます。
userParameters	String	ユーザーのパラメータ。アプリケーションによる使用のために取り置かれるディレクトリの文字列を指します。この文字列は NULL 文字列にできます。または、終わりを表す NULL 文字の前に任意の数の文字を設定できます。
userPassword	Encrypted	UTF-8 形式のユーザーのパスワード。これは書き込み専用属性です。
userPrincipalName	String	インターネット標準 RFC 822 に基づく、ユーザーのインターネット形式のログイン名。UPN は識別名より短いので、覚えるのがより簡単です。規約により、この名前は、ユーザーの電子メールの名前にマップするようにしてください。
userSharedFolder	String	ユーザーの共有ドキュメントフォルダへの UNC パスを指定します。このパスは \\server\share\directory という形式のネットワーク UNC パスにします。この値は NULL 文字列にすることもできます。
userSharedFolderOther	String	ユーザーの追加の共有ドキュメントフォルダへの UNC パスを指定します。このパスは \\server\share\directory という形式のネットワーク UNC パスにします。この値は NULL 文字列にすることもできます。
userWorkstations	String	コンマで区切られた、ユーザーがログインできるコンピュータの NetBIOS または DNS 名。
usnChanged	String	直前の変更 (作成を含む) に対してローカルディレクトリによって割り当てられた USN 値。読み取り専用。

スキーマ名	属性タイプ	説明
usnCreated	String	オブジェクト作成時に割り当てられた USN 変更値。
USNIntersite	Int	サイト間のレプリケーションの USN。
uSNLastObjRem	String	サーバーから最後にオブジェクトが削除されたのがいつかを示します。読み取り専用。
uSNSource	String	ローカルサーバーに変更をレプリケートしたりモートディレクトリにあるオブジェクトの USN 変更属性の値。読み取り専用。
WS_PasswordExpired	Boolean	ユーザーのパスワードを期限切れにするかどうかを示します。
WS_USER_PASSWORD	Encrypted	ユーザーのパスワードを格納します。詳細については、「使用上の注意」を参照してください。
wbemPath	String	他の ADSI 名前空間にあるオブジェクトへの参照。
whenChanged	String	このオブジェクトが最後に変更された日付。読み取り専用。
whenCreated	String	このオブジェクトが作成された日付。読み取り専用。
wWWHomePage	String	ユーザーの第一 Web ページ。
url	String	代替の Web ページのリスト。
x121Address	String	オブジェクトの X.121 アドレス。

### *Exchange Server 2007 でサポートされるアカウント属性*

これらの属性は Exchange Server 2007 固有であり、RecipientType 属性が UserMailbox または MailUser 以外の場合は無視されます。

スキーマ名	属性タイプ	説明
AcceptMessagesOnlyFrom	String	このユーザーへのメール送信を許可されたユーザーのリスト。
AcceptMessagesOnlyFromDLMembers	String	このユーザーへのメール送信を許可されたメンバーを含む配布グループのリスト。
Alias	String	ユーザーのエイリアス。

スキーマ名	属性タイプ	説明
AntispamBypassEnabled	Boolean	このメールボックスでアンチスパム処理をスキップするかどうかを指定します (RecipientType UserMailbox のみ)。
CustomAttribute1 through CustomAttribute15	String	追加情報を格納する属性。
DeliverToMailboxAndForward	Boolean	このメールボックスに送信されるメッセージを別のアドレスに転送するかどうかを指定します (RecipientType UserMailbox のみ)。
DisplayName	String	Microsoft Outlook で表示される名前。
DowngradeHighPriorityMessagesEnabled	Boolean	メールボックスで優先度の高いメッセージが送信されないようにします (RecipientType UserMailbox のみ)。
EmailAddress	String	SMTP メールアドレスであり、PrimarySMTPAddress とは併用できません。
EmailAddresses	String	電子メールアドレスのリスト。PrimarySmtpAddress または「True」に設定された EmailAddressPolicyEnabled とは併用できません。
EmailAddressPolicyEnabled	Boolean	デフォルトとして「True」に設定すると、プライマリ電子メールアドレスがユーザー用に生成され、次の属性の使用が禁止されます。 - PrimarySmtpAddress - WindowsEmailAddress
EndDateForRetentionHold	Nullable	メッセージレコード管理 (MRM) の保持期間の最終日 (RecipientType UserMailbox のみ)。
ExternalOofOptions	String	Out of Office メッセージを外部送信者に送信します。値は「InternalOnly」または「External」に限定されます (RecipientType UserMailbox のみ)。
ForwardingAddress	String	DeliverToMailboxAndForward が「True」に設定されている場合、メールの転送先アドレス (RecipientType UserMailbox のみ)。
GrantSendOnBehalfTo	String	このユーザーの代わりにメッセージを送信できるその他の受信者の識別名 (DN)。
HiddenFromAddressListsEnabled	Boolean	アドレスリストから電子メールアドレスを非表示にします。
IssueWarningQuota	Unlimited ByteQuantifiedSize	割り当て警告の発行先のメールボックスのサイズ (RecipientType UserMailbox のみ)。

スキーマ名	属性タイプ	説明
Languages	String	表示用の優先言語のリスト (RecipientType UserMailbox のみ)。
MaxBlockedSenders	Nullable	ブロックされた送信者リストに追加できる送信者の最大数。
MaxReceiveSize	Unlimited ByteQuantifiedSize	このユーザーが受信できるメッセージの最大サイズ。
MaxSafeSenders	Nullable	安全な送信者リストに追加できる送信者の最大数 (RecipientType UserMailbox のみ)。
MaxSendSize	Unlimited ByteQuantifiedSize	このユーザーが送信できるメッセージの最大サイズ。
OfflineAddressBook	String	関連するアドレス帳 (RecipientType UserMailbox のみ)。
PrimarySmtpAddress	String	外部ユーザーがこのユーザーからメッセージを受信したときに、外部ユーザーに表示されるアドレス。EmailAddresses とは併用されません。EmailAddresses リストには PrimarySmtpAddress が含まれています。「True」に設定された EmailAddressPolicyEnabled とは併用できません。
ProhibitSendQuota	Unlimited ByteQuantifiedSize	このメールボックスに関連付けられたユーザーがメッセージを送信できなくなる時点のメールボックスサイズ (RecipientType UserMailbox のみ)。
ProhibitSendReceiveQuota	Unlimited ByteQuantifiedSize	このメールボックスに関連付けられたユーザーがメッセージを送信または受信できなくなる時点のメールボックスサイズ (RecipientType UserMailbox のみ)。
RecipientLimits	Unlimited	このメールボックスで送信できるメッセージ当たりの送信者の最大数。
RejectMessagesFrom	String	メッセージが拒否される受信者。
RejectMessagesFromDLMembers	String	これらの配布リストの任意のメンバーからのメッセージが拒否されます。
RequireSenderAuthenticationEnabled	Boolean	送信者は認証される必要があります。
RetainDeletedItemsFor	String	削除されたアイテムを保持する期間を指定する「dd.hh:mm:ss」の文字列形式で表現されるタイムスパン (RecipientType UserMailbox のみ)。

スキーマ名	属性タイプ	説明
RetainDeletedItemsUntilBackup	Boolean	削除されたアイテムを次のバックアップまで保持します (RecipientType UserMailbox のみ)。
RetentionHoldEnabled	Boolean	保持をオンまたはオフに切り替えます (RecipientType UserMailbox のみ)。
RulesQuota	ByteQuantifiedSize	このメールボックスに対する規則のサイズ制限。最大値は 256K バイトです (RecipientType UserMailbox のみ)。
SCLDeleteEnabled	Nullable Boolean	SCL 削除のしきい値を満たしたメッセージを削除します (RecipientType UserMailbox のみ)。
SCLDeleteThreshold	Nullable	メールが削除される時点の Spam Confidence Level。許可される値は 0-9 です (RecipientType UserMailbox のみ)。
SCLJunkEnabled	Nullable Boolean	SCL ジャンクのしきい値を満たしたメッセージをジャンクとします (RecipientType UserMailbox のみ)。
SCLJunkThreshold	Nullable	メールがジャンクとしてマークされる時点の Spam Confidence Level。許可される値は 0-9 です (RecipientType UserMailbox のみ)。
SCLQuarantineEnabled	Nullable Boolean	SCL 隔離のしきい値を満たしたメッセージを隔離します (RecipientType UserMailbox のみ)。
SCLQuarantineThreshold	Nullable	メールが隔離される時点の Spam Confidence Level。許可される値は 0-9 です (RecipientType UserMailbox のみ)。
SCLRejectEnabled	Nullable Boolean	SCL 拒否のしきい値を満たしたメッセージを拒否します (RecipientType UserMailbox のみ)。
SCLRejectThreshold	Nullable	メールが拒否される時点の Spam Confidence Level。許可される値は 0-9 です (RecipientType UserMailbox のみ)。
SimpleDisplayName	String	DisplayName の ASCII のみのバージョン。
StartDateForRetentionHold	Nullable	MRM の保持期間の開始日 (RecipientType UserMailbox のみ)。
UseDatabaseQuotaDefaults	Boolean	このメールボックスが存在するメールボックスデータベースに指定された割り当て属性がこのメールボックスで使用されるように指定します (RecipientType UserMailbox のみ)。

スキーマ名	属性タイプ	説明
UseDatabaseRetentionDefaults	Boolean	このメールボックスが存在するメールボックスデータベースに指定された <b>MailboxRetention</b> 属性がこのメールボックスで使用されるように指定します ( <b>RecipientType UserMailbox</b> のみ)。
UserPrincipalName	String	これはユーザーのログオン名です。UPN はユーザー名とサフィックスで構成されます。

## ACL リストの管理

nTSecurityDescriptor および msExchMailboxSecurityDescriptor 属性値には、特別な方法で指定する ACL リストが含まれています。

次に、企業がプロビジョニングする各ユーザーに対してデフォルトのアクセス権のセットを割り当てる場合に使用する可能性があるユーザーフォームの例を示します。

```
<Field name='attributes[AD].nTSecurityDescriptor' hidden='true'
Expansion>
  <Expansion>
    <list>
      <s>Domain Admins|983551|0|0|NULL|NULL</s>
      <s>NT AUTHORITY\SYSTEM|983551|0|0|NULL|NULL</s>
      <s>Account Operators|983551|0|0|NULL|NULL</s>
      <s>NT AUTHORITY\Authenticated Users|131220|0|0|NULL|NULL</s>
      <s>NT AUTHORITY\Authenticated Users|256|5|0|
{AB721A55-1E2F-11D0-9819-00AA0040529B}|NULL</s>
      <s>NT AUTHORITY\SELF|131220|0|0|NULL|NULL</s>
    </list>
  </Expansion>
</Field>
```

nTSecurityDescriptor リスト内のエント리는、次の形式になります。

Trustee|Mask|aceType|aceFlags|objectType|InheritedObjectType

各表記の意味は次のとおりです。

- Trustee は、ユーザーの DOMAIN\Account です。
- Mask は、アクセス権 (読み取り、書き込みなど) を指定するフラグです。
- aceType は、アクセス制御エントリ (ACE) のタイプを示すフラグです。

```
ADS_ACETYPE_ACCESS_ALLOWED = 0,
ADS_ACETYPE_ACCESS_DENIED = 0x1,
ADS_ACETYPE_SYSTEM_AUDIT = 0x2,
ADS_ACETYPE_ACCESS_ALLOWED_OBJECT = 0x5,
```

```
ADS_ACETYPE_ACCESS_DENIED_OBJECT = 0x6,  
ADS_ACETYPE_SYSTEM_AUDIT_OBJECT = 0x7,  
ADS_ACETYPE_SYSTEM_ALARM_OBJECT = 0x8  
ADS_ACETYPE_ACCESS_ALLOWED
```

各表記の意味は次のとおりです。

- **ADS\_ACETYPE\_ACCESS\_ALLOWED:** ACE は標準の ACCESS\_ALLOWED タイプになります。ここで、ObjectType および InheritedObjectType フィールドは NULL です。
  - **ADS\_ACETYPE\_ACCESS\_DENIED:** ACE は標準のシステム監査タイプになります。ここで、ObjectType および InheritedObjectType フィールドは NULL です。
  - **ADS\_ACETYPE\_SYSTEM\_AUDIT:** ACE は標準システムタイプになります。ここで、ObjectType および InheritedObjectType フィールドは NULL です。
  - **ADS\_ACETYPE\_ACCESS\_ALLOWED\_OBJECT:** Windows 2000 で、ACE は、オブジェクトまたはオブジェクトのサブオブジェクト (プロパティやプロパティのセットなど) へのアクセスを許可します。  
  
ObjectType、InheritedObjectType、またはこれら両方に、プロパティセット、プロパティ、拡張された権限、または子オブジェクトのタイプを特定する GUID が格納されます。
  - **ADS\_ACETYPE\_ACCESS\_DENIED\_OBJECT:** Windows 2000 で、ACE オブジェクトまたはオブジェクトのサブオブジェクト (プロパティやプロパティのセットなど) へのアクセスを拒否します。  
  
ObjectType、InheritedObjectType、またはこれら両方に、プロパティセット、プロパティ、拡張された権限、または子オブジェクトのタイプを特定する GUID が格納されます。
  - **ADS\_ACETYPE\_SYSTEM\_AUDIT\_OBJECT:** Windows 2000 で、ACE オブジェクトまたはオブジェクトのサブオブジェクト (プロパティやプロパティのセットなど) へのアクセスを監査します。  
  
ObjectType、InheritedObjectType、またはこれら両方に、プロパティセット、プロパティ、拡張された権限、または子オブジェクトのタイプを特定する GUID が格納されます。
  - **ADS\_ACETYPE\_SYSTEM\_ALARM\_OBJECT:** 現時点で Windows 2000/XP では使用されません。
- aceFlags は、他のコンテナやオブジェクトが ACL 所有者から ACE を継承できるかどうかを指定するフラグです。

```
ADS_ACEFLAG_INHERIT_ACE = 0x2,  
ADS_ACEFLAG_NO_PROPAGATE_INHERIT_ACE = 0x4,  
ADS_ACEFLAG_INHERIT_ONLY_ACE = 0x8,  
ADS_ACEFLAG_INHERITED_ACE = 0x10,  
ADS_ACEFLAG_VALID_INHERIT_FLAGS = 0x1f,  
ADS_ACEFLAG_SUCCESSFUL_ACCESS = 0x40,
```

各表記の意味は次のとおりです。

- **ADS\_ACEFLAG\_FAILED\_ACCESS = 0x80 ADS\_ACEFLAG\_INHERIT\_ACE:** このアクセス制御エントリ (ACE) を継承する子オブジェクトを示します。  
  
継承される ACE は、ADS\_ACEFLAG\_NO\_PROPAGATE\_INHERIT\_ACE フラグを設定しない限り継承可能です。
- **ADS\_ACEFLAG\_NO\_PROPAGATE\_INHERIT\_ACE:** 子オブジェクトの継承した ACE の ADS\_ACEFLAG\_INHERIT\_ACE フラグが、システムによってクリアされます。これによって、ACE は、その後の世代のオブジェクトには継承されません。
- **ADS\_ACEFLAG\_INHERIT\_ONLY\_ACE:** 接続先のオブジェクト上でアクセス制御を実行しない継承専用の ACE を示します。  
  
このフラグを設定しない場合、ACE は、接続先のオブジェクト上でアクセス制御を実行する有効な ACE になります。
- **ADS\_ACEFLAG\_INHERITED\_ACE:** ACE が継承されたかどうかを示します。このビットはシステムによって設定されます。
- **ADS\_ACEFLAG\_VALID\_INHERIT\_FLAGS:** 継承されたフラグが有効かどうかを示します。このビットはシステムによって設定されます。
- **ADS\_ACEFLAG\_SUCCESSFUL\_ACCESS:** アクセスに成功した場合に、監査メッセージを生成し、システムアクセス制御リスト (SACL) においてシステムを監査する ACE によって使用されます。
- **ADS\_ACEFLAG\_FAILED\_ACCESS:** アクセスに失敗した場合に、監査メッセージを生成し、SACL においてシステムを監査する ACE によって使用されます。
- **objectType** は、ADSI オブジェクトタイプを示すフラグです。objectType の値は、プロパティまたはオブジェクトに対する文字列形式の GUID です。
  - この GUID は、ADS\_RIGHT\_DS\_READ\_PROP および ADS\_RIGHT\_DS\_WRITE\_PROP アクセスマスクの使用時に、プロパティを参照します。
  - この GUID は、ADS\_RIGHT\_DS\_CREATE\_CHILD および ADS\_RIGHT\_DS\_DELETE\_CHILD アクセスマスクの使用時に、オブジェクトを指定します。
- **InheritedObjectType** は、ADSI オブジェクトの子オブジェクトのタイプを示すフラグです。InheritedObjectType の値は、オブジェクトに対する文字列形式の GUID です。このような GUID を設定する場合、ACE は、その GUID によって参照されるオブジェクトのみに適用されます。

objectType および InheritedObjectType フラグでは、ほかのオブジェクトの GUID を次の形式で指定します。

```
{BF9679C0-0DE6-11D0-A285-00AA003049E2}
```

オブジェクト / 属性の GUID は、角括弧 { } で囲まれます。この形式は、取得したときに返されます。ADSI 内には、アクセスを許可する特定の属性や、継承関係の記述方法を表す GUID が存在しています。

渡していく正しい文字列を見つけるには、次の方法を実行します。

1. スキーマに属性を追加し、次のフィールドをユーザーフォームに追加します。

```
<Field name='accounts[AD].nTSecurityDescriptor'>
  <Display class='TextArea'>
    <Property name='title' value='NT User Security Descriptor' />
    <Property name='rows' value='20' />
    <Property name='columns' value='100' />
  </Display>
</Field>
```

または

```
<Field name='accounts[AD].msExchMailboxSecurityDescriptor'>
  <Display class='TextArea'>
    <Property name='title' value='Mailbox Security Descriptor' />
    <Property name='rows' value='20' />
    <Property name='columns' value='100' />
  </Display>
</Field>
```

2. Active Directory でユーザーのオブジェクトを編集して、すべてのユーザーに対応する ACL リストを設定し、ベースラインを確立します。
3. Edit User Form を使って、Identity Manager で、ユーザーを編集します。

テキスト領域に、Active Directory のユーザーオブジェクトから取得された対応する値が入力されていることを確認します。

上記の方法は、必要な設定のために、フォームに追加する値を決定する場合に役立ちます。

### サポートされない属性

次の表は、Identity Manager によってサポートされないアカウント属性の一覧です。

スキーマ名	注意点
allowedAttributes	オペレーショナル属性
allowedAttributesEffective	オペレーショナル属性
allowedChildClasses	オペレーショナル属性

スキーマ名	注意点
allowedChildClassesEffective	オペレーショナル属性
bridgeheadServerListBL	システムが使用します
canonicalName	オペレーショナル属性
controlAccessRights	String (Octet)
createTimeStamp	String (UTC-Time)
dBCSPwd	String (Octet)
directReports	システムが使用します。 このユーザーによって管理されるユーザーのマネージャー属性を使用して設定します。
dSASignature	Object(Replica-Link)
dSCorePropagationData	String (UTC-Time)
fromEntry	オペレーショナル属性
frsComputerReferenceBL	システムが使用します
fRSMemberReferenceBL	システムが使用します
fSMORoleOwner	システムが使用します
groupMembershipSAM	String (Octet)
instanceType	システムが使用します
isCriticalSystemObject	システムが使用します
isDeleted	システムが使用します
isPrivilegeHolder	システムが使用します
lastKnownParent	システムが使用します
lmPwdHistory	String (Octet)
logonHours	String (Octet)
logonWorkstations	String (Octet)
masteredBy	システムが使用します。
memberOf	システムが使用します。「groups」属性を使用します。
modifyTimeStamp	String (UTC-Time)
MS-DRM-Identity-Certificate	String (Octet)
ms-DS-Cached-Membership	String (Octet)
mS-DS-ConsistencyGuid	String (Octet)

スキーマ名	注意点
mS-DS-CreatorSID	String (Sid)
ms-DS-Site-Affinity	String (Octet)
mSMQDigests	String (Octet)
mSMQDigestsMig	String (Octet)
mSMQSignCertificates	String (Octet)
mSMQSignCertificatesMig	String (Octet)
msNPAllowDialin	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msNPCallingStation	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msNPSavedCallingStationID	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msRADIUSCallbackNumber	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msRADIUSFramedIPAddress	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msRADIUSFramedRoute	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msRADIUSServiceType	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msRASSavedCallbackNumber	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msRASSavedFramedIPAddress	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
msRASSavedFramedRoute	RAS MPR API を使用して、値の読み取りと更新を行います。
netbootSCPBL	システムが使用します
nonSecurityMemberBL	システムが使用します
ntPwdHistory	システムが使用します
objectGUID	String (Octet)。 この GUID は、アカウントの ResourceInfo 内の Identity Manager ユーザーオブジェクトに格納されます。
objectSid	String (Sid)
otherWellKnownObjects	Object (DN-Binary)

スキーマ名	注意点
partialAttributeDeletionList	システムが使用します
partialAttributeSet	システムが使用します
possibleInferiors	システムが使用します
proxiedObjectName	Object (DN-Binary)
queryPolicyBL	システムが使用します
registeredAddress	String (Octet)
replPropertyMetaData	システムが使用します
replUpToDateVector	システムが使用します
repsFrom	システムが使用します
repsTo	システムが使用します
sDRightsEffective	オペレーショナル属性
securityIdentifier	String (Sid)
serverReferenceBL	システムが使用します
sIDHistory	String (Sid)
siteObjectBL	システムが使用します
subRefs	システムが使用します
subSchemaSubEntry	システムが使用します
supplementalCredentials	システムが使用します
systemFlags	システムが使用します
telexNumber	String (Octet)
teletexTerminalIdentifier	String (Octet)
terminalServer	String (Octet)
thumbnailLogo	String (Octet)
tokenGroups	String (Sid) / オペレーショナル属性
tokenGroupsGlobalAndUniversal	String (Sid)
tokenGroupsNoGCAcceptable	String (Sid) / オペレーショナル属性
unicodePwd	String (Octet)。 userPassword を使用して、ユーザーのパスワードを設定します。

スキーマ名	注意点
userCert	String (Octet)
userCertificate	String (Octet)
userSMIMECertificate	String (Octet)
wellKnownObjects	Object (DN-String)
x500uniqueIdentifier	String (Octet)

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次の Active Directory オブジェクトをサポートしています。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Group	作成、更新、削除	cn、samAccountName、description、managedby、member、mail、groupType、authOrig、name
DNS Domain	検索	dc
Organizational Unit	作成、削除、検索	ou
Container	作成、削除、検索	cn、description

リソースオブジェクト上で管理できる属性は、一般に、属性構文によって指示することもできます。これらのオブジェクトタイプの属性は、ユーザーアカウントの属性と類似しているので、同じようにサポートされています。

## アイデンティティテンプレート

Windows Active Directory は、階層ベースのリソースです。アイデンティティテンプレートによって、ユーザーが作成するディレクトリツリー内のデフォルトの場所が指定されます。デフォルトのアイデンティティテンプレートは次のとおりです。

```
CN=$fullname$,CN=Users,DC=mydomain,DC=com
```

デフォルトのテンプレートを有効な値に置き換えてください。

# サンプルフォーム

ここでは、Active Directory リソースアダプタに用意されているサンプルフォームの一覧を示します。

## 組み込みのフォーム

- ActiveDirectory ActiveSync Form
- Windows Active Directory Create Container Form
- Windows Active Directory Create Group Form
- Windows Active Directory Create Organizational Unit Form
- Windows Active Directory Create Person Form
- Windows Active Directory Create User Form
- Windows Active Directory Update Container Form
- Windows Active Directory Update Group Form
- Windows Active Directory Update Organizational Unit Form
- Windows Active Directory Update Person Form
- Windows Active Directory Update User Form

## その他の利用可能なフォーム

ADUserForm.xml

# トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter
```

また、Identity Manager のデバッグページを使用して、ゲートウェイサービス上でトレースを有効にすることもできます。(InstallDir/idm/debug/Gateway.jsp)。このページでは、トレースのレベル、トレースファイルの場所、およびトレースファイルの最大サイズを指定できます。また、ゲートウェイのトレースファイルをリモートで取得して、ゲートウェイのバージョン情報を表示することもできます。

さまざまなコマンド行スイッチによって、デバッグトレースをしているコンソールから、ゲートウェイサービスを起動することもできます。-h を使用して、ゲートウェイサービスの使用方法を確認してください。

接続の問題を診断するために、次のメソッドでトレースを有効にすることもできます。

- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#sendRequest`
- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#getResponse`

# AIX

AIX リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.AIXResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

リソースと Identity Manager 間の通信に SSH (Secure Shell) を使用する場合は、アダプタを設定する前に、リソースで SSH を設定します。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

AIX リソースアダプタは、主に次の AIX コマンドのサポートを提供します。

- `mkuser`、`chuser`、`rmuser`
- `mkgroup`、`chgroup`、`rmgroup`
- `passwd`、`pwdadm`

---

**注** サポートされる属性およびファイルの詳細については、これらのコマンドに関する AIX マニュアルページを参照してください。

---

UNIX リソース (AIX、HP-UX、Solaris、または Linux) に接続するときは、`root` シェルとして Bourne 互換シェル (`sh`、`ksh`) を使用してください。

AIX アカウントを管理する管理アカウントには、英語 (`en`) または C ロケールを使用してください。これは、ユーザーの `.profile` ファイルで設定できます。

NIS が実装されている環境では、次の機能を実装することにより、一括プロビジョニング中のパフォーマンスを向上させることができます。

- `user_make_nis` という名前のアカウント属性をスキーママップに追加し、この属性を調整やその他の一括プロビジョニングワークフローで使用します。この属性を追加した場合、リソース上の各ユーザーが更新された後は、システムで NIS データベースへの接続手順がバイパスされます。
- すべてのプロビジョニングが完了した後で NIS データベースに変更を書き込むには、ワークフローで `NIS_password_make` という名前の `ResourceAction` を作成します。

# セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

## サポートされる接続

Identity Manager は、次の接続を使用して AIX アダプタと通信します。

- Telnet
- SSH (SSH はリソース上に個別にインストールする)
- SSHPubKey

For SSHPubKey 接続、非公開鍵は、「リソースパラメータ」ページで指定する必要があります。この鍵には、`--- BEGIN PRIVATE KEY ---` や `--- END PRIVATE KEY ---` などの注釈行を追加する必要があります。公開鍵は、サーバー上の `/.ssh/authorized_keys` ファイルに配置する必要があります。

## 必要な管理特権

ユーザーやグループを管理するには、管理者が `root` ユーザーであるか、セキュリティグループのメンバーである必要があります。

このアダプタでは、一般ユーザーとしてログインしてから `su` コマンドを実行し、`root` ユーザー (または `root` ユーザーと同等のアカウント) に切り替えて管理アクティビティを実行できます。また、`root` ユーザーとして直接ログインすることもできます。

さらに、`sudo` 機能 (バージョン 1.6.6 以降) もサポートしており、これは AIX Toolbox から AIX にインストールできます。`sudo` 機能を使用すると、システム管理者は、特定のユーザー (またはユーザーのグループ) に `root` ユーザーまたは別のユーザーとして一部 (またはすべて) のコマンドを実行する能力を与えることができます。

さらに、`sudo` がリソースで有効になっている場合は、その設定が、`root` ユーザーおよび管理者ユーザーのリソース定義ページでの設定よりも優先されます。

`sudo` を使用する場合は、Identity Manager 管理者に対して有効にされたコマンドの `tty_tickets` パラメータを `true` に設定してください。詳細については、`sudoers` ファイルのマニュアルページを参照してください。

管理者は、`sudo` で次のコマンドを実行する特権が付与されている必要があります。

ユーザー、グループ、およびセキュ リティーコマンド	NIS コマンド	その他のコマンド		
• <code>chgroup</code>	• <code>rmgroup</code>	• <code>make</code>	• <code>awk</code>	• <code>grep</code>
• <code>chgrpmem</code>	• <code>rmuser</code>	• <code>ypcat</code>	• <code>cat</code>	• <code>ls</code>
• <code>chsec</code>	• <code>passwd</code>	• <code>ypmatch</code>	• <code>cd</code>	• <code>mv</code>
• <code>chuser</code>	• <code>pwdadm</code>	• <code>yppasswd</code>	• <code>chmod</code>	• <code>rm</code>
• <code>lsgroup</code>			• <code>chown</code>	• <code>sed</code>
• <code>lssec</code>			• <code>cp</code>	• <code>sleep</code>
• <code>lsuser</code>			• <code>cut</code>	• <code>sort</code>
• <code>mkgroup</code>			• <code>diff</code>	• <code>tail</code>
• <code>mkuser</code>			• <code>echo</code>	• <code>touch</code>

テスト接続を使用して次のテストができます。

- 各コマンドが管理ユーザーのパスに存在するかどうか
- 管理ユーザーが `/tmp` に書き込めるかどうか
- 管理ユーザーに、特定のコマンドを実行する権限があるかどうか

---

**注**                    テスト接続では、通常のプロビジョニング実行とは異なるコマンドオプションを使用できます。

---

このアダプタには、基本的な `sudo` 初期化機能とリセット機能が用意されています。ただし、リソースアクションが定義されていて、そこに `sudo` 認証を必要とするコマンドが含まれている場合は、UNIX コマンドとともに `sudo` コマンドを指定してください。たとえば、単に `useradd` と指定する代わりに `sudo useradd` を指定してください。`sudo` を必要とするコマンドは、ネイティブリソースに登録されている必要があります。それらのコマンドに登録するには、`visudo` を使用します。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

このリソース上のすべてのユーザーに対して、次のタスクを制御するリソース属性を定義できます。

- ユーザーの作成時にホームディレクトリを作成する
- ユーザーの作成時にユーザーのホームディレクトリにファイルをコピーする
- ユーザーの削除時にホームディレクトリを削除する

## アカウント属性

次の表に、AIX ユーザーアカウント属性の一覧を示します。属性の型はすべて **String** です。特に記載されていないかぎり、属性は省略可能です。

リソース ユーザー属性	mkuser での指定方法	説明
accountId	login_name	必須。ユーザーのログイン名。
account_locked	account_locked=[true   false]	ユーザーアカウントがロックされているかどうかを示します。
admin	admin=[true   false]	ユーザーの管理ステータスを定義します。
daemon	daemon=[true   false]	ユーザーが cron または SRC デーモンを使用してプログラムを実行できるかどうかを示します。
expires	expires=MMDDhhmmyy	アカウントの有効期限。
gecos	gecos=String	ユーザーに関する全般的な情報。

リソース ユーザー属性	mkuser での指定方法	説明
groups	groups= <i>GroupNames</i>	ユーザーの属しているグループ名のコンマ区切りリスト。
home	home= <i>PathName</i>	ユーザーのホームディレクトリへのフルパス。このアカウント属性で指定された値はすべて、「 <b>ホームベースディレクトリ</b> 」リソース属性で指定された値よりも優先されます。
id	id= <i>Integer</i>	ユーザー ID を表す一意の整数文字列。
login	login=[true   false]	ユーザーがログインコマンドを使用してシステムにログインできるかどうかを示しています。
loginretries	loginretries= <i>attempts</i>	最後に正常にログインしてからシステムがそのアカウントをロックするまでに許可されるログイン試行の失敗回数。
maxage	maxage= <i>weeks</i>	パスワードの最大有効期間 (週)。
maxexpired	maxexpired= <i>weeks</i>	maxage で定義されている期間を過ぎたあとも、ユーザーが期限切れパスワードを変更できる期間の最大値 (週)。
pgrp	pgrp= <i>GroupName</i>	ユーザーの一次グループ。
rlogin	rlogin=[true   false]	telnet または rlogin コマンドを使用した、リモートの場所からアカウントへのアクセスを許可します。
shell	shell= <i>PathName</i>	セッションの開始時にユーザーに対して実行されるプログラム。  NIS マスターにプロビジョニングしている場合、ユーザーシェルの値は NIS マスターのみでチェックされます。ユーザーがログオンする可能性のあるその他のマシンに対するチェックは、実行されません。
su	su=[true   false]	別のユーザーが su コマンドで指定のユーザーアカウントに切り替えることができるかどうかを示します。
umask	umask= <i>Value</i>	ファイルのアクセス権を設定します。

# リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次のネイティブ AIX オブジェクトをサポートしています。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Group	作成、更新、削除、名前を付けて保存	groupName、admin、users

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

### 組み込みのフォーム

- AIX Group Create Form
- AIX Group Update Form

### その他の利用可能なフォーム

AIXUserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.AIXResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.ScriptedConnection`

# BridgeStream SmartRoles

BridgeStream SmartRoles アダプタは、ユーザーを SmartRoles にプロビジョニングします。このアダプタは、これらのユーザーを SmartRoles 内で適切な組織に配置することで、これらのユーザーが持つべきビジネスロールを SmartRoles によって決定できるようにします。

SmartRoles からユーザーを検出するときに、アダプタはユーザーのビジネスロールを検出します。これらのビジネスロールは、ユーザーに割り当てる必要のある Identity Manager のロール、リソース、属性、およびアクセスを決定するために、Identity Manager 内で使用できます。

さらに、SmartRoles を、Active Sync を使用するユーザー変更のソースにすることもできます。SmartRoles ユーザーを Identity Manager にロードして、それらを調整できます。

BridgeStream SmartRoles リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.SmartRolesResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

SmartRoles アダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. SmartRoles リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.SmartRolesResourceAdapter
```

2. 次の JAR ファイルを SmartRoles インストールディレクトリ (`SR_install_dir/Foundation/lib`) から `$WSHOME/WEB-INF/lib` にコピーします。

- `bridgestream-common.jar`
- `jgroups-all.jar`
- `log4j-1.2.8.jar`
- `rowset.jar`
- `fxrm.jar`
- `jmxri.jar`
- `ojdbc14.jar`

- jcert.jar
  - jmxtools.jar
  - ojdbc14\_g.jar
3. `SR_install_dir/Foundation/config` ディレクトリから `$WSHOME/WEB-INF/classes` ディレクトリに、次のファイルをコピーします。
    - `bridgestream_jaas.config`
    - `log4j.properties`
    - `foundation_config.xml`
    - `foundation_config.dtd`
  4. `log4j.properties` ファイルを編集して、`log4j.appender.debuglog.File` および `log4j.appender.logfile.File` プロパティファイル内のログファイルへのパスを指定します。これらのプロパティは両方とも同じファイルを指定できます。
  5. Identity Manager を実行している JVM に、次の Java システムプロパティを設定します。

システムプロパティ	値
<code>java.security.auth.login.config</code>	<code>bridgestream_jaas.config</code> ファイルへのパス
<code>brLoggingConfig</code>	<code>log4j.properties</code> ファイルへのパス
<code>brfConfig</code>	<code>foundation_config.xml</code> および <code>foundation_config.dtd</code> ファイルへのパス

---

**注**            これらのプロパティを JVM のコマンド行に指定する必要がある場合は、`-D` オプションを使用して、次のようにプロパティを設定します。

---

```
-Djava.security.auth.login.config=PathToBridgestream_jaas.config
-DbrLoggingConfig=PathTolog4j.properties
-DbrfConfig=PathTofoundation_config.xml and foundation_config.dtd
files
```

## 使用上の注意

ここでは、SmartRoles リソースアダプタの使用に関連する情報を提供します。説明する内容は次のとおりです。

- 一般的な注意事項
- Complex 属性のサポート
- 制限事項

### 一般的な注意事項

このリソースに関する一般的な注意事項は次のとおりです。

- SmartRoles アダプタは SmartRoles リポジトリと直接通信するため、このアダプタを動作させるために Relationship Manager アプリケーションを実行する必要はありません。
- このアダプタは汎用 ID を生成し、設定ファイル内に接続情報を格納できます。

SmartRoles アダプタを設定するときには、SmartRoles に新しいアカウントの汎用 ID を生成させるのか、アダプタに汎用 ID を提供させるのかを選択できます。アダプタが ID を提供する場合は、アイデンティティテンプレートから生成された値を使用します。

### Complex 属性のサポート

Identity Manager では新しい *complex* 属性タイプが導入され、これによって SmartRoles アダプタが複雑な属性をサポートできるようになりました。この *complex* 属性タイプは、属性値が単一の値や値のリストよりも複雑な場合に使用されます。この新しい *complex* タイプは、次の属性とともに使用されます。

- `sr_positions`
- `sr_grantedRolesSphere`
- `sr_organizations`

Complex 属性の属性値は、新しい `com.waveset.object.GenericAttribute` クラスのインスタンスです。GenericAttribute インスタンスは、実際の属性値情報を格納している GenericObject インスタンスをラップします。GenericObject は、パス表現を使用して設定および取得できる階層内に、属性と値を格納します。

---

**注** GenericObjects の使用の詳細については、『Sun Java™ System Identity Manager ワークフロー、フォーム、およびビュー』の「汎用オブジェクトクラス」の節を参照してください。

---

## ResourceAction のサポート

このアダプタは before および after アクションをサポートしていませんが、runResourceAction プロビジョニングワークフローサービスを使用して、実行中のアクションをサポートしています。SmartRoles アクションは JavaScript または BeanShell で作成でき、作成されたアクションは SmartRoles API を呼び出してワークフローの一部としてカスタム動作を実行できます。アクションスクリプトへの入力、actionContext という名前のマップオブジェクトに格納されます。actionContext マップに格納される内容は次のとおりです。

キー	値
action	実行しているアクションのタイプを説明する文字列。現在、このアクションを run 以外にすることはできません。
adapter	com.waveset.adapter.SmartRolesResourceAdapter インスタンスへの参照を格納します。
additionalArgs	runResourceAction プロビジョニングワークフローサービスの呼び出しに渡される追加の引数を格納するマップです。
result	runResourceAction プロビジョニングワークフローサービスの呼び出しから返される WavesetResult への参照。
session	SmartRoles の IOMSession インスタンスへの参照。セッションは、SmartRoles リソースで定義される管理者とパスワードを使用して作成されます。
trace	com.waveset.adapter.SmartRolesResourceAdapter クラスに関連付けられた com.sun.idm.logging.trace.Trace インスタンスへの参照。これを使用して、アクションスクリプトのデバッグに使用するためのトレースメッセージを出力できます。

次に示す ResourceAction XML は、BeanShell アクションの例です。JavaScript アクションの場合は actionType を JAVASCRIPT に設定します。このアクションは、additionalArgs マップから取得された user という名前の引数を使用し、SmartRoles リポジトリを検索して、user 引数の値と一致する LOGON\_ID を持つ 1 つ以上の Person オブジェクトを見つけます。すると、一致したそれぞれの Person の文字列表現は、ACTION\_RC ResultItem 内の WavesetResult に返されます。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<!DOCTYPE ResourceAction PUBLIC 'waveset.dtd' 'waveset.dtd'>
<!-- MemberObjectGroups="#ID#Top"-->
<ResourceAction createDate='1148443502593'>
  <ResTypeAction restype='SmartRoles' timeout='0' actionType='BEANSHELL'>
    <act>
```

```

import bridgestream.core.*;
import bridgestream.util.*;
import bridgestream.temporal.person.*;
import java.util.*;
import com.waveset.object.*;
IOMSession session = actionContext.get("session");
OMEngine engine = OMEngine.getInstance(session);
String user = actionContext.get("additionalArgs").get("user");
UTNameValuePair[] criteria = new UTNameValuePair[] { new
UTNameValuePair
    ("LOGON_ID", user) };
UTTimestamp time = UTTimestamp.getSystemTimestamp();
List list = session.search("PERSON", criteria, time, null, null);
Iterator iter = list.iterator();
StringBuffer buf = new StringBuffer();
while (iter.hasNext()) {
    ENPerson person = (ENPerson)iter.next();
    buf.append(person.toString());
    buf.append("\n\n");
}
WavesetResult result = actionContext.get("result");
result.addResult("ACTION_RC", buf.toString());
</act>
</ResTypeAction>
<MemberObjectGroups>
    <ObjectRef type='ObjectGroup' id='#ID#Top' name='Top' />
</MemberObjectGroups>
</ResourceAction>

```

## 制限事項

現在、このアダプタには次のような制限があります。

- ロールは、SmartRoles の person オブジェクトにのみ許可されます。position オブジェクトにロールを許可することはできません。
- Identity Manager は 1 つの SmartRoles との通信のみ設定できます。
- 許可されたロール範囲の制御を割り当てる場合、その範囲の制御内の組織には、直接割り当てられた組織だけでなく、それらの組織のすべての子孫も含まれます。割り当て済みの組織の子孫を割り当てようとすると、エラーが発生します。
- アダプタは SmartRoles の組織を名前で参照するため、SmartRoles 内の組織名は一意にしてください。
- SmartRoles の person オブジェクトを position に割り当てるときに、アダプタは使用可能な position を見つけようとはしません。代わりに、アダプタは常に新しい position オブジェクトを作成し、person オブジェクトをその新しい position に割り当てます。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

SmartRoles アダプタは、SmartRoles インストールからコピーされた設定ファイルの指定どおりに、SmartRoles リポジトリと通信します。この接続設定の詳細については、SmartRoles 製品のマニュアルを参照してください。

### 必要な管理特権

アダプタが SmartRoles に接続するために使用するユーザーには、SmartRoles ユーザーを管理できるロール (SmartRoles 管理者ロールなど) を割り当ててください。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可  アカウントを無効にすると、アカウントは SmartRoles にログインできなくなります。
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可  runResourceAction プロビジョニングワークフローサービスを使用して、ワークフローからアクションを実行できます。詳細については、「ResourceAction のサポート」の節を参照してください。
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースからインポート</li><li>Active Sync</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

SmartRoles アダプタでは、次のアイデンティティシステムユーザー属性を使用できます。

ユーザー属性	データの種類	説明
sr_allRoles	String	許可されて派生したロールのリスト (読み取り専用)
sr_departments	String	ユーザーがメンバーになっている部署のリスト (読み取り専用)
sr_derivedRoles	String	規則またはポリシーに基づいて割り当てられたロール (読み取り専用)
sr_financialGroups	String	ユーザーがメンバーになっている FinancialGroup のリスト (読み取り専用)
sr_financialTeams	String	ユーザーがメンバーになっている FinancialTeam のリスト (読み取り専用)

ユーザー属性	データの種類	説明
sr_grantedRoles	String	Person に直接許可されたロール (読み取り専用)
sr_grantedRolesSphere	complex	<p>許可されたロールと各ロールの制御範囲を規定する <b>complex</b> 属性。制御範囲によって、アカウントのロールの対象となる組織を指定します。</p> <p>GenericAttribute 内の GenericObject のスキーマは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>roles[*]</b> - アカウントに許可されたロールのリスト。</li> <li>• <b>roles[index].roleName</b> - 許可されたロールの名前。</li> <li>• <b>roles[index].organizations</b> - アカウントがロールを持つ組織のリスト。</li> </ul> <p>注: このリストで組織を指定すると、子の組織もすべて指定されます。このリスト内で明示的に子の組織も指定すると、エラーが発生します。</p>
sr_groups	String	ユーザーがメンバーになっているグループのリスト (読み取り専用)
sr_organizations	complex	<p>直接または従業員を經由して組織のメンバーシップを規定する <b>complex</b> 属性。組織のメンバーシップは、部署、グループ、チームを含むすべての組織タイプに適用されます (読み取り / 書き込み)。</p> <p>GenericAttribute 内の GenericObject のスキーマは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>organizations[*]</b> - アカウントがメンバーになっている組織のリスト</li> <li>• <b>organizations[index].orgName</b> - 組織名 (必須)。</li> <li>• <b>organizations[index].duties</b> - 組織内のアカウントの責任を記述した文字列 (省略可能)</li> <li>• <b>organizations[index].memberRoles</b> - アカウントと組織との関係を説明するメンバーシップロールのリスト。有効な値は、HEAD, PRIMARY, SECONDARY, LIAISON, CONTRIBUTOR, TEAM ADMINISTRATOR, および TEAM MEMBER (省略可能だが、指定するようにする) です。</li> </ul> <p><b>organizations[index].viaWorker</b> - 組織のメンバーシップを、そのアカウントに関連付けられた従業員 (Person) に割り当てられたアカウントに直接割り当てるかどうかを示すブール値。</p>

ユーザー属性	データの種類	説明
sr_positions	complex	<p><code>position</code> を使用して役職名や組織のメンバーシップを規定する <code>complex</code> 属性。組織のメンバーシップは、部署、グループ、チームを含むすべての組織タイプに適用されます (読み取り / 書き込み)。</p> <p>GenericAttribute 内の GenericObject のスキーマは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>positions[*]</code> - アカウントを割り当てられている役職名のリスト。</li> <li>• <code>positions[index].title</code> - 役職名 (必須)。</li> <li>• <code>positions[index].jobCode</code> - 役職名に関連付けられたジョブコード (省略可能)。</li> <li>• <code>positions[index].duties</code> - 役職の責任を記述した文字列 (省略可能)。</li> <li>• <code>positions[index].organizations[*]</code> - その役職名がメンバーになっている組織のリスト。各組織の属性は、<code>sr_organizations</code> 属性に記述されます。ただし、<code>viaWorker</code> 属性のみは例外で、このコンテキストでは無効です。</li> </ul>
sr_teams	String	ユーザーがメンバーになっているチームのリスト (読み取り専用)

属性の名前空間を使用して、関連するオブジェクトや配下のオブジェクトの属性を総称的に指定します。次のように「ドットの付いた」構文を使用します。

`namespace.attribute_name`

- `Worker` 属性には、`WORKER` を使用します (例: `WORKER.WORKER_TYPE`)
- `Person` オブジェクトに対する追加の属性を含む情報オブジェクトには、`X500_PERSON` および `AUTHENTICATION_INFO` 名前空間を使用します。
- `X500_PERSON` には、`POSTAL_ADDRESS`、`SECRETARY` などの属性が含まれます
- `AUTHENTICATION_INFO` には、`LOGON_ATTEMPTS`、`PASSWORD_CHANGED` (日付) などの属性が含まれます

# リソースオブジェクトの管理

SmartRoles アダプタは、オブジェクトの表示のみをサポートしており、次のオブジェクトタイプをサポートします。

- Organization
- Roles

オブジェクトを表示するときには、option マップに次のオプションを指定できます。

オプション名	説明
searchContext (ResourceAdapter.RA_SEARCH_CONTEXT)	<p>どのコンテキストで検索を実行するかを決定します。subTree 以外の searchScope を使用して組織を表示する場合のみ、このオプションを使用します。</p> <p>このオプションを指定しない場合、最上位レベルの組織が表示されます。それ以外の場合は、検索を開始する組織の名前を使用してください。</p>
searchScope (ResourceAdapter.RA_SEARCH_SCOPE)	<p>現在のオブジェクトを、指定した searchContext のコンテキスト内のみから検索するのか、指定した searchContext 内のすべてのサブコンテキストから検索するのかを指定します。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• object</li><li>• oneLevel</li><li>• subTree (デフォルト)</li></ul> <p>このオプションは、organization 以外のすべてのオブジェクトタイプで無視されます。</p>
searchFilter (ResourceAdapter.RA_SEARCH_FILTER)	<p>返されるオブジェクトのリストをフィルタするために使用するキーと値のペアのセットを含むマップを指定します。これらのオブジェクトは、マップ内の対応する値と一致する値の属性を持つようになります。</p> <p>このオプションを指定しない場合、指定したタイプのすべてのオブジェクトがアダプタによって返されます。</p>
searchAttrsToGet (ResourceAdapter.RA_SEARCH_ATTRS_TO_GET)	<p>オブジェクトごとに取得する objectType 固有の属性名のリストを指定します。</p>

# アイデンティティテンプレート

\$Logon ID\$

## サンプルフォーム

SmartRoles リソースアダプタには、次のサンプルフォームが用意されています。

### 組み込みのフォーム

なし

### その他の利用可能なフォーム

SmartRolesUserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、

`com.waveset.adapter.SmartRolesResourceAdapter` クラスにトレースオプションを設定します。

使用している JVM のシステムプロパティ内で設定した `log4j.properties` ファイルを編集することで、SmartRoles API の DEBUG ログギングを有効にすることもできます。

1. `log4j.appender.debuglog.File` および `log4j.appender.logfile.File` `properties` が有効なファイルパスに設定されていることを確認します。
2. 次のように、`log4j.logger.bridgestream` プロパティを **DEBUG** に設定します。  
`log4j.logger.bridgestream=DEBUG`
3. これらのログ設定を有効にするために、サーバーを再起動します。



# ClearTrust

ClearTrust リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.ClearTrustResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

ClearTrust の `eserver.conf` ファイルを編集して SSL モードを設定します。  
`cleartrust.eserver.api_port.use_ssl` 設定を変更します。

詳細については、ClearTrust のマニュアルを参照してください。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

ClearTrust リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. このリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.ClearTrustResourceAdapter
```

2. ClearTrust のインストール CD から `ct_admin_api.jar` ファイルを `WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。
3. SSL を使用する場合は、次のファイルを `WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

---

**注** RSA Clear Trust 5.5.2 リソースにプロビジョニングを行う場合、SSL 通信にライブラリを追加する必要はありません。

---

- `asn1.jar`
- `certj.jar`
- `jce1_2-do.jar`
- `jcet.jar`
- `jnet.jar`
- `jsafe.jar`
- `jsaveJCE.jar`
- `jsse.jar`
- `rsajsse.jar`

- sslj.jar

## 使用上の注意

ClearTrust API は、ユーザー用と管理者用に分かれています。ユーザーにはサーバーへのアクセスが許可されていません。管理者とは ClearTrust サーバーに対する管理権限を持つユーザーのことです。Identity Manager は ClearTrust 管理ユーザーの作成も管理もしません。

ClearTrust には、Application、Application Function、および URL という 3 種類のエンタイトルメントがあります。Identity Manager は Application Function のみをサポートしていて、他のエンタイトルメントは無視されます。エンタイトルメントをグループに割り当て、グループを (アダプタによってサポートされている) ユーザーに割り当てるようにしてください。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、JNDI over SSL を使用して ClearTrust アダプタと通信します。

### 必要な管理特権

なし

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可

機能	サポート状況
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>調整</li> <li>リソースからインポート</li> </ul>

## アカウント属性

次の表に、ClearTrust アカウント属性に関する情報を示します。

Identity Manager ユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
accountId	accountName	必須。このユーザーの一意のアカウント ID。
isAdminLockout	isAdminLockout	Boolean。
externalDN	externalDN	このユーザーの外部ドメイン名。
email	emailAddress	ユーザーの電子メールアドレス。
endDate	endDate	このユーザーの終了日。
startDate	startDate	ユーザーの開始日。
firstname	firstName	ユーザーの名。
lastname	lastName	ユーザーの姓。
userGroup	userGroup	ユーザーに割り当てられたグループ。

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

`ClearTrustUserForm.xml`

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.ClearTrustResourceAdapter
```

# データベーステーブル

データベーステーブルアダプタは、`com.waveset.adapter.DatabaseTableResourceAdapter` クラスで定義されます。

このアダプタは、JDBC ドライバを備えたリレーショナルデータベースをすべてサポートします。

データベーステーブルリソースアダプタは、単一のカスタムデータベーステーブルに配置されたユーザーに接続して管理するための一連の手順を実行できるように設計されています。このアダプタは、アカウント変更をポーリングする **Active Sync** もサポートします。

---

**注** このリソースは、多数のテーブルに通常みられる DBMS システムアカウントを管理するには設計されていません (アダプタはジョイン操作をサポートしていない)。DBMS システムアカウントを管理したい場合には、Oracle、SQL Server、DB2、Sybase、および MySQL リソースを引き続き使用してください。

---

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

SQL Server へのすべての接続は、同じバージョンの Microsoft SQL Server JDBC ドライバを使用して実行してください。使用可能なバージョンは 2005 または 2000 です。これには、リポジトリだけではなく、SQL Server のアカウントまたはテーブルを管理または要求するすべてのリソースアダプタ (Microsoft SQL アダプタ、Microsoft Identity Integration Server アダプタ、データベーステーブルアダプタ、スクリプト JDBC アダプタ、これらのアダプタをベースとするすべてのカスタムアダプタなど) が含まれます。異なるバージョンのドライバを使用しようとすると、競合エラーが発生します。

## 使用上の注意

ここでは、データベースリソースアダプタの使用に関連する次のような設定の注意点について説明します。

- 一般的な設定の注意点
- Active Sync 設定の注意点

## 一般的な設定

新しくデータベーステーブルリソースを設定するには、次の手順に従います。

1. データベースアクセスパラメータを指定します。データベースタイプ、接続情報、管理対象のテーブルが配置されているデータベース名などがあります。
2. そのデータベースで使用可能なすべてのテーブルが、「データベーステーブル」ページに表示されます。このリソースのリソースアカウントを格納するテーブルを選択します。
3. **Identity Manager** で管理する列をテーブルから選択します。ウィザードページで表示されている列のうちの1つをキー列として指定し、ユーザーのアカウント名属性用に使用します。さらに、別の1列をパスワード列として指定し、アカウントパスワード用に使用します。その他の列は、管理対象の属性として選択できません。
4. リソーススキーママップページには、管理対象として選択されたこれらの属性が表示されます。このページにはキー属性やパスワード属性は表示されません。これらの属性は暗黙的に管理されます。
5. **Active Sync** 設定ページでは、**Active Sync** に関連するデータベーステーブル属性を任意で指定できます。アダプタを **Active Sync** として使用しない場合は、これらの値をスキップできます。詳細については、「[ActiveSync 設定](#)」を参照してください。
6. このリソースに使用するアイデンティティテンプレートを指定します。これは、キー属性に使用する **Identity Manager** の属性名です。
7. このリソース用の **Identity Manager** リソースパラメータを指定します。ここには、リソース名、**Active Sync** のスケジューリングとロギング、リソースの承認者などの情報が含まれます。

## ActiveSync 設定

---

**注**            **Active Sync** アダプタは、アカウントの削除を検出しません。このため、アカウントの削除を検出するように調整してください。

---

データベーステーブルアダプタは、**Active Sync** ポーリングの実行中に、ユーザーフォーム（指定されている場合はワークフロー）に渡すためのリソースアカウントを、指定したデータベーステーブルから選択します。

「**静的検索述語**」パラメータによって、データベースから返されるアカウントを限定するために使用される任意の静的な述語を指定します。述語は **SQL** 式として評価されます。このパラメータは、ネイティブな **SQL** 構文で表してください。

次の例は、このパラメータの使用方法を示したものです。

```
syncState = 'P'
```

この例では、syncState という名前の列が存在することと、P が取り得る値であることが必要です。この値を「最後にフェッチされた述語」パラメータと結合させることで、完全な修飾子が形成されます。

「付加する結合子」パラメータの値は、AND または OR です。これは、最後にフェッチされた述語の前に付加される結合を指定します。

「最後にフェッチされた述語」パラメータでは、述語をもう 1 つ任意で指定しますが、この述語には、Identity Manager で定義された 1 つ以上のユーザー属性を含めることができます。この機能によって、前回のポーリングで返された値を現在のポーリングで返された値と比較する述語を、ネイティブ SQL 構文で構築することができます。たとえば、lastMod 列にタイムスタンプが格納されていれば、その値を各ポーリングで比較することができます。次に、現在のポーリングの値が前のポーリングの値より大きい場合は、データベースエントリに関する情報を返します。次の式は、この機能を示しています。

```
lastMod > '$(lastmod)'
```

括弧内に指定する値は、スキーママップページで定義された Identity Manager ユーザー属性にします。\$(lastmod) トークンは、前のポーリングで返された値に置き換えられます。たとえば、2004-06-20 6:23:00 などの値になります。

---

**注** アダプタが最初にポーリングを行なったときは、前に取得された値が存在しないため、「**LAST FETCHED フィルタ**」は適用されません。このフィルタは、その後のすべてのポーリングで実行されます。

---

データベーステーブルアダプタは、「静的検索述語」、「付加する結合子」、および「最後にフェッチされた述語」リソースパラメータを連結して、次のような検索式を送信します。

```
syncState = 'P' AND lastMod > '2004-06-20 6:23:00'
```

**ORDER BY** パラメータを使用すると、指定した順序で行を処理するためのポーリングを強制する、ネイティブの SQL ORDER BY 節を指定できます。値の中には ORDER BY という単語を含めないでください。たとえば、lastMod の値を指定する場合、行は lastMod 列に基づいて、昇順に並べ替えられます。

オプションで、「変更時に実行するプロセス」パラメータを指定した場合、データベースから返されるそれぞれの修飾アカウントで起動する Identity Manager ワークフローが特定されます。このワークフローに渡される値のマップは、スキーママップの左側の属性によってキー設定されます。この値が指定されていない場合は、標準の Active Sync ユーザーフォーム処理によって更新が実行されます。

## セキュリティに関する注意事項

データベーステーブルに接続するプロキシユーザーには、次の特性が必要です。

- ユーザーは、アクセスされるデータベーステーブルまたはビューを所有している必要があります。修飾子を使用して所有者を指定せずに、接続ユーザー名によってテーブルまたはビューを参照できる必要があります。
- ユーザーには、アダプタがサポートするように設定されている任意のアクションを実行するための権限を与えてください。最低限、ユーザーにはデータベーステーブルまたはビュー（配下のテーブルを含む可能性がある）に対する **SELECT** 特権が必要です。たとえば、アダプタがユーザーを作成、更新、削除するように設定されている場合、ユーザーには **SELECT**、**INSERT**、**UPDATE**、および **DELETE** 特権が必要です。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用不可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>• リソースからインポート</li><li>• Active Sync</li><li>• 調整</li></ul>

## アカウント属性

リソースユーザー属性は、リソースの作成時または編集時にウィザードによって入力されます。次に、選択したユーザーのこれらの列の値が、**Identity Manager** ユーザー属性で見つかった対応する属性名でマップされます。

このアダプタでは、**Oracle** の **BLOB** などのバイナリデータ型がサポートされます。対応する属性は、スキーママップでバイナリとしてマークされている必要があります。バイナリ属性の例には、グラフィックスファイル、オーディオファイル、証明書などがあります。

waveset.properties ファイル内の sources.ResourceName.hosts プロパティを使用して、Active Sync アダプタの同期部分の実行にクラスタ内のどのホストを使用するかを制御できます。ResourceName は、リソースオブジェクトの名前に置き換えてください。

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.DatabaseTableResourceAdapter
```

さらに、リソースインスタンスに対して次の Identity Manager Active Sync ログインパラメータを設定できます。

- ログアーカイブの最大数
- アクティブログの最大有効期間
- ログファイルの最大サイズ
- ログファイルパス
- ログレベル



# DB2

DB2 リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.DB2ResourceAdapter` クラスで定義されます。

このアダプタを使用して、DB2 にログインするためのユーザーアカウントをサポートします。カスタム DB2 テーブルがある場合、リソースアダプタウィザードを使用してカスタム DB2 テーブルリソースを作成する方法については、[117 ページの「データベーステーブル」](#)を参照してください。

## リソースを設定する際の注意事項

DB2 では 2 種類の JDBC アクセスが提供されており、それぞれに異なるドライバが必要です。

- **アプリケーションドライバ** (`COM.ibm.db2.jdbc.app.DB2Driver`) には、ローカルクライアントソフトウェアとローカルデータベースインスタンスが必要です。

大部分の本稼働環境において、DB2 は単独の ( 多くの場合、専用の ) ホスト上で実行されるため、通常、ローカルデータベースインスタンスには、リモートデータベースインスタンスに対する別名が含まれています。この設定では、ローカルデータベースインスタンスは、DB2 固有のプロトコルを使用してリモートデータベースインスタンスと通信します。「DB2 リソースパラメータ」ページでは、このタイプのドライバがデフォルト値です。

- **ネットワークドライバ** (`COM.ibm.db2.jdbc.net.DB2Driver`) には、ローカルクライアントソフトウェアやローカルデータベースは必要ありません。

このドライバでは、ターゲットサーバー上で DB2 Java Daemon (`db2jd`) が実行されている必要があります。大部分の本稼働環境において、ターゲットサーバーは単独のホストですが、ネットワークドライバはローカルデータベースインスタンスと同様に操作できます。

このデーモンはデフォルトでは起動されませんが、データベース管理者は、手動で起動、またはデータベースインスタンスの起動時に自動的に起動するように設定できます。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

DB2 リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. このリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.DB2ResourceAdapter
```

2. `Db2\java\db2java.zip` ファイルを解凍します。

3. db2java.jar ファイルを *InstallDir*\idm\WEB-INF\lib ディレクトリにコピーします。

## 使用上の注意

DB2 では、外部認証と内部承認が実行されます。認証は、外部の認証者に `accountID` とパスワードを渡すことによって実行されます。デフォルトでは、オペレーティングシステムが認証を実行しますが、ほかのプログラムを認証目的に使用することもできます。

承認は、データベース、インデックス、パッケージ、スキーマ、サーバー、テーブル、またはテーブル空間 (あるいはその組み合わせ) のレベルで、さまざまなアクセス権に対して `accountID` を内部的にマッピングすることによって実行されます。承認を与えても自動的に `accountID` が認証されるわけではありません。したがって、実在しないアカウントを承認することができます。承認を取り消しても、公開されている権限は `accountID` から削除されません。

通常は、DB2 アプリケーションを、インストール先のマシンと同じリソースグループ内に配置するようにしてください。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL 経由の JDBC を使用して DB2 アダプタと通信します。

### 必要な管理特権

管理者に DBADM 権限を許可するための SYSADM 権限を与えてください。その他の権限を許可するには、DBADM 権限か SYSADM 権限のいずれかが必要です。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用不可

機能	サポート状況
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	リソースからインポート

## アカウント属性

次の表に、DB2 ユーザーアカウント属性の一覧を示します。属性の型はすべて **String** です。

リソース ユーザー属性	説明
accountId	必須。
grants	必須。 有効な許可のコンマ区切りリスト。 たとえば、次のようにします。  CONNECT ON MySchema.MyTable,DELETE ON MySchema.MyTable,INSERT ON MySchema.MyTable,SELECT ON MySchema.MyTable,UPDATE ON MySchema.MyTable

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.DB2ResourceAdapter
```

# Domino

Domino リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.DominoResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

ここでは、Identity Manager で使用する Domino リソースの設定手順を説明します。次のような手順があります。

- Domino リソースを Identity Manager で使用するための一般的な設定手順
- Domino をサポートするようにゲートウェイをインストールする手順

### 一般的な設定手順

Domino アダプタ Domino リソースアダプタを設定するには、次の手順を使用します。

1. Domino 内に Identity Manager 管理者を作成します。ユーザーの管理に必要とされるすべての組織へのアクセス権を持つ認証者 ID を使用します。
2. Domino サーバーの公開アドレス帳 (`names.nsf`) のアクセス制御リスト (ACL) に、ユーザーを追加します。
  - a. ユーザーには、編集者のアクセス権を付与します。
  - b. ユーザーに次のロールを割り当てます。
    - GroupModifier
    - UserCreator
    - UserModifier
3. 認証ログデータベース (`certlog.nsf`) の ACL に、投稿者のアクセス権を付与したユーザーを追加します。
4. 管理要求 (`admin4.nsf`) の ACL に、投稿者のアクセス権を付与したユーザーを追加します。
5. 新しく作成されたユーザーをサーバーのセキュリティーに追加します。
  - a. 「セキュリティー」パネルを開いて、サーバー設定を編集します。
  - b. Domino サーバーへのアクセスが制限されている場合、Identity Manager のプロキシアカウントにサーバーへのアクセス権があるかどうか確認します。そのためには、アカウント名か、プロキシアカウントの属しているグループを、「アクセスサーバー」フィールドに指定します。

- c. Domino エージェントを呼び出す前アクションと後アクションが存在する場合、呼び出されるエージェントの設定方法によって、ユーザーを「制限されていない LotusScript/Java エージェントを実行」または「制限されている LotusScript/Java エージェントを実行」のいずれかのフィールドに追加する必要があります。

## Domino をサポートするようにゲートウェイをインストール

ゲートウェイを Domino に接続するには、あらかじめインストールされた Notes クライアントを、ゲートウェイマシン上に用意してください。

Windows レジストリの HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥

Waveset¥Lighthouse¥Gateway に次の文字列値を追加して、Domino が確実に正しく動作するようにします。

- notesInstallDir - クライアントがインストールされる場所で、notes.dll ファイルの場所です。通常、この場所は C:¥Lotu¥Notes¥ などになります。
- notesIniFile - Lotus Notes の初期化ファイルへの、ファイル名を含むフルパス。このファイルは、デフォルトの場所 (C:¥Lotus¥Notes¥notes.ini など) から、Identity Manager ゲートウェイの格納されているディレクトリにコピーするようにしてください。したがって、このレジストリキーの値は、C:¥GatewayDir¥notes.ini のような値に設定してください。

---

### 注

Notes クライアントがネットワーク対応のプロファイルとともに実行中であることを確認します。ini ファイルのコピー後にネットワーク接続を変更する場合、再度コピーを行うか、次のようなコマンド行によってクライアントを実行します。

```
C:¥Lotus¥Notes¥notes.exe=PathToIniFile
```

---

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

ここでは、Domino リソースアダプタの使用に関する情報を示します。次のトピックで構成されています。

- [再認証処理](#)
- [パスワードの変更](#)
- [有効化と無効化](#)

- ID ファイル
- Rename/Move
- リソース名
- ローミングのサポート
- ゲートウェイのタイムアウト

## 再認証処理

再認証処理は、「recertify」という名前の Boolean 型ユーザー属性を使用して行われます。この属性は更新操作中にチェックされ、有効であれば、ユーザー ID が再認証されます。

再認証処理は `adminp` 処理によって行われます。つまり、`adminp` 要求を生成すると、それ以降のいずれかの時点で、その ID の再認証が行われます。再認証のタイミングは、Dimino サーバーの設定に基づいて決まります。

## パスワードの変更

Lotus ユーザーには、2つの異なるパスワードがあります。

- `HttpPassword` - Web ブラウザまたはその他の HTTP クライアントから Notes サーバーにアクセスするときに使用するパスワード。
- `ID ファイル` - ユーザーの Notes ID ファイルを暗号化するパスワード。このパスワードは、現在のパスワードを指定しない限り変更できません。結果として、Identity Manager 管理者はこのパスワードを変更できません。

詳細については、133 ページの「ID ファイル」を参照してください。

アダプタは、これらのパスワードの一方または両方を管理するように構成できます。

### *HttpPasswords のみの管理*

ID ファイルパスワードではなく `HttpPasswords` を管理するには、Domino Gateway アダプタを次のように構成します。

- **変更時にユーザーがパスワードを入力** リソースパラメータを 0 に設定します。
- スキーママップで `password` リソースユーザー属性を `HTTPPassword` に変更します。
- `HTTPPassword` アイデンティティシステムユーザー属性をスキーママップから削除します。

## HttpPasswords と ID ファイルパスワードの管理

ユーザーインタフェースから ID ファイルパスワードを管理したり、管理者インタフェースやユーザーインタフェースから HttpPasswords を管理したりするには、Domino Gateway アダプタを次のように構成します。

- **変更時にユーザーがパスワードを入力** リソースパラメータを 0 に設定します。
- ID ファイルパスワードは、ユーザーが現在のパスワードを指定しない限り変更できません。現在のパスワードは、スキーママップ内で `WS_USER_PASSWORD` という名前のアカウント属性として定義される必要があります。この属性が存在し、そのデータ型が暗号化されていることを確認します。
- スキーママップで HTTPPassword リソースユーザー属性を `password` に変更します。この変更により、`password` リソースユーザー属性が HTTPPassword とともに、`password` にマッピングされます。
- **Password** ビューおよび **LoginChange** ビューを `WS_USER_PASSWORD` アカウント属性に追加します **Identity Manager** 統合開発環境またはデバッグページを使用して、次のようにリソース定義を編集します。

```
<AccountAttributeType id='66' name='WS_USER_PASSWORD'  
syntax='encrypted' mapName='WS_USER_PASSWORD' mapType='string'>  
  <Views>  
    <String>Password</String>  
    <String>LoginChange</String>  
  </Views>  
</AccountAttributeType>
```

- `WS_USER_PASSWORD` フィールドおよび `idFile` フィールドを次のフォームに追加します。
  - Change My Password Form
  - Change Password Form
  - Expired Login Form

これらのフィールドは、`resourceAccounts` ビューを指すように定義してください。

```
<Field name='resourceAccounts.currentResourceAccounts[ResourceName].  
attributes.idFile'>  
  <Display class='Text'>  
    <Property name='title' value='idfile' />  
  </Display>  
</Field>
```

```

<Field name='resourceAccounts.currentResourceAccounts[ResourceName].
attributes.WS_USER_PASSWORD'>
  <Display class='Text'>
    <Property name='title' value='WS_USER_PASSWORD' />
  </Display>
</Field>

```

## ID ファイルパスワードのみの管理

HttpPasswords は管理せずに、ユーザーインタフェースから ID ファイルパスワードを管理するには、Domino Gateway アダプタを次のように構成します。

- **変更時にユーザーがパスワードを入力** リソースパラメータを 1 に設定します。
- ID ファイルパスワードは、ユーザーが現在のパスワードを指定しない限り変更できません。現在のパスワードは、スキーママップ内で WS\_USER\_PASSWORD という名前のアカウント属性として定義される必要があります。この属性が存在し、そのデータ型が暗号化されていることを確認します。
- idFile フィールドを次のフォームに追加します。
  - Change My Password Form
  - Change Password Form
  - Expired Login Form

このフィールドは、resourceAccounts ビューを指すように定義してください。

```

<Field name='resourceAccounts.currentResourceAccounts[ResourceName].
attributes.idFile'>
  <Display class='Text'>
    <Property name='title' value='idfile' />
  </Display>
</Field>

```

## 有効化と無効化

Domino 6.0 以降でユーザーを無効化する場合は、CheckPassword アカウント属性を 2 に設定することをお勧めします。ただし、5.x で使用した、ユーザーを DENY GROUP に追加する方法もまだ使用できます。

Domino 6.0 より前のバージョンでは、ユーザーごとのネイティブな無効化フラグがないため、無効化された各ユーザーは DENY GROUP 内に配置されます。有効化すると、これらは定義済みグループのいずれかのメンバーとして削除されます。DENY GROUP にはメンバーの最大数のしきい値が設定されているので、グループをリソースに対するアカウント属性として指定してください。このためには、追加の DenyGroups アカウント属性をリソースに渡す必要があります。DenyGroups は、無効化、有効化、またはプロビジョニング解除の実行時に設定できますが、取得するには追加のコーディングが必要です。

プロビジョニング解除または無効化の実行中に、ユーザーを追加する先の **DenyGroups** のリストを送信します。有効化の実行中には、ユーザーが削除される **DenyGroups** のリストを送信します。

次のコードによって、使用可能な **DenyGroups** をリソースから取得できます。

```
<invoke name='listResourceObjects' class='com.waveset.ui.FormUtil'>
  <ref>:display.session</ref>
  <s>DenyLists</s>
  <s>YourResourceName</s>
  <null/>
  <s>>false</s>
</invoke>
```

次のコードによって、現在割り当てられている **DenyGroups** を、無効化、有効化、またはプロビジョニング解除フォームに取得できます。

```
<invoke name='getList'>
  <invoke name='getView'>
    <ref>:display.session</ref>
    <concat>
      <s>UserViewer:</s>
      <ref>resourceAccounts.id</ref>
    </concat>
    <map>
      <s>TargetResources</s>
      <list>
        <s>YourResourceName</s>
      </list>
    </map>
  </invoke>
  <s>accounts[YourResourceName].DenyGroups</s>
</invoke>
```

無効化、有効化、またはプロビジョニング解除フォームでは、**DenyGroups** 属性を次のようにアドレス指定します。

```
resourceAccounts.currentResourceAccounts
[YourResourceName].attributes.DenyGroups
```

次の例では、複数選択ボックスの左側にある使用可能な **DenyGroups** を一覧表示する無効化フォームのフィールドを定義しています。

```
<Field name='resourceAccounts.currentResourceAccounts
[YourResourceName].attributes.DenyGroups'>
  <Display class='MultiSelect'>
    <Property name='title' value='Deny Groups' />
    <Property name='required'>
      <Boolean>>false</Boolean>
    </Property>
```

```

    <Property name='allowedValues'>
      <invoke name='listResourceObjects'
class='com.waveset.ui.FormUtil'>
        <ref>:display.session</ref>
        <s>DenyLists</s>
        <s>YourResourceName</s>
        <null/>
        <s>>false</s>
      </invoke>
    </Property>
    <Property name='availableTitle' value='Available Deny Groups' />
    <Property name='selectedTitle' value='Assigned Deny Groups' />
  </Display>
</Field>

```

次の例では、非表示フィールドの取得規則内の割り当てられた DenyGroups を一覧表示する有効化フォームのフィールドを定義しています。

```

<Field name='resourceAccounts.currentResourceAccounts
[YourResourceName].attributes.DenyGroups'>
  <Derivation>
    <invoke name='getList'>
      <invoke name='getView'>
        <ref>display.session</ref>
        <concat>
          <s>UserViewer:</s>
          <ref>resourceAccounts.id</ref>
        </concat>
        <map>
          <s>TargetResources</s>
          <list>
            <s>YourResourceName</s>
          </list>
        </map>
      </invoke>
      <s>accounts [YourResourceName].DenyGroups</s>
    </invoke>
  </Derivation>
</Field>

```

## ID ファイル

ゲートウェイマシンでは、新しく登録されたユーザーに対して新規 ID が生成されます。これらは、ゲートウェイの処理やサービスにアクセス可能な UNC パス上に配置されます。したがって、\\machine\ids\myidfile.id と指定すると、ネットワーク共有に配置されます。

ユーザーの作成時に指定される共有部分にアクセスするためのサービスとしてゲートウェイを設定した場合、このゲートウェイに対してユーザーとして実行する必要がある可能性があります。共有部分にアクセスできるように **SYSTEM** を割り当てることもできますが、これはゲートウェイネットワーク環境がどのように見えるかに依存します。

「アドレス帳に ID を保存」リソース属性を **TRUE** または **FALSE** に設定することで、ID ファイルをアドレス帳に格納するかどうかを指定することもできます。

## Rename/Move

**move** アクションや **rename** アクションも、**adminp** 処理によって実行されます。**move** は、**certifierOrgHierarchy** 属性を変更して元の **certifierId** ファイルとその **id** ファイルのパスワードを入力することによって、名前変更フォームから開始できます。**move** 要求によって要求データベース内に「名前移動要求」が作成されます。また、**move** 要求は、ユーザーの新しい組織を代表する新しい認証者によって完了させます。**move** は、ユーザーの姓または名を変更することで開始できます。

---

**注** **rename** と **move** を同時に実行することはできません。**adminp** 処理で **rename** と **move** の同時実行ができないのは、要求が、どちらの場合にも変更される標準的な名前を参照するためです。

---

## リソース名

ゲートウェイでは、すべての **Domino** リソースに一意の名前を付ける必要があります。複数の **Identity Manager** の配備があり、それらが同じゲートウェイを「指す」場合、それらの配備に存在するすべての **Domino** リソースには、一意のリソース名を付けてください。

## ローミングのサポート

リソースが **Domino 7.0** サーバーの場合、**Identity Manager** ではローミングユーザーを作成できます。**Identity Manager** では、ユーザーのローミングステータスを変更できません。そのため、**RoamingUser** アカウント属性を既存のユーザーに設定することはできません。

## ゲートウェイのタイムアウト

**Domino** アダプタでは、**RA\_HANGTIMEOUT** リソース属性を使用してタイムアウト値を秒単位で指定できます。この属性は、ゲートウェイに対する要求がタイムアウトしてハングしているとみなされるまでの時間を制御します。

次のように、この属性を **Resource** オブジェクトに手動で追加する必要があります。

```
<ResourceAttribute name='Hang Timeout'  
displayName='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT' type='int'  
description='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT_HELP'  
value='NewValue'>  
</ResourceAttribute>
```

この属性のデフォルト値は 0 であり、これは Identity Manager がハングした接続を確認しないことを示します。

## 追加情報

ここでは、このアダプタに関して、次のようないくつかの追加情報を提供します。

- [ListAllObjects](#)
- [フォームの更新](#)
- [searchFilter](#)
- [その他のフォームに関する問題点](#)
- [ビューに渡されるように設定する属性](#)
- [アクション](#)

### ListAllObjects

Domino で指定したすべてのオブジェクトを一覧表示できます。listAllObjects 呼び出しへの「タイプ」として表示名に渡します。

### フォームの更新

これらの操作の一部には追加の属性が必要であるため、それらの属性を含むように、デフォルトのフォームを更新してください。

さまざまなビューに渡される属性は、リソース定義によってあらかじめ定義されています。

- 有効化、無効化 - DenyGroups
- プロビジョニング解除 - DenyGroups (省略可能)
- Expired Login Form、Change Password Form、Change My Password Form - HTTPPassword (秘密にする必要あり)、ID ファイル
- 名前変更 - certifierIDFile、credentials (秘密にする必要あり)

## searchFilter

次のサンプル `UserForm` では、`getResourceObjects` メソッドの `searchFilter` オプションを `Domino` 用に実装する方法を示します。このフォームでは、リソース `MyResource` 上で姓が `Smith` であるすべてのユーザーを検索しています。

```
<Form name='Domino searchFilter Form' objectType=UserForm'>
  <Display class='EgitForm' />
  <Field name='rcwfield'>
    <Display class='MultiSelect'>
      <Property name='title' value='My Lister' />
      <Property name='availableTitle' value='Listing available items' />
      <Property name='selectedTitle' value='Selected Item(s)' />
      <Property name='allowedValues'>
        <block trace='true'>
          <invoke name='getResourceObjects'
class='com.waveset.ui.FormUtil'>
            <ref>:display.session</ref>
            <s>People</s>
            <s>MyResource</s>
            <Map>
              <MapEntry key='searchAttrsToGet'>
                <List>
                  <String>LastName</String>
                  <String>ShortName</String>
                  <String>MailFile</String>
                </List>
              </MapEntry>
              <MapEntry key='searchFilter'
value='@IsAvailable(LastName) &amp;
@Contains (@LowerCase (LastName) ; "smith")' />
            </Map>
          </invoke>
        </block>
      </Property>
    </Display>
    <Disable>
      <i>0</i>
    </Disable>
  </Field>
</Form>
```

## その他のフォームに関する問題点

- 管理者が変更またはリセットできるのは、`HTTPPassword` のみです。`HTTPPassword` のみを変更したくない場合には、デフォルトテーブルによって `Domino` アダプタをフィルタします。

- Change My Password Form、Change Password Form、および Expired Login Form では、「古いパスワードをお忘れですか?」という名前の列が生成されます。Identity Manager では管理者パスワードの更新がサポートされないので、Domino についてはこの列を削除します。

## ビューに渡されるように設定する属性

- idFile - Password、LoginChange
- DenyGroups - Enable、Disable、Delete
- certifierIdFile、credentials - Rename
- HTTPPassword - Password、LoginChange

## アクション

前アクションと後アクションでは、次の変数を使用できます。

- WSUSER\_accountId
- WSUSER\_UNID

WSUSER\_UNID 変数は Lotus Notes の汎用 ID を参照します。この変数は、アカウントが作成されるまで参照できません。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、Sun Identity Manager Gateway を使用して Domino と通信します。

### 必要な管理特権

なし

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースからインポート</li><li>調整</li><li>Active Sync</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、Domino のアカウント属性に関する情報を示します。  
特に記述がないかぎり、デフォルトのデータ型は **String** です。

リソースユーザー属性	説明
alternateOrgUnit	代替言語での、ユーザーの組織単位。
AltFullName	ユーザーの母国語での、ユーザーのフルネーム
AltFullNameLanguage	代替のフルネームに使用される言語。
Assistant	補佐の名前。
CalendarDomain	カレンダーのドメイン名。
CellPhoneNumber	ユーザーの携帯電話番号。
certifierIDFile	ゲートウェイマシンを基準とした認証者 ID ファイルへのパス (リソースの値をオーバーライドする)
CertifierOrgHierarchy	/US1 など、認証者の組織階層のパス (リソースの値をオーバーライドする)

リソースユーザー属性	説明
CheckPassword	Integer。 0 = チェックしません 1 = チェックします 2 = ユーザーを無効にします
Children	従業員の子どもの名前 (複数可)。
City	ユーザーの自宅住所の市。
Comment	ユーザーに関するコメント。
CompanyName	ユーザーが勤務する会社。
Country	ユーザーの自宅住所の国。
credentials	認証者 ID ファイルのパスワード (リソースの値をオーバーライドする)
dbQuotaSizeLimit	ユーザーのメールデータベースの最大サイズを指定します。1000 未満の値を指定した場合、最大サイズの単位はメガバイト (M バイト) になります。1000 以上の値を指定した場合、最大サイズはバイト単位で表されます。1001 ~ 1023 の値は、1024 バイトに切り上げられます。  この属性を設定するには、プロキシ管理者がサーバードキュメント内で管理者として一覧表示される必要があります。
dbQuotaWarningThreshold	データベースのサイズについての警告が生成される基準となる、ユーザーのメールデータベースのサイズを指定します。1000 未満の値を指定した場合、しきい値の単位はメガバイト (M バイト) になります。1000 以上の値を指定した場合、しきい値はバイト単位で表されます。1001 ~ 1023 の値は、1024 バイトに切り上げられます。  この属性を設定するには、プロキシ管理者がサーバードキュメント内で管理者として一覧表示される必要があります。
defaultPasswordExp	発行 (作成、再認証操作) する新しい証明書に対する日数。
deleteMailFileOption	リソースの属性を次のようにオーバーライドします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0:</b> メールファイルを削除しません</li> <li>• <b>1:</b> 人物レコードに指定されたメールファイルのみを削除します</li> <li>• <b>2:</b> 人物レコードに指定されたメールファイルとすべての複製を削除します</li> </ul> <p><b>注意:</b> mailfile および adminp を削除するように設定した場合、要求はキューに入れられ、削除する前にネイティブで承認する必要があります。</p>

リソースユーザー属性	説明
DenyGroups	リソースへのアクセスを拒否されるユーザーのリスト。
Department	ユーザーの部署名または部署番号。
DisplayName	ユーザーの表示名。
EmployeeID	ユーザーの一意の従業員 ID。
firstname	ユーザーの名。
HomeFAXPhoneNumber	ユーザーの自宅の FAX 番号と電話番号
HTTPPassword	Web ブラウザまたはその他の HTTP クライアントから Notes サーバーにアクセスするとき使用するパスワード。
idFile	ゲートウェイマシンを基準とした ID ファイルへの完全修飾パス。
gateway machine	
InternetAddress	
JobTitle	ユーザーの役職。
lastModified	ユーザーを最後に変更した日時の文字列表現。
lastname	ユーザーの姓
Location	オフィスの場所またはメールの到着場所
MailAddress	ユーザーの電子メールアドレス。
MailDomain	ユーザーのメールサーバーのドメイン名。
MailFile	メールファイルの名前 (MAIL\JSMITH など)
mailOwnerAccess	<p>メールボックスの所有者のアクセス制御レベルを示します。取り得る値は、0 (マネージャー)、1 (設計者)、および 2 (エディタ) です。</p> <p>この属性は、デフォルトではスキーママップ内に存在しません。ユーザーの作成時のみに適用できる属性です。</p>
MailServer	ユーザーのメールサーバー名。
MailTemplate	メールテンプレートの名前。作成時のみ有効。
Manager	ユーザーの上司
MiddleInitial	最後にピリオドの付いたミドルネームのイニシャル。
NetUserName	ユーザーのネットワークアカウント名。
NotesGroups	
objectGUID	ユーザーの NotesID。
OfficeCity	ユーザーの勤務先住所の市。

リソースユーザー属性	説明
OfficeCountry	ユーザーの勤務先住所の国。
OfficeFAXPhoneNumber	ユーザーの勤務先住所の FAX 番号。
OfficeNumber	ユーザーの勤務先住所の局番号。
OfficePhoneNumber	ユーザーの勤務先住所の電話番号。
OfficeState	ユーザーの勤務先住所の州または都道府県。
OfficeStreetAddress	ユーザーの勤務先住所の街路住所。
OfficeZIP	ユーザーの勤務先住所の郵便番号。
orgUnit	
パスワード	ユーザーのパスワード
PasswordChangeInterval	Integer。ユーザーが新しいパスワードを設定する必要があるまでの日数。
PasswordGracePeriod	パスワードの期限切れ後にユーザーがロックアウトされるまでの日数。
PhoneNumber	ユーザーの自宅電話番号。
PhoneNumber_6	
Policy	ユーザーの明示的ポリシー。「 <b>明示的ポリシー名</b> 」リソースパラメータの値によって、この属性が上書きされます。このパラメータは、Domino 7.0 以降のみに適用されます。
Profiles	ユーザーに割り当てられたプロファイル。この値によって、リソースパラメータとして指定されたプロファイルが上書きされます。この属性は、Domino 7.0 以上のみに適用されます。
Recertify	Boolean。ユーザーを再認証することを示すフラグ。
RoamCleanPer	RoamCleanSetting が 1 の場合は、クリーニング間隔の日数。
RoamCleanSetting	Domino がユーザーのローミングファイルをクリーンアップするタイミングを指定します。有効な値は次のとおりです。 0 - しない 1 - 定期的 2 - Domino サーバーのシャットダウン時 3 - ユーザーに確認
RoamingUser	1 に設定すると、ユーザーがローミングユーザーであることを指定します。

リソースユーザー属性	説明
RoamRplSrvrs	ユーザーのローミングファイルがレプリケートされるサーバーの一覧。
RoamSrvr	ユーザーのローミングファイルが置かれるサーバーを指定します。
RoamSubdir	ユーザーのローミングファイルが含まれるディレクトリを指定します。
SametimeServer	ユーザーの <b>Sametime</b> サーバーの階層名。
ShortName	一般に外国のメールシステムによって使用される短いユーザー名。
Spouse	ユーザーの配偶者の名前。
State	ユーザーの自宅住所中の州または都道府県。
StreetAddress	ユーザーの自宅住所。
Suffix	ユーザーの世代を表す修飾子
Title	ユーザーの役職 / 肩書き
WebSite	ユーザーの <b>Web</b> サイト。
WS_USER_PASSWORD	ユーザーのパスワード変更要求時に、ユーザーの現在のパスワードを送信するために使用する属性。
x400Address	
Zip	ユーザーの自宅住所の郵便番号。

## アイデンティティテンプレート

**Domino** では、各ユーザーのアイデンティティは `userid` ファイルに格納されます。ただし、それと同じユーザー名が `FullName` 属性内のユーザーレコードに格納されません。この属性は複数値を取り、リスト内の最初の属性は一意です。リスト内の最初の名前は、標準的な形式で格納され、次のようになります。

```
CN=Joe T Smith/O=MyCompany
```

この名前を使用して、名前やアドレス帳のレコードを取得できます。**Identity Manager** では、この文字列は、次に示すような「すっきりとした」形式で `resourceInfo` に格納されます。

```
Joe T Smith/MyCompany
```

**Domino** には、API レベルで名前を変換したり戻したりするための組み込みの関数があります。また、**Identity Manager** も `NOTEID` を `GUID` 属性として格納しており、可能な場合は常にこのグローバル識別子を使用して **Domino** 内のユーザーを検索します。

デフォルトのアイデンティティテンプレートは次のとおりです。

```
$firstname$ $MiddleInitial$ $lastname$$CertifierOrgHierarchy$
```

環境によっては、ミドルネームのイニシャルが含まれない場合もあります。

## サンプルフォーム

DominoActiveSyncForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.DominoResourceAdapter
```

ゲートウェイへの接続の問題を診断するために、次のメソッドでトレースを有効にすることもできます。

- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#sendRequest`
- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#getResponse`



# フラットファイル Active Sync

フラットファイル Active Sync アダプタは、`com.waveset.adapter.FlatFileActiveSyncAdapter` クラスで定義されます。

フラットファイル Active Sync アダプタでは、次のタイプのファイルを読み取ることができます。

- コンマ区切り値 (CSV) を含む区切りファイルやパイプ (|) によって区切られた区切りファイル。
- クラスパスに Netscape の `ldapjdk.jar` が設定された場合、LDAP データ交換形式 (LDIF)。

パーサークラスが `com.waveset.util.FlatFileIterator` インタフェースを実装する場合は、カスタムパーサーも使用できます。

このアダプタはソース専用アダプタで、ファイルへの書き戻しはしません。

次に、フラットファイル Active Sync アダプタを使用するのが適していると思われる事例をいくつか挙げます。

- 直接的な API やその他のプログラムによるインタフェースが存在しない。
- そのリソース用のリソースアダプタが存在しない。
- 1つ以上のリソースに格納されているデータを、Identity Manager に読み取る前に事前処理する必要がある。
- リソースの所有者が、リソースへの直接的な接続を許可していない。
- リソースに対して直接接続する方法が提供されていない。

## リソースを設定する際の注意事項

アダプタによって読み取られるフラットファイルは、プラットフォームに応じて、ローカルハードドライブ、ネットワーク共有、またはマウント済みドライブのいずれかにあるアプリケーションサーバー (クラスタが実行されている場合は、すべてのアプリケーションサーバー) で利用できるようにしてください。同期ロギングが設定されている場合は、ログディレクトリも、アプリケーションサーバーから見えるようにし、アプリケーションサーバーの処理を実行するアカウントによって書き込めるようにしてください。

もっとも信頼できる設定 (推奨される方法) は、アプリケーションサーバーに対してローカルなドライブにフラットファイルを格納することです。ログファイルも、ローカルディレクトリに書き込まれるようにしてください。異なるサーバー上で複数の Identity Manager インスタンスを使用している場合は、1つのサーバーをフラットファイル Active Sync アダプタの実行用に選択し、管理インタフェースの「同期ポリシーの編集」ページでそのサーバーを指定します。これにより、アダプタ上のポーリング操作が `sources.hosts` プロパティで指定したサーバー (複数可) 上で常に行われることが保証されます。

# Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

ここでは、フラットファイル Active Sync リソースアダプタの使用に関連する設定の注意点について説明します。次のトピックで構成されています。

- [全般的な注意事項](#)
- [ActiveSync 設定](#)
- [サポートされているファイルの例](#)

### 全般的な注意事項

LDIF ファイルへのポーリングを行なっている場合、LDAP API によって属性名が小文字に変換されます。したがって、大文字を含む属性名 (accountId など) がある場合、LDAP API によって accountId のように変換されます。Active Sync の起動時に、次のエラーのログがとられます。

```
com.waveset.util.WavesetException: No name attribute found for user based on Resolve Identity Rule or schema map.
```

この状況を解決するには、スキーママップで、リソースユーザー属性を accountId に設定します。

ファイル内の列を使用して accountId を直接設定していないファイルをインポートしたときに、同じエラーが再度発生する可能性があります。このエラーメッセージを回避するには、global.accountId のフィールドを追加し、そのフィールド内で accountId を構築するためのロジックを追加することによって、Active Sync ユーザーフォームを変更します。次に示すフィールド例では、accountId を firstname.lastname に設定しています。ただし、create 操作に対してのみです。

```
<Field name='waveset.accountId'>
  <Expansion>
    <concat>
      <ref>activeSync.firstname</ref>
      <s>.</s>
      <ref>activeSync.lastname</ref>
    </concat>
  </Expansion>
  <Disable>
    <neq>
      <ref>feedOp</ref>
    </neq>
  </Disable>
</Field>
```

```
<s>create</s>
</neq>
</Disable>
</Field>
```

## ActiveSync 設定

フラットファイル **Active Sync** アダプタでは、フラットファイルのタイムスタンプを追跡できます。また、このアダプタでは、最後に処理されたファイルを保存しておいて、最新のバージョンと比較できます。**Identity Manager** は、この2つのファイルで異なっているアカウントに対して処理を行います。

これらの機能が有効になっている場合、最初に **Identity Manager** がソースのフラットファイルをポーリングするときに、そのファイルはコピーされ、同じディレクトリ内に配置されます。コピーされた(保存された)ファイルには、`FFAS_timestamp.FFAS` という名前が付けられます。この `timestamp` 部分は、元のファイルが最後に変更された時刻を示しています。タイムスタンプの形式は、ソースファイルのあるオペレーティングシステムによって決まります。

その後のポーリングごとに、**Identity Manager** は元のファイルのタイムスタンプと最新のタイムスタンプを比較します。新しいタイムスタンプの値が直前の値と同じ場合、ファイルは変更されていないので、次のポーリングが行われるまでそれ以上の処理は実行されません。タイムスタンプの値が異なる場合、**Identity Manager** は `FFAS` ファイルの存在をチェックします。このファイルが存在していなければ、**Identity Manager** は更新されたソースファイルを新しいファイルとして処理します。

タイムスタンプが異なっており、保存されている `FFAS` ファイルが存在する場合、**Identity Manager** はソースファイルと保存されているファイルを比較します。この比較によって、変更されていないユーザーを処理の対象から除外します。変更されたユーザーは、アダプタを通して通常の方法で送信され、設定された処理、関連規則および削除規則によって、このユーザーに対する処理が決まります。

これらの規則を利用しやすくするために、差分メカニズムで検出された状況を示すための属性がアダプタによって追加されます。新しく更新されたソースファイル内のみユーザーが存在している場合、ユーザーレコードには `create` という値を持つ `diffAction` という属性が追加されます。ソースファイル内のいずれかのエントリが更新された場合、そのエントリに対して属性 `diffAction` が追加され、値には `update` が設定されます。いずれかのユーザーが削除された場合、そのユーザーレコードに対して、`diffAction` 属性の値は `delete` になります。

2つのファイルの比較が完了し、すべてのアカウント処理が行われたら、**Identity Manager** によって元の `FFAS` ファイルが削除され、現在のソースファイルが新しい `FFAS` ファイルにコピーされます。このファイルのタイムスタンプは、直前の `FFAS` ファイルとは異なるものになります。

## サポートされているファイルの例

次に、このアダプタによってサポートされているファイルの例を示します。

区切り文字およびテキスト修飾子は、任意の1文字に設定できます。どちらかで Unicode 文字を使用する場合は、`/u####` という形式で入力できます。区切り文字およびテキスト修飾子は、LDAP データ交換形式には適用されません。

### コンマ区切り値

次の例では、引用符 (「」) がテキスト修飾子として使用されます。文字列 `1234 Pecan Ave., Ste 30` にはコンマが含まれています。そのためシステムがこの文字列内の `Ste 30` を一つの属性として解釈しないように、引用符で修飾させる必要があります。

```
accountId,firstname,lastname,email,street address
kb323441,Kevin,Brown,Kevin.Brown@example.com,"1234 Pecan Ave., Ste
30"
pc432343,Penelope,Carter,Penelope.Carter@example.com,4234 Main St.
```

### パイプ区切り

```
accountId|firstname|lastname|email|street address
kb323441|Kevin|Brown|Kevin.Brown@example.com|1234 Pecan Ave., Ste 30
pc432343|Penelope|Carter|Penelope.Carter@example.com|4234 Main St.
```

### LDAP データ交換形式

```
dn: cn=Kevin Brown,ou=People,dc=example,dc=com
changetype: add
objectClass: top
objectClass: person
objectClass: organizationalperson
objectClass: inetorgperson
employeeNumber: kb323441
cn: Kevin Brown
sn: Brown
departmentNumber: 7013
description: Production
displayName: Kevin
givenName: Kevin
mail: Kevin.Brown@example.com
o: Acme
ou: Production
postalAddress: 1234 Pecan Ave., Ste 30
postalCode: 43231
```

st: CA  
street: 1234 Pecan Ave, Ste 30  
title: Production Assistant  
jpegphoto: file:///c:/photos/Kevin.Brown.jpg

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

145 ページの「リソースを設定する際の注意事項」を参照してください。

### 必要な管理特権

管理ユーザーに、フラットファイルを含むディレクトリに対する読み取りと書き込みのアクセス権を与えてください。「違いのみを処理」Active Sync パラメータが有効になっている場合は、管理ユーザーに削除のアクセス権も与えてください。

さらに、管理者アカウントには、Active Sync の「ログファイルパス」フィールドに指定したディレクトリに対する読み取り権、書き込み権、削除権が必要です。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用不可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	Active Sync
	調整はサポートされません。

## アカウント属性

リソースアダプタのスキーマ定義は、フラットファイルの内容に依存します。属性が何も指定されていない場合、アダプタはフラットファイルから取得した属性名を使用します。区切りファイルの場合、これらの値は列見出しに対応しています。1つ以上の **Identity Manager** の属性名をフラットファイルで定義している列の名前にマップするには、スキーママップのページで、各々のマッピングを設定します。

フラットファイルの形式が LDIF である場合は、バイナリ属性 (グラフィックスファイル、オーディオファイル、証明書など) を指定できます。バイナリ属性は、区切りファイルに対してはサポートされていません。

## リソースオブジェクトの管理

適用不可

## アイデンティティテンプレート

このアダプタでは、アイデンティティテンプレートは無視されます。

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

**Identity Manager** のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.FlatFileActiveSyncAdapter
```

# HP OpenVMS

HP OpenVMS リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.VMSResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.VMSResourceAdapter
```

## 使用上の注意

HP OpenVMS ユーザー属性の情報については、使用している VMS の製品マニュアルを参照してください。

## セキュリティーに関する注意事項

### 必要な管理特権

HP Open VMS リソースに接続するユーザーアカウントは、SYSPRV、SNETMBX、および TMPMBX の権限を持っている必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用可

機能	サポート状況
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>リソースから直接インポート</li> <li>調整</li> </ul>

## アカウント属性

次の表に、HP OpenVMS リソースアダプタに付属して提供されるアカウント属性を示します。

リソースユーザー属性	タイプ	説明
device	String	新しいユーザーのデフォルトのデバイスを特定します
directory	String	新しいユーザーのデフォルトのディレクトリを特定します
create default directory	Boolean	デフォルトのディレクトリが作成されるかどうかを示します
copy login script	Boolean	既存のログインスクリプトがコピーされるかどうかを示します
login script source	String	新しいユーザーにコピーされる既存のログインスクリプトを示します
owner	String	VMS のマニュアルを参照してください。
account	String	VMS のマニュアルを参照してください。
UIC	String	VMS のマニュアルを参照してください。
CLI	String	VMS のマニュアルを参照してください。
clitables	String	VMS のマニュアルを参照してください。
lgicmd	String	VMS のマニュアルを参照してください。
expiration	String	VMS のマニュアルを参照してください。
pwdminimum	String	VMS のマニュアルを参照してください。
loginfails	String	VMS のマニュアルを参照してください。
pwdlifetime	String	VMS のマニュアルを参照してください。
pwdchange	String	VMS のマニュアルを参照してください。
lastlogin	String	VMS のマニュアルを参照してください。
maxjobs	String	VMS のマニュアルを参照してください。
fillm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
bytlm	String	VMS のマニュアルを参照してください。

リソースユーザー属性	タイプ	説明
maxacctjobs	String	VMS のマニュアルを参照してください。
shrfillm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
pbytlm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
maxdetach	String	VMS のマニュアルを参照してください。
biolm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
jtquota	String	VMS のマニュアルを参照してください。
prclm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
diolm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
prio	String	VMS のマニュアルを参照してください。
astlm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
wsquo	String	VMS のマニュアルを参照してください。
queprio	String	VMS のマニュアルを参照してください。
tqelm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
wsexent	String	VMS のマニュアルを参照してください。
cpu	String	VMS のマニュアルを参照してください。
enqlm	String	VMS のマニュアルを参照してください。
pgflquo	String	VMS のマニュアルを参照してください。
GRANT.IDS	CSV String	使用を許可する ID のリストを提供します。 grant/identifier grantId accountId
REVOKE.IDS	CSV String	使用許可を取り消す ID のリストを提供します。 revoke/identifier grantId accountId
FlagList	ArrayList	リスト内で有効なエント리는次のとおりです。DisCtlY、DefCLI、LockPwd、Restricted、DisUser、DisWelcome、DisNewMail、DisMail、GenPwd、Pwd_Expired、Pwd2_Expired、Audit、DisReport、DisReconnect、AutoLogin、DisForce_Pwd_Change、Captive、DisImage、DisPwdDic、DisPwdHis、ExtAuth

リソースユーザー属性	タイプ	説明
PrivilegesList	ArrayList	リスト内で有効なエントリは次のとおりです。ACNT、ALLSPOOL、ALTPRI、AUDIT、BUGCHK、BYPASS、CMEXEC、CMKRNL、DIAGNOSE、DOWNGRADE、EXQUOTA、GROUP、GRPNAM、GRPPRV、IMPERSONATE、IMPORT、LOG_IO、MOUNT、NETMBX、OPER、PFNMAP、PHY_IO、PRMCEB、PRMGBL、PRMMBX、PSWAPM、READALL、SECURITY、SETPRV、SHARE、SHMEM、SYSGBL、SYSLCK、SYSNAM、SYSPRV、TMPMBX、UPGRADE、VOLPRO、WORLD
DefPrivilegesList	ArrayList	リスト内で有効なエントリは次のとおりです。ACNT、ALLSPOOL、LTPRI、AUDIT、BUGCHK、BYPASS、CMEXEC、CMKRNL、DIAGNOSE、DOWNGRADE、EXQUOTA、GROUP、GRPNAM、GRPPRV、IMPERSONATE、IMPORT、LOG_IO、MOUNT、NETMBX、OPER、PFNMAP、PHY_IO、PRMCEB、PRMGBL、PRMMBX、PSWAPM、READALL、SECURITY、SETPRV、SHARE、SHMEM、SYSGBL、SYSLCK、SYSNAM、SYSPRV、TMPMBX、UPGRADE、VOLPRO、WORLD
PrimaryDaysList	ArrayList	リスト内で有効なエントリは次のとおりです。Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat、Sun

## サンプルフォーム

VMSUserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.VMSResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.`

# HP-UX

HP-UX リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.HPUXResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

リソースと Identity Manager 間の通信に SSH (Secure Shell) を使用する場合は、アダプタを設定する前に、リソースで SSH を設定します。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

HP-UX リソースアダプタは、主に次の HP-UX コマンドに対するサポートを提供します。

- `useradd`、`usermod`、`userdel`
- `groupadd`、`groupmod`、`groupdel`
- `passwd`

サポートされる属性およびファイルの詳細については、これらのコマンドに関する HP-UX マニュアルページを参照してください。

HP-UX リソースでユーザーアカウントの名前の変更を実行すると、グループメンバーシップは新しいユーザー名に移動されます。次の条件に該当する場合は、ユーザーのホームディレクトリの名前も変更されます。

- 元のホームディレクトリの名前がユーザー名と一致していた。
- 新しいユーザー名と一致するディレクトリがまだ存在していない。

UNIX リソース (AIX、HP-UX、Solaris、または Linux) に接続するときは、`root` シェルとして Bourne 互換シェル (`sh`、`ksh`) を使用してください。

HP-UX アカウントを管理する管理アカウントには、英語 (`en`) または C ロケールを使用してください。これは、ユーザーの `.profile` ファイルで設定できます。

NIS が実装されている環境では、次の機能を実装することにより、一括プロビジョニング中のパフォーマンスを向上させることができます。

- `user_make_nis` という名前のアカウント属性をスキーママップに追加し、この属性を調整やその他の一括プロビジョニングワークフローで使用します。この属性を追加した場合、リソース上の各ユーザーが更新された後は、システムで NIS データベースへの接続手順がバイパスされます。
- すべてのプロビジョニングが完了した後で NIS データベースに変更を書き込むには、ワークフローで `NIS_password_make` という名前の **ResourceAction** を作成します。
- このアダプタでは、HP-UX Trusted Mode はサポートされません。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、次の接続を使用して HP-UX アダプタと通信します。

- Telnet
- SSH (SSH はリソース上に個別にインストールする)
- SSHPubKey

SSHPubKey 接続の場合、「リソースパラメータ」ページで非公開鍵を指定する必要があります。この鍵には `--- BEGIN PRIVATE KEY ---` および `--- END PRIVATE KEY ---` のような注釈行を含める必要があります。公開鍵は、サーバー上の `/.ssh/authorized_keys` ファイルに配置する必要があります。

### 必要な管理特権

このアダプタでは、一般ユーザーとしてログインしてから `su` コマンドを実行し、`root` ユーザー (または `root` ユーザーと同等のアカウント) に切り替えて管理アクティビティを実行できます。また、`root` ユーザーとして直接ログインすることもできます。

このアダプタでは、`sudo` 機能 (バージョン 1.6.6 以降) もサポートされます。この機能は HP-UX Internet Express CD から HP-UX 11i にインストールできます。`sudo` を使用すると、システム管理者は、特定のユーザー (またはユーザーグループ) が一部 (またはすべて) のコマンドを `root` ユーザーまたは別のユーザーとして実行できるように設定できます。

さらに、`sudo` がリソースで有効になっている場合は、その設定が、`root` ユーザーのリソース定義ページでの設定よりも優先されます。

sudo を使用する場合は、Identity Manager 管理者に対して有効にされたコマンドの `tty_tickets` パラメータを `true` に設定してください。詳細については、`sudoers` ファイルのマニュアルページを参照してください。

管理者は、`sudo` で次のコマンドを実行する特権が付与されている必要があります。

ユーザーとグループのコマンド	NIS コマンド	その他のコマンド	
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>groupadd</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>make</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>awk</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>ls</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>groupdel</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>ypcat</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>cat</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>mv</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>groupmod</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>ypmatch</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>chmod</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>rm</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>last</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>yppasswd</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>chown</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>sed</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>listusers</code></li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>cp</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>sleep</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>logins</code></li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>cut</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>sort</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>passwd</code></li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>diff</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>tail</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>useradd</code></li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>echo</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>touch</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>userdel</code></li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>grep</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>which</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>usermod</code></li></ul>			

テスト接続を使用して次のテストができます。

- 各コマンドが管理ユーザーのパスに存在するかどうか
- 管理ユーザーが `/tmp` に書き込めるかどうか
- 管理ユーザーに、特定のコマンドを実行する権限があるかどうか

---

**注**                    テスト接続では、通常のプロビジョニング実行とは異なるコマンドオプションを使用できます。

---

このアダプタには、基本的な `sudo` 初期化機能とリセット機能が用意されています。ただし、リソースアクションが定義されていて、そこに `sudo` 認証を必要とするコマンドが含まれている場合は、UNIX コマンドとともに `sudo` コマンドを指定してください。たとえば、単に `useradd` と指定する代わりに `sudo useradd` を指定してください。`sudo` を必要とするコマンドは、ネイティブリソースに登録されている必要があります。それらのコマンドを登録するには、`visudo` を使用します。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	HP-UX は、ネイティブでの Identity Manager の enable アクションと disable アクションをサポートしません。Identity Manager は、ユーザーパスワードを変更することでアカウントの有効化と無効化をシミュレートします。enable アクションでは変更されたパスワードが公開されますが、disable アクションでは公開されません。  その結果、enable アクションと disable アクションは update アクションとして処理されます。update で動作するように設定されている前アクションと後アクションすべてが実行されます。
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

このリソース上のすべてのユーザーに対して、次のタスクを制御するリソース属性を定義できます。

- ユーザーの作成時にホームディレクトリを作成する
- ユーザーの作成時にユーザーのホームディレクトリにファイルをコピーする
- ユーザーの削除時にホームディレクトリを削除する

## アカウント属性

次の表に、HP-UX ユーザーアカウント属性の一覧を示します。特に記載されていないかぎり、これらの属性は省略可能です。属性の型はすべて String です。

リソースユーザー属性	useradd での指定方法	説明
accountId	login	必須。ユーザーのログイン名。

リソースユーザー属性	useradd での指定方法	説明
comment	-c <i>comment</i>	ユーザーのフルネーム。
dir	-d <i>directory</i>	ユーザーのホームディレクトリ。このアカウント属性で指定された値はすべて、「ホームベースディレクトリ」リソース属性で指定された値よりも優先されます。
expire	-e <i>expiration date</i>	アカウントにアクセスできる最終日付。
group	-g <i>group</i>	ユーザーの一次グループ。
inactive	-f <i>days</i>	アカウントが非アクティブになってからロックされるまでの日数。
secondary_group	-G <i>group</i>	ユーザーの二次グループ (1 つまたは複数) のコマンド区切りリスト。  ロールを有効にしてこの属性をプロビジョニングするには、'csv=true' を Role オブジェクト XML の RoleAttribute 要素に追加する必要があります。
shell	-s <i>/Path</i>	ユーザーのログインシェル。  NIS マスターにプロビジョニングしている場合、ユーザーシェルの値は NIS マスターのみでチェックされます。ユーザーがログオンする可能性のあるその他のマシンに対するチェックは、実行されません。
time_last_login	最終コマンドから取得されます。	最終ログインの日時。この値は読み取り専用です。
uid	-u <i>User ID</i>	数字形式でのユーザー ID。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次のネイティブ HP-UX オブジェクトを管理します。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Group	作成、更新、削除、名前の変更、名前を付けて保存	groupName、gid、users

# アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

### 組み込みのフォーム

- HP-UX Group Create Form
- HP-UX Group Update Form

### その他の利用可能なフォーム

`HP-UXUserForm.xml`

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.HPUXResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SVIDResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.ScriptedConnection`

# INISafe Nexess

INISafe Nexess リソースアダプタは、  
`com.waveset.adapter.INISafeNexessResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

INISafe Nexess リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加します。  
`com.waveset.adapter.INISafeNexessResourceAdapter`
2. 次の JAR ファイルを `%WSHOME%\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

JAR ファイルの名前	取得方法
<code>concurrent.jar</code>	<a href="http://www.jboss.org/products/jboss-cache">http://www.jboss.org/products/jboss-cache</a>
<code>crimson.jar</code>	<a href="http://ant.apache.org/bindownload.cgi">http://ant.apache.org/bindownload.cgi</a>
<code>external-debug.jar</code>	INITECH のサポートにお問い合わせください。
<code>INICrypto4Java.jar</code>	INISafe Nexess と一緒にインストールされなければ INITECH のサポートにお問い合わせください。
<code>jdom.jar</code>	<a href="http://jdom.org/downloads/index.html">http://jdom.org/downloads/index.html</a>
<code>log4j-1.20.6.jar</code>	<a href="http://logging.apache.org/log4j/docs/download.html">http://logging.apache.org/log4j/docs/download.html</a>

## 使用上の注意

このアダプタは、ユーザーの作成、更新、削除のみをサポートしています。調整やリソースからのデータのロードは実行できません。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

## サポートされる接続

INISafe Nexess との通信は、com.initech.eam.api クラスを使用して実行されます。

## 必要な管理特権

管理者に Nexess Daemon とログインサーバーへのアクセス権を与えてください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	該当なし。

このアダプタでは、ユーザーを個別に作成、削除、更新することのみができます。

## アカウント属性

次の表に、INISafe Nexess ユーザーアカウント属性の一覧を示します。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
accountId	String	必須。ユーザーのアカウント ID。
パスワード	Encrypted	必須。ユーザーのパスワード。
fullname	String	必須。ユーザーのフルネーム。
email	String	必須。ユーザーの電子メールアドレス。
enable	String	ユーザーが有効であるかどうかを示します。この属性はデフォルトでは表示されません。

その他のアカウント属性を追加する場合は、リソースのユーザー属性名を次のいずれかの形式にしてください。

- `Account.name`
- `Attribute.name`
- `Field.name`

たとえば、sn という名前のフィールドは、`Field.sn` というリソースユーザー属性名を持ちます。

リソースにアカウントがある場合は、`Account.accounts` という名前のリソースユーザー属性を追加する必要があることもあります。アカウント名は、次の3つのフィールドによるコンマ区切り値 (CSV) 文字列として並べられます。

`ServiceName, accountId, password`

ユーザーフォームによってこれらの文字列を構築および分解する必要があります。

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

`com.waveset.adapter.INISafeNexessResourceAdapter`



# JMS リスナー

JMS リスナーアダプタは、JMS 準拠のメッセージングシステムキューまたはトピックからのメッセージに対して Active Sync 処理を実行できるようにする JMS (Java Message Service) クライアントです。

このアダプタはソース専用アダプタで、メッセージをキューやトピックに書き戻すことはできません。

JMS リスナーリソースアダプタは、`com.waveset.adapter.JmsListenerResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

JMS リスナーアダプタは、JMS (Java Message Service) オープン標準のバージョン 1.1 以降をサポートするメッセージングシステムに対してのみ相互作用します。

このアダプタは、指定した接続ファクトリおよび宛先の標準の JNDI 検索によって、ソース JMS メッセージングシステムトピックまたはキューと相互作用します。したがって、メッセージングシステムの管理者は、接続ファクトリと宛先があらかじめ作成済みで、標準の JNDI 検索によって使用可能であることを確認する必要があります。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

JMS リスナーリソースアダプタは、次のものをサポートするアプリケーションサーバー環境でのみ使用されます。

- Client API for JMS、バージョン 1.1 以降
- JNDI (Java Naming and Directory Interface) API 1.1 以降

アプリケーションサーバーの管理者は、Identity Manager の Web アプリケーションが、ソース JMS メッセージングシステムに適した JMS 接続ファクトリと宛先オブジェクトに対して、JNDI 経由で正常にバインドできることを確認する必要があります。

## 使用上の注意

ここでは、JMS リスナーリソースアダプタの使用に関する情報を示します。次のトピックで構成されています。

- [接続](#)
- [メッセージマッピング](#)
- [保証される配信 / 信頼される処理](#)
- [ライフサイクルリスナー](#)

- 再接続
- JMX 監視

## 接続

Active Sync 処理が開始されると、まず、「**接続ファクトリの JNDI 名**」リソースパラメータフィールドで指定された接続ファクトリを使用して、ソースメッセージングシステムへの接続が作成されます。「**ユーザー**」および「**パスワード**」フィールドが指定されている場合は、接続を確立するときに、これらが認証に使用されます。これらのフィールドが指定されていない場合は、デフォルトの認証を使用して接続が確立されます。

JMS リスナーアダプタは、同期モードで操作します。「**宛先の JNDI 名**」フィールドによって指定されたキューまたはトピックの宛先で、同期メッセージコンシューマが確立されます。各ポーリング間隔で、アダプタは提供されるすべてのメッセージを受信および処理します。「**メッセージセクタ**」フィールドの有効な JMS メッセージセクタ文字列を定義することで、メッセージを必要に応じて追加修飾することもできます。

接続ファクトリと宛先の属性によって、指定した宛先タイプに対応するオブジェクトを指定します。宛先タイプに「**永続性トピック**」を指定した場合、「**永続性トピック ClientID**」および「**永続性トピック登録ラベル**」という追加フィールドを使用して、永続性登録を設定します。

## メッセージマッピング

修飾されたメッセージをアダプタが処理する場合、まず、「**メッセージマッピング**」フィールドによって指定されたメカニズムを使用して、受信した JMS メッセージを名前付きの値のマップに変換します。出来上がったマップは、メッセージ値マップと呼ばれます。

次に、メッセージ値マップは、アカウント属性のスキーママップを使用して、Active Sync マップに変換されます。アダプタにアカウント属性が指定されている場合、アダプタは、スキーママップにリソースユーザー属性としても表示されているキー名で、メッセージ値マップを検索します。値が存在すれば Active Sync マップにコピーされますが、Active Sync マップ内のエントリ名は、スキーママップ内のアイデンティティシステムのユーザー属性の列で指定された名前に変換されます。

メッセージ値マップにアカウント属性のスキーママップを使用して変換できないエントリが存在する場合は、メッセージ値マップのエントリは、変更されずに Active Sync マップにコピーされます。

## 保証される配信 / 信頼される処理

配信の保証は、メッセージの送信者側に責任があります。持続的に送信されるメッセージのみが、メッセージングシステムによって配信されるまで格納されます。これにより、メッセージングシステムのクラッシュやダウンによってメッセージが失われる心配がなくなります。この仕組みは **once-and-only-once** 配信と呼ばれます。

「**Reliable Messaging サポート**」フィールドは、アダプタが実行する信頼性の高いメッセージ処理の書式を示しています。

- LOCAL に設定すると、アダプタに対して JMS セッションが実行されます。このセッションは、各処理段階でどのようなエラーが発生しても、常にメッセージの処理後に確定されます。これによって、メッセージが一度だけ処理されることが確実になります。
- AUTO に設定すると、セッションは処理されませんが、メッセージは AUTO\_ACK の JMS 定義に従って即座に自動認識されます。
- DUPS\_OK に設定すると、セッションは処理されませんが、メッセージは DUPS\_OK\_ACK の JMS 定義に従って即座に自動認識されます。
- CLIENT に設定すると、セッションは処理されず、メッセージはアダプタに認識されません。その代わりに、「**メッセージライフサイクルリスナー**」フィールドに指定されたライフサイクルリスナーが、必要に応じてメッセージを認識します。ライフサイクルリスナーは、認識の予期される標準的な段階で、AWAITING\_CLIENT\_ACK ライフサイクルイベントによって呼び出されます。このモードが必要になることは非常にまれです。

## ライフサイクルリスナー

「**メッセージライフサイクルリスナー**」フィールドでは、任意のライフサイクルリスナークラスをアダプタに登録できます。ライフサイクルリスナーを使用すると、次のものを実行できます。

- アダプタの処理段階のカスタムログ
- アダプタの処理段階におけるデータのカスタム操作
- CLIENT\_ACK モードで受信したメッセージのカスタム認識

## 再接続

メッセージングシステムに対する接続を失った場合 (メッセージングシステムサーバーがシャットダウンされた場合など)、リスナーを再度確立するために、メッセージングシステムに対して定期的に再接続を試みるように、アダプタを設定できます。

「**例外発生時に再初期化**」チェックボックスをオンにすると、再接続動作が使用可能になります。「**接続再試行間隔 (秒)**」フィールドを使用して、再接続の試行間隔が設定できます。

## JMX 監視

JMS リスナーアダプタは、Java Management Extensions (JMX) で監視できる複数の属性および操作を提供します。Identity Manager サーバーにおける JMX の設定の詳細は、『Identity Manager 管理ガイド』の設定に関する章を参照してください。

Active Sync プロセスが実行されている (かつ信頼できる MBean を含む) サーバーでは、指定されたウィンドウの時間に基づいて統計値が計算されます。`setWindowMillis` 操作は、ウィンドウ期間を設定します。統計値が計算されるたびに、統計ウィンドウの実際の期間が `ActualWindowTime` 属性として記録されます。

たとえば `setWindowMillis` 操作が 10000 (10 秒) に設定できても、`ActualWindowTime` には実際のウィンドウが 10.005 秒であったことを示す値 10005 が含まれる可能性があります。`MsgCountInWindow` などその他の属性は、実際のウィンドウを使用して統計値を計測またはカウントします。`MsgCountInWindow` に値 63 が含まれる場合、10.005 秒間に 63 個のメッセージが JMS から取得されたこととなります。

次の表に、アダプタが JMX で使用できるようにする属性および操作を示します。属性および操作は、JMX コンソールから `IDM/Cluster/Synchronization/Active Sync/JMS Listener/SyncStats:DestinationName` で確認できます。`DestinationName` の値は、「宛先タイプ」および「宛先の JNDI 名」リソースパラメータの値を結合して生成されます。

### JMX の属性

属性	説明
<code>ActualWindowTime</code>	最新のウィンドウの実際の時間 (ミリ秒) を示します。
属性	アダプタのリソースパラメータの値を一覧表示します。
<code>Authoritative</code>	サーバーが Active Sync プロセスを実行しているサーバーであるかどうかを示します。
<code>AvgMsgWaitTime</code>	メッセージの待機に費やされた平均の時間 (ミリ秒) を示します。
<code>AvgProcessTime</code>	メッセージの処理に費やされた平均の時間 (ミリ秒) を示します。
<code>CurrentMsgWaitStart</code>	現在のメッセージ待機の待機が開始した日付と時刻を示します。保留中の待機がない場合は NULL です。
<code>CurrentMsgWaitTime</code>	メッセージの待機に費やされたミリ秒を示します。
<code>CurrentPollStart</code>	Active Sync が現在実行中の場合に、Active Sync が最後に開始した日付と時刻を示します。
<code>CurrentProcessStart</code>	現在処理中のメッセージの処理が開始した日付と時刻を示します。

属性	説明
CurrentProcessTime	現在のメッセージの処理に費やされたミリ秒の合計を示します。値が0の場合は、メッセージが処理されていないことを示しています。
LastCalculatedPollTime	現在のポーリングが含まれるポーリンググループにおけるミリ秒について、最後に計算された時点での合計を示します。
MaxMsgWaitTime	1メッセージの待機に費やされる最大ミリ秒を示します。
MaxPollTime	1ポーリングサイクルの最大ミリ秒を示します。
MaxProcessTime	1メッセージの処理に費やされる最大ミリ秒を示します。
MsgCountInWindow	最後のウィンドウの時間中に受信したメッセージ数を示します。
MsgPerUnittime	指定されたウィンドウ中に処理されたメッセージ数を示します。
PollMsgWaitPercent	メッセージの待機に費やされた時間の割合を示します。
PollOtherPercent	オーバーヘッドとして費やされた時間の割合を示します。
PollProcessPercent	メッセージの処理に費やされた時間の割合を示します。
PollStatistics	最新のウィンドウの実際の時間を示します。
TotMsgCount	受信したメッセージの合計数を示します。
TotMsgWaitTime	メッセージの待機に費やされたミリ秒の合計を示します。
TotProcessTime	メッセージの処理に費やされたミリ秒の合計を示します。

## JMX の操作

操作	説明
getWindowMillis	統計ウィンドウの期間 (ミリ秒) を取得します。この操作は、 <b>Authoritative</b> 属性が <b>true</b> の場合のみ使用できます。
refreshAttributes	リソース属性の最新の値を返します。
resetStatistics	アダプタの統計値をリセットします。この操作は、 <b>Authoritative</b> 属性が <b>true</b> の場合のみ使用できます。
setWindowMillis	統計ウィンドウの期間 (ミリ秒) を設定します。この操作は、 <b>Authoritative</b> 属性が <b>true</b> の場合のみ使用できます。

# セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

## サポートされる接続

多くのメッセージングシステムが、クライアントとブローカ間のメッセージの暗号化機能をサポートしています。設定方法は、メッセージングシステムによって異なります。ただし、通常、暗号は抽象化されるので、JMS リスナーアダプタとメッセージングシステムのブローカ間の暗号を有効にするには、特別に設定された接続ファクトリを選択するだけで十分です。

## 必要な管理特権

JMS リスナーアダプタに対して設定するユーザーおよびパスワードは、JMS メッセージングシステムで認証されたユーザーでなくてはなりません。また、そのユーザーには、JMS 宛先からのメッセージを読み取るために十分な特権を許可してください。

メッセージングシステム管理者は、デフォルト認証を無効にすることで、JMS 接続を保護するようにしてください。それ以上の保護については、メッセージングシステム管理者が、承認 (アクセス制御) を設定してセキュリティーを最適化します。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、JMS リスナーアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの作成	使用不可
アカウントの更新	使用不可
アカウントの削除	使用不可
アカウントの有効化 / 無効化	使用不可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	なし

## アカウント属性

アカウント属性はトピックまたはキューから読み取られるメッセージによってかなり異なるため、JMS リスナーアダプタにはデフォルトのアカウント属性が用意されていません。

アイデンティティシステムユーザー属性の名前が `accountId` であるアカウント属性を定義してください。

## リソースオブジェクトの管理

サポート対象外。

## アイデンティティテンプレート

なし。有効な値を持つアイデンティティテンプレートを設定してください。

## サンプルフォーム

`JmsListenerActiveSync.xml`

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.JmsListenerResourceAdapter
```

リソースインスタンスに対して、次の Active Sync ログパラメータを設定することもできます。

- ログアーカイブの最大数
- アクティブログの最大有効期間
- ログファイルの最大サイズ
- ログファイルパス
- ログレベル

タイプ **JMS** リスナーのリソースを作成時または編集時に、リソースウィザードの「設定のテスト」ボタンを使用すると、広範囲に及ぶチェックが実行されます。これは、設定上の問題のトラブルシューティングに非常に役立ちます。

また、**Send JMS Message** という名前のレポートでは、キューやトピックにメッセージを送信または発行するための単純なツールも使用できます。このレポートを使用するには、最初に交換ファイル `$WSHOME/sample/SendJMSMessageReport.xml` をインポートします。すると、**Send JMS Message** レポートのインスタンスを作成できます。このレポートのインスタンスが実行されているときには、指定したキューまたはトピックに、指定したメッセージが書き込まれます。

# LDAP

Identity Manager は、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) v3 をサポートするリソースアダプタを提供します。このアダプタのクラス名は、`com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter` です。

LDAP アダプタは、標準 LDAP インストールのプロビジョニングサービスを提供します。LDAP サーバーのレプリケーションの更新履歴ログを読み取り、それらの変更を Identity Manager ユーザーまたはカスタムワークフローに適用することもできます。

---

**注** LDAP ChangeLog Active Sync アダプタおよび LDAP リスナー Active Sync は非推奨になりました。これらのアダプタのすべての機能は、LDAP リソースアダプタに統合されました。

---

## リソースを設定する際の注意事項

LDAP アダプタで使用するための Sun Java™ System Directory Server リソースを設定するには、サーバーを設定して更新履歴ログを有効にし、変更情報の追跡を有効にします。この操作は、ディレクトリサーバーの設定タブで行います。

1. 「レプリケーション」フォルダをクリックし、更新履歴ログを有効にします。5.0 以降のサーバーでは、RetroChangelog スナップインも有効にします。設定タブで、プラグインオブジェクトに移動し、旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインを選択して有効にします。
2. 新規作成または変更されたエントリの特殊な属性を維持するようにサーバーが設定されていることを確認するには、Directory Server コンソールの「設定」タブをクリックし、左側の区画でナビゲーションツリーのルートエントリを選択します。
3. 「設定」サブタブをクリックし、「エントリの変更時間を記録」ボックスにチェックマークが付いていることを確認します。

サーバーは、イベントが Identity Manager から起動されたかどうかを判断するために、新しく作成または変更したエントリに、次の属性を追加します。

- **creatorsName:** そのエントリを最初に作成したユーザーの DN。
- **modifiersName:** そのエントリを最後に変更したユーザーの DN。

自己署名付き証明書が実装されたディレクトリサーバーに SSL 経由で接続するには、次の手順を実行します。

1. CA 証明書をディレクトリサーバーから一時ファイルにエクスポートします。たとえば、Sun Java™ System Directory Server の場合は、次のコマンドを入力します。

```
certutil -L -d DB_Directory -P slapd-HostName- -n Nickname -a >
ds-cert.txt
```

2. この証明書をキーストアにインポートします。

```
cd $JAVA_HOME/jre/lib/security

keytool -import -file PathTo/ds-cert.txt -keystore ./cacerts
-storepass changeit -trustcacerts
```

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

ここでは、LDAP リソースアダプタの使用に関する情報を示します。次のトピックで構成されています。

- [全般的な注意事項](#)
- [Directory Server 向けの仮想リスト表示のサポート](#)
- [ADAM のサポート](#)

LDAP リソース上のパスワード同期の有効化については、[529 ページの「LDAP パスワードの同期」](#)を参照してください。

### 全般的な注意事項

- LDAP に接続するときは、管理者アカウント `CN=Directory Manager` を使用するのではなく、Identity Manager サービスアカウントを作成するようにしてください。LDAP Directory Server 管理ツールを使用して、各ベースコンテキストで `ACI` (アクセス制御命令) を介してアクセス権を設定します。

`ACI` でのアクセス権をソースに基づいて設定します。アダプタからアイデンティティ情報の源泉となるソースに接続する場合は、読み取り、検索、および (場合によっては) 比較のアクセス権のみを設定します。アダプタを書き戻し用を使用する場合は、書き込みと (場合によっては) 削除のアクセス権を設定します。

---

**注** 更新履歴ログの監視にアカウントを使用する場合は、cn=changelog で ACI も作成するようにしてください。更新履歴ログのエントリに対しては書き込みも削除もできないため、アクセス権は読み取りと検索のみに設定するとよいでしょう。

---

- LDAP アダプタは、別名を管理できます。ただし、getUser の呼び出しが実行される場合、別名が逆参照されて、アダプタは参照先オブジェクトを返します。結果として、アダプタは別名オブジェクト自体の属性を検索しません。

これは、JNDI のデフォルトが次の設定になっているために発生します。

```
java.naming.ldap.derefAliases=always
```

このプロパティは、次の行が含まれる jndi.properties ファイルを作成することでグローバルに変更できます。

```
java.naming.ldap.derefAliases=never
```

jndi.properties ファイルは、Java ライブラリパス (\$WSHOME/WEB-INF/classes など) に配置する必要があります。変更を有効にするために、アプリケーションサーバーを再起動します。

- 同期ポリシーを編集するときは、「変更者フィルタ」フィールドの値を指定してください。標準の値は、このアダプタで使用される管理者の名前です。管理者の名前を入力すると、無限ループが発生することを防ぐことができます。エントリの形式は、cn=Directory Manager です。

## Directory Server 向けの仮想リスト表示のサポート

---

**注** ここでは、Identity Manager が RootDN 以外のユーザーとして LDAP リソースに接続することを前提としています。RootDN ユーザーとして接続する場合は、ここで説明する手順を適用できますが、ほかの LDAP 属性値でも可能な場合があります。詳細は、Directory Server のマニュアルを参照してください。

Microsoft ADAM でこの機能を有効にする方法については、[180 ページの「ADAM スキーマの修正」](#)を参照してください。

---

Directory Server では、検索できる LDAP エントリの数と取得できる LDAP エントリの数を、それぞれ nsLookThroughLimit 属性と nsslapd-sizelimit 属性によって定義します。nsLookThroughLimit のデフォルト値は 5,000 ですが、nsslapd-sizelimit のデフォルトは 2,000 です。どちらの属性も、-1 を設定することにより制限を無効にできます。これらの属性の値を変更した場合は、Directory Server を再起動してください。

必ずしもデフォルト値を変更した方がよいとは限りません。LDAP 検索のパフォーマンスを向上させるために、LDAP 仮想リスト表示 (VLV) コントロールを有効にできます。VLV は、一度にすべての検索結果を返さず、検索結果の一部を返します。

「**ブロックを使用**」リソース属性を使用すると、VLV コントロールの使用によって Identity Manager のクエリー結果を常にサイズ制限の範囲内に収めることができます。「**ブロック数**」リソース属性は、取得するユーザーの数を指定しますが、この値は `nsslapd-sizelimit` 属性に設定された値より小さいかまたは等しい値にする必要があります。

VLV インデックス (参照インデックスとも呼ばれる) を作成してください。作成しないと、`nsslapd-sizelimit` によるサイズ制限が有効なままになります。VLV インデックスによってアカウントの反復処理のパフォーマンスが大幅に向上するため、調整、リソースからの読み込み、またはファイルへのエクスポートを頻繁に行う予定である場合は、インデックスを設定するようにしてください。

VLV インデックスの作成の詳細な手順については、Directory Server のマニュアルを参照してください。基本的なプロセスは次のとおりです。

1. 次のプロパティを持つ `vlvsearch` オブジェクトを作成します。

```
vlvbase: YourBaseContext
```

```
vlvfilter: (&(objectclass=top)(objectclass=person)
(objectclass=organizationalPerson)(objectclass=inetorgperson))
```

```
vlvscope: 2
```

`vlvbase` 属性は、「ベースコンテキスト」リソース属性に指定した値と一致させてください。`vlvfilter` 属性には、「オブジェクトクラス」リソース属性に指定したクラスを、ここに示した形式で含めてください。`vlvscope` の値 2 は、サブツリー検索を示します。

2. `vlvindex` コンポーネントを `vlvsearch` のサブオブジェクトとして作成します。`vlvsort` 属性を `uid` に設定してください。
3. `vlvindex` コマンドまたはほかのメカニズムを使用して、VLV インデックスを構築します。
4. ACI (アクセス制御命令) を介して次の項目のアクセス権を設定します。
  - `vlvsearch` オブジェクト
  - `vlvindex`
  - インデックスが作成されたディレクトリ

更新履歴ログの VLV を設定するには、次の一般的な手順に従います。詳細な手順については、Directory Server のマニュアルを参照してください。

1. 更新履歴ログの参照インデックスをまだ作成していない場合は、作成します。  
Directory Server のユーザーインターフェースを使用すると、デフォルトで、"MCC cn=changelog" という名前の vlvsearch オブジェクトと "SN MCC cn=changelog" という名前の vlvindex オブジェクトが作成されます。
2. アクセス制御命令 (ACI) を介してアクセス権を設定し、Identity Manager アカウントが次の項目の読み取り、比較、および検索の権限を持つようにします。
  - 更新履歴ログ (cn=changelog)
  - vlvsearch オブジェクト (cn="MCC cn=changelog",cn=config,cn=ldbm)
  - vlvindex オブジェクト ("SN MCC cn=changelog",cn=config,cn=ldbm)

---

**注** Directory Server の一部のバージョンでは、更新履歴ログの nsLookThroughLimit 属性に 5,000 という値がハードコードされます。更新履歴ログの検索制限に達しないようにするには、サーバーに保持される更新履歴ログのエントリの最大数を 5,000 未満に制限します。更新履歴ログのエントリが消失しないようにするには、アダプタのポーリング頻度を短い間隔に設定します。

---

## アカウントの無効化と有効化

LDAP アダプタには、LDAP リソース上のアカウントを無効にするための方法が複数用意されています。アカウントを無効にするには、次のいずれかの手法を使用します。

### パスワードを不明な値に変更する

アカウントのパスワードを不明な値に変更することによってアカウントを無効にするには、「LDAP アクティブ化メソッド」フィールドと「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドを空白のままにします。これは、アカウントを無効にするときのデフォルトの方法です。無効になったアカウントは、新しいパスワードを割り当てることによって再度有効にできます。

### nsmanageddisabledrole ロールを割り当てる

nsmanageddisabledrole LDAP ロールを使用してアカウントの無効化と有効化を行うには、LDAP リソースを次のように設定します。

1. 「リソースパラメータ」ページで、「LDAP アクティブ化メソッド」フィールドを nsmanageddisabledrole に設定します。
2. 「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドを *IDMAttribute*=CN=nsmanageddisabledrole,*baseContext* に設定します。  
(*IDMAttribute* は、次の手順でスキーマに指定します。)
3. 「アカウント属性」ページで、*IDMAttribute* をアイデンティティシステム ユーザー属性として追加します。リソースユーザー属性を nsroledn に設定します。  
この属性のタイプは文字列にしてください。

- LDAP リソース上に `nsAccountInactivationTmp` という名前のグループを作成し、`CN=nsdisabledrole,baseContext` をメンバーとして割り当てます。

これで、LDAP アカウントを無効にできます。LDAP コンソールを使用して検証するには、`nsaccountlock` 属性の値を確認します。値が `true` であれば、アカウントはロックされています。

あとでアカウントが再度有効にされると、ロールからアカウントが削除されます。

### ***nsAccountLock* 属性を設定する**

`nsAccountLock` 属性を使用してアカウントの無効化と有効化を行うには、LDAP リソースを次のように設定します。

- 「リソースパラメータ」ページで、「LDAP アクティブ化メソッド」フィールドを `nsaccountlock` に設定します。
- 「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドを `IDMAttribute=true` に設定します。( `IDMAttribute` は、次の手順でスキーマに指定します。) たとえば `accountLockAttr=true` とします。
- 「アカウント属性」ページで、「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドに指定した属性 (たとえば、`accountLockAttr`) をアイデンティティシステムユーザー属性として追加します。リソースユーザー属性を `nsaccountlock` に設定します。この属性のタイプは文字列にしてください。
- リソース上で、`nsAccountLock` LDAP 属性を `true` に設定します。

アカウントを無効化すると、Identity Manager は、`nsaccountlock` を `true` に設定します。また、すでに `nsaccountlock` が `true` に設定されていた LDAP ユーザーについても、無効と見なします。`nsaccountlock` の値が `true` 以外の値 (NULL を含む) に設定されている場合、そのユーザーは有効であるとみなします。

### ***nsmanageddisabledrole* 属性や *nsAccountLock* 属性を使用せずにアカウントを無効にする**

使用中のディレクトリサーバーでは `nsmanageddisabledrole` 属性や `nsAccountLock` 属性を使用できないが、アカウントを無効にする同様の方法がある場合は、「LDAP アクティブ化メソッド」フィールドに次のいずれかのクラス名を入力します。LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドに入力する値は、クラスによって異なります。

クラス名	使用する状況
com.waveset.adapter.util. ActivationByAttributeEnableFalse	ディレクトリサーバーは、属性を <b>false</b> に設定することによってアカウントを有効にし、属性を <b>true</b> に設定することによってアカウントを無効にします。
com.waveset.adapter.util. ActivationByAttributeEnableTrue	この属性をスキーママップに追加します。次に、「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドに、(スキーママップの左側に定義された)この属性の Identity Manager 名を入力します。  ディレクトリサーバーは、属性を <b>true</b> に設定することによってアカウントを有効にし、属性を <b>false</b> に設定することによってアカウントを無効にします。
com.waveset.adapter.util. ActivationByAttributePullDisablePushEnable	この属性をスキーママップに追加します。次に、「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドに、(スキーママップの左側に定義された)この属性の Identity Manager 名を入力します。  Identity Manager は、LDAP から属性と値のペアを引き出すことによってアカウントを無効にし、LDAP に属性と値のペアをプッシュすることによってアカウントを有効にします。  この属性をスキーママップに追加します。次に、「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドに属性と値のペアを入力します。スキーママップの左側に定義されている、属性の Identity Manager 名を使用します。
com.waveset.adapter.util. ActivationByAttributePushDisablePullEnable	Identity Manager は、LDAP に属性と値のペアをプッシュすることによってアカウントを無効にし、LDAP から属性と値のペアを引き出すことによってアカウントを有効にします。  この属性をスキーママップに追加します。次に、「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドに属性と値のペアを入力します。スキーママップの左側に定義されている、属性の Identity Manager 名を使用します。

クラス名	使用する状況
com.waveset.adapter.util. ActivationNsManagedDisabledRole	<p>ディレクトリは、特定のロールを使用してアカウントステータスを決定します。このロールにアカウントが割り当てられている場合、そのアカウントは無効になります。</p> <p>このロール名をスキーママップに追加します。次に、「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドに次の形式で値を入力します。</p> <p><i>IDMAttribute=CN=roleName,baseContext</i></p> <p><i>IDMAttribute</i> は、スキーママップの左側に定義されている、ロールの Identity Manager 名です。</p>

## ADAM のサポート

LDAP アダプタは、Microsoft の Application Directory Application Mode (ADAM) にプロビジョニングするように設定できます。次のそれぞれの節では、ADAM のサポートを有効にする方法について説明します。

- [ADAM スキーマの修正](#)
- [ADAM でのアカウントの有効化と無効化](#)

Active Sync は ADAM でサポートされていません。

### ADAM スキーマの修正

Identity Manager で使用するために ADAM スキーマの調整が必要なことがあります。リソーススキーマ、および LDAP リソースのアイデンティティテンプレートには、一意の識別子 (またはアカウント ID) への参照が含まれることがあります。ADAM は、次の点がその他の LDAP 実装と異なります。

- ADAM では、オブジェクトクラス定義は、単一の命名属性だけを許容します。命名属性は、DN の一番左にある RDN コンポーネントに現れる属性です。
- uid 属性は、複数值として定義されます。
- cn 属性は、単一値として定義され、64 文字以下にする必要があります。

ADAM スキーマは、属性インデックス設定を定義します。スキーマの各属性定義エントリには searchFlags 属性があります。たとえば Uid は、スキーマコンテキストの cn=Uid,cn=Schema に位置します。searchFlags 属性は、ビットマスクであり、値 1 (インデックス作成)、2 (コンテナごとのインデックス作成)、および 64 (効率的な VLV クエリをサポートするインデックス) はインデックス作成に関連します。

LDAP リソースアダプタを使用した調整では、VLV ソート属性が ADAM でインデックス作成される必要があります。

ADAM インスタンスでスキーマを更新する詳細は、Microsoft のマニュアルを参照してください。

### ADAM でのアカウントの有効化と無効化

次の手順に従って、Identity Manager が ADAM のアカウントを有効および無効にできるようにします。

1. 「LDAP リソースパラメータ」ページで、「LDAP アクティブ化メソッド」パラメータを `com.waveset.adapter.util.ActivationByAttributePushDisablePullEnable` に設定します。
2. 「LDAP アクティブ化パラメータ」を `Identity_System_Attribute=true` に設定します。アイデンティティシステム属性は、次の手順で「アカウント属性」ページで指定します。たとえば `MyUserAccountDisabled=true` とします。
3. 「アカウント属性」ページで、「LDAP アクティブ化パラメータ」フィールドに指定したアイデンティティシステム属性をアイデンティティシステムユーザー属性として追加します。リソースユーザー属性を `msDS-UserAccountDisabled` に設定します。この属性のタイプは文字列にしてください。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、TCP/IP または SSL 経由の Java Naming and Directory Interface (JNDI) を使用して LDAP アダプタと通信します。

- TCP/IP を使用する場合は、「リソースパラメータ」ページでポート 389 を指定します。
- SSL を使用する場合は、ポート 636 を指定します。

### 必要な管理特権

「ユーザー DN」リソースパラメータに値 `cn=Directory Manager` を指定すると、Identity Manager 管理者には、LDAP アカウント管理に必要なアクセス権が付与されます。別の識別名を指定する場合は、そのユーザーに、ユーザーの読み取り、書き込み、削除、および追加のアクセス権を付与してください。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

## アカウント属性

属性がサポートされるかどうかは、通常、属性の構文 (または型) によって決まります。一般に、Identity Manager は boolean 型、文字列型、整数型、およびバイナリ型の構文をサポートします。バイナリ属性は、バイト配列としてのみ安全に表現できる属性です。

次の表に、サポートされている LDAP 構文の一覧を示します。ほかの LDAP 構文でも、事実上 boolean 型、文字列型、または整数型であれば、サポートされる可能性があります。オクテット文字列はサポートされません。

LDAP 構文	属性タイプ	オブジェクト ID
Audio	Binary	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.4
Binary	Binary	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.5
Boolean	Boolean	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.7
Country String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.11
DN	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.12
Directory String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15
Generalized Time	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.24
IA5 String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.26
Integer	Int	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.27

LDAP 構文	属性タイプ	オブジェクト ID
Postal Address	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.41
Printable String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.44
Telephone Number	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.50

## デフォルトのアカウント属性

次の属性は、LDAP リソースアダプタの「アカウント属性」ページに表示されます。特に記載されていないかぎり、属性の型はすべて **String** です。

アイデンティティシステムの属性	リソースユーザー属性	LDAP 構文	説明
accountId	uid	Directory string	ユーザー ID
accountId	cn	Directory string	必須。 ユーザーのフルネーム。
firstname	givenname	Directory string	ユーザーの名。
lastname	sn	Directory string	必須。 ユーザーの姓。
modifyTimeStamp	modifyTimeStamp	Generalized time	ユーザーエントリが変更された日時を示します。
パスワード	userPassword	Octet string	暗号化された値。 ユーザーのパスワード。

## グループ管理属性

次の表に示すアカウント属性は、デフォルトではスキーマに表示されません。グループを管理するには、これらの属性をスキーママップに追加してください。

アイデンティティシステム の属性	リソース ユーザー属性	LDAP 構文	説明
user defined	ldapGroups	ldapGroups	LDAP ユーザーがメンバーになっているグループの識別名のリスト。  リソース属性である「 <b>グループメンバー属性</b> 」では、ユーザーの識別名を含むように更新される LDAP グループエントリの属性を指定します。「 <b>グループメンバー属性</b> 」のデフォルト値は、 <code>uniquemember</code> です。
user defined	posixGroups	N/A	LDAP ユーザーがメンバーになっている <code>posixGroups</code> エントリの識別名のリスト。  アカウントに <code>Posix</code> グループのメンバーシップを割り当てるには、そのアカウントが <code>uid</code> LDAP 属性の値を持っている必要があります。 <code>posixGroup</code> エントリの <code>memberUid</code> 属性は、ユーザーの <code>uid</code> を含むように更新されます。

スキーママップに `posixGroups` または `ldapGroups` が定義されている場合は、次の動作に注意してください。

- LDAP アカウントが削除されると、Identity Manager はすべての LDAP グループからそのアカウントの DN を削除し、すべての `posixGroups` からそのアカウントの `uid` を削除します。
- アカウントの `uid` が変更されると、Identity Manager は、該当する `posixGroups` 内で、古い `uid` を新しい `uid` で置き換えます。
- アカウントの名前が変更されると、Identity Manager は、該当する LDAP グループ内で、古い DN を新しい DN で置き換えます。

## Person オブジェクトクラス

次の表に、LDAP Person オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。Person オブジェクトクラスに定義されている属性の一部は、デフォルトで表示されます。

アイデンティティシステム の属性	リソース ユーザー属性	LDAP 構文	説明
description	Directory string	String	ユーザーの特定の関心事についての簡潔でわかりやすい説明
seeAlso	DN	String	ほかのユーザーへの参照
telephoneNumber	Telephone number	String	第一電話番号

## Organizationalperson オブジェクトクラス

次の表に、LDAP `organizationalPerson` オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。このオブジェクトクラスは、`Person` オブジェクトクラスから属性を継承することもできます。

リソースユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
destinationIndicator	Printable string	String	この属性は、電報サービスに使用されます。
facsimileTelephoneNumber	Facsimile telephone number	String	第一 FAX 番号。
internationaliSDNNumber	Numeric string	String	オブジェクトに関連付けられた国際 ISDN 番号を指定します。
l	Directory string	String	都市、国、その他の地理的領域などの地域の名前
ou	Directory string	String	組織単位の名前
physicalDeliveryOfficeName	Directory string	String	配達物の送付先となるオフィス。
postalAddress	Postal address	String	ユーザーの勤務先オフィスの所在地。
postalCode	Directory string	String	郵便配達用の郵便番号。
postOfficeBox	Directory string	String	このオブジェクトの私書箱番号。
preferredDeliveryMethod	Delivery method	String	受取人への優先される送付方法
registeredAddress	Postal Address	String	受信者に配達を受け入れてもらう必要がある電報や速達文書の受け取りに適した郵便の宛先。
st	Directory string	String	州名または都道府県名。

リソースユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
street	Directory string	String	郵便の宛先の番地部分。
teletexTerminalIdentifier	Teletex Terminal Identifier	String	オブジェクトに関連付けられたテレテックス端末の識別子
telexNumber	Telex Number	String	国際表記法によるテレックス番号
title	Directory string	String	ユーザーの役職を格納します。このプロパティーは、一般に、プログラマーのような職種ではなく、「シニアプログラマー」のような正式な役職を示すために使用されます。通常、Esq. や DDS などの敬称には使用されません。
x121Address	Numeric string	String	オブジェクトの X.121 アドレス。

## inetOrgPerson オブジェクトクラス

次の表に、LDAP inetOrgPerson オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。このオブジェクトクラスは、organizationalPerson オブジェクトクラスから属性を継承することもできます。

アイデンティティシステムの属性	リソースユーザー属性	LDAP 構文	説明
audio	Audio	Binary	オーディオファイル。
businessCategory	Directory string	String	組織で実施されているビジネスの種類。
carLicense	Directory string	String	自動車の登録番号 (ナンバープレート)
departmentNumber	Directory string	String	組織内の部署を特定します
displayName	Directory string	String	エントリーを表示するときに優先的に使用されるユーザーの名前
employeeNumber	Directory string	String	組織内の従業員を数値で示します
employeeType	Directory string	String	従業員、契約社員などの雇用形態
homePhone	Telephone number	String	ユーザーの自宅電話番号。
homePostalAddress	Postal address	String	ユーザーの自宅住所。
initials	Directory string	String	ユーザーのフルネームの各部のイニシャル

アイデンティティシステムの属性	リソース ユーザー属性	LDAP 構文	説明
jpegPhoto	JPEG	Binary	JPEG 形式のイメージ。
labeledURI	Directory string	String	ユーザーに関連付けられた URI (Universal Resource Indicator) とオプションのラベル。
mail	IA5 string	String	1 つ以上の電子メールアドレス。
manager	DN	String	ユーザーのマネージャーのディレクトリ名。
mobile	Telephone number	String	ユーザーの携帯電話番号。
o	Directory string	String	組織の名前。
pager	Telephone number	String	ユーザーのポケットベル番号。
preferredLanguage	Directory string	String	優先される、ユーザーの書き言葉または話し言葉の言語。
roomNumber	Directory string	String	ユーザーのオフィスまたは部屋の番号。
secretary	DN	String	ユーザーの管理補佐のディレクトリ名。
userCertificate	certificate	Binary	バイナリ形式の証明書。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、デフォルトで次の LDAP オブジェクトをサポートします。文字列ベース、整数ベース、またはブールベースの属性も管理できます。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Group	作成、更新、削除、名前の変更、名前を付けて保存	cn、description、owner、uniqueMember
Posix Group	作成、更新、削除、名前の変更、名前を付けて保存	cn、description、gid、memberUid
Domain	検索	dc
Organizational Unit	作成、削除、名前の変更、名前を付けて保存、検索	ou
Organization	作成、削除、名前の変更、名前を付けて保存、検索	o

LDAP リソースアダプタは、`posixGroup` エントリの管理機能を提供します。デフォルトでは、`posixGroup` に割り当てることができるアカウントのリストに `posixAccount` オブジェクトクラスが含まれています。LDAP Create Posix Group Form と LDAP Update Posix Group Form をカスタマイズして、`posixAccount` 以外のアカウントを一覧表示できます。ただし、これらのアカウントに対して、`posixGroup` のメンバーになるための `uid` 属性を定義する必要があります。

## アイデンティティテンプレート

このリソースのアイデンティティテンプレートを指定する必要があります。

## サンプルフォーム

### 組み込みのフォーム

- LDAP Create Group Form
- LDAP Create Organization Form
- LDAP Create Organizational Unit Form
- LDAP Create Person Form
- LDAP Create Posix Group Form
- LDAP Update Group Form
- LDAP Update Organization Form
- LDAP Update Organizational Unit Form
- LDAP Update Person Form
- LDAP Update Posix Group Form

### その他の利用可能なフォーム

- LDAPActiveSyncForm.xml
- LDAPGroupCreateExt.xml
- LDAPGroupUpdateExt.xml
- LDAPgroupScalable.xml
- LDAPPasswordActiveSyncForm.xml

LDAPGroupCreateExt.xml フォームと LDAPGroupUpdateExt.xml フォームには、一意でないメンバー名を入力できません。

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスのうち 1 つ以上でトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapterBase`
- `com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter`



# Microsoft Identity Integration Server

Microsoft Identity Integration Server (MIIS) リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.MIISResourceAdapter` クラスで定義されています。

MIIS アダプタは、データベーステーブルリソースアダプタとして実装されています。このため、MIIS アダプタには同様のインストール要件があり、配下のデータベースと同じ管理特権が必要です。

MIIS アダプタは、次のデータベースシステムと組み合わせて使用できます。

- SQL Server
- DB2
- MySQL
- Oracle

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

ここに示すインストールの注意点では、SQL Server のデータベーステーブルを管理することを想定します。SQL Server 以外のデータベースを使用している場合は、そのデータベースに必要な JAR ファイルをコピーします。詳細は、該当するデータベースリソースアダプタの Identity Manager 上で設定する際の注意事項の節を参照してください。

MIIS リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 「管理するリソースの設定」ページの「リソース」セクションから「Microsoft Identity Integration Server」オプションを選択します。
2. Microsoft SQL Server 2005 Driver for JDBC を使用してリソースに接続する場合は、`mssqlserver.jar` ファイルを `InstallDir\idm\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC を使用してリソースに接続する場合は、次の JAR ファイルを `Program Files¥2000 Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC¥lib` ディレクトリから `InstallDir\idm\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

- `msbase.jar`
- `mssqlserver.jar`

- o msutil.jar

---

**注** SQL Server への接続は、すべて同じバージョンの JDBC ドライバを使用してください。これには、リポジトリだけではなく、SQL Server のアカウントまたはテーブルを管理または要求するすべてのリソースアダプタ (Microsoft SQL アダプタ、Microsoft Identity Integration Server アダプタ、データベーステーブルアダプタ、スクリプト JDBC アダプタ、これらのアダプタをベースとするすべてのカスタムアダプタなど) が含まれます。異なるバージョンのドライバを使用しようとすると、競合エラーが発生します。

---

## 使用上の注意

なし

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、JDBC を使用して MIIS アダプタと通信します。

### 必要な管理特権

ユーザーは、データベース内のフィールドの読み取り、書き込み、削除、および変更ができる必要があります。詳細は、データベースアダプタのマニュアルを参照してください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可

機能	サポート状況
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースからのデータのインポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

アカウント属性のリストは、MIIS リソースの設定中にどのデータベース列が管理される列として選択されたかによって決定されます。選択できるアカウント属性は、インストールごとに異なります。

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.MIISResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.JdbcResourceAdapter`



# Microsoft SQL Server

Microsoft SQL Server リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.MSSQLServerResourceAdapter` クラスで定義されています。

このアダプタを使用して、SQL Server 上の複数のデータベースを管理します。サーバー自体へのログインだけでなく、管理対象のデータベースへのログインも管理できます。

カスタム SQL テーブルがある場合、リソースアダプタウィザードを使用してカスタム Microsoft SQL テーブルリソースを作成する方法については、[117 ページの「データベーステーブル」](#)を参照してください。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

Microsoft SQL Server リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. このリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.MSSQLServerResourceAdapter
```

2. Microsoft SQL Server 2005 Driver for JDBC を使用してリソースに接続する場合は、`mssqlserver.jar` ファイルを `InstallDir\idm\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC を使用してリソースに接続する場合は、次の JAR ファイルを Program Files¥2000 Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC¥lib ディレクトリから `InstallDir\idm\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

- o `msbase.jar`
- o `mssqlserver.jar`
- o `msutil.jar`

---

**注** SQL Server への接続は、すべて同じバージョンの JDBC ドライバを使用して実行してください。これには、リポジトリだけではなく、SQL Server のアカウントまたはテーブルを管理または要求するすべてのリソースアダプタ (Microsoft SQL アダプタ、Microsoft Identity Integration Server アダプタ、データベーステーブルアダプタ、スクリプト JDBC アダプタ、これらのアダプタをベースとするすべてのカスタムアダプタなど) が含まれます。異なるバージョンのドライバを使用しようとすると、競合エラーが発生します。

---

## 使用上の注意

SQL Server では、次の 2 種類の認証を使用できます。

- **Windows 認証。**この場合、SQL Server はすべての認証とセキュリティーに関して Windows のメカニズムを信頼します。ユーザーが SQL Server にアクセスすると、SQL Server はユーザーのネットワークセキュリティー属性からユーザーとパスワードの情報を取得します。ユーザーに Windows 内部から SQL Server へのアクセス権が許可されている場合、そのユーザーは SQL Server に自動的にログインします。アダプタに渡されるアカウント ID は、`Domain\accountID` の形式にしてください。Windows 認証では、パススルー認証はサポートされていません。
- **混合モード認証。**このシナリオでは、Windows 認証と SQL Server 認証の両方が有効になります。ユーザーが信頼できない接続から指定されたログイン名とパスワードを使用して接続すると、SQL Server ログインアカウントが設定されているかどうか、および指定されたパスワードが以前に記録されたものと一致するかどうかを確認することにより、SQL Server はそれ自体で認証を行います。SQL Server にログインアカウントが設定されていない場合、認証は失敗し、ユーザーはエラーメッセージを受信します。

SQL Server リソースアダプタの Windows 認証モードを Microsoft SQL Server アダプタで設定できるのは、SQL Server サーバーインスタンスと同じ Windows セキュリティー / 認証フレームワークに含まれる Windows マシンで Identity Manager サーバーが実行されている場合のみです。

JDBC ドライバでは、`integratedSecurity` 接続文字列プロパティーを使用して、Windows オペレーティングシステムにおけるタイプ 2 の統合認証の使用をサポートします。統合認証を使用するには、`sqljdbc_auth.dll` ファイルを JDBC ドライバがインストールされているコンピュータの Windows システムパス上のディレクトリにコピーします。

`sqljdbc_auth.dll` ファイルは、次の場所にインストールされます。

`InstallationDirectory\sqljdbc_Version\Language\auth\`

32 ビットプロセッサでは、x86 フォルダの sqljdbc\_auth.dll ファイルを使用します。64 ビットプロセッサでは、x64 フォルダの sqljdbc\_auth.dll ファイルを使用します。

詳細については、次の記事を参照してください。

<http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/ms378428.aspx>

SQL Server リソースアダプタは、次のシステムプロシージャを使用してユーザーアカウントを管理します。

- sp\_addlogin、sp\_droplogin
- sp\_addrole
- sp\_addrolemember、sp\_droprolemember
- sp\_addsrvrolemember、sp\_dropsrvrolemember
- sp\_grantdbaccess
- sp\_helplogins
- sp\_helprole
- sp\_helpuser
- sp\_helpsrvrolemember
- sp\_password
- sp\_revokedbaccess

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL 経由の JDBC を使用して SQL Server と通信します。

### 必要な管理特権

次の表に、システムプロシージャを実行できるユーザーを示します。

システムプロシージャ	必要なアクセス権
sp_addlogin	<b>sysadmin</b> および <b>securityadmin</b> 固定サーバーロールのメンバー。
sp_addrole	<b>sysadmin</b> 固定サーバーロール、および <b>db_securityadmin</b> 固定データベースロールと <b>db_owner</b> 固定データベースロールのメンバー。

システムプロジェクター	必要なアクセス権
sp_addrolemember	<b>sysadmin</b> 固定サーバーロールと <b>db_owner</b> 固定データベースロールのメンバーは、sp_addrolemember を実行して固定データベースロールにメンバーを追加できます。ロールの所有者は、sp_addrolemember を実行して自分が所有する任意の SQL Server ロールにメンバーを追加できます。 <b>db_securityadmin</b> 固定データベースロールのメンバーは、任意のユーザー定義のロールにユーザーを追加できます。
sp_addsvrrolemember	<b>sysadmin</b> 固定サーバーロールのメンバー。
sp_droplogin	<b>sysadmin</b> および <b>securityadmin</b> 固定サーバーロールのメンバー。
sp_droprolemember	<b>sysadmin</b> 固定サーバーロール、 <b>db_owner</b> 固定データベースロール、および <b>db_securityadmin</b> 固定データベースロールのメンバーのみが、sp_droprolemember を実行できます。 <b>db_owner</b> 固定データベースロールのメンバーのみが固定データベースロールからユーザーを削除できます。
sp_dropsvrrolemember	<b>sysadmin</b> 固定サーバーロールのメンバー。
sp_grantdbaccess	<b>sysadmin</b> 固定サーバーロール、 <b>db_accessadmin</b> 固定データベースロール、および <b>db_owner</b> 固定データベースロールのメンバー。
sp_helplogins	<b>sysadmin</b> および <b>securityadmin</b> 固定サーバーロールのメンバー。
sp_helprole	デフォルトでは、 <b>public</b> ロールに実行権が設定されます。
sp_helpsrvrolemember	デフォルトでは、 <b>public</b> ロールに実行権が設定されます。
sp_helpuser	デフォルトでは、 <b>public</b> ロールに実行権が設定されます。
sp_password	自分のログイン用のパスワードを変更するユーザーのために、デフォルトで <b>public</b> ロールに実行権が設定されます。 <b>sysadmin</b> ロールのメンバーのみがほかのユーザーのログイン用のパスワードを変更できます。
sp_revokedbaccess	<b>sysadmin</b> 固定サーバーロール、 <b>db_accessadmin</b> 固定データベースロール、および <b>db_owner</b> 固定データベースロールのメンバー。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可

機能	サポート状況
パススルー認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 混合モード認証: 使用可</li> <li>• Windows 認証: 使用不可</li> </ul>
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リソースから直接インポート</li> <li>• リソースの調整</li> </ul>

## アカウント属性

次の表は、デフォルトのアカウント属性 (すべて **String**) の一覧です。

Identity Manager ユーザー属性	リソース ユーザー属性	説明
domain	IGNORE_ATTR	ユーザーが属するドメイン。
defaultDB	defaultDB	ユーザーがデフォルトで使用するデータベース。
serverRoles	serverRoles	ユーザーがメンバーになっているデータベースロール。

複数のデータベースを管理する可能性があるため、Identity Manager の管理者は、各データベースを管理するためのアカウント属性を追加する必要があります。ほかの管理対象データベースの属性と区別するため、これらの属性には属性名の一部としてデータベース名を含めてください。

Identity Manager ユーザー属性	データの種類	説明
userNameDBName	String	データベース上のアカウントのユーザー名。データベースの <b>userName</b> を設定することによってアカウントにデータベースへのアクセス権が与えられ、データベースの <b>userName</b> を消去することによってアクセス権が削除されます。
rolesDBName	String	データベース上のアカウントのロール。

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

`$domain$ $accountId$`

## サンプルフォーム

`MSSQLServerUserForm.xml`

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.MSSQLServerResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.JdbcResourceAdapter`

# MySQL

MySQL リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.MySQLResourceAdapter` クラスで定義されます。

このアダプタを使用して、MySQL にログインするためのユーザーアカウントをサポートします。カスタムテーブルがある場合、リソースアダプタウィザードを使用してカスタム MySQL テーブルリソースを作成する方法については、[117 ページの「データベーステーブル」](#)を参照してください。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

MySQL リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. このリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。  
`com.waveset.adapter.MySQLResourceAdapter`
2. <http://dev.mysql.com/downloads/#connector-j> にアクセスして、Connector/J JDBC ドライバの最新バージョンへのリンクを使用します。
3. ダウンロードしたファイルを解凍します。
4. `mysqlconnector-java-Version-bin.jar` ファイルを `InstallDir\idm\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

## 使用上の注意

Identity Manager は、「ユーザーモデル」リソースパラメータに指定されたユーザーのアカウントプロパティに基づいて新しいユーザーを作成します。ユーザーを作成するには、有効な値を指定する必要があります。

MySQL リソースアダプタは、MySQL のユーザーパスワードのみを更新できます。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL 経由の JDBC を使用して MySQL と通信します。

### 必要な管理特権

ユーザーを作成するためには、MySQL の root ユーザーであるか、GRANT 特権を持つ必要があります。ユーザーを削除するには、REVOKE 特権が必要です。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用不可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースからインポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

なし

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.MySQLResourceAdapter
```



# NetWare NDS

Identity Manager は、次の Novell 製品をサポートするアダプタを提供します。

- eDirectory を含む NetWare
- Novell SecretStore

NetWare NDS アダプタは、GroupWise アカウントもサポートします。

次の表に、Novell アダプタの属性の概要を示します。

GUI 名	クラス名
NetWare NDS	com.waveset.adapter.NDSResourceAdapter
NetWare NDS with SecretStore	com.waveset.adapter.NDSSecretStoreResourceAdapter

## リソースを設定する際の注意事項

ここでは、Identity Manager で使用する NetWare NDS リソースの設定手順を説明します。次のような手順があります。

- ゲートウェイロケーションのインストール手順
- ゲートウェイサービスアカウントの設定手順
- SecretStore 証明書の設定手順

### ゲートウェイロケーション

管理対象のドメインに接続できる任意の NDS クライアントに、Sun Identity Manager Gateway をインストールします。パススルー認証が有効である場合は、複数のゲートウェイをインストールするようにしてください。

### ゲートウェイサービスアカウント

デフォルトでは、ゲートウェイサービスはローカルシステムアカウントとして実行されます。これは、「サービス」MMC スナップインで設定できます。

ゲートウェイをローカルシステム以外のアカウントとして実行する場合は、ゲートウェイサービスアカウントに「Act As Operating System」ユーザー権限と「Bypass Traverse Checking」のユーザー権限が必要です。ゲートウェイは、パススルー認証や、特定の状況でのパスワードの変更およびリセットに、これらの権限を使用します。

事前のアクションや事後のアクションのスクリプトを実行するときは、ゲートウェイに「プロセスレベルトークンの置き換え」の権限が必要な場合があります。この権限は、ゲートウェイが別のユーザー（リソース管理ユーザーなど）としてスクリプトのサブプロセスを実行しようとする場合に必要です。この場合、ゲートウェイプロセスには、そのサブプロセスに関連付けられたデフォルトのトークンを置き換える権限が必要です。

この権限がない場合は、サブプロセスの作成中に次のエラーが返されることがあります。

```
"Error creating process: A required privilege is not held by the client"
```

「プロセスレベルトークンの置き換え」権限は、デフォルトのドメインコントローラのグループポリシーオブジェクトと、ワークステーションおよびサーバーのローカルセキュリティポリシーで定義されます。この権限をシステムに設定するには、「管理ツール」フォルダの「ローカルセキュリティポリシー」アプリケーションを開き、「ローカルポリシー」>「ユーザー権利の割り当て」>「プロセスレベルトークンの置き換え」に移動します。

## SecretStore 証明書

SecretStore をサポートするには、NDS システムから Identity Manager アプリケーションサーバーに SSL 証明書をエクスポートしてください。

この証明書を取得する方法の 1 つは、ConsoleOne を使用して公開鍵をエクスポートすることです。そのためには、ConsoleOne を起動し、SSL CertificateDNS オブジェクトに移動します。SSL CertificateDNS オブジェクトの「Properties」ダイアログで、「Certificates」タブから「Public Key Certificate」を選択します。「Export」ボタンをクリックして、証明書のエクスポートプロセスを開始します。非公開鍵をエクスポートする必要はありません。このファイルを DER 形式で保存します。

DER ファイルを Identity Manager アプリケーションサーバーにコピーします。次に、keytool またはその他の証明書管理ツールを使用して、証明書を `jdk\jre\lib\security\cacerts` の鍵ファイルに追加します。keytool ユーティリティーは、Java SDK に付属しています。keytool ユーティリティーについては、Java のマニュアルを参照してください。

# Identity Manager 上で設定する際の注意事項

NetWare NDS アダプタに必要な追加のインストール手順はありません。

リソースリストに NDS SecretStore リソースを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加します。

```
com.waveset.adapter.NDSSecretStoreResourceAdapter
```

2. jssso.jar ファイルを *InstallDir*\idm\WEB-INF\lib ディレクトリにコピーします。jssso.jar ファイルは、Novell SecretStore または Novell SecureLogin を含む NDS クライアントがインストールされている次のいずれかの場所から取得できます。
  - *NovellInstallDir*\ConsoleOne\version\lib\SecretStore
  - *NovellInstallDir*\ConsoleOne\version\lib\security

## 使用上の注意

ここでは、NetWare NDS リソースアダプタの使用に関連する情報を提供します。次のトピックで構成されています。

- [各種の注意点](#)
- [パススルー認証に関する注意事項](#)
- [ゲートウェイのタイムアウト](#)
- [GroupWise での NDS ユーザーの管理](#)
- [SecretStore と Identity Manager System Configuration オブジェクト](#)

### 各種の注意点

- Active Sync モードの NetWare NDS アダプタは、アカウントの削除を検出しません。このため、アカウントの削除を検出するように調整してください。
- NDS アダプタはテンプレートの値 (ユーザーの DS や FS の権限、ホームディレクトリ権限、新しいオブジェクトのトラスティーなど) をサポートします。
- 「リソース」ページ上の表示に関する問題を避けるには、「Identity Manager User Name Attribute」パラメータを cn に設定します。
- NDS では、名前のセグメントを指定するために、コンマの代わりにピリオドを使用します。コンマを指定すると、Identity Manager はエラーメッセージを返しません。
- ユーザーのホームディレクトリを作成できるように NDS リソースを設定するには、アカウント属性に次の 2 つの属性を追加してください。

**Home Directory - String。** この属性の形式は次のとおりです。

VolumeDN#NameSpaceType#DirectoryPath

次に例を示します。

SERVER\_SYS.MYORG#0#\Homes\bob\_smith。

NameSpaceType は、次のいずれかです。

- 0 - DOS の名前空間
- 1 - Macintosh の名前空間
- 2 - UNIX または NFS の名前空間
- 3 - FTAM の名前空間
- 4 - OS/2、Windows 95、または Windows NT の名前空間

**Create Home Directory - Boolean。** この属性は、実際のディレクトリを作成すべきかどうかを示すフラグの役割を果たします。このフラグが **true** に設定されている場合は、ディレクトリが作成されます。

- NDS アダプタで次のエラーが発生する場合があります。

```
NWDSAddSecurityEquiv: 0xFFFFFD9B (-613): ERR_SYNTAX_VIOLATION
```

この場合は、**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\Software\Waveset\Lighthouse\Gateway** の次のレジストリキーの値を増やす必要がある可能性があります。
  - `nds_method_retry_count` (デフォルトは 10)
  - `nds_method_retry_sleep_interval` (デフォルトは 1000 ミリ秒)
- NetWare API は、`getResourceObjects FormUtil` メソッドの `searchFilter` オプションと互換性がありません。
- NDS リソースに接続するアカウントが NDS の `loginMaximumSimultaneous` 属性によって制限されている場合は、**Connection Limit** リソースパラメータを、`loginMaximumSimultaneous` に指定された値以下に設定してください。

## パススルー認証に関する注意事項

Identity Manager 8.0 以前では、パススルー認証を実装するには、レジストリキーを編集して、パススルー認証を実行する専用の独立したリソースアダプタを作成する必要がありました。このアダプタは、固有のゲートウェイを通じて NetWare リソースと通信していました。

Identity Manager 8.0 では、NetWare リソースに対するパススルー認証を単一のリソースおよびゲートウェイで実行できるようになりました。8.0 より前のバージョンでパススルー認証を実装していた場合に、単一のリソースおよびゲートウェイを使用したいときは、次の手順を実行します。

1. NDS ログインモジュールグループからパススルー認証リソースを削除します。ログインモジュールグループの管理については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください。
2. パススルー認証リソースを Identity Manager から削除する場合は、先に System Configuration オブジェクトで共通リソース 属性を削除または変更します。

```
<Attribute name='common resources'>
  <Object>
    <Attribute name='NDS Group'>
      <List>
        <String>NDS_Resource_Host</String>
        <String>NDS_Passthrough_Host</String>
      </List>
    </Attribute>
  </Object>
</Attribute>
```

NDS グループに NDS リソースおよびパススルー認証ホストだけが含まれる場合は、Attribute 要素全体を削除します。それ以外の場合は、パススルー認証ホストを定義する文字列を削除します。

3. 「リソース」 ページからパススルー認証リソースを削除します。
4. パススルー認証ホストでゲートウェイが不要になった場合は、ゲートウェイサービスを無効にしてアプリケーションを削除することができます。

パススルー認証の設定については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください。

## ゲートウェイのタイムアウト

NetWare アダプタでは、RA\_HANGTIMEOUT リソース属性を使用してタイムアウト値を秒数で指定できます。この属性は、ゲートウェイに対する要求がタイムアウトしてハンクしているとみなされるまでの時間を制御します。

次のように、この属性を Resource オブジェクトに手動で追加する必要があります。

```
<ResourceAttribute name='Hang Timeout'
  displayName='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT' type='int'
  description='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT_HELP'
  value='NewValue'>
</ResourceAttribute>
```

この属性のデフォルト値は 0 であり、これは Identity Manager がハンクした接続を確認しないことを示します。

## GroupWise での NDS ユーザーの管理

GroupWise との統合が有効になっていると、NDS アダプタによって NDS ユーザーの GroupWise 属性を管理できます。NDS アダプタは、GroupWise ポストオフィスの NDS ユーザーの追加と削除をサポートします。また、ほかの GroupWise アカウント属性 (AccountID、GatewayAccess、DistributionLists など) を取得し、変更します。

### GroupWise 統合の有効化

GroupWise との統合を有効にするには、GroupWise ドメイン DN リソース属性の値を定義してください。この値は、管理する GroupWise ドメインの DN を指定します。この属性の値の例を次に示します。

```
CN=gw_dom.ou=GroupWise.o=MyCorp
```

NDS ツリーリソース属性は、配下に GroupWise ドメインが存在すると予測される NDS ツリーを定義します。つまり、GroupWise ドメインは、アダプタが管理する NDS ユーザーと同じツリーに配置してください。

### NDS ユーザーの GroupWise ポストオフィスの管理

アカウント属性 GW\_PostOffice は、GroupWise ポストオフィスを表します。

NDS ユーザーを GroupWise ポストオフィスに追加するには、GW\_PostOffice アカウント属性を、GroupWise ドメインに関連付けられた既存のポストオフィスの名前に設定します。

NDS ユーザーを別の GroupWise ポストオフィスに移動するには、GW\_PostOffice アカウント属性を、GroupWise ドメインに関連付けられた新しいポストオフィスの名前に設定します。

NDS ユーザーをポストオフィスから削除するには、GW\_PostOffice アカウント属性を GroupWise 削除パターンリソース属性と同じ値に設定します。GroupWise 削除パターンリソース属性のデフォルト値は \*TRASH\* です。

## SecretStore と Identity Manager System Configuration オブジェクト

デフォルトでは、SecretStore を含む NetWare NDS アダプタを使用してリソースオブジェクトを管理することはできません。この機能を有効にするには、System Configuration オブジェクトを編集してください。

次の行を見つけます。

```
<!-- form mappings -->
  <Attribute name='form'>
    <Object>
```

これらの行の直後に、次の行を追加します。

```
<!-- NetWare NDS with SecretStore -->
<Attribute name='NetWare NDS with SecretStore Create Group Form'
value='NetWare NDS Create Group Form' />

<Attribute name='NetWare NDS with SecretStore Update Group Form'
value='NetWare NDS Update Group Form' />

<Attribute name='NetWare NDS with SecretStore Create Organization Form'
value='NetWare NDS Create Organization Form' />

<Attribute name='NetWare NDS with SecretStore Update Organization Form'
value='NetWare NDS Update Organization Form' />

<Attribute name='NetWare NDS with SecretStore Create Organizational Unit
Form' value='NetWare NDS Create Organizational Unit Form' />

<Attribute name='NetWare NDS with SecretStore Update Organizational Unit
Form' value='NetWare NDS Update Organizational Unit Form' />

<Attribute name='NetWare NDS with SecretStore Create User Form'
value='NetWare NDS Create User Form' />

<Attribute name='NetWare NDS with SecretStore Update User Form'
value='NetWare NDS Update User Form' />
```

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

ゲートウェイサービスを使用して NetWare NDS のリソースに接続することをお勧めします。ゲートウェイサービスでは、ネットワーク上でパスワード情報を交換するために TCP/IP ソケット接続 (3 DES) が使用されます。

標準 LDAP または SSLP 上の LDAP を使用して NetWare NDS サーバーに接続することもできます。このシナリオでは、LDAP リソースアダプタを使用します。

### 必要な管理特権

Identity Manager の管理者は、NetWare ユーザーを作成するために適切な NDS 権限を持っている必要があります。デフォルトでは、NetWare 管理者は、ディレクトリおよび NetWare ファイルシステムのすべての権限を持っています。

パスワード管理を行うために、NDS 管理者は、次のプロパティに対する比較、読み取り、および書き込みの権限を持っている必要があります。

- Group Membership

- Locked By Intruder
- Login Intruder Attempts
- Login Intruder Reset Time
- Password Management

NDS SecretStore を使用して機能を実行する Identity Manager の管理者アカウントを、SecretStore 管理者として定義してください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可。ただし、NDS ユーザーも Group Wise アカウントを持っている場合は、名前変更がサポートされません。
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リソースから直接インポート</li> <li>• リソースの調整</li> <li>• Active Sync</li> </ul>

## アカウント属性

ここでは、次の NetWare NDS アカウント属性のサポートについて説明します。

- [属性構文のサポート](#)
- [アカウント属性のサポート](#)

属性がサポートされるかどうかは、通常、属性の構文 (または型) によって決まります。一般に、Identity Manager は boolean 型、文字列型、および整数型の構文をサポートします。

SYN\_CI\_LIST 構文を持つ属性 (Language など) と SYN\_PO\_ADDRESS 構文を持つ属性 (Postal Address など) の値は、\$ で区切られた文字列のリストにするようにしてください。SYN\_OCTET\_STRING 属性の値は、Base 64 でエンコードした、オクテットストリームのバイト文字列にしてください。

## 属性構文のサポート

次の「サポートされる構文」と「サポートされない構文」では、属性構文のサポートについて説明します。

### サポートされる構文

次の表に、サポートされる属性構文に関する情報を示します。

NDS 構文	属性タイプ	オブジェクト ID	構文 ID
Boolean	Boolean	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.7	SYN_BOOLEAN
Case Exact String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.26 2.16.840.1.113719.1.1.5.1.2	SYN_CE_STRING
Case Ignore List	String	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.6	SYN_CI_LIST
Case Ignore String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15	SYN_CI_STRING
Class Name	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.38	SYN_CLASS_NAME
Counter	Int	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.22	SYN_COUNTER
Distinguished Name	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.12	SYN_DIST_NAME
Fax Number	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.22	SYN_FAX_NUMBER
Integer	Int	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.27	SYN_INTEGER
Interval	Int	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.27	SYN_INTERVAL
Numeric String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.36	SYN_NU_STRING
Octet String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.40	SYN_OCTET_STRING
Path	String	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.15	SYN_PATH
Postal Address	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.41	SYN_PO_ADDRESS
Printable String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.44	SYN_PR_STRING
Stream	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.5	SYN_STREAM
Telephone Number	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.50	SYN_TEL_NUMBER
Time	Int	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.24	SYN_TIME

## サポートされない構文

次の表に、サポートされない構文に関する情報を示します。

NDS 構文	オブジェクト ID	構文 ID
Back Link	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.23	SYN_BACK_LINK
E-Mail Address	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.14	SYN_EMAIL_ADDRESS
Hold	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.26	SYN_HOLD
Net Address	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.12	SYN_NET_ADDRESS
Object ACL	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.17	SYN_OBJECT_ACL
Octet List	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.13	SYN_OCTET_LIST
Replica Pointer	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.16	SYN_REPLICA_POINTER
Timestamp	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.19	SYN_TIMESTAMP
Typed Name	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.25	SYN_TYPED_NAME
Unknown	2.16.840.1.113719.1.1.5.1.0	SYN_UNKNOWN

## アカウント属性のサポート

次の「サポートされるアカウント属性」と「サポートされないアカウント属性」では、属性のサポートについて説明します。

### サポートされるアカウント属性

次の属性は、NDS リソースアダプタの「アカウント属性」ページに表示されます。

リソースユーザー属性	NDS 構文	属性タイプ	説明
Create Home Directory	Boolean	Boolean	ユーザーのホームディレクトリを作成するかどうかを示します。 <b>Home Directory</b> パラメータを設定してください。
Description	Case Ignore String	String	ユーザーについて説明するテキスト。
Facsimile Telephone Number	Facsimile Telephone Number	String	電話番号および ( オプションで ) ユーザーに関連するファクシミリ端末用のパラメータ。
Full Name	Case Ignore String	String	ユーザーのフルネーム。

リソースユーザー属性	NDS 構文	属性タイプ	説明
Generational Qualifier	Case Ignore String	String	人の世代を示します。たとえば、Jr. や II などです。
Given Name	Case Ignore String	String	ユーザーの名。
Group Membership	Distinguished Name	String	ユーザーが属するグループのリスト。
GW_AccountID	適用不可	String	<b>GroupWise</b> アカウンティングの「ユーザー情報」フィールドに指定するアカウント ID。
GW_DistributionLists	適用不可	String	ユーザーがメンバーになっている配布リスト。値は、有効な配布リストの識別名 (DN) にしてください。
GW_GatewayAccess	適用不可	String	<b>GroupWise</b> ゲートウェイへのアクセスを制限します。このフィールドが適用されるかどうかについては、使用しているゲートウェイのマニュアルを参照してください。
GW_Name	適用不可	String	<b>GroupWise</b> のメールボックス名。
GW_PostOffice	適用不可	String	<b>GroupWise</b> ドメインに関連付けられた既存のポストオフィスの名前。
Home Directory	Path	String	クライアントの現在の作業ディレクトリの場所。詳細については、「使用上の注意」を参照してください。
Initials	Case Ignore String	String	ユーザーのミドルネームのイニシャル。
Internet EMail Address	Case Ignore String	String	インターネット電子メールアドレスを指定します。
L	Case Ignore String	String	物理的または地理的な場所。
Locked By Intruder	Boolean	Boolean	ログイン試行の失敗回数が多過ぎたためにアカウントがロックされたことを示します。
Login Grace Limit	Integer	Int	(古いパスワードの期限が切れたあとで) 古いパスワードを使用してそのアカウントにアクセスできる合計回数。

リソースユーザー属性	NDS 構文	属性タイプ	説明
Login Maximum Simultaneous	Integer	Int	1人のユーザーが同時に起動できる、認証されたログインセッションの数。
ou	Case Ignore String	String	組織単位の名前。
Password Allow Change	Boolean	Boolean	ユーザーがあるアカウントでログインしたときに、そのアカウントのパスワードを変更できるかどうかを決定します。
Password Expiration Interval	Interval	Int	パスワードがアクティブになっている期間。
Password Required	Boolean	Boolean	ユーザーがログインするにはパスワードが必要であることを設定します。
Password Unique Required	Boolean	Boolean	ユーザーパスワードを変更するときに、Passwords Used 属性に含まれるパスワードとは異なるパスワードを指定しなければならないことを設定します。
Surname	Case Ignore String	String	必須。個人が親から受け継ぎ(または結婚によって変更し)、一般に知られている名前。
Telephone Number	Telephone Number	String	ユーザーの電話番号。
Title	Case Ignore String	String	組織内部でユーザーに与えられた役職または職務。
userPassword	N/A	暗号化されています	必須。ユーザーのパスワード。

次の表に、NDS User オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。

リソースユーザー属性	NDS 構文	属性タイプ	説明
Account Balance	Counter	Int	ユーザーがネットワークサービス(接続時間など)を購入するために持っているクレジット額。

リソースユーザー属性	NDS 構文	属性タイプ	説明
Allow Unlimited Credit	Boolean	Boolean	ネットワークサービスを使用するために無制限のクレジット額をユーザーアカウントが持っているかどうかを示します。
audio	Octet String	String	バイナリ形式のオーディオファイル。
businessCategory	Case Ignore String	String	組織で実施されているビジネスの種類を示します。
carLicense	Case Ignore String	String	自動車の登録番号 (ナンバープレート)
departmentNumber	Case Ignore String	String	組織内の部署を特定します
displayName	Case Ignore String	String	管理者画面に表示される名前。
Employee ID	Case Ignore String	String	組織内の従業員を数値で示します
employeeType	Case Ignore String	String	従業員、契約社員などの雇用形態
Entrust:User	Case Exact String	String	Entrust ユーザーを指定します。
Higher Privileges	Distinguished Name	String	セキュリティーアクセス特権の代替セット。
homePhone	Telephone Number	String	ユーザーの自宅電話番号。
homePostalAddress	Postal Address	String	ユーザーの自宅住所。
jpegPhoto	Octet String	String	ユーザーの写真を格納している JPEG ファイル
labeledUri	Case Ignore String	String	ユーザーの URI (Uniform Resource Identifier)。
Language	Case Ignore List	String	言語の順序付けられたリスト
Last Login Time	Time	String	現在のセッションの直前のセッションのログイン日時。
ldapPhoto	Octet String	String	バイナリ形式のオブジェクトの写真。
Login Allowed Time Map	Octet String	String	アカウントに対して曜日ごとに 1 時間半の精度で許可されたログイン時間枠。

リソースユーザー属性	NDS 構文	属性タイプ	説明
Login Disabled	Boolean	Int	アカウントが無効になったことをユーザーに通知します。
Login Expiration Time	Time	String	クライアントが以降のログインをできなくなる日時。
Login Grace Remaining	Counter	Int	アカウントがロックされる前に許可される猶予ログインの回数。
Login Intruder Attempts	Counter	Int	現在の間隔内で発生したログイン試行の失敗回数。
Login Intruder Reset Time	Time	String	<b>Intruder Attempts</b> 変数が次にリセットされる時刻。
Login Script	Stream	String	ユーザーのログインスクリプト。
Login Time	Time	String	現在のセッションのログイン時刻。
manager	Distinguished Name	String	ユーザーのスーパーバイザ。
Minimum Account Balance	Integer	Int	指定されたサービスを利用するためにユーザーが自分のアカウントに持っている必要がある最小クレジット額 (または金額)。
mobile	Telephone Number	String	ユーザーの携帯電話番号。
NDSPKI:Keystore	Octet String	String	ラップされた非公開鍵が含まれています。
NRD:Registry Data	Stream	String	<b>NetWare</b> レジストリデータベース
NRD:Registry Index	Stream	String	<b>NetWare</b> レジストリデータベースのインデックス
pager	Telephone Number	String	ユーザーのポケットベル番号。
Password Expiration Time	Time	String	パスワードの期限が切れる日時を指定します。
preferredLanguage	Case Ignore String	String	ユーザーの書き言葉または話し言葉の言語に関する設定。
Print Job Configuration	Stream	String	指定された印刷ジョブ設定に関する情報が含まれています。
Printer Control	Stream	String	DOS プリンタ定義ファイル ( <b>NET\$PRN.DAT</b> ) に対する NDS の対応部分。

リソースユーザー属性	NDS 構文	属性タイプ	説明
Profile	Distinguished Name	String	ユーザーがログイン時にプロファイルを指定しなかった場合のログインプロファイル。
Profile Membership	Distinguished Name	String	オブジェクトが使用できるプロファイルのリスト。
Public Key	Octet String	String	認証された RSA 公開鍵
roomNumber	Case Ignore String	String	ユーザーのオフィスまたは部屋の番号。
secretary	Distinguished Name	String	ユーザーの管理補佐。
Security Equals	Distinguished Name	String	ユーザーのグループメンバーシップおよびセキュリティー等価を指定します。
Security Flags	Integer	Int	オブジェクトの NCP パケットシグニチャーレベル。
Timezone	Octet String	String	ユーザーのタイムゾーンオフセット。
UID (User ID)	Integer	Int	UNIX クライアントによって使用される一意のユーザー ID。
userCertificate	Octet String	String	証明書管理用の証明書。
userSMIMECertificate	Octet String	String	Netscape Communicator の S/MIME に対応するユーザーの証明書。
x500UniqueIdentifier	Octet String	String	DN が再利用された場合のユーザーの識別に使用される識別子。

### サポートされないアカウント属性

次のアカウント属性はサポートされません。

- Login Intruder Address
- Network Address
- Network Address Restriction
- Passwords Used
- Print Job Configuration

- Printer Control
- Private Key
- Server Holds
- Type Creator Map

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、デフォルトで次の NetWare NDS オブジェクトをサポートします。文字列ベース、整数ベース、またはブールベースの属性も管理できます。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Group	作成、更新、削除	L、OU、O、CN、Description、Member、Owner
Organizational Unit	作成、更新、削除	OU、Description、L、Facsimile Telephone Number、Telephone Number
Organization	作成、更新、削除	dn、O、Description、L、Facsimile Telephone Number、Telephone Number

## アイデンティティテンプレート

デフォルトのアイデンティティテンプレートは次のとおりです。

```
CN=$accountId$.O=MYORG
```

デフォルトのテンプレートを有効な値で置き換えてください。

## サンプルフォーム

ここでは、このリソースアダプタで利用できるサンプルフォームの一覧を示します。

### 組み込みのフォーム

次のフォームは、Identity Manager に組み込まれています。

- NDS Group Create Form
- NDS Group Update Form
- NDS Create Organizational Unit Form

- NDS Update Organizational Unit Form
- DS Create Organization Form
- NDS Update Organization Form

## その他の利用可能なフォーム

NDSUserForm.xml フォームも利用できます。

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.NDSResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.NDSSecretStoreResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter`

Sun Identity Manager Gateway を介した NDS へのアクセスをシングルスレッドまたは直列化するには、ゲートウェイマシンの

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Waveset\Lighthouse\Gateway ノードに次のレジストリキーと値を設定します。

名前	タイプ	データ
ExclusiveNDSContext	REG_DWORD	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0:</b> この機能を無効にします。コンテキストがマルチスレッド化されません。</li> <li>• <b>1:</b> コンテキストがシングルスレッド化されます。</li> </ul>

ゲートウェイへの接続の問題を診断するために、次のメソッドでトレースを有効にすることもできます。

- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#sendRequest`
- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#getResponse`



# Oracle

Oracle リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.OracleResourceAdapter` クラスで定義されます。

---

**注** Identity Manager は、Oracle E-Business Suite (EBS) をサポートする Oracle ERP リソースアダプタも提供します。このアダプタの詳細については、[229 ページの「Oracle ERP」](#)を参照してください。

---

このアダプタを使用して、Oracle にログインするためのユーザーアカウントをサポートします。カスタム Oracle テーブルがある場合、リソースアダプタウィザードを使用してカスタム Oracle テーブルリソースを作成する方法については、[117 ページの「データベーステーブル」](#)を参照してください。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

Oracle リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. Oracle リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.OracleResourceAdapter
```

2. `thin` ドライバを使用して Oracle Real Application Cluster (RAC) に接続する場合は、「リソースパラメータ」ページの「接続 URL」に、次の形式で値を指定します。

```
jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(LOAD_BALANCE=on)
(AADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=host01) (PORT=1521))
(AADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=host02) (PORT=1521))
(AADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=host03) (PORT=1521))
(CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=PROD)))
```

3. Oracle Real Application Cluster を使用しない環境で JDBC `thin` ドライバを使用する場合は、JDBC `thin` ドライバクラスが含まれる JAR ファイルを `%WSHOME%\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。JAR ファイルは、使用しているアプリケーションサーバーの JDK バージョンと互換性がある必要があります。

- ほかのドライバを使用する場合は、「リソースパラメータ」ページにドライバと接続 URL を指定します。

## 使用上の注意

ここでは、ユーザータイプとカスケード削除に関する情報も含め、Oracle リソースアダプタの使用に関する依存関係と制限事項について説明します。

### ユーザータイプ

Oracle データベースでは、次のタイプのユーザーが許可されます。

- **ローカル**。ローカルユーザーは、Oracle によって完全に管理され、パスワードが必要です。Oracle は、これらのパスワードも管理します。このため、ユーザー名とパスワードは、アプリケーションの内部で設定された標準に完全に準拠させてください。
- **外部**。外部ユーザーは、オペレーティングシステムまたは他社製のアプリケーションによって認証されます。Oracle は、ログイン認証を利用して、特定のオペレーティングシステムのユーザーが特定のデータベースユーザーにアクセスできることを確認します。
- **グローバル**。グローバルユーザーは、LDAP や Active Directory などのディレクトリサービスによって認証されます。ユーザーの名前は、完全な識別名 (DN) または NULL 文字列として指定してください。NULL 文字列を使用すると、ディレクトリサービスは認証されたグローバルユーザーを該当するデータベース機能にマップします。

外部ユーザーまたはグローバルユーザーを管理している場合は、Oracle リソースをそのインストール先であるマシンまたはディレクトリサービスも含むリソースグループに配置するようにしてください。

### カスケード削除

noCascade アカウント属性は、ユーザーを削除したときにカスケード削除を行うかどうかを示します。デフォルトでは、カスケード削除が行われます。カスケード削除を無効にするには、次の手順に従います。

1. **System Configuration** オブジェクトの `updatableAttributes` セクションに次のエントリを追加します。

```
<Attribute name='Delete'>
  <オブジェクト>
    <Attribute name='all'>
      <List>
        <String>noCascade</String>
      </List>
    </Attribute>
  </オブジェクト>
</Attribute>
```

```
        </List>
      </Attribute>
    </Object>
  </Attribute>
```

2. プロビジョニング解除フォームに次のフィールドを追加します。

```
<Field name='resourceAccounts.currentResourceAccounts
[MyOracleResource].attributes.noCascade'>
  <Display class='Checkbox'>
    <Property name='title' value='Do NOT Cascade MyOracleResource Delete' />
    <Property name='alignment' value='left' />
  </Display>
  <Disable>
    <isnull>
      <ref>resourceAccounts.currentResourceAccounts[MyOracleResource]</ref>
    </isnull>
  </Disable>
</Field>
```

3. Oracle リソーススキーマに noCascade アカウント属性を追加します。

ユーザーがオブジェクトを所有していて、カスケードを無効にするオプションを選択した場合、Oracle はエラーをスローします。ユーザーは削除されません。

4. 属性を無効にできるように、ユーザーフォームに noCascade フィールドを追加します。  
たとえば、次のようにします。

```
<Field name='global.noCascade'>
  <Disable>
    <s>TRUE</s>
  </Disable>
</Field>
```

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、次のいずれかのドライバを使用して Oracle アダプタと通信できます。

- JDBC thin ドライバ
- JDBC OCI ドライバ
- 他社製のドライバ

## 必要な管理特権

管理者は、Oracle ユーザーを作成するために、CREATE USER、ALTER USER、および DROP USER システム特権を持っている必要があります。

Oracle および Oracle アプリケーションについては、管理者に次のデータベースビューの SELECT アクセス権を付与してください。

- DBA\_PROFILES
- DBA\_ROLE\_PRIVS
- DBA\_SYS\_PRIVS
- DBA\_TABLESPACES
- DBA\_TS\_QUOTAS
- DBA\_USERS

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	リソースから直接インポート

## アカウント属性

次の表に、Oracle データベースユーザーアカウント属性の一覧を示します。属性の型はすべて String です。すべての属性が省略可能です。

リソースユーザー属性	説明
noCascade	ユーザーのカスケード削除を行うかどうかを示します。

リソースユーザー属性	説明
oracleAuthentication	次のいずれかの値にしてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LOCAL (デフォルト値)</li> <li>• EXTERNAL</li> <li>• GLOBAL</li> </ul>
oracleDefaultTS	ユーザーが作成するオブジェクトのデフォルトのテーブルスペースの名前。
oracleDefaultTSQuota	ユーザーが割り当てることができるデフォルトのテーブルスペースの最大サイズ。
oracleGlobalName	ユーザーのグローバル名。 oracleAuthentication が GLOBAL に設定されている場合にのみ適用されます。
expirePassword	この属性は、ローカル Oracle アカウントにのみ適用されます。
oraclePrivs	ユーザーに割り当てられた 1 つ以上の特権。
oracleProfile	ユーザーに割り当てられた 1 つ以上のプロファイル。
oracleRoles	ユーザーに割り当てられた 1 つ以上のロール。
oracleTempTS	ユーザーの一時セグメントに対応するテーブルスペースの名前。
oracleTempTSQuota	ユーザーが割り当てることができる一時テーブルスペースの最大サイズ。属性がスキーママップに表示されている場合、一時テーブルスペースに割り当て制限が常に設定されます。属性がスキーママップから削除された場合、一時テーブルスペースに割り当て制限が設定されません。Oracle 10gR2 リソースと通信するアダプタでは、属性を削除する必要があります。(ID-12843)

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

### 組み込みのフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.OracleResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.JdbcResourceAdapter`

# Oracle ERP

Oracle ERP リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.OracleERPResourceAdapter` クラスで定義されます。このアダプタは、Oracle E-Business Suite (EBS) をサポートします。

---

**注** Identity Manager は、Oracle データベースをサポートする Oracle リソースアダプタも提供します。このアダプタの詳細については、[223 ページの「Oracle」](#) を参照してください。

---

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

Oracle ERP リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. Oracle リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.OracleERPResourceAdapter
```

2. `thin` ドライバを使用して Oracle Real Application Cluster (RAC) に接続する場合は、「リソースパラメータ」ページの「接続 URL」に、次の形式で値を指定します。

```
jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(LOAD_BALANCE=on)
(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=host01) (PORT=1521))
(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=host02) (PORT=1521))
(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=host03) (PORT=1521))
(CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=PROD)))
```

3. Oracle Real Application Cluster を使用しない環境で JDBC `thin` ドライバを使用する場合は、JDBC `thin` ドライバクラスが含まれる JAR ファイルを `%WSHOME%\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。JAR ファイルは、使用しているアプリケーションサーバーの JDK バージョンと互換性がある必要があります。
4. ほかのドライバを使用する場合は、「リソースパラメータ」ページにドライバと接続 URL を指定します。

Oracle ERP アダプタは、追加変更なしで Oracle E-Business Suite (EBS) のバージョン 11.5.9 をサポートしますが、EBS Version 11.5.10 および 12 をサポートするには次の追加変更が必要です。

1. スキーママップから responsibilities アカウント属性を削除し、directResponsibilities 属性と indirectResponsibilities 属性を追加します。
2. 次のプロパティを Oracle ERP ユーザーフォームの FormRef 属性に追加します。
  - RESOURCE\_NAME — ERP リソース名を指定します
  - VERSION - ERP リソースのバージョンを指定します。使用できる値は、11.5.9、11.5.10、12 です。
  - RESP\_DESCR\_COL\_EXISTS — fnd\_user\_resp\_groups\_direct テーブルに説明の列が存在するかどうかを定義します。バージョンが 11.5.10 または 12 の場合は、このプロパティが必要です。使用できる値は、TRUE および FALSE です。

たとえば **Tabbed User Form** は、EBS バージョン 12 をサポートするために次のような方法で変更する必要がある可能性があります。

```
<FormRef name='Oracle ERP User Form'>
  <Property name='RESOURCE_NAME' value='Oracle ERP R12' />
  <Property name='VERSION' value='12' />
  <Property name='RESP_DESCR_COL_EXISTS' value='TRUE' />
</FormRef>
```

## 使用上の注意

ここでは、Oracle ERP アダプタに適用できる次のリソースパラメータについて説明します。

- [Oracle アプリケーションのユーザー管理セキュリティー](#)
- [Oracle クライアント暗号化タイプ](#)
- [Oracle クライアント暗号化レベル](#)
- [Oracle E-Business Suite \(EBS\) 管理ユーザー責任](#)
- [セキュリティー設定属性の追加](#)
- [ユーザーの有効化](#)
- [責任の監査](#)
- [リソースアクションの使用](#)

### Oracle アプリケーションのユーザー管理セキュリティー

ユーザーのセキュリティーは、Oracle アプリケーション内部の次の 3 レベルで制御されます。

- **機能的セキュリティー** - システム内部の個々のメニューおよびメニューオプションへのユーザーアクセス特権を制御します。
- **データセキュリティー** - ユーザーが操作できるデータオブジェクトを制御します。

- ロールに基づくアクセス制御 (RBAC) - ロールを作成し、ロールに対して責任とアクセス権を割り当てることができます。

Oracle ERP アダプタは、機能的セキュリティーのみをサポートします。このため、このアダプタでは Oracle のデータオブジェクト、オブジェクトインスタンス、インスタンスセットの作成、更新、削除を一覧表示することはできません。また、ロールオブジェクト、ロール階層、ロールカテゴリの作成、管理もできません。

## Oracle クライアント暗号化タイプ

このパラメータには、Oracle がサポートする有効な暗号化アルゴリズム名 (RC4\_56、RC4\_128 など) のリストを含めることができます。このリストが空の場合は、その Oracle リリースのために Oracle がサポートするすべてのアルゴリズムが使用可能になります。クライアント / サーバーは、Oracle クライアント暗号化レベルの設定に従って、これらのうちどのアルゴリズムを使用するかについてネゴシエーションを行います。

---

**注** このタイプの暗号化をサポートするように Oracle サーバーも設定してください。

サポートされるアルゴリズムの詳細については、『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』を参照してください。thin JDBC クライアント用の有効な値のリストについては、「SQLNET.ENCRYPTION\_TYPES\_CLIENT」セクションを参照してください。

---

## Oracle クライアント暗号化レベル

この値は、サーバー / クライアントがネゴシエーションを行って適用するセキュリティーのレベルを決定します。デフォルト値 (空白のままの場合) は、ACCEPTED です。有効な値は、REJECTED、ACCEPTED、REQUESTED、および REQUIRED です。このパラメータの使用法については、『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』および SQLNET.ENCRYPTION\_CLIENT の値を参照してください。

また、このタイプの暗号化をサポートするように Oracle サーバーを設定してください。

## Oracle E-Business Suite (EBS) 管理ユーザー責任

この値は、Identity Manager Oracle EBS 管理ユーザーが EBS アプリケーションの初期化ルーチン呼び出すために使用する EBS 責任を決定します。有効な責任のリストは、fnd\_responsibility\_vl テーブルにあります。詳細については、Oracle EBS のマニュアルも参照してください。

Identity Manager Oracle EBS 管理ユーザーが有効な EBS システムアカウントを持ち、このパラメータの値と一致する責任を持っている場合は、接続中に作成された Oracle セッションで Oracle EBS の監査メカニズムを使用してユーザーのアクションが監査されます。たとえば、fnd\_user テーブルオブジェクトの created\_by フィールドと last\_updated\_by フィールドは、Identity Manager Oracle EBS 管理ユーザーのユーザー ID によって正しく更新されます。

## セキュリティ設定属性の追加

securingAttrrs アカウント属性は、Oracle E-business Suite のセキュリティ設定属性機能をサポートします。Identity Manager の「ユーザーの作成」ページでセキュリティ設定属性を設定するには、次の手順を実行します。

1. 「Add Securing Attribute」チェックボックスを選択します。
2. 「Enter Securing Attribute Search Pattern」テキストボックスに、使用可能な属性の選択肢を絞り込むための検索パターンを入力します。ワイルドカードとして「%」を使用します。次に、「Load Securing Attributes」ボタンをクリックします。これで「Oracle Securing Attributes」選択ボックスに属性が読み込まれます。
3. ドロップダウンメニューから属性を選択すると、その属性が「Securing Attributes」テーブルに追加されます。

テーブルから削除する属性を選択して「Remove Selected Securing Attribute」ボタンをクリックすることにより、セキュリティ設定属性を削除できます。

## ユーザーの有効化

Oracle EBS ユーザーを有効にするには、owner 属性の値を指定する必要があります。有効化フォームに特定の値が追加されて有効化ビューを介して送信されないかぎり、デフォルトで値 CUST が使用されます。次のコーディング例では、デフォルトの所有者を MYOWNER に変更しています。

```
<Field name='resourceAccounts.currentResourceAccounts [MyOracleERP].
attributes.owner' type='string'>
  <Display class='Text'>
    <Property name='title' value='Owner' />
  </Display>
  <Default>
    <s>MYOWNER</s>
  </Default>
</Field>
```

## ユーザー責任の取得

listResourceObjects の呼び出しを使用して、ユーザーの責任およびその他の Oracle EBS オブジェクトを取得できます。次の表に、サポートされるオブジェクトタイプに関する情報を示します。

オブジェクト	サポートされるオプション	コメント
auditorResps	id、activeRespsOnly	<p>ユーザーの監査責任のリストを返します。</p> <p>id は、そのリソース ID の責任が返されることを示す文字列です。</p> <p>activeRespsOnly を true に設定すると、アクティブな責任のみが返されます。デフォルトは false です。</p>
responsibilities	id、activeRespsOnly	<p>ユーザーの責任を返します。11.5.9 でのみ有効です。</p>
directResponsibilities	id、activeRespsOnly	<p>ユーザーの直接的な責任を返します。11.5.10 でのみ有効です。</p>
indirectResponsibilities	id、activeRespsOnly	<p>ユーザーの間接的な責任を返します。11.5.10 でのみ有効です。</p>
responsibilityNames	なし	<p>ユーザーに割り当てられた責任名のリストを返します。</p>
applications	responsibilityName	<p>責任名が指定されていない場合は、ユーザーに割り当てられたすべてのアプリケーションが返されます。</p>
securityGroups	application	<p>アプリケーションが指定されていない場合は、ユーザーに割り当てられたすべてのセキュリティグループが返されます。</p>
account	activeAccountsOnly	<p>ユーザーのアカウントのリストを返します。true に設定すると、アクティブなアカウントのみが返されます。デフォルトは false です。</p>
securingAttrs	searchPattern	<p>指定された検索パターンと一致するセキュリティ設定属性のリストを返します。パターンが指定されなかった場合は、すべてのセキュリティ設定属性が返されます。</p>

次のコーディング例では、ユーザーフォームにアクティブな責任を返すフィールドを追加しています。USER\_NAME と RESOURCE\_NAME は有効な値に置き換えてください。auditorResps は、responsibilities、directResponsibilities、または indirectResponsibilities に置き換えることができます。

```
<Field name='respNames' type='string'>
  <Display class='Text'>
    <Property name='title' value='Oracle ERP Responsibilities' />
  </Display>
  <Expansion>
    <invoke name='listResourceObjects' class='com.waveset.ui.FormUtil'>
      <ref>display.session</ref>
      <s>auditorResps</s>
      <s>RESOURCE_NAME</s>
      <map>
        <s>id</s>
        <s>USER_NAME</s>
        <s>activeRespsOnly</s>
        <s>>true</s>
        <s>attrsToGet</s>
        <list>
          <s>name</s>
        </list>
      </map>
      <s>null</s>
    </invoke>
  </Expansion>
</Field>
```

## 責任の監査

ユーザーに割り当てられた責任のサブ項目 (フォーム、機能など) を監査するには、スキーママップに `auditorObject` を追加します。 `auditorObject` は、一連の `responsibility` オブジェクトを含む複合属性です。次の属性は、常に責任オブジェクトに返されます。

- `responsibility`
- `userMenuNames`
- `menuIds`
- `userFunctionNames`
- `functionIds`
- `formIds`
- `formNames`
- `userFormNames`
- `readOnlyFormIds`
- `readWriteOnlyFormIds`
- `readOnlyFormNames`
- `readOnlyUserFormNames`
- `readWriteOnlyFormNames`
- `readWriteOnlyUserFormNames`
- `functionNames`
- `readOnlyFunctionNames`
- `readWriteOnlyFunctionNames`

---

注 readOnly 属性と ReadWrite 属性は、`find_form_functions` テーブルの `PARAMETERS` 列で次のいずれかのクエリーを行うことによって識別します。

- `QUERY_ONLY=YES`
  - `QUERY_ONLY="YES"`
  - `QUERY_ONLY = YES`
  - `QUERY_ONLY = "YES"`
  - `QUERY_ONLY=Y`
  - `QUERY_ONLY="Y"`
  - `QUERY_ONLY = Y`
  - `QUERY_ONLY = "Y"`
- 

「**SOB または組織、あるいはその両方を返す**」リソースパラメータを `TRUE` に設定すると、次の属性も返されます。

- `setOfBooksName`
- `setOfBooksId`
- `organizationalUnitName`
- `organizationalUnitId`

`responsibility` 属性、`setOfBooksName` 属性、`setOfBooksId` 属性、`organizationalUnitId` 属性、および `organizationalUnitName` 属性を除き、属性名はスキーママップに追加できるアカウント属性名と一致します。アカウント属性には、ユーザーに割り当てられた値の集合が含まれています。`responsibility` オブジェクトに含まれている属性は、その責任に固有のものであります。

`auditorResps[]` ビューは、`responsibility` 属性へのアクセスを提供します。次に示すフォームの部分は、ユーザーに割り当てられたすべてのアクティブな責任 ( およびそれらの属性 ) を返します。

```
<defvar name='audObj'>
  <invoke name='get'>
    <ref>accounts[Oracle ERP 11i VIS].auditorObject</ref>
  </invoke>
</defvar>
<!-- this returns list of responsibility objects -->
<defvar name='respList'>
  <invoke name='get'>
    <ref>audObj</ref>
    <s>auditorResps[*]</s>
  </invoke>
</defvar>
```

たとえば、次のようにします。

- `auditorResps[0].responsibility` は、最初の責任オブジェクトの名前を返します。
- `auditorResps[0].formNames` は、最初の責任オブジェクトの `formNames` を返します。

## リソースアクションの使用

Oracle ERP アダプタは、リソースアクションをサポートします。これらのアクションを有効にするには、Javascript または BeanShell で記述されたスクリプトを設定する必要があります。このアダプタは、次のプロビジョニングアクションの実行後または実行前に、これらのスクリプトを呼び出します。

- [create](#) 前アクションと後アクション
- [update](#) 前アクションと後アクション
- [delete](#) 前アクションと後アクション
- [enable](#) 前アクションと後アクション
- [disable](#) 前アクションと後アクション
- [getUser](#) 後アクション

どのアクションスクリプトも、`java.util.Map` クラスで定義されているように、`actionContext` マップを受け取ります。マップに格納できる内容は、アクションごとに異なります。

スクリプトは、それ自体に渡された JDBC 接続を閉じることはできません。アダプタが適切な時期に自動的に接続を閉じます。

リソースアクションの実装の詳細については、[509 ページの「リソースへのアクションの追加」](#)を参照してください。サンプルスクリプトは、`$WSHOME/sample/OracleERPActions.xml` にあります。

## create 前アクションと後アクション

アクションに渡される `actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
<code>conn</code>	<code>java.sql.Connection</code>	顧客のデータベースへの JDBC 接続
<code>adapter</code>	<code>com.waveset.adapter. OracleERPResourceAdapter</code>	アダプタインスタンス
<code>action</code>	<code>java.lang.String</code>	「createUser」という文字列
<code>timing</code>	<code>java.lang.String</code>	before または after である必要があります
<code>id</code>	<code>java.lang.String</code>	作成するユーザーのアカウント ID
<code>password</code>	<code>java.lang.String</code>	存在する場合、この値は、新しいユーザーの復号化されたパスワードです
<code>attributes</code>	<code>java.util.Map</code>	新しいユーザーに設定する属性のマップ。 <ul style="list-style-type: none"><li>• キーは、設定する属性を識別します</li><li>• 値は、その属性に設定する復号化された値を指定します。</li></ul>
<code>errors</code>	<code>java.util.List</code>	最初は、この値は空のリストです。 処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。
<code>trace</code>	<code>com.sun.idm.logging.trace.Trace</code>	実行のトレースに使用されるオブジェクト  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって `errors` キーに適切な文字列を追加することもできます。`errors` リストに項目が存在する場合は、作成の失敗とみなされます。

## update 前アクションと後アクション

アクションに渡される `actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
<code>conn</code>	<code>java.sql.Connection</code>	データベースへの JDBC 接続
<code>adapter</code>	<code>com.wavset.adapter. OracleERPResourceAdapter</code>	アダプタインスタンス
<code>action</code>	<code>java.lang.String</code>	「updateUser」という文字列
<code>timing</code>	<code>java.lang.String</code>	<code>before</code> または <code>after</code> である必要があります
<code>id</code>	<code>java.lang.String</code>	更新するユーザーのアカウント ID。
<code>password</code>	<code>java.lang.String</code>	存在する場合、この値はユーザーの新しいパスワードの復号化された値です。
<code>attributes</code>	<code>java.util.Map</code>	既存のユーザーに設定する属性のマップ。 <ul style="list-style-type: none"><li>• キーは、設定する属性を識別します</li><li>• 値は、その属性に設定する復号化された値です。</li></ul> キーがない場合は、その属性が更新されないということです。
<code>errors</code>	<code>java.util.List</code>	最初は、この値は空のリストです。 処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。
<code>trace</code>	<code>com.sun.idm.logging.trace.Trace</code>	実行のトレースに使用されるオブジェクト。  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトが `errors` キーに適切な文字列を追加することもできます。errors リストに項目が存在する場合は、更新の失敗とみなされます。

## delete 前アクションと後アクション

アクションに渡される `actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
<code>conn</code>	<code>java.sql.Connection</code>	データベースへの JDBC 接続
<code>adapter</code>	<code>com.wavset.adapter. OracleERPResourceAdapter</code>	アダプタインスタンス
<code>action</code>	<code>java.lang.String</code>	「deleteUser」という文字列
<code>timing</code>	<code>java.lang.String</code>	before または after である必要があります
<code>id</code>	<code>java.lang.String</code>	削除するユーザーのアカウント ID
<code>errors</code>	<code>java.util.List</code>	最初は、この値は空のリストです。  処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。
<code>trace</code>	<code>com.sun.idm.logging.trace. Trace</code>	実行のトレースに使用されるオブジェクト。  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって `errors` キーに適切な文字列を追加できます。errors リストに項目が存在する場合は、削除の失敗とみなされません。

## enable 前アクションと後アクション

アクションに渡される `actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	データベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter. OracleERPResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「enableUser」という文字列
timing	java.lang.String	before または after である必要があります
id	java.lang.String	無効にするユーザーアカウント ID
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。  処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに java.lang.String オブジェクトを追加 できます。
trace	com.sun.idm.logging.trace.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加することもできます。errors リストに項目が存在する場合は、失敗とみなされません。

### disable 前アクションと後アクション

アクションに渡される actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	データベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter. OracleERPResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「disableUser」という文字列

キー	値の型	値の説明
timing	java.lang.String	before または after である必要があります
id	java.lang.String	無効にするユーザーアカウント ID
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。 処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに java.lang.String オブジェクトを追加できます。
trace	com.sun.idm.logging.trace.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。 スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加することもできます。errors リストに項目が存在する場合は、失敗とみなされません。

## getUser 後アクション

getUser アクションは、標準的なアダプタから取得されるカスタムアカウント属性だけでなく、追加のカスタムアカウント属性をデータベースから取得する必要がある場合に便利です。このアクションを有効にするには、「GetUser After アクション」というラベルの付いたリソースパラメータを設定することにより、このリソースアクションの名前を指定します。

アクションに渡される actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	データベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter.OracleERPResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「getUser」という文字列
id	java.lang.String	取得するユーザーアカウント ID。

キー	値の型	値の説明
currentAttributes	java.util.Map	<p>既存のユーザーに設定する属性のマップ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• キーは、設定する属性を識別します</li> <li>• 値は、その属性に設定する復号化された値です。</li> </ul>
changedAttributes	java.util.Map	<p>これは、空のマップとして渡されます。</p> <p>スクリプトでは、次の目的のために、オプションでこのマップにデータを設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しいアカウント属性を <b>Identity Manager</b> のユーザービューに追加する場合、または</li> <li>• <b>Identity Manager</b> のユーザービューでアカウント属性の値を変更する場合</li> </ul> <p>キーは、アカウント属性の名前 (スキーママップの右側で登録される) です。値は、アカウント属性に設定する値です。</p>
errors	java.util.List	<p>最初は、この値は空のリストです。</p> <p>処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。</p>
trace	com.sun.idm.logging.trace.Trace	<p>実行のトレースに使用されるオブジェクト。</p> <p>スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。</p>

### エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって `errors` キーに適切な文字列を追加できます。`errors` リストに項目が存在する場合は、取得の失敗とみなされず。

# セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

## サポートされる接続

Identity Manager は、次のいずれかのドライバを使用して Oracle アダプタと通信できます。

- JDBC thin ドライバ
- JDBC OCI ドライバ
- 他社製のドライバ

Oracle アプリケーションのストアードプロシージャでは、プロビジョニングで使用される一部のストアードプロシージャに暗号化されていないパスワードを渡す必要があるため、Identity Manager と Oracle アプリケーションリソースの間に暗号化された通信を実装するようにしてください。

特定のバージョンの Oracle RDBMS およびドライバが提供する暗号化のサポートレベルを検証するには、Oracle のマニュアル『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』および使用している JDBC ドライバのマニュアルをお読みください。

## Oracle EBS のアクセス権

Oracle E-Business Suite では、次のテーブルとストアードプロシージャに対するアクセス権が必要です。

---

<b>注</b>	管理者は、すべてのテーブルに対して select コマンドを実行できる必要があります。また、管理者は apps.fnd_user テーブルを更新する必要があります。
----------	--

---

テーブル	ストアドプロシージャ
apps.ak_attributes	apps.app_exception.raise_exception
apps.ak_attributes_tl	apps.fnd_global.apps_initialize
apps.ak_web_user_sec_attr_values	apps.fnd_global.user_id
apps.fnd_application	apps.fnd_message.get
apps.fnd_application_tl	apps.fnd_message.get_token
apps.fnd_application_vl	apps.fnd_message.set_name
apps.fnd_profile	apps.fnd_message.set_token
apps.fnd_responsibility	apps.fnd_profile.get
apps.fnd_responsibility_vl	apps.fnd_user_pkg.AddResp
apps.fnd_security_groups	apps.fnd_user_pkg.CreateUser
apps.fnd_security_groups_tl	apps.fnd_user_pkg.DisableUser
apps.fnd_security_groups_vl	apps.fnd_user_pkg.DelResp
apps.fnd_user	apps.fnd_user_pkg.UpdateUser
apps.fnd_user_resp_groups	apps.fnd_user_pkg.user_synch
apps.icx_parameters	apps.fnd_user_pkg.validatelogin
	apps.fnd_user_resp_groups_api.assignment_exists
	apps.fnd_user_resp_groups_api.insert_assignment
	apps.fnd_user_resp_groups_api.update_assignment
	apps.fnd_web_sec.change_password
	apps.fnd_web_soc.create_user
	apps.fnd_web_sec.validation_login
	apps.icx_user_sec_attr_pub.create_user_sec_attr
	apps.icx_user_sec_attr_pub.delete_user_sec_attr

**注** アダプタは、さらにほかのテーブルやストアドプロシージャにアクセスする可能性もあります。詳細は、Oracle E-business Suite のマニュアルを参照してください。

Oracle によれば、Oracle EBS システム (fnd\_user\_pkg ストアドプロシージャを含む) は、ORACLE EBS システムを APPS ユーザーとして管理するのに使用するよう設計されました。Oracle は、代替管理ユーザーの作成を推奨していません。ただし、APPS 以外のユーザーで Oracle EBS を管理する必要がある場合は、Oracle にお問い合わせください。

代替管理ユーザーには、APPS ユーザーがすべての Oracle データ (テーブル、ビュー、ストアドプロシージャを含む) に対して持っているのと同じアクセス権を与えてください。

また、そのユーザーにシノニムを設定して、APPS ユーザーがアクセス権を持っているテーブルにアクセスできるようにする必要があります。別のユーザーを使用し、そのユーザーに必要な許可とシノニムがまだない場合は、次のエラーが発生する可能性があります。

```
Error: ORA-00942: table or view does not exist
```

エラーを修正するには、必要な許可とシノニムを与えます。次のディレクトリに、サンプルの SQL\*Plus スクリプトがあります。

```
$WSHOME/sample/other/CreateLHERPAdminUser.oracle
```

このスクリプトは、必要に応じて変更して、代替 Oracle EBS 管理ユーザーを作成するために使用できます。使用手順は、スクリプトの先頭部分のコメントに記載されています。

パススルー手順の場合のみ、次の SQL コマンドを実行するために権限が必要です。

```
create or replace function wavesetValidateFunc1 (username IN varchar2,
password IN varchar2)
RETURN varchar2 IS ret_val boolean;
BEGIN ret_val := apps.FND_USER_PKG.ValidateLogin(username, password);
IF ret_val = TRUE THEN RETURN 'valid';
ELSE RETURN NULL;
END IF;
END wavesetValidateFunc1;
```

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。このアダプタは、サポートされるプロビジョニング操作中に直接的なテーブル更新を発行しません。

機能	サポート状況
ユーザーの作成。	使用可
開始日と終了日の設定。	使用可

機能	サポート状況
パスワードアクセス制限の設定。	使用可
パスワード有効期限の設定。	使用可
パスワードの変更またはリセット。	使用可。
ユーザーレコードに対する従業員 ID (HRMS リンク) の設定。	使用可
ユーザーアカウントの Email 属性および Fax 属性の設定。	使用可
ユーザーレコードに対する顧客 ID またはサブライヤ ID の設定。	使用可
ユーザーに対する 1 つ以上の直接的な責任の割り当て。	使用可
ユーザーアカウントに対するセキュリティー設定属性の割り当て。	使用可
ユーザーに割り当てられた責任の削除または編集。	使用可。 注意: 責任は、実際には削除されるのではなく、期限切れ (無効) になります。
アカウントの無効化。	使用可
アカウントの再有効化。	使用可
アカウントの削除。	使用可。アカウントは、実際には期限切れ (無効) になります。
パススルー認証。	使用可
データ読み込みメソッド: 調整、ファイルへの抽出、リソースから読み込み、ファイルから読み込み。	調整 リソースから読み込み
FND_USER テーブルのプロビジョニング。	使用可
Oracle HRMS のプロビジョニング。	使用不可
create における FND_USER レコードの Oracle HRMS へのリンク。	使用可
メニュー定義または個々の責任の管理。	使用不可
間接的な責任の割り当て。	使用不可。間接的な責任は読み取れませんが、割り当てられません。

機能	サポート状況
ユーザーセッション制限の設定 (ICX: Session Timeout、ICX: Limit Time、ICX: Limit Connect)。	使用不可
RBAC オブジェクトと割り当て。	使用不可
特定のデータオブジェクト、データオブジェクトインスタンス、またはインスタンスセットに対するアクセス権セットの許可の使用。	使用不可
前アクションと後アクション。	使用可
アカウントの名前の変更。	使用不可

## アカウント属性

### デフォルトの属性

次の表に、デフォルトの Oracle ERP アカウント属性の一覧を示します。すべての属性が省略可能です。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
owner	String	アカウントを作成した管理者。
start_date	String	アカウントが有効になる日付。
end_date	String	アカウントが期限切れになる日付。 アカウントを無効にするには、日付を過去の日付に設定します。 有効期限がないことを示すには、NULL 値を指定します。 Oracle EBS サーバーのローカル時間を使用してユーザーの有効期限を指定するには、end_date とともに sysdate または SYSDATE キーワードを使用します。
description	String	ユーザーの説明 (フルネームなど)。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
password_date	String	<p>最後にパスワードを変更した日付スタンプ。</p> <p>Oracle ERP アダプタは、password_lifespan_days 属性の値を評価するときに、この日付スタンプを使用できます。たとえば、password_lifespan_days 属性に 90 を設定した場合、Oracle ERP は最後のパスワード変更日付 (password_date) に 90 日を加算して、パスワードが期限切れかどうかを判定します。</p> <p>Oracle ERP アダプタは、パスワードの変更を行うたびに password_date を現在の日付に設定します。</p>
password_accesses_left	String	ユーザーが現在のパスワードを使用できる回数。
password_lifespan_accesses	String	パスワードの有効期間中のアクセス数
password_lifespan_days	String	パスワードの有効期間の合計日数。
employee_id	String	アプリケーションユーザー名が割り当てられた従業員の ID。
employee_number	String	<p>per_people_f テーブルの employee_number を表します。</p> <p>create で値を入力すると、アダプタは per_people_f テーブルでユーザーレコードを検索し、person_id を取得して create API に渡し、fnd_user テーブルの employee_id 列に person_id を挿入しようとします。</p> <p>create で employee_number を入力しなかった場合、リンクは行われません。</p> <p>create で employee_number を入力し、その番号が見つからない場合、アダプタは例外をスローします。</p> <p>employee_number がアダプタのスキーマにある場合、アダプタは、getUser で employee_number を返そうとします。</p>
person_fullname	String	ユーザーのフルネーム。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
npw_number	String	<p>不確定の従業員番号。per_people_f テーブルの npw_number を表します。</p> <p>create で値を入力すると、アダプタは per_people_f テーブルでユーザーレコードを検索し、person_id を取得して create API に渡し、fnd_user テーブルの employee_id 列に person_id を挿入しようとします。</p> <p>create で npw_number を入力しなかった場合、リンクは行われません。</p> <p>create で npw_number を入力し、その番号が見つからない場合、アダプタは例外をスローします。</p> <p>npw_number がアダプタのスキーマにある場合、アダプタは、getUser で npw_number を返そうとします。</p> <p><b>注意:</b> employee_number 属性および npw_number 属性は相互排他です。両方を create で入力した場合は、employee_number が優先します。</p>
email_address	String	ユーザーの電子メールアドレス。
fax	String	ユーザーのファックス番号。
customer_id	String	ユーザーの顧客 ID。
supplier_id	String	ユーザーのサプライヤ ID。
responsibilities	String	<p>ユーザーに割り当てられた責任の名前。Oracle EBS 11.5.9 のみ有効です。</p> <p>Oracle EBS サーバーのローカル時間を使用して責任の有効期限を指定するには、to_date とともに sysdate または SYSDATE キーワードを使用します。</p>
responsibilityKeys	String	ユーザーの責任のリストに関連付けられたキー。
securingAttrs	String	セキュリティ設定属性のサポートを追加します。
expirePassword	Boolean	パスワードが期限切れになるかどうかを示します。
directResponsibilities	String	ユーザーの直接的な責任を返します。11.5.10 でのみ有効です。
indirectResponsibilities	String	ユーザーの間接的な責任を返します。11.5.10 でのみ有効です。

## 追加属性

Oracle ERP アダプタでは、Identity Manager が責任の変更を監査するために使用できる複数の読み取り専用属性を追加できます。auditorResps 属性に返される値は、そのユーザーのアクティブな責任です。次の表に示す auditorObject 以外のすべての属性は、各責任のサブ項目から、存在する可能性があるメニューや機能をすべて差し引いた集合です。

auditorObject 属性も追加できます。この属性の詳細については、235 ページの「責任の監査」を参照してください。

次の表に、スキーママップに追加できる属性の一覧を示します。

属性	説明
auditorResps	ユーザーのアクティブな責任のリスト。
formIds	すべてのフォーム ID を連結します。 readOnlyFormIds および readWriteOnlyFormIds に よって返される値を含んでいます。
formNames	すべてのフォーム名を連結します。 readOnlyFormNames および readWriteOnlyFormNames によって返される値を含 んでいます。
functionIds	すべての機能 ID を連結します
functionNames	すべての機能名を連結します
menuIds	すべてのメニュー ID を連結します
readOnlyFormIds	すべての読み取り専用フォーム ID を連結します
readOnlyFormNames	すべての読み取り専用フォーム名を連結します
readOnlyFunctionNames	すべての読み取り専用機能名を連結します
readOnlyUserFormNames	すべての読み取り専用ユーザーフォーム名を連結しま す
readWriteOnlyFormIds	すべての読み取り / 書き込み専用フォーム ID を連結 します
readWriteOnlyFormNames	すべての読み取り / 書き込み専用フォーム名を連結し ます
readWriteOnlyFunctionNames	すべての読み取り / 書き込み専用機能名を連結しま す
readWriteOnlyUserFormNames	すべての読み取り / 書き込み専用ユーザーフォーム名 を連結します

属性	説明
userFormNames	すべてのユーザーフォーム名を連結します。 readOnlyUserFormNames および readWriteOnlyUserFormNames によって返される値 を含んでいます。
userFunctionNames	すべてのユーザー機能名を連結します
userMenuNames	すべてのユーザーメニュー名を連結します。

Oracle ERP アダプタでは、create および update の前アクションおよび後アクションを使用することにより、またはカスタムの getUser アクションを使用することにより、任意の追加カスタム属性をサポートできます。詳細については、[237 ページの「リソースアクションの使用」](#)を参照してください。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次のネイティブオブジェクトをサポートしています。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理対象オブジェクト
responsibilityNames	更新	name、userMenuNames、menuIds、 userFunctionNames、functionIds、 formIds、formNames、userFormNames、 readOnlyFormIds、 readWriteOnlyFormIds、 readOnlyFormNames、 readOnlyUserFormNames、 readWriteOnlyFormNames、 readWriteOnlyUserFormNames、 functionNames、 readOnlyFunctionNames、 readWriteOnlyFunctionNames

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

# サンプルフォーム

## 組み込みのフォーム

なし

## その他の利用可能なフォーム

OracleERPUserForm.xml

# トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.OracleERPResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.JdbcResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.JActionUtil` (前アクションや後アクションを使用する場合)



# OS/400

OS/400 リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.OS400ResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

OS/400 リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 次の URL <http://jt400.sourceforge.net> から JTOpen のバージョン 2.03 をダウンロードします。
2. JTOpen ファイルを解凍し、インストール手順に従います。必ずライブラリファイルを正しい場所に配置し、環境変数を指示どおりに設定してください。  
`jt400.jar` ファイルの入手方法については、IBM にお問い合わせください。
3. `jt400.jar` ファイルを `InstallDir\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。
4. OS/400 リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.OS400ResourceAdapter
```

## 使用上の注意

Identity Manager は、OS/400 リソース上のアカウントに関連付けられた OS/400 オブジェクトを処理するために 3 つのオプションをサポートします。この特別サポートを有効にするには、Identity Manager のサンプルディレクトリにある OS400Deprovision フォームを使用してください。また、System Configuration オブジェクトを編集してください。編集方法は、OS400Deprovision フォームのコメントに記載されています。これらのオプションは、有効にすると、ユーザーの OS/400 リソースアカウントを削除するときに「リソースアカウントの削除」ページに表示されます。

次の削除オプションを使用できます。

- **DLT** - ユーザーのリソースアカウントとそれに関連付けられた OS/400 オブジェクトが削除されます。

- **NODLT** - 関連付けられたオブジェクトがユーザーにある場合、そのユーザーのアカウントは削除されず、関連付けられた OS/400 オブジェクトは影響を受けません。
- **CHGOWN** - ユーザーのリソースアカウントが削除され、関連付けられた OS/400 オブジェクトは指定された所有者に割り当てられます。CHGOWN がデフォルトのオプションです。デフォルトでは、OS/400 オブジェクトは QDFTOWN プロファイルに割り当てられます。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL (Secure Sockets Layer) を使用して OS/400 アダプタと通信できます。その場合は、次の製品を実装してください。

- IBM iSeries Client Encryption ライセンスプログラム 5722-CE2 または 5722-CE3 の V5R1 以降のバージョンで提供される SSL オブジェクト。

このプログラムには、OS/400 リソース上の Java Toolbox を使用して Identity Manager から SSL 接続を行うのに必要な SSLight パッケージが含まれています。

### 必要な管理特権

このアダプタには、次の管理特権が必要です。

- **CRT**: OS/400 ユーザーを追加するために、管理者には、(1) \*SECADM 特殊権限、(2) 初期プログラム、初期メニュー、ジョブ記述、メッセージキュー、出力キュー、およびアテンションキー処理プログラム (指定されている場合) に対する \*USE 権限、(3) グループプロファイルと補足グループプロファイルが指定されている場合は、それらに対する \*CHANGE 権限とオブジェクト管理権限を与えてください。
- **CHG**: \*SECADM 特殊権限、および変更されるユーザープロファイルに対する \*OBJMGT 権限と \*USE 権限を持っている必要があり、このコマンドを指定できます。現在のライブラリ、プログラム、メニュー、ジョブ記述、メッセージキュー、印刷デバイス、出力キュー、またはアテンションキー処理プログラムのパラメータを指定するには、これらに対する \*USE 権限が必要です。
- **DLT**: ユーザーには、ユーザープロファイルに対する使用 (\*USE) 権限とオブジェクト存在 (\*OBJEXIST) 権限を与えてください。ユーザーは、ユーザープロファイルに関連付けられ、所有されているメッセージキューを削除するために、存在、使用、および削除の権限を持っている必要があります。現在、ユーザーがユーザープロファイルに基づいて実行している場合や、ユーザープロファイルが何らかのオブジェクトを所有して OWNBJOPT(\*NODLT) が指定されている場合は、

そのプロファイルを削除できません。あらかじめ、ユーザープロファイル内のすべてのオブジェクトを、オブジェクト所有者変更 (CHGOBJOWN) コマンドを使用して新しい所有者に転送するか、またはシステムから削除してください。OWNOBJOPT(\*DLT) を指定してオブジェクトを削除する方法や、OWNOBJOPT(\*CHGOWN user-profile-name) を指定して所有権を変更する方法もあります。ユーザーに許可された権限は、オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT) コマンドによって明確に取り消す必要はありません。ユーザープロファイルを削除したときに自動的に取り消されます。

- DSP: TYPE(\*BASIC) と OUTPUT(\*OUTFILE) を指定した場合にのみ、USRPRF(\*ALL) または USRPRF(generic\*-user-name) としてユーザー名を指定できます。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リソースから直接インポート</li> <li>• リソースの調整</li> </ul>

## アカウント属性

次の表に、OS/400 アカウント属性に関する情報を示します。特に記述がないかぎり、属性はすべて文字列です。

リソースユーザー属性	説明
accountId	必須。ユーザーのログオン ID。
パスワード	必須。ユーザーのパスワード。この値は暗号化されています。
ASTLVL	操作支援レベル

リソースユーザー属性	説明
ATNPGM	アテンションキー処理プログラム
CCSID	コード化文字セット識別子
CNTRYID	国識別子
CURLIB	現在のライブラリ
DAYS_UNTIL_PASSWORD_EXPIRES	パスワードの期限が切れるまでの日数。
DLVRY	デリバリモード
GID	グループ識別番号
GRPPRF	グループプロファイル
HIGHEST_SCHEDULING_PRIORITY	
HOMEDIR	ホームディレクトリ
INLMNU	初期メニュー
INLPGM	初期プログラム
JOBID	ジョブ記述
KBDBUF	キーボードバッファリング
LANGID	言語識別子
LMTCPB	制限機能
LMTDEVSSN	デバイスセッションの制限
MAXSTG	最大記憶領域
MSGQ	メッセージキュー
OUTQ	出力キュー
OWNER	新しいオブジェクトの所有者
OWNOBJOPT	所有オブジェクトオプション
PRTDEV	印刷デバイス
PWDEXP	パスワードに有効期限を設定するかどうかを示します。
SPCAUT	特殊権限
SPCENV	特殊環境
SRTSEQ	ソート処理
STATUS	ユーザープロファイルのログインステータス
TEXT	ユーザーの説明

リソースユーザー属性	説明
UID	ユーザー識別番号
USRCLS	ユーザークラス
USROPT	ユーザーオプション

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

`OS400UserForm.xml`

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

`com.waveset.adapter.OS400ResourceAdapter`



# PeopleSoft コンポーネント

PeopleSoft コンポーネントアダプタは、PeopleSoft コンポーネントインタフェースを使用した PeopleTools with HRMS をサポートします。このアダプタは読み取り専用です。このアダプタを使用して PeopleSoft アカウントを作成または変更することはできません。このアダプタは、Active Sync を使用してアカウント情報を Identity Manager に読み込みます。

このアダプタは、`com.waveset.adapter.PeopleSoftComponentActiveSyncAdapter` クラスで定義されています。

## リソースを設定する際の注意事項

リソースをリソースアダプタに統合するには、次の PeopleSoft ツールを使用してください。

- **Application Designer** - このツールを使用して、Identity Manager プロジェクトの構築と設定を行います。
- **PeopleTools ブラウザベースアプリケーション** - このツールを使用して、コンポーネントインタフェース、ロール、およびユーザープロファイルを設定します。

Identity Manager で使用できるように PeopleSoft を設定するには、次の手順に従います。

- 手順 1: 新しいプロジェクトを作成する
- 手順 2: Identity Manager オブジェクトを編集する
- 手順 3: プロジェクトを構築する
- 手順 4: `audittrigger` スクリプトを手動で実行する
- 手順 5: 選択したテーブルに対する監査を有効にする
- 手順 6: PeopleTools を設定する
- 手順 7: 監査ログを除去する

### 手順 1: 新しいプロジェクトを作成する

次の手順に従って、PeopleSoft Application Designer を使用して新しいプロジェクトを作成します。

1. Application Designer で「**File**」>「**New**」メニューを選択することにより、新しいプロジェクトを作成します。次に、リストから「**Project**」を選択します。
2. 保存を実行してプロジェクトに名前を付けます。「**File**」>「**Save Project As...**」メニューを使用して、プロジェクトに一意の名前(たとえば、IDM)を入力します。
3. 「[手順 2: Identity Manager オブジェクトを編集する](#)」に示された作業を実行することにより、プロジェクト内にオブジェクトを作成します。

## 手順 2: Identity Manager オブジェクトを編集する

Identity Manager プロジェクトには、次の種類のオブジェクトが含まれています。

- フィールド
- レコード
- ページ
- コンポーネント
- コンポーネントインタフェース

これらのオブジェクトは、Application Designer 内で作成してください。次に、これらのオブジェクトについてそれぞれ詳しく説明します。

### フィールド

次のフィールドを作成します。

- AUDIT\_PROC\_ORDER。フィールドタイプを「Character」に、長さを「20」に設定します。
- AUDIT\_PROC\_END。フィールドタイプを「Character」に、長さを「20」に設定します。
- AUDIT\_PROC\_DATE。フィールドタイプを「Date」に設定します。

次に、AUDIT\_PROC\_ORDER フィールドを作成するための手順について説明します。

1. 「File」 → 「New」 → 「Field」 を選択します。
2. 「Character」 フィールドタイプを選択します。
3. フィールドの長さを 20 に設定します。
4. ラベル ID 「AUDIT\_PROC\_ORDER」 を割り当てます。
5. 「File」 > 「Save」 を選択してフィールドを保存します。フィールドに、「AUDIT\_PROC\_ORDER」という名前を付けます。
6. 「Insert」 > 「Current Definition」 を選択し、フィールドをプロジェクトに追加します。

### レコード

Application Designer 内で定義するレコードは、3つ (ビューが2つ、テーブルが1つ) あります。次のレコードの説明は、一般的な実装を示しています。レコードは、フィールドの追加や変更により、実装のニーズに合わせてカスタマイズできます。

#### AUDIT\_EFFDT\_LH ビュー

AUDIT\_EFFDT\_LH ビューは、PeopleSoft Active Sync リソースアダプタによってポーリングされます。Identity Manager は、次のフィールドを使用して、まだ処理されていないイベントを問い合わせます。

- AUDIT\_PROC\_ORDER。このフィールドには、Key、Search Key、List Box Item、および From Search Field の各キーを指定してください。
- AUDIT\_PROC\_END。このフィールドには、Key、Search Key、List Box Item、および Through Search Field の各フィールドを指定してください。
- EMPLID および EMPL\_RCD。これらは、Identity Manager のクエリーで従業員データを取得するために使用される、必須のキー以外のプロパティです。

AUDIT\_EFFDT\_LH テーブルのほかのすべてのフィールドは、省略可能です。

次の表では、AUDIT\_EFFDT\_LH ビューの Use Display 特性について説明します。

フィールド名	タイプ	キー	順序	方向	検索	List	システム	Default
AUDIT_PROC_ORDER	Char	キー	1	昇順	使用可	使用可	使用不可	
AUDIT_PROC_END	Char	キー		昇順	使用可	使用可	使用不可	
AUDIT_STAMP	DtTm				使用不可	使用不可	使用不可	
EFFDT	Date				使用不可	使用不可	使用不可	%date
AUDIT_OPRID	Char				使用不可	使用不可	使用不可	
AUDIT_ACTN	Char				使用不可	使用不可	使用不可	
AUDIT_RECNAME	Char				使用不可	使用不可	使用不可	
EMPLID	Char				使用不可	使用不可	使用不可	"NEW"
EMPL_RCD	Nbr				使用不可	使用不可	使用不可	

最後の監査エントリの情報は、AUDIT\_EFFDT\_LH ビューのその後の検索で使用 (および更新) される「lastProcessed」設定オブジェクトとして Identity Manager に格納されます。lastProcessed 設定オブジェクトは PeopleSoft Active Sync リソースアダプタによって保守されるため、レコードが 2 回以上処理されることはありません。

次の SQL コードは、AUDIT\_EFFDT\_LH ビューを生成するために使用します。

```
SELECT audit1.AUDIT_PROC_ORDER AS AUDIT_PROC_ORDER
,audit1.AUDIT_PROC_ORDER AS AUDIT_PROC_END
,audit1.AUDIT_STAMP AS AUDIT_STAMP
,audit1.EFFDT AS EFFDT
,audit1.AUDIT_OPRID AS AUDIT_OPRID
,audit1.AUDIT_ACTN AS AUDIT_ACTN
,audit1.AUDIT_RECNAME AS AUDIT_RECNAME
,audit1.EMPLID AS EMPLID
,CAST(audit1.EMPL_RCD AS INTEGER) AS EMPL_RCD FROM PS_AUDIT_PRS_DATA audit1
WHERE audit1.AUDIT_PROC_DATE <= %CurrentDateIn
AND NOT EXISTS (
SELECT * FROM PS_AUDIT_PRS_DATA audit2
WHERE audit2.AUDIT_PROC_DATE <= %CurrentDateIn
AND audit2.AUDIT_PROC_ORDER > audit1.AUDIT_PROC_ORDER
AND (audit2.EMPLID = audit1.EMPLID AND audit2.EMPL_RCD = audit1.EMPL_RCD) );
```

この SQL コードサンプルの最後の行によって、有効な日付を設定されている操作は、その有効な日付が来るまで Identity Manager に表示されなくなります。

### AUDIT\_PRS\_DATA テーブル

AUDIT\_PRS\_DATA テーブルには、次のフィールドを含めてください。

- **AUDIT\_PROC\_ORDER**。このフィールドには、**Key**、**Search Key**、**List Box Item**、および **From Search field** の各キーを指定してください。また、このフィールドを **Required** に設定して、PeopleSoft がデータベース列に NULL 以外の整合性制約を適用するようにしてください。
- **AUDIT\_PROC\_DATE**。このフィールドには、**Alternate Search Key** と **List Box Item** を指定してください。また、このフィールドを **Required** に設定して、PeopleSoft がデータベース列に NULL 以外の整合性制約を適用するようにしてください。
- **EMPLID** および **EMPL\_RCD**。これらは、Identity Manager のクエリーで従業員データを取得するために使用される、必須のキー以外のプロパティです。

AUDIT\_PRS\_DATA テーブルのほかのすべてのフィールドは、省略可能です。

次の表では、AUDIT\_PRS\_DATA ビューの Use Display 特性について説明します。

フィールド名	タイプ	キー	順序	方向	検索	List	システム	Default
AUDIT_PROC_ORDER	Char	キー	1	昇順	使用 可	使用 可	使用不 可	
AUDIT_PROC_DATE	Date	Alt		昇順	使用 不可	使用 不可	使用不 可	

フィールド名	タイプ	キー	順序	方向	検索	List	システム	Default
AUDIT_STAMP	DtTm				使用 不可	使用 不可	使用不 可	%date
AUDIT_OPRID	Char				使用 不可	使用 不可	使用不 可	"ANON"
AUDIT_ACTN	Char				使用 不可	使用 不可	使用不 可	"C"
AUDIT_RECNAME	Char				使用 不可	使用 不可	使用不 可	"ANON"
EMPLID	Char				使用 不可	使用 不可	使用不 可	"NEW"
EFFDT	Date				使用 不可	使用 不可	使用不 可	%date
EMPL_RCD	Nbr				使用 不可	使用 不可	使用不 可	

### PERS\_SRCH\_LH ビュー

PERS\_SRCH\_LH ビューには、Key、Search Key、List Box Item の各キーが選択された EMPLID フィールドと EMPL\_RCD フィールドを含めてください。ほかのすべてのフィールドは、Identity Manager と同期されるデータを提供します。Identity Manager のユーザーアカウントへのこれらのデータのマップは、PeopleSoft Active Sync フォーム次第です。

次の表では、PERS\_SRCH\_LH ビューの Use Display 特性について説明します。

フィールド名	タイプ	キー	順序	方向	検索	List	システム
EMPLID	Char	キー	1	昇順	使用可	使用可	使用不可
EMPL_RCD	Nbr	キー	2	昇順	使用可	使用可	使用不可
NAME	Char				使用不可	使用可	使用不可
LAST_NAME_SRCH	Char				使用不可	使用可	使用不可
SETID_DEPT	Char				使用不可	使用可	使用不可
DEPTID	Char				使用不可	使用可	使用不可
ADDRESS1	Char				使用不可	使用可	使用不可
EMPL_STATUS	Char				使用不可	使用可	使用不可

フィールド名	タイプ	キー	順序	方向	検索	List	システム
FIRST_NAME	Char				使用不可	使用可	使用不可
LAST_NAME	Char				使用不可	使用可	使用不可
MIDDLE_NAME	Char				使用不可	使用可	使用不可
REPORTS_TO	Char				使用不可	使用可	使用不可
JOBCODE	Char				使用不可	使用可	使用不可
COMPANY	Char				使用不可	使用可	使用不可
NAME_INITIALS	Char				使用不可	使用可	使用不可
COUNTRY	Char				使用不可	使用可	使用不可
PHONE	Char				使用不可	使用可	使用不可
CITY	Char				使用不可	使用可	使用不可
STATE	Char				使用不可	使用可	使用不可
POSTAL	Char				使用不可	使用可	使用不可

次の SQL コードは、PERS\_SRCH\_LH ビューを生成するために使用します。

---

**注**           なお、インストールメディアの peoplesoft/idm.zip ファイルには、次の SQL コードを複製した pers\_srch\_lh.sql という名前の SQL スクリプトファイルが含まれています。

---

```

SELECT P.EMPLID
, A.EMPL_RCD
, P.NAME
, P.LAST_NAME_SRCH
, A.SETID_DEPT
, A.DEPTID
, P.ADDRESS1
, A.EMPL_STATUS
, P.FIRST_NAME
, P.LAST_NAME
, P.MIDDLE_NAME
, A.REPORTS_TO
, A.JOBCODE
, A.COMPANY
, P.NAME_INITIALS
, P.COUNTRY

```

```

, P.PHONE
, P.CITY
, P.STATE
, P.POSTAL
FROM PS_Job A
, PS_PERSONAL_DATA P
WHERE A.EMPLID = P.EMPLID
AND A.EffDt = (
SELECT MAX(C.EffDt)
FROM PS_Job C
WHERE C.EmplID = A.EmplID
AND C.EMPL_RCD = A.EMPL_RCD
AND C.EffDt <= %CurrentDateIn)
AND A.EffSeq = (
SELECT MAX(D.EffSeq)
FROM PS_Job D
WHERE D.EmplID = A.EmplID
AND D.EMPL_RCD = A.EMPL_RCD
AND D.EffDt = A.EffDt)

```

この WHERE 節は、指定された従業員 ID に対応する現在の従業員レコードを返します。PeopleSoft では、1 人の従業員に対して複数のレコードが許可され、各レコードには固有の有効日 / 有効シーケンスがあります。この節は、すでに有効である (有効日がすでに発生した) 有効日 / 有効シーケンスのすべてのペアの中で最新であるペアを持つレコードを返します。

この WHERE 節は、サンライズの日付が未来である従業員については NULL を返しません。

## ページ

Identity Manager プロジェクトには、コンポーネントインタフェース専用の次のページも含めてください。

- LH\_AUDIT\_EFFDT
- LH\_EMPLOYEE\_DATA

### LH\_AUDIT\_EFFDT

LH\_AUDIT\_EFFDT ページには、AUDT\_EFFDT\_LH テーブルで定義されたフィールドが含まれています。このページは、PeopleSoft の GUI には表示されません。このため、フィールドの配置や順序は重要ではありません。

次の表では、LH\_AUDIT\_EFFDT ページの Use Display 特性について説明します。すべての項目は、AUDT\_EFFDT\_LH レコードで定義されます。

ラベル	タイプ	フィールド
Unique order to process	Edit Box	AUDIT_PROC_ORDER
EmplID	Edit Box	EMPLID
Upper bound for search	Edit Box	AUDIT_PROC_END
Empl Rcd Nbr	Edit Box	EMPL_RCD
Date and Time Stamp	Edit Box	AUDIT_STAMP
Effective Date	Edit Box	EFFDT
User ID	Edit Box	AUDIT_OPRID
Action	Drop Down List	AUDIT_ACTN
Audit Record Name	Edit Box	AUDIT_RECNAME

### LH\_EMPLOYEE\_DATA

LH\_EMPLOYEE\_DATA ページは、PERS\_SRCH\_LH ビューで定義されたフィールド用のコンテナです。すべての項目は、PERS\_SRCH\_LH レコードで定義されます。

次の表では、LH\_EMPLOYEE\_DATA ページの Use Display 特性について説明します。

ラベル	タイプ	フィールド
EmplID	Edit Box	EMPLID
Name	Edit Box	NAME
Last Name	Edit Box	LAST_NAME_SRCH
Department SetID	Edit Box	SETID_DEPT
Department	Edit Box	DEPTID
Address Line 1	Edit Box	ADDRESS1
Personnel Status	Edit Box	PER_STATUS
Employee Status	Edit Box	EMPL_STATUS
First Name	Edit Box	FIRST_NAME
Last Name	Edit Box	LAST_NAME
Middle Name	Edit Box	MIDDLE_NAME
Reports To Position	Edit Box	REPORTS_TO

ラベル	タイプ	フィールド
Job Code	Edit Box	JOBCODE
Company	Edit Box	COMPANY
Name Initials	Edit Box	NAME_INITIALS
Country	Edit Box	COUNTRY
Telephone	Edit Box	PHONE
City	Edit Box	CITY
State	Edit Box	STATE
Postal Code	Edit Box	POSTAL
Empl Rcd Nbr	Edit Box	EMPL_RCD

### コンポーネント

コンポーネントは、ページとメニューを橋渡しします。ページを作成したら、そのページをメニューやビジネスプロセスで使用するために1つ以上のコンポーネントに追加してください。

次のページごとに別個のコンポーネントを作成します。

- LH\_AUDIT\_EFFDT
- LH\_EMPLOYEE\_DATA

デフォルトのコンポーネント名は、LH\_AUDIT\_EFFDT および LH\_EMPLOYEE\_COMP です。

次に、LH\_AUDIT\_EFFDT フィールドを作成するための手順について説明します。

1. 「File」 > 「New...」 > 「Component」を選択します。
2. 「Insert」 > 「Page Into Component...」を選択します。名前を「LH\_AUDIT\_EFFDT」として指定します。
3. 「File」 > 「Definition/Object Properties」を選択します。次に、「Use and Search Record AUDIT\_EFFDT\_LH」に移動します。
4. 「Select File」 > 「Save」を選択し、コンポーネントに「LH\_AUDIT\_EFFDT」と名前を付けます。

## コンポーネントインタフェース

コンポーネントインタフェースは、ほかのアプリケーション (Identity Manager など) からの同期アクセスのために PeopleSoft コンポーネントを公開する PeopleTools オブジェクトです。作成したコンポーネントごとに別個のコンポーネントインタフェースを作成します。コンポーネントインタフェースのデフォルト名は、LH\_AUDIT\_EFFDT\_COMP\_INTF および LH\_EMPLOYEE\_COMP\_INTF です。これらの値は、Active Sync ウィザードの「Active Sync の一般設定」ページで変更できます。

次に、LH\_AUDIT\_EFFDT\_COMP\_INTF コンポーネントインタフェースを作成するための手順について説明します。

1. 「File」 > 「New...」 > 「Component Interface」を選択します。
2. LH\_AUDIT\_EFFDT など、ソースコンポーネントを指定します。プロンプトが表示されたら、「Yes」を選択します。
3. 「File」 > 「Save」を選択します。名前 LH\_AUDIT\_EFFDT\_COMP\_INTF を指定します。

## 手順 3: プロジェクトを構築する

この手順に従って、プロジェクトを構築し、データベースに PeopleSoft のビューやテーブルを作成します。

Application Designer を使用してプロジェクトを構築するには、次の手順に従います。

1. 「Build」 > 「Project」を選択します。「Build」ダイアログが表示されます。
2. 「Build Options」領域で、「Create Tables」オプションと「Create Views」オプションを選択します。「Build Execute Options」領域で、「Execute SQL now」オプションを選択します。
3. 「Settings」をクリックします。「Build Settings」ダイアログが表示されます。
4. 「Recreate table if it already exists」オプションが選択されていることを確認します。
5. 「Logging」タブをクリックします。
6. 「Logging Level」領域で、「Fatal errors, warnings and information messages」オプションを選択します。
7. 「Logging Output」領域で、一意のログファイル名を入力します。
8. 「OK」をクリックしてから「Build」をクリックし、プロジェクトを構築して、ビューとテーブルを作成します。

Application Designer に、次のような警告メッセージが表示される場合があります。

Potentially data destructive settings are active. Continue the build process?

9. 「**Yes**」をクリックして構築処理を続行します。

---

**注** プロジェクトのインポートと構築が終了したら、**Application Designer** でコンポーネントをテストしてください。**PeopleSoft** に含まれるプロジェクトインポート機能の信頼性は、リリースによって異なります。このため、オブジェクトの検証はとても重要です。

---

## 手順 4: audittrigger スクリプトを手動で実行する

idm.zip ファイルには、audittrigger.oracle という名前の **Oracle SQL** スクリプトが含まれています。このスクリプトは、PS\_AUDIT\_PRS\_DATA テーブルの AUDIT\_PROC\_DATE 列と AUDIT\_PROC\_ORDER 列を維持するのに必要なトリガーと処理を作成します。

---

**注** audittrigger.oracle スクリプトは、**Oracle** 専用です。ほかのデータベースを使用する場合は、このスクリプトをそのデータベースで動作するように変換してください。

---

audittrigger.oracle スクリプトまたはそれに相当するものは、**PeopleSoft** プロジェクトを再構築するたびに実行してください。

## 手順 5: 監査を有効にする

**Application Designer** で、**JOB** テーブルと **PERSONAL\_DATA** テーブル ( 場合によってはさらに **POSITION\_DATA** テーブルと **EMPLOYMENT** テーブル ) に対する監査を有効にします。これは、演算子と変更されたレコードの **EMPLID** を使用して簡単な略式レコードを書き込むレコードレベルの監査です。

**PeopleTools** のデータベースオブジェクトを更新するには、次の手順に従います。

1. **Application Designer** を起動します。
2. 「**File**」 > 「**Open**」を選択して「**Open Object**」ダイアログを表示します。
3. 「**Object type**」メニューから「**Record**」を選択し、「**Name**」フィールドに「**JOB**」と入力します。
4. 「**Open**」をクリックしてレコードを開きます。
5. 「**File**」 > 「**Properties**」を選択してレコードのプロパティーを開き、「**Use**」タブをクリックします。
6. 「**Record Name**」フィールドで、「**AUDIT\_PRS\_DATA**」を選択します。

7. 「Audit Options」領域で、「Add」オプション、「Change」オプション、および「Delete」オプションを選択します。「Selective」オプションにはチェックマークを付けないでください。

PERSONAL\_DATA テーブルおよびデータ同期のトリガーになるその他のテーブルについて、これらの手順を繰り返します。

---

**注**            詳細は、Application Designer のマニュアルの「Creating Record Definitions」を参照してください。

---

## 手順 6: PeopleTools を設定する

設定プロセスを完了するには、PeopleTools ブラウザベース GUI を使用して、アクセス権リストにコンポーネントインタフェースを割り当て、ロールを作成してそのロールにアクセス権リストを割り当て、ユーザープロファイルにそのロールを割り当ててください。これらのエンティティについては、PeopleTools のマニュアルを参照してください。

### コンポーネントインタフェース

コンポーネントインタフェースの使用を承認する必要があります。コンポーネントインタフェースを承認するには、次の手順に従います。

1. PeopleTools ブラウザベース GUI にログインし、「Home」>「People Tools」>「Maintain Security」>「Use」>「Permission Lists」に移動します。Peoplesoft 9 の場合、このパスは「Home」>「People Tools」>「Security」>「Permissions & Roles」>「Permission Lists」になります。
2. 「Add a New Value」リンクを選択し、値（たとえば、LH\_ALL）を入力します。
3. ページ上部のタブセクションの右矢印を「Component Interface」タブが表示されるまでクリックします。次に、「Component Interface」タブをクリックします。
4. テキストボックスに既存のコンポーネントインタフェース（たとえば、LH\_AUDIT\_EFFDT\_COMP\_INTF）を入力します。
5. 「Edit」リンクをクリックして、「Component Interface Permissions」ページに移動します。
6. 「Full Access」ボタンをクリックして、すべてのメソッドに対するフルアクセスを有効にするか、ドロップダウンメニューを使用して個々のメソッドに対するアクセスを割り当てます。「OK」をクリックして「Permission Lists」ページに戻ります。
7. 「+（プラス）」ボタンをクリックします。さらにテキストボックスが表示されます。
8. テキストボックスに、ほかの既存のコンポーネントインタフェース（たとえば、LH\_EMPLOYEE\_COMP\_INTF）を入力します。

9. 手順5および6を繰り返します。
10. 変更を保存します。

### ロール

コンポーネントインタフェースに PeopleSoft ロールを割り当てるには、次の手順に従います。

1. 「**Home**」 > 「**People Tools**」 > 「**Maintain Security**」 > 「**Use**」 > 「**Roles**」に移動します。Peoplesoft 9 の場合、このパスは「**Home**」 > 「**People Tools**」 > 「**Security**」 > 「**Permissions & Roles**」 > 「**Roles**」になります。
2. 「Add a New Value」リンクを選択し、値(たとえば、LH\_ROLE)を入力します。
3. 「Permission Lists」タブをクリックします。
4. 既存のアクセス権リスト(たとえば、LH\_ALL)を入力します。
5. 変更を保存します。

### ユーザープロファイル

ユーザープロファイルにロールを割り当てるには、次の手順に従います。

1. 「**Home**」 > 「**People Tools**」 > 「**Maintain Security**」 > 「**Use**」 > 「**User Profiles**」に移動します。Peoplesoft 9 の場合、このパスは「**Home**」 > 「**People Tools**」 > 「**Security**」 > 「**User Profiles**」 > 「**User Profiles**」になります。
2. 既存のユーザー ID を入力します。このユーザーは、Identity Manager の「リソースパラメータ」ページのユーザーとして指定できます。

---

**注** 新しいユーザーを作成することもできます。ユーザーアカウントの要件の詳細については、PeopleSoft のマニュアルを参照してください。

---

3. 「Roles」タブを選択します。
4. 「+(プラス)」ボタンをクリックします。さらにテキストボックスが表示されます。
5. ロールの名前(たとえば、LH\_ROLE)を入力します。
6. 変更を保存します。

## 手順 7: 監査ログを除去する

Identity Manager は、監査ログから監査イベントを削除しません。PeopleSoft 管理者は、古い監査エントリを除去するタスクを設定する必要があります。このタスクは、未来の有効日を持つトランザクションを、Identity Manager が処理するまで維持する必要があります。つまり、AUDIT\_PROC\_DATE が未来であるエントリを除去してはいけません。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

PeopleSoft コンポーネントリソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. psjoa.jar ファイルをインストールメディアから *InstallDir*\idm\WEB-INF\lib ディレクトリにコピーします。

この jar ファイルのバージョン番号は、PeopleSoft のバージョンと一致する必要があります。

2. このリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.PeopleSoftComponentActiveSyncAdapter
```

## 使用上の注意

ここでは、PeopleSoft コンポーネントリソースアダプタの使用に関連する情報を提供します。次のトピックがあります。

- [クラスタ内のホストの制御](#)
- [ActiveSync 設定](#)

### クラスタ内のホストの制御

waveset.properties ファイルの `sources.ResourceName.hosts` プロパティを使用して、Active Sync を使用してリソースの同期を行うのにクラスタ内のどのホストを使用するかを制御できます。`ResourceName` は、リソースオブジェクトの名前に置き換えてください。

### ActiveSync 設定

Active Sync ウィザードの「Active Sync の一般設定」ページで、「監査コンポーネントインタフェース名」と「従業員コンポーネントインタフェース名」を指定します。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、Client Connection Toolkit (同期のみ) を使用してこのアダプタと通信します。

### 必要な管理特権

PeopleSoft に接続するユーザー名を、コンポーネントインタフェースにアクセスできる PeopleSoft ロールに割り当ててください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの作成	使用不可
アカウントの更新	使用不可
アカウントの削除	使用不可
アカウントの有効化 / 無効化	使用不可
パスワードの更新	使用不可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	Active Sync

# アカウント属性

次の表に、PeopleSoft コンポーネント Active Sync アダプタのアカウント属性に関する情報を示します。

リソース ユーザー属性	mapName	説明
accountId	EMPLID	必須。
ACTION	ACTION	最大 3 文字のアクションコード
ACTION_REASON	ACTION_REASON	最大 3 文字の理由コード
AUDIT_ACTN	AUDIT_ACTN	システムが監査したアクションのタイプ (A= 追加、C= 変更、D= 削除)。
AUDIT_OPRID	AUDIT_OPRID	システムによる監査のトリガーを発生させたオペレータ
AUDIT_STAMP	AUDIT_STAMP	日付と時刻のスタンプ
AUDIT_RECNAME	AUDIT_RECNAME	システムが監査したレコードの名前
EFFSEQ	EFFSEQ	有効シーケンス
EFFDT	EFFDT	有効日
Employee ID	EMPL_ID	ユーザーを一意に識別するために使用されるキーフィールド。
fullname	NAME	ユーザーのフルネーム。
firstname	FIRST_NAME	ユーザーの名。
lastname	LAST_NAME	ユーザーの姓。
Middle Name	MIDDLE_NAME	ユーザーのミドルネーム
PS_PER_STATUS	PER_STATUS	担当者のステータス (従業員、非従業員など)
PS_EMPL_STATUS (AS アダプタでのステータ ス)	EMPL_STATUS	従業員のステータス (アクティブ、保留、終了など)
Home Address	ADDRESS1	ユーザーの自宅住所
Department	DEPTID	ユーザーの部署
Manager	REPORTS_TO	ユーザーの上司
Job Title	JOBCODE	ユーザーの役職を識別するコード。
Initials	NAME_INITIALS	ユーザーのイニシャル
Country	COUNTRY	3 文字の国コード

リソース ユーザー属性	mapName	説明
Company	COMPANY	会社名
Home Phone	PHONE	ユーザーの自宅電話番号
Home City	CITY	ユーザーが居住する市
Home State	STATE	ユーザーが居住する州
Home Zip	POSTAL	ユーザーの自宅郵便番号。

## リソースオブジェクトの管理

該当なし。

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

`PeopleSoftForm.xml`

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.PeopleSoftComponentActiveSyncAdapter
```



# PeopleSoft コンポーネントインタフェース

PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタは、`com.waveset.adapter.PeopleSoftCompIntfcAdapter` クラスで定義されます。

このリソースアダプタは、コンポーネントインタフェースを介して PeopleSoft のデータを管理します。また、サポートされているバージョンの PeopleTools とともにその他の PeopleSoft アプリケーション (HR、Financials など) がシステムにインストールされている場合は、それらのアプリケーションも管理できます。

## リソースを設定する際の注意事項

PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタは、デフォルトで `USER_PROFILE` コンポーネントインタフェースと `DELETE_USER_PROFILE` コンポーネントインタフェースをサポートするように設定されています。このアダプタでは、コンポーネントインタフェースが次のメソッドをサポートする場合に、カスタムコンポーネントインタフェースを使用してアカウントデータの作成、読み取り、更新も行えます。

- Create
- Get
- Find
- Save
- SetPassword

アカウントを削除するには、カスタムコンポーネントインタフェースが次のメソッドをサポートしている必要があります。

- Get
- Save

さらに、「リソースパラメータ」ページで指定されたユーザーが、呼び出されたコンポーネントインタフェースのメソッドを実行するためのアクセス権を持っている必要があります。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 次のファイルを PeopleSoft のインストールメディアから \$WSHOME/WEBINF/lib ディレクトリにコピーします。

psjoa.jar

---

**注** psjoa.jar のバージョンはインストールされている PeopleSoft システムのバージョンと一致する必要があります。

---

2. このリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.PeopleSoftCompIntfAdapter
```

## 使用上の注意

PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタは、PeopleSoft コンポーネントインタフェースのメソッドを呼び出し、プロパティを設定することによって、ユーザープロビジョニングを実行します。コンポーネントインタフェースの定義は、PeopleSoft コンポーネントインタフェース設定オブジェクトに割り当てられます。このオブジェクトは、デバッグページまたは Identity Manager IDE を使用して変更できます。\$WSHOME/sample/PeopleSoftComponentInterfaces.xml ファイルのコピーを編集し、そのファイルを Identity Manager に読み込むこともできます。

このアダプタを使用したコンポーネントインタフェースの設定と実装の詳細については、次の各節を参照してください。

- [コンポーネントインタフェースマップの定義](#)
- [USER\\_PROFILE コンポーネントインタフェースへの FIND メソッドのサポートの追加](#)
- [PeopleSoft コンポーネントインタフェースのリソースオブジェクト](#)

### コンポーネントインタフェースマップの定義

コンポーネントインタフェースマップには、アダプタで使用できるコンポーネントインタフェースのリストが含まれています。

- `interfaces` オブジェクト - コンポーネントインタフェースのリストが含まれています。カスタムコンポーネントインタフェースがある場合は、マップに独自のコンポーネントインタフェースの定義を定義します。PeopleSoft コンポーネントインタフェース設定オブジェクトを編集し、定義を追加オブジェクトとして `<Attribute name='interfaces'>` 要素の下の `<List>` 要素に追加します。

使用可能なコンポーネントインタフェースは、それぞれ独自の定義を持っています。コンポーネントインタフェースの定義の主要な要素は次のとおりです。

- `name` 属性 - コンポーネントインタフェースのラベル。多くの場合、`componentInterface` 属性の値と一致しますが、これは必要条件ではありません。この値は、アダプタの「リソースパラメータ」ページのドロップダウンメニューに表示されます。
- `componentInterface` 属性 - PeopleSoft で定義されたコンポーネントインタフェースの名前。
- `getKey` 属性 - PeopleSoft の GET 操作を実行するときに設定されるコンポーネントインタフェースプロパティの名前。`getKey` が定義されていない場合は、`key` 属性が代わりに使用されます。
- `findKey` 属性 - PeopleSoft の FIND 操作を実行するときに設定されるコンポーネントインタフェースプロパティの名前。`findKey` が定義されていない場合は、`key` 属性が代わりに使用されます。
- `createKey` 属性 - PeopleSoft の CREATE 操作を実行するときに設定されるコンポーネントインタフェースプロパティの名前。`createKey` が定義されていない場合は、`key` 属性が代わりに使用されます。
- `key` 属性 - 非推奨。代わりに、`getKey`、`findKey`、または `createKey` を使用します。
- `properties` 属性 - PeopleSoft コンポーネントインタフェースから読み取りまたは設定を行うことができるプロパティのリスト。

*properties* リスト内の各オブジェクトには、次の属性が必要です。

- `name` - プロパティの名前。これは、`componentInterface` プロパティで識別される PeopleSoft コンポーネントインタフェースによって公開されたプロパティの名前と正確に一致する必要があります。これらのプロパティの名前は、「アカウント属性」ページにリソースユーザー属性として一覧表示される候補です。

これがコレクションプロパティである場合は、追加属性を定義してください。コレクションプロパティは、そのキープロパティと、独自の入れ子構造を持つ単純プロパティまたは複合プロパティ、あるいはその両方のセットを定義します。

- `isCollection` 属性 - プロパティがコレクションである場合は、この属性を `true` に設定します。
- `key` 属性 - プロパティがコレクションである場合は、この属性を、コレクションの各項目を一意に識別するプロパティの名前に設定します。

- properties 属性 - コレクションの各項目について読み取りまたは設定を実行できるプロパティのリスト。任意の複雑さをサポートするために、このリストの各メンバーは、親と同じ許可された属性を持つオブジェクトになっています。つまり、リストには、メンバーごとに固有の name、isCollection、key、および properties 属性を含めることができます。
- disableRule 属性 - ユーザー無効状態を算出および設定するためのロジックを定義するオブジェクト。この属性には次の属性が含まれています。
  - property 属性 - チェックするためのプロパティ。この値を、componentInterface オブジェクトの properties 属性に一覧表示します。
  - trueValue 属性 - ユーザーが無効になっていることを示す値。
  - falseValue 属性 - ユーザーが有効になっていることを示す値。
- supportedObjectTypes 属性 - アダプタを介してアクセスできる Identity Manager リソースオブジェクトタイプのリスト。各オブジェクトは一連の機能を定義します。
  - features 属性 - サポートされる機能のリスト。使用可能な機能のタイプには、表示、取得、一覧表示、検索、作成、名前を付けて保存、更新、名前の変更、および削除があります。

## デフォルトでサポートされるコンポーネントインタフェース

デフォルトのコンポーネントインタフェース設定オブジェクトは、次のインタフェースを定義します。

- **USER\_PROFILE** - create アクション、read アクション、および update アクションを実行します。
- **DELETE\_USER\_PROFILE** - ユーザーアカウントを削除します。
- **ROLE\_MAINT** - PeopleSoft ロールのサポートを追加します。

### USER\_PROFILE コンポーネントインタフェース

デフォルトの **USER\_PROFILE** コンポーネントインタフェース定義は、create アクション、read アクション、および update アクションを実行するために使用されます。**USER\_PROFILE** コンポーネントインタフェースが **GETKEYS** キーと **FINDKEYS** キーに対して **UserID** フィールドを割り当てるため、key 属性と findKey 属性は **UserID** に設定されます。

**USER\_PROFILE** コンポーネントインタフェースのデフォルトの定義によって、使用可能なすべてのプロパティが定義されているわけではありません。サンプルユーザーフォーム中で使用されているものを含むように簡素化されています。「アカウント属性」ページにはほかのリソースユーザー属性を追加する必要がある場合は、最初にコンポーネントインタフェース定義を更新してください。コンポーネントインタフェース定義のリストに記載されていないリソースユーザー属性は、そのページに追加できません。

USER\_PROFILE に定義されているほとんどのプロパティは、単純なオブジェクトです。ただし、IDTypes オブジェクトと Roles オブジェクトはコレクションであり、複数の値を持つ可能性があります。IDTypes には、固有の属性のコレクションが含まれています。これらのオブジェクトには、isCollection 属性、コレクションのキー名、および少なくとも 1 つのプロパティを含めてください。

### DELETE\_USER\_PROFILE コンポーネントインタフェース

DELETE\_USER\_PROFILE コンポーネントインタフェース定義は、ユーザープロファイル定義を削除するために使用されます。OPRID キーは、削除するユーザープロファイルを決定します。このコンポーネントインタフェースにはプロパティがないため、定義には何も表示されません。

### ROLE\_MAINT コンポーネントインタフェース

ROLE\_MAINT コンポーネントインタフェース定義は、ロールリソースオブジェクトを一覧表示するように Identity Manager を設定する方法を示したサンプル実装の一部です。次に示す一般的なガイドラインに従って、ROLE\_MAINT の例を実際の要件に合わせて変更することにより、ほかのリソースオブジェクトを一覧表示できます。

---

**注** PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタは、リソースオブジェクトの一覧表示のみをサポートします。ほかのオブジェクト機能 (更新、作成、削除など) はサポートしません。

---

ROLE\_MAINT コンポーネントインタフェース定義には、次の重要な特性があります。

- ROLENAME が FINDKEYS と GETKEYS の主キーであるため、findKey 属性と getKey 属性は ROLENAME に割り当てられます。
- DESCR と ROLESTATUS も FINDKEYS のキーですが、これらは主キーではないため、findKey の値としては表示されません。代わりに、これらは properties セクションに表示されます。
- supportedObjectTypes 属性は、Role オブジェクトを定義します。Role オブジェクトは検索機能と取得機能をサポートします。

### USER\_PROFILE コンポーネントインタフェースへの FIND メソッドのサポートの追加

デフォルトの USER\_PROFILE コンポーネントインタフェースは、FIND メソッドをサポートしません。ただし、PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタでアカウントの反復とリストをサポートするには、FIND メソッドが必要になります。

既存の USER\_PROFILE コンポーネントに FIND メソッドのサポートを追加するには、次の手順を使用します。

1. USER\_PROFILE コンポーネントインタフェースを PeopleSoft Application Designer にロードします。
2. USERMAINT コンポーネントを表示している左側のウィンドウで、PSOPRDEFN\_SRCH オブジェクトの下にある「OPRID」フィールドを選択します。  
このフィールドを、USER\_PROFILE CI を表示している右側のウィンドウにドラッグします。  
フィールドをドロップすると、USER\_PROFILE CI に新しいキー「FINDKEYS」が作成されます。そのキーの下に、サブキー「OPRID」があります。
3. FINDKEYS の下の OPRID 名を右クリックし、「Edit Name」を選択します。名前を UserID に変更します。
4. USER\_PROFILE CI を右クリックし、「Component Interface Properties」を選択します。「Standard Methods」タブを選択し、「Find」チェックボックスを選択します。「OK」をクリックして「Component Interface Properties」ダイアログを閉じます。
5. USER\_PROFILE コンポーネントインタフェースに対する変更を保存します。  
コンポーネントインタフェースの「METHODS」フィールドに、Find メソッドが表示されます。新しい FIND メソッドの機能を確認するため、コンポーネントインタフェースを右クリックし、「Test Component Interface」を選択します。

---

**注** PeopleSoft 管理者は、Create、Get、Save、および SetPassword の各メソッドに加え、コンポーネントインタフェースの Find メソッドに対してもフルアクセスを与えなければなりません。

---

## PeopleSoft コンポーネントインタフェースのリソースオブジェクト

PeopleSoft コンポーネントインタフェースリソースの XML を編集することにより、リソースオブジェクトを管理できます。ObjectType 要素を追加するには、デバッグページまたは Identity Manager IDE を使用します。

たとえば、Role リソースオブジェクトのサポートを追加するには、このような ObjectType 要素を追加します。

```
<ObjectTypes>
<ObjectType name='Role' icon='role'>
  <ObjectFeatures>
    <ObjectFeature name='find' />
  </ObjectFeatures>
  <ObjectAttributes idAttr='ROLENAME' displayNameAttr='ROLENAME'
descriptionAttr='DESCR'>
    <ObjectAttribute name='ROLENAME' type='string' />
  </ObjectAttributes>
</ObjectType>
</ObjectTypes>
```

```

        <ObjectAttribute name='DESCR' type='string' />
        <ObjectAttribute name='ROLESTATUS' type='string' />
    </ObjectAttributes>
</ObjectType>
</ObjectTypes>

```

**ObjectType** name (たとえば、**Role**) は、ただ 1 つのコンポーネントインタフェース定義の `supportedObjectTypes` リストに含まれるいずれかのオブジェクトの名前と一致する必要があります。各 **ObjectFeature** (たとえば、**find**) は、その同じ `supportedObjectTypes` の `features` リストでの対応する機能を持っている必要があります。一致するコンポーネントインタフェースは、そのリソース機能を実行するために使用されるコンポーネントインタフェースになります。複数に一致する場合は、最初に一致したものが使用されます。

次の例は、コンポーネントインタフェースマップに含まれる **ROLE\_MAINT** コンポーネントインタフェースのコンポーネントインタフェース定義の一部です。オブジェクト名 **Role** が見つかれば、機能リスト内の項目の 1 つは **find** という名前です。

```

<Attribute name='supportedObjectTypes' >
  <List>
    <Object name='Role'>
      <Attribute name='features' >
        <List>
          <Object name='find' />
          <Object name='get' />
        </List>
      </Attribute>
    </Object>
  </List>
</Attribute>

```

## ユーザーフォーム

次のユーザーフォームフラグメントを使用して、PeopleSoft ロールのリストを検出できます。ROLENAME 属性と DESCR 属性が取得されます。

```

<invoke name='getResourceObjects' class='com.waveset.ui.FormUtil'>
  <ref>:display.session</ref>
  <s>Role</s>
  <s>PeopleSoft Component Interface</s>
  <map>
    <s>searchAttrsToGet</s>
    <list>
      <s>ROLENAME</s>
      <s>DESCR</s>
    </list>
  </map>
</invoke>

```

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、Client Connection Toolkit (読み取り / 書き込み) を使用してこのアダプタと通信します。

### 必要な管理特権

PeopleSoft に接続するユーザーを、管理対象のコンポーネントインタフェースのメソッドにアクセスできる PeopleSoft ロールに割り当ててください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの作成	使用可
アカウントの更新	使用可
アカウントの削除	使用可
アカウントの有効化 / 無効化	コンポーネントインタフェースマップに有効化 / 無効化のロジックが定義されている場合は、使用可
パスワードの更新	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

PeopleSoft コンポーネントインタフェースリソースのアカウント属性は、管理されるコンポーネントインタフェースによって異なります。

スキーママップの各エントリは、コンポーネントインタフェースマップ内のコンポーネントインタフェースに対して定義された「**properties**」リスト中のいずれかのエントリに一致するリソースユーザー属性名を持っているはずですが、スキーママップの編集時に「**設定のテスト**」ボタンをクリックすると、該当する一致を確認できます。

リソースユーザー属性名がコンポーネントインタフェースマップ内のコレクションプロパティと一致する場合、アカウント属性の値はそのコレクションの XML 文字列表現になります。コレクションプロパティの操作例については、サンプルユーザーフォームフィールド `accounts[PeopleSoft Component Interface].ps_roles` を参照してください。

---

**注** 新しいリソースインスタンスに対して定義されるデフォルトのスキーママップエントリは、デフォルトの `USER_PROFILE` および `DELETE_USER_PROFILE` コンポーネントインタフェースマップと使用する場合のみに対応します。これらのマップを変更したり、独自のマップを作成したりする場合は、それに応じてスキーママップを変更してください。

---

すべてのアカウント属性のタイプは `String` です。

---

Identity Manager ユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
<code>description</code>	<code>UserDescription</code>	ユーザーの説明。
<code>symbolicId</code>	<code>SymbolicID</code>	必須。ユーザーの記号 ID。
<code>IDTypes</code>	<code>IDTypes</code>	ユーザーに割り当てられたユーザータイプのリスト。
<code>ps_roles</code>	<code>Roles</code>	ユーザーに割り当てられたルールのリスト。
<code>email</code>	<code>EmailAddress</code>	ユーザーの電子メールアドレス。この属性は、古い PeopleTools リリースでのみ使用できません。この属性は、デフォルトではスキーママップ内に存在しません。
<code>EmailAddresses</code>	<code>EmailAddresses</code>	ユーザーの電子メールアドレスのリスト。この属性は、PeopleTools の 8.4x リリースでのみ使用できます。この属性は、デフォルトではスキーママップ内に存在しません。

---

# リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

次のフォームは、`$WSHOME/sample/forms` ディレクトリにあります。

- `PeopleSoftCompIntfcUserForm.xml`

このユーザーフォームは、`USER_PROFILE` コンポーネントインタフェースが管理され、デフォルトアカウント属性が使用されている場合にのみ、期待どおりに機能します。このフォームは、スキーママップに `email` アカウント属性が追加されていることを前提としています。

`EmailAddress` 属性は、古い `PeopleTools` リリースでのみ使用できます。`USER_PROFILE` が `EmailAddress` 属性をサポートしているかどうかは、`PeopleTools` の管理者に確認してください。

別のコンポーネントインタフェースを管理している場合や、別のスキーママップを使用している場合は、それに応じてユーザーフォームも変更する必要があります。

- `PeopleSoft_8_4X_CompIntfcUserForm.xml`

このユーザーフォームは、`USER_PROFILE` コンポーネントインタフェースが管理されている場合にのみ期待どおりに機能します。このフォームは、スキーママップに `EmailAddresses` アカウント属性が追加されていることを前提としています。

`EmailAddresses` 属性は、`PeopleTools` の新しい 8.4x リリースでのみ使用可能です。`USER_PROFILE` が `EmailAddresses` 属性をサポートしているかどうかは、`PeopleTools` の管理者に確認してください。

## トラブルシューティング

デバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.PeopleSoftCompIntfcAdapter
```

# RACF

RACF リソースアダプタは、OS/390 メインフレーム上のユーザーアカウントとメンバーシップの管理をサポートします。このアダプタは、TN3270 エミュレータセッションで RACF を管理します。

RACF リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.RACFResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

RACF リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. RACF リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.RACFResourceAdapter
```

2. 適切な JAR ファイルを Identity Manager インストールの `WEB-INF/lib` ディレクトリにコピーします。

コネクションマネージャー	JAR ファイル
Host On Demand	<p>IBM Host Access Class Library (HACL) は、メインフレームへの接続を管理します。HACL が含まれる推奨 JAR ファイルは <code>habeans.jar</code> です。これは、HOD に付属する HOD Toolkit (または Host Access Toolkit) とともにインストールされます。HACL のサポートされるバージョンは、HOD V7.0、V8.0、V9.0、および V10 に含まれるバージョンです。</p> <p><code>habeans.jar</code> ファイルただし、このツールキットを利用できない場合は、HOD のインストールに含まれる次の JAR ファイルを <code>habeans.jar</code> の代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>habase.jar</code></li> <li>• <code>hacp.jar</code></li> <li>• <code>ha3270.jar</code></li> <li>• <code>hassl.jar</code></li> <li>• <code>hodbase.jar</code></li> </ul> <p>詳細は、  <a href="http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/">http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/</a> を参照してください。</p>
Attachmate WRQ	<p>Sun 製品向け Attachmate 3270 メインフレームアダプタには、メインフレームへの接続の管理に必要なファイルが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>RWebSDK.jar</code></li> <li>• <code>wrqtls12.jar</code></li> <li>• <code>profile.jaw</code></li> </ul> <p>この製品の入手については、Sun プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。</p>

3. `Waveset.properties` ファイルに次の定義を追加して、端末セッションを管理するサービスを定義します。

```
serverSettings.serverId.mainframeSessionType=Value
serverSettings.default.mainframeSessionType=Value
```

*Value* は、次のように設定できます。

- 1 - IBM Host On-Demand (HOD)
- 3 - Attachmate WRQ

これらのプロパティが明示的に設定されていなければ、Identity Manager はまず WRQ を使用し、次に HOD を使用します。

4. Attachmate ライブラリが WebSphere または WebLogic アプリケーションサーバーにインストールされている場合は、`com.wrq.profile.dir=LibraryDirectory` プロパティを `WebSphere/AppServer/configuration/config.ini` または `startWeblogic.sh` ファイルに追加します。

これにより、Attachmate コードでライセンスファイルを検索できます。

5. `Waveset.properties` ファイルに加えた変更を有効にするために、アプリケーションサーバーを再起動します。
6. リソースへの SSL 接続を設定する詳細は、[547 ページの「メインフレーム接続」](#)を参照してください。

## 使用上の注意

ここでは、RACF リソースアダプタの使用に関する情報を示します。次のトピックで構成されています。

- [管理者](#)
- [追加セグメントのサポート](#)
- [リソースアクション](#)
- [SSL 設定](#)

### 管理者

TSO セッションでは、複数の同時接続は許可されません。Identity Manager RACF 操作の同時実行を実現するには、複数の管理者を作成します。したがって、2 人の管理者を作成すると、2 つの Identity Manager RACF 操作を同時に実行できます。少なくとも 2 人 (できれば 3 人) の管理者を作成するようにしてください。

クラスタ環境で実行する場合は、クラスタ内のサーバーごとに 1 人の管理者を定義します。これは、各サーバーの管理者が同じ管理者である場合にも適用されます。TSO の場合は、クラスタ内のサーバーごとに異なる管理者にします。

クラスタを使用しない場合は、各行のサーバー名が同じ (Identity Manager ホストマシンの名前) になるようにしてください。

---

**注** ホストリソースアダプタは、同じホストに接続している複数のホストリソースでの親和性管理者に対して最大接続数を強制しません。代わりに、各ホストリソース内部の親和性管理者に対して最大接続数が強制されません。

同じシステムを管理する複数のホストリソースがあり、現在それらが同じ管理者アカウントを使用するように設定されている場合は、同じ管理者がリソースに対して同時に複数のアクションを実行しようとしていないことを確認するために、それらのリソースを更新しなければならない可能性があります。

---

## 追加セグメントのサポート

RACF アダプタは、デフォルトでサポートされているセグメントには含まれない属性をサポートするように設定できます。

1. セグメントを解析する `AttrParse` オブジェクトを作成します。カスタム `AttrParse` オブジェクトの定義については、[493 ページの「AttrParse オブジェクトの実装」](#)を参照してください。 `AttrParse` オブジェクトの例は、`$WSHOME/web/sample/attrparse.xml` に定義されています。

2. `ResourceAttribute` 要素を RACF リソースオブジェクトに追加します。たとえば、次のようにします。

```
<ResourceAttribute name='WORKATTR Segment AttrParse'  
  displayName='WORKATTR Segment AttrParse' description='AttrParse for  
  WORKATTR Segment' value='Default RACF WORKATTR Segment AttrParse'>  
</ResourceAttribute>
```

この例では、`WORKATTR Segment AttrParse` というラベルのフィールドが「リソースパラメータ」ページに追加されます。 `name` 属性に割り当てられる値は、`SegmentName Segment AttrParse` という形式である必要があります。

3. カスタムアカウント属性を定義する要素を RACF リソースオブジェクトに追加します。

```
<AccountAttributeType id='32' name='WORKATTR Account'  
  syntax='string' mapName='WORKATTR.WAACNT' mapType='string'>  
</AccountAttributeType>
```

`mapName` 属性の値は、`SegmentName.AttributeName` という形式である必要があります。アダプタがこの形式の `mapName` を検出すると、指定されたセグメントを RACF に対して要求し、`SegmentName Segment AttrParse` フィールドに指定されたオブジェクトを使用して解析します。

## リソースアクション

RACF アダプタに必要なリソースアクションは **login** と **logoff** です。login アクションは、認証されたセッションに関してメインフレームとネゴシエーションを行います。logoff アクションは、そのセッションが不要になったときに接続を解除します。

login リソースアクションおよび logoff リソースアクションの作成の詳細については、[521 ページの「メインフレームの例」](#)を参照してください。

## SSL 設定

Identity Manager は TN3270 接続を使用してリソースと通信します。

RACF リソースへの SSL 接続に関する詳細については、[547 ページの「メインフレーム接続」](#)を参照してください。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、TN3270 を使用して RACF アダプタと通信します。

### 必要な管理特権

ユーザープロファイル (ユーザー自身のものを含む) の非ベースセグメント内の情報を定義または変更するには、SPECIAL 属性または少なくともフィールドレベルのアクセスチェックを介したセグメントの UPDATE 権限を持っている必要があります。

ユーザープロファイルの内容またはユーザープロファイルの個々のセグメントの内容を一覧表示するには、LISTUSER コマンドを使用します。

ユーザープロファイル (ユーザー自身のものを含む) の非ベースセグメント内の情報を表示するには、SPECIAL 属性か AUDITOR 属性、または少なくともフィールドレベルのアクセスチェックを介したセグメントの READ 権限を持っている必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、RACF のアカウント属性に関する情報を示します。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
GROUPS	String	ユーザーに割り当てられたグループ
GROUP-CONN-OWNERS	String	グループ接続所有者
USERID	String	必須。ユーザー名
MASTER CATALOG	String	マスターカタログ
USER CATALOG	String	ユーザーカタログ
CATALOG ALIAS	String	カタログ別名
OWNER	String	プロファイルの所有者
NAME	String	ユーザー名
DATA	String	インストール定義データ
DFLTGRP	String	ユーザーのデフォルトグループ
EXPIRED	Boolean	パスワードを期限切れにするかどうかを示します
PASSWORD INTERVAL	String	パスワード間隔
TSO.Delete Segment	Boolean	このフィールドを <code>true</code> に設定すると、TSO Segment が RACF ユーザーから削除されます。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
TSO.ACCTNUM	String	ログオン時に使用されるユーザーのデフォルトの TSO アカウント番号
TSO.COMMAND	String	ログオン時のデフォルトのコマンド
TSO.HOLDCLASS	String	ユーザーのデフォルトの TSO 保持クラス
TSO.JOBCLASS	String	ユーザーのデフォルトの TSO ジョブクラス
TSO.MAXSIZE	Int	ユーザーがログオン中に要求できる最大 TSO 領域サイズ
TSO.MSGCLASS	String	ユーザーのデフォルトの TSO メッセージクラス
TSO.PROC	String	ユーザーのデフォルトの TSO ログオン手順の名前
TSO.SIZE	Int	ユーザーがログオン中に領域サイズを要求しない場合の最小 TSO 領域サイズ
TSO.SYSOUTCLASS	String	ユーザーのデフォルトの TSO SYSOUT クラス
TSO.UNIT	String	手順による割り当てに使用される TSO デバイスまたはデバイスグループのデフォルトの名前
TSO.USERDATA	String	インストール定義データ
OMVS.ASSIZEMAX	Int	ユーザーの OMVS RLIMIT_AS (最大アドレス空間サイズ)
OMVS.CPUTIMEMAX	Int	ユーザーの OMVS RLIMIT_CPU (最大 CPU 時間)
OMVS.FILEPROCMAX	Int	ユーザーの OMVS プロセスあたりの最大ファイル数
OMVS.HOME	String	ユーザーの OMVS ホームディレクトリパス名
OMVS.MMAPAREAMAX	Int	ユーザーの OMVS 最大メモリーマップサイズ
OMVS.PROCUSERMAX	Int	ユーザーの OMVS UID あたりの最大プロセス数
OMVS.PROGRAM	String	ユーザーの初期 OMVS シェルプログラム
OMVS.THREADSMAX	Int	ユーザーの OMVS プロセスあたりの最大スレッド数
OMVS.UID	String	ユーザーの OMVS ユーザー識別子
CICS.OPCLASS	String	ユーザーが BMS (基本マッピングサポート) メッセージを受信する CICS オペレータクラス
CICS.OPIDENT	String	ユーザーの CICS オペレータ識別子
CICS.OPPRTY	String	ユーザーの CICS オペレータ優先順位
CICS.TIMEOUT	String	ユーザーがアイドル状態になってから CICS によってサインオフされるまでの時間

リソースユーザー属性	データの種類	説明
CICS.XRFSSOFF	String	XRF 引き継ぎの発生時にユーザーが CICS によってサインオフされるかどうかを示す設定
NETVIEW.CONSNAM	String	MCS コンソール識別子
NETVIEW.CTL	String	GLOBAL、GENERAL、または SPECIFIC コントロールを指定します。
NETVIEW.DOMAINS	String	ドメイン識別子
NETVIEW.IC	String	NetView オペレータがログインしたときにこの NetView によって実行される初期コマンドまたはコマンドリスト
NETVIEW.MSGRECV	String	オペレータが非送信請求メッセージを受信するかどうかを示します (NO または YES)
NETVIEW.NGMFADMN	String	このオペレータが NetView グラフィックモニター機能を使用できるかどうかを示します (NO または YES)
NETVIEW.NGMFVSPN	String	
NETVIEW.OPCLASS	String	オペレータのクラス

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

### 組み込みのフォーム

なし

### その他の利用可能なフォーム

RACFUserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.RACFResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.HostAccess`



# RACF LDAP

RACF LDAP リソースアダプタは、OS/390 メインフレーム上のユーザーアカウントとメンバーシップの管理をサポートします。可能であれば、アダプタは z/OS Security Server に含まれる LDAP サーバーに接続し、ユーザーアカウントを管理します。その他すべての機能は、RACF システムへの標準的な呼び出しによって処理されます。

RACF LDAP リソースアダプタは、  
`com.waveset.adapter.RACF_LDAPResourceAdapter` クラスで定義されます。

このアダプタは、LDAP リソースアダプタを拡張します。LDAP 機能の実装については、LDAP アダプタのマニュアルを参照してください。

## リソースを設定する際の注意事項

Z/OS Security Server は、RACF アカウントのソースとして機能するマシンと同じマシン上にインストールされる必要があります。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

RACF リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. RACF LDAP リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.RACF_LDAPResourceAdapter
```

2. 適切な JAR ファイルを Identity Manager インストールの `WEB-INF/lib` ディレクトリにコピーします。

コネクションマネージャー	JAR ファイル
Host On Demand	<p>IBM Host Access Class Library (HACL) は、メインフレームへの接続を管理します。HACL が含まれる推奨 JAR ファイルは <code>habeans.jar</code> です。これは、HOD に付属する HOD Toolkit (または Host Access Toolkit) とともにインストールされます。HACL のサポートされるバージョンは、HOD V7.0、V8.0、V9.0、および V10 に含まれるバージョンです。</p> <p><code>habeans.jar</code> ファイルただし、このツールキットを利用できない場合は、HOD のインストールに含まれる次の JAR ファイルを <code>habeans.jar</code> の代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>habase.jar</code></li> <li>• <code>hacp.jar</code></li> <li>• <code>ha3270.jar</code></li> <li>• <code>hassl.jar</code></li> <li>• <code>hodbase.jar</code></li> </ul> <p>詳細は、  <a href="http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/">http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/</a> を参照してください。</p>
Attachmate WRQ	<p>Sun 製品向け Attachmate 3270 メインフレームアダプタには、メインフレームへの接続の管理に必要なファイルが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>RWebSDK.jar</code></li> <li>• <code>wrqtls12.jar</code></li> <li>• <code>profile.jaw</code></li> </ul> <p>この製品の入手については、Sun プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。</p>

3. `Waveset.properties` ファイルに次の定義を追加して、端末セッションを管理するサービスを定義します。

```
serverSettings.serverId.mainframeSessionType=Value
serverSettings.default.mainframeSessionType=Value
```

*Value* は、次のように設定できます。

- 1 - IBM Host On-Demand (HOD)
- 3 - Attachmate WRQ

これらのプロパティを明示的に設定しない場合、Identity Manager は WRQ、HOD の順に使用を試みます。

4. Attachmate ライブラリが WebSphere または WebLogic アプリケーションサーバーにインストールされている場合は、`com.wrq.profile.dir=LibraryDirectory` プロパティを `WebSphere/AppServer/configuration/config.ini` または `startWeblogic.sh` ファイルに追加します。

これにより、Attachmate コードでライセンスファイルを検索できます。

5. `Waveset.properties` ファイルに加えた変更を有効にするために、アプリケーションサーバーを再起動します。
6. リソースへの SSL 接続を設定する詳細は、[547 ページの「メインフレーム接続」](#)を参照してください。

## 使用上の注意

### 管理者

TSO セッションでは、複数の同時接続は許可されません。Identity Manager RACF 操作の同時実行を実現するには、複数の管理者を作成します。したがって、2 人の管理者を作成すると、2 つの Identity Manager RACF 操作を同時に実行できます。少なくとも 2 人 (できれば 3 人) の管理者を作成するようにしてください。

クラスタ環境で実行する場合は、クラスタ内のサーバーごとに 1 人の管理者を定義します。これは、各サーバーの管理者が同じ管理者である場合にも適用されます。TSO の場合は、クラスタ内のサーバーごとに異なる管理者にします。

クラスタを使用しない場合は、各行のサーバー名が同じ (Identity Manager ホストマシンの名前) になるようにしてください。

---

### 注

ホストリソースアダプタは、同じホストに接続している複数のホストリソースでの親和性管理者に対して最大接続数を強制しません。代わりに、各ホストリソース内部の親和性管理者に対して最大接続数が強制されません。

同じシステムを管理する複数のホストリソースがあり、現在それらが同じ管理者アカウントを使用するように設定されている場合は、同じ管理者がリソースに対して同時に複数のアクションを実行しようとしていないことを確認するために、それらのリソースを更新しなければならない可能性があります。

---

## 追加セグメントのサポート

RACF LDAP アダプタは、デフォルトでサポートされているセグメントには含まれない属性をサポートするように設定できます。

1. セグメントを解析する `AttrParse` オブジェクトを作成します。カスタム `AttrParse` オブジェクトの定義については、[493 ページの「AttrParse オブジェクトの実装」](#)を参照してください。 `AttrParse` オブジェクトの例は、`$WSHOME/web/sample/attrparse.xml` に定義されています。
2. `ResourceAttribute` 要素を RACF LDAP リソースオブジェクトに追加します。たとえば、次のようにします。

```
<ResourceAttribute name='OMVS Segment AttrParse' displayName='OMVS  
Segment AttrParse' description='AttrParse for OMVS Segment'  
value='Default RACF OMVS Segment AttrParse'>  
</ResourceAttribute>
```

この例では、`OMVS Segment AttrParse` というラベルのフィールドが「リソースパラメータ」ページに追加されます。 `name` 属性に割り当てられる値は、`SegmentName Segment AttrParse` という形式である必要があります。

3. カスタムアカウント属性を定義する要素を RACF LDAP リソースオブジェクトに追加します。

```
<AccountAttributeType id='32' name='OMVS Mem Max Area Size'  
syntax='int' mapName='OMVS.MMAPAREAMAX' mapType='int'>  
</AccountAttributeType>
```

`mapName` 属性の値は、`SegmentName.AttributeName` という形式である必要があります。アダプタがこの形式の `mapName` を検出すると、指定されたセグメントをリソースに対して要求し、`SegmentName Segment AttrParse` フィールドに指定されたオブジェクトを使用して解析します。

## リソースアクション

RACF LDAP アダプタに必要なリソースアクションは `login` と `logoff` です。 `login` アクションは、認証されたセッションに関してメインフレームとネゴシエーションを行います。 `logoff` アクションは、そのセッションが不要になったときに接続を解除します。

`login` リソースアクションおよび `logoff` リソースアクションの作成の詳細については、[521 ページの「メインフレームの例」](#)を参照してください。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は TN3270 接続を使用してリソースと通信します。

RACF LDAP リソースへの SSL 接続を設定する詳細は、[547 ページの「メインフレーム接続」](#)を参照してください。

### 必要な管理特権

RACF LDAP リソースと接続する管理者には、RACF ユーザーの作成と管理を行うための十分な特権が与えられている必要があります。

「User DN」リソースパラメータフィールドで指定されたユーザーに、ユーザーの読み取り、書き込み、削除、および追加のアクセス権を付与する必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

## アカウント属性

属性がサポートされるかどうかは、通常、属性の構文(または型)によって決まります。一般に、Identity Manager は boolean 型、文字列型、整数型、およびバイナリ型の構文をサポートします。バイナリ属性は、バイト配列としてのみ安全に表現できる属性です。

次の表に、サポートされている LDAP 構文の一覧を示します。ほかの LDAP 構文でも、事実上 boolean 型、文字列型、または整数型であれば、サポートされる可能性があります。オクテット文字列はサポートされません。

LDAP 構文	属性タイプ	オブジェクト ID
Audio	Binary	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.4
Binary	Binary	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.5
Boolean	Boolean	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.7
Country String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.11
DN	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.12
Directory String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15
Generalized Time	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.24
IA5 String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.26
Integer	Int	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.27
Postal Address	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.41
Printable String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.44
Telephone Number	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.50

## デフォルトのアカウント属性

次の属性は、RACF LDAP リソースアダプタの「アカウント属性」ページに表示されます。

リソースユーザー属性	データの種類	説明
racfPassword	暗号化されています	リソースに対するユーザーのパスワード
RACF.GROUPS	String	ユーザーに割り当てられたグループ
RACF.GROUP-CONN-OWNERS	String	グループ接続所有者

リソースユーザー属性	データの種類	説明
RACF.USERID	String	必須。ユーザー名
RACF.MASTER CATALOG	String	マスターカタログ
RACF.USER CATALOG	String	ユーザーカタログ
RACF.CATALOG ALIAS	String	カタログ別名
racfOwner	String	プロファイルの所有者
racfProgrammerName	String	ユーザー名
racfInstallationData	String	インストール定義データ
racfDefaultGroup	String	ユーザーのデフォルトグループ
RACF.EXPIRED	Boolean	パスワードを期限切れにするかどうかを示します。
RACF.PASSWORD INTERVAL	String	パスワード間隔
TSO.Delete Segment	Boolean	このフィールドを <b>true</b> に設定すると、 <b>TSO Segment</b> が <b>RACF</b> ユーザーから削除されます。
SAFAccountNumber	String	ログオン時に使用されるユーザーのデフォルトの <b>TSO</b> アカウント番号
SAFDefaultCommand	String	ログオン時のデフォルトのコマンド
SAFHoldClass	String	ユーザーのデフォルトの <b>TSO</b> 保持クラス
SAFJobClass	String	ユーザーのデフォルトの <b>TSO</b> ジョブクラス
SAFMessageClass	String	ユーザーのデフォルトの <b>TSO</b> メッセージクラス
SAFDefaultLoginProc	String	ユーザーのデフォルトの <b>TSO</b> ログオン手順の名前
SAFLogonSize	Int	ユーザーがログオン中に領域サイズを要求しない場合の最小 <b>TSO</b> 領域サイズ
SAFMaximumRegionSize	Int	ユーザーがログオン中に要求できる最大 <b>TSO</b> 領域サイズ
SAFDefaultSysoutClass	String	ユーザーのデフォルトの <b>TSO SYSOUT</b> クラス
SAFDefaultUnit	String	手順による割り当てに使用される <b>TSO</b> デバイスまたはデバイスグループのデフォルトの名前
SAFUserdata	String	インストール定義データ
SAFDefaultCommand	String	<b>TSO</b> のデフォルトのコマンド
racfOmvsUid	String	ユーザーの <b>OMVS</b> ユーザー識別子
racfOmvsHome	String	ユーザーの <b>OMVS</b> ホームディレクトリパス名
racfOmvsInitialProgram	String	ユーザーの初期 <b>OMVS</b> シェルプログラム

リソースユーザー属性	データの種類	説明
racfOmvsMaximumCPUTime	Int	ユーザーの OMVS RLIMIT_CPU (最大 CPU 時間)
racfOmvsMaximumAddressSpaceSize	Int	ユーザーの OMVS RLIMIT_AS (最大アドレス空間サイズ)
racfOmvsMaximumFilesPerProcess	Int	ユーザーの OMVS プロセスあたりの最大ファイル数
racfOmvsMaximumProcessesPerUID	Int	ユーザーの OMVS UID あたりの最大プロセス数
racfOmvsMaximumThreadsPerProcess	Int	ユーザーの OMVS プロセスあたりの最大スレッド数
racfOmvsMaximumMemoryMapArea	Int	ユーザーの OMVS 最大メモリーマップサイズ
racfTerminalTimeout	String	ユーザーがアイドル状態になってから CICS によってサインオフされるまでの時間
racfOperatorPriority	String	ユーザーの CICS オペレータ優先順位
racfOperatorIdentification	String	ユーザーの CICS オペレータ識別子
racfOperatorClass	String	ユーザーが BMS (基本マッピングサポート) メッセージを受信する CICS オペレータクラス
racfOperatorReSignon	String	XRF 引き継ぎの発生時にユーザーが CICS によってサインオフされるかどうかを示す設定
racfNetviewOperatorClass	String	オペレータのクラス
NETVIEW.NGMFVSPN	String	NetView Graphic Monitor Facility ビューを表示したり、ビュー内にリソースを表示したりする際の、オペレータの権限を定義します。
racfNGMFADMKeyword	String	このオペレータが NetView グラフィックモニター機能を使用できるかどうかを示します (NO または YES)
racfMessageReceiverKeyword	String	オペレータが非送信請求メッセージを受信するかどうかを示します (NO または YES)
racfNetviewInitialCommand	String	NetView オペレータがログインしたときにこの NetView によって実行される初期コマンドまたはコマンドリスト
racfDomains	String	ドメイン識別子
racfCTLKeyword	String	GLOBAL、GENERAL、または SPECIFIC コントロールを指定します。
racfDefaultConsoleName	String	MCS コンソール識別子

## デフォルトでサポートされるオブジェクトクラス

デフォルトでは、RACF LDAP リソースアダプタは、LDAP ツリーに新しいユーザーオブジェクトを作成するときに次のオブジェクトクラスを使用します。ほかのオブジェクトクラスが追加される場合もあります。

- racfuser
- racfUserOmvsSegment
- racfCicsSegment
- SAFTsoSegment
- racfNetviewSegment

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスのうち1つ以上でトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.RACF_LDAPResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapterBase`



# Red Hat Linux および SuSE Linux

Red Hat Linux リソースアダプタと SuSE Linux リソースアダプタは、それぞれ `com.waveset.adapter.RedHatLinuxResourceAdapter` クラスと `com.waveset.adapter.SUSELinuxResourceAdapter` クラスで定義された 2 つの別個のアダプタです。

## リソースを設定する際の注意事項

リソースと Identity Manager 間の通信に SSH (Secure Shell) を使用する場合は、アダプタを設定する前に、リソースで SSH を設定します。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

Linux リソースアダプタは、主に次のコマンドのサポートを提供します。

- `useradd`、`usermod`、`userdel`
- `groupadd`、`groupmod`、`groupdel`
- `passwd`

サポートされる属性およびファイルの詳細については、これらのコマンドに関する Linux マニュアルページを参照してください。

Linux リソースでユーザーアカウントの名前の変更を実行すると、グループメンバーシップは新しいユーザー名に移動されます。次の条件に該当する場合は、ユーザーのホームディレクトリの名前も変更されます。

- 元のホームディレクトリの名前がユーザー名と一致していた。
- 新しいユーザー名と一致するディレクトリがまだ存在していない。

Linux リソースに接続するときは、`root` シェルとして Bourne Shell 準拠のシェル (`sh`、`ksh`) を `root` シェルとして Bourne 互換シェル (`sh`、`ksh`) を使用してください。

Linux アカウントを管理する管理アカウントは、英語 (`en`) または C ロケールを使用する必要があります。これは、ユーザーの `.profile` ファイルで設定できます。

NIS が実装されている環境では、次の機能を実装することにより、一括プロビジョニング中のパフォーマンスを向上させることができます。

- `user_make_nis` という名前のアカウント属性をスキーママップに追加し、この属性を調整やその他の一括プロビジョニングワークフローで使用します。この属性を追加した場合、リソース上の各ユーザーが更新された後は、システムで NIS データベースへの接続手順がバイパスされます。
- すべてのプロビジョニングが完了した後で NIS データベースに変更を書き込むには、ワークフローで `NIS_password_make` という名前の **ResourceAction** を作成します。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、次の接続を使用してこのアダプタと通信できます。

- Telnet
- SSH (SSH はリソース上に個別にインストールする)
- SSHPubKey

SSHPubKey 接続の場合、「リソースパラメータ」ページで非公開鍵を指定する必要があります。この鍵には `--- BEGIN PRIVATE KEY ---` および `--- END PRIVATE KEY ---` のような注釈行を含める必要があります。公開鍵は、サーバー上の `/.ssh/authorized_keys` ファイルに配置する必要があります。

### 必要な管理特権

このアダプタでは、一般ユーザーとしてログインしてから `su` コマンドを実行し、`root` ユーザー (または `root` ユーザーと同等のアカウント) に切り替えて管理アクティビティを実行できます。また、`root` ユーザーとして直接ログインすることもできます。

このアダプタでは、`sudo` 機能もサポートされます。`sudo` を使用すると、システム管理者は、ユーザー (またはユーザーのグループ) に `root` ユーザーまたは別のユーザーとして一部 (またはすべて) のコマンドを実行する機能を与えることができます。

さらに、`sudo` がリソースで有効になっている場合は、その設定が、`root` ユーザーのリソース定義ページでの設定よりも優先されます。

`sudo` を使用する場合は、Identity Manager 管理者に対して有効にされたコマンドの `tty_tickets` パラメータを `true` に設定してください。詳細については、`sudoers` ファイルのマニュアルページを参照してください。

管理者は、`sudo` で次のコマンドを実行する特権が付与されている必要があります。

ユーザーとグループのコマンド		その他のコマンド	
• chsh	• passwd	• awk	• ln
• groupadd	• useradd	• cat	• ls
• groupdel	• userdel	• chmod	• mv
• groupmod	• usermod	• chown	• ps
• last		• cp	• rm
		• cut	• sed
		• diff	• sort
		• echo	• tail
		• grep	• touch

---

**注** yppasswd コマンドには、root のパスワードが必要になるため、このアダプタは sudo を使用した NIS コマンドの実行をサポートしていません。

---

「**テスト接続**」ボタンを使用して、次のテストができます。

- 各コマンドが管理ユーザーのパスに存在するかどうか
- 管理ユーザーが /tmp に書き込めるかどうか
- 管理ユーザーに、特定のコマンドを実行する権限があるかどうか

---

**注** テスト接続では、通常のプロビジョニング実行とは異なるコマンドオプションを使用できます。

---

このアダプタには、基本的な sudo 初期化機能とリセット機能が用意されています。ただし、リソースアクションが定義されていて、そこに sudo 認証を必要とするコマンドが含まれている場合は、UNIX コマンドとともに sudo コマンドを指定してください。たとえば、単に useradd と指定する代わりに sudo useradd を指定してください。sudo を必要とするコマンドは、ネイティブリソースに登録されている必要があります。それらのコマンドを登録するには、visudo を使用します。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、これらのアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	Linux は、Identity Manager の <b>enable</b> アクションと <b>disable</b> アクションをネイティブにサポートしません。Identity Manager は、ユーザーパスワードを変更することによって、アカウントの有効化と無効化のシミュレーションを行います。 <b>enable</b> アクションでは変更されたパスワードが公開されますが、 <b>disable</b> アクションでは公開されません。  その結果、 <b>enable</b> アクションと <b>disable</b> アクションは <b>update</b> アクションとして処理されます。 <b>update</b> で動作するように設定されている前アクションと後アクションすべてが実行されます。
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

このリソース上のすべてのユーザーに対して、次のタスクを制御するリソース属性を定義できます。

- ユーザーの作成時にホームディレクトリを作成する
- ユーザーの作成時にユーザーのホームディレクトリにファイルをコピーする
- ユーザーの削除時にホームディレクトリを削除する

## アカウント属性

次の表に、Red Hat Linux および SuSE Linux のユーザーアカウント属性の一覧を示します。特に記載されていないかぎり、属性は省略可能です。属性の型はすべて **String** です。

リソースユーザー属性	useradd での指定方法	説明
accountId	login	必須。ユーザーのログイン名。
comment	-c <i>comment</i>	ユーザーのフルネーム。
dir	-d <i>directory</i>	ユーザーのホームディレクトリ。このアカウント属性で指定された値はすべて、「 <b>ホームベースディレクトリ</b> 」リソース属性で指定された値よりも優先されます。
expire	-e <i>expiration date</i>	アカウントにアクセスできる最終日付。
group	-g <i>group</i>	ユーザーの一次グループ。
inactive	-f <i>days</i>	アカウントが非アクティブになってからロックされるまでの日数。
secondary_group	-G <i>group</i>	ユーザーの二次グループ (1 つまたは複数) のコンマ区切りリスト。  ロールを有効にしてこの属性をプロビジョニングするには、'csv=true' を <b>Role</b> オブジェクト XML の <b>RoleAttribute</b> 要素に追加する必要があります。
shell	-s <i>/Path</i>	ユーザーのログインシェル。  NIS マスターにプロビジョニングしている場合、ユーザーシェルの値は NIS マスターのみでチェックされません。ユーザーがログオンする可能性のあるその他のマシンに対するチェックは、実行されません。
time_last_login	lastlog コマンドから取得されます。	最終ログインの日時。この値は読み取り専用です。最終ログイン時間を取得するにはリソースの追加呼び出しが必要なため、この属性を追跡する必要がない場合は、この属性をスキーママップから削除してください。
uid	-u <i>User ID</i>	数字形式でのユーザー ID。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次のネイティブ Linux オブジェクトをサポートしています。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Group	作成、更新、削除、名前の変更、名前を付けて保存	groupName、gid、users

## アイデンティティーテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

### 組み込みのフォーム

- Red Hat Linux Group Create Form
- Red Hat Linux Group Update Form
- SuSE Linux Group Create Form
- SuSE Linux Group Update Form

### その他の利用可能なフォーム

- RedHatLinuxUserForm.xml
- SUSELinuxUserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.RedHatLinuxResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SUSELinuxResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.LinuxResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SVIDResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.ScriptedConnection`

# Remedy

Remedy リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.RemedyResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

ARTCPPORT 環境変数および ARRPC 環境変数を設定した場合、それらの値は「**Remedy TCP ポート**」および「**Remedy RPC ソケット**」リソースパラメータに指定された値を上書きします。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

複数の Remedy API ライブラリをゲートウェイがインストールされているディレクトリに配置する必要があります。これらのライブラリは、Remedy サーバーにあります。

Remedy 4.x および 5.x	Remedy 6.3	Remedy 7.0
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>arapiXX.dll</code></li><li>• <code>arrrpcXX.dll</code></li><li>• <code>arutlXX.dll</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>arapi63.dll</code></li><li>• <code>arrrpc63.dll</code></li><li>• <code>arutl63.dll</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>arapi70.dll</code></li><li>• <code>arrrpc70.dll</code></li><li>• <code>arutl70.dll</code></li></ul>
XX は、Remedy のバージョンに一致します。たとえば Remedy 4.5 では <code>arapi45.dll</code> になります。	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>icudt20.dll</code></li><li>• <code>icuin20.dll</code></li><li>• <code>icucuc20.dll</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>icudt32.dll</code></li><li>• <code>icuin32.dll</code></li><li>• <code>icucuc32.dll</code></li></ul>

## 使用上の注意

- [ワークフロー](#)
- [ゲートウェイのタイムアウト](#)

### ワークフロー

カスタムリソースの詳細については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください。

Active Sync 機能を有効にしない場合、Remedy アダプタは Remedy チケットを Identity Manager ワークフローに自動的に統合します。

Active Sync 機能を使用する場合は、次の機能をサポートするようにアダプタを設定できます。

- Remedy チケットスキーマの問い合わせ
- 静的条件 (status = 'new' など) に基づくチケットのフィルタリング
- 動的条件 (最後に取得されたチケットなど) に基づくチケットのフィルタリング
- チケットが一致するたびに起動されるワークフローの指定

Active Sync が有効な場合、Remedy アダプタは「**更新検索フィルタ**」、「**付加する結合子**」、および「**LAST FETCHED フィルタ**」の各リソースパラメータを使用して、返されるチケットを判定します。「**更新検索フィルタ**」、「**LAST FETCHED フィルタ**」、またはその両方を使用するようにしてください。

「**更新検索フィルタ**」パラメータは、実行可能な Remedy 検索式を含む省略可能なパラメータです。このパラメータには、Remedy ユーザーアプリケーションの詳細検索条件に入力できる有効な検索式を含めることができます。有効な検索式には、フィールド、選択値、およびキーワードを含めることができます。このアダプタは、検索式の有効性を確認しません。

次の例は、Remedy User アプリケーションに用意されている Help Desk Cases サンプルフォームで使用できる検索式を示しています。

- 'Status' = "New"
- 'Case Type' = "Problem"

---

**注**                      Remedy のフィールド名は一重引用符で囲み、値は二重引用符で囲みます。

---

「**LAST FETCHED フィルタ**」パラメータを使用する場合は、「**付加する結合子**」パラメータも指定します。「**付加する結合子**」パラメータには、次のいずれかの値を含めることができます。

- AND - 「**更新検索フィルタ**」フィールドと「**LAST FETCHED フィルタ**」フィールドの両方の条件が論理的に真である必要があります。
- OR - 「**更新検索フィルタ**」フィールドと「**LAST FETCHED フィルタ**」フィールドのいずれかの条件が論理的に真である必要があります。

「**LAST FETCHED フィルタ**」パラメータはもう 1 つの Remedy 検索式を指定しますが、この式には Identity Manager で定義された 1 つ以上のユーザー属性を含めることができます。この機能を使用して、前のポーリングで返された値を現在のポーリングで返された値と比較する式を作成できます。たとえば、Remedy フォーム上の Case ID+ フィールドに各チケットの一意の ID が含まれる場合は、この値をポーリングごとに比較できます。現在のポーリングの値が前のポーリングの値より大きい場合は、チケットに関する情報を返します。次の式は、この機能を示しています。

```
'Case ID+' > "$(caseId)"
```

括弧内に指定する値は、スキーママップページで指定された **Waveset** ユーザー属性にします。`$(caseId)` トークンは、前のポーリングで返された値に置き換えられます。たとえば、HD0000045 などの値になります。

---

**注**                   アダプタが最初にポーリングを行なったときは、前に取得された値が存在しないため、「**LAST FETCHED フィルタ**」は適用されません。このフィルタは、その後のすべてのポーリングで実行されます。

---

このアダプタは、「**更新検索フィルタ**」、「**付加する結合子**」、「**LAST FETCHED フィルタ**」の各リソースパラメータを連結し、次のような検索式を送信します。

```
'Status' = "New" AND 'Case ID+' > "HD00000045"
```

## ゲートウェイのタイムアウト

Remedy アダプタでは、`RA_HANGTIMEOUT` リソース属性を使用してタイムアウト値を秒単位で指定できます。この属性は、ゲートウェイに対する要求がタイムアウトしてハングしているとみなされるまでの時間を制御します。

次のように、この属性を **Resource** オブジェクトに手動で追加する必要があります。

```
<ResourceAttribute name='Hang Timeout'  
displayName='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT'  
type='int'  
description='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT_HELP' value='NewValue'>  
</ResourceAttribute>
```

この属性のデフォルト値は 0 であり、これは **Identity Manager** がハングした接続を確認しないことを示します。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

**Identity Manager** は、**Remedy API** を使用して **Remedy** アダプタと通信します。

### 必要な管理特権

**Remedy** サーバーへのログインに使用されるアカウントは、**Identity Manager** によってアクセスされるすべての **Remedy** オブジェクトのアクセス権リストに含まれている必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

Remedy ユーザーの属性は、Remedy アプリケーション内で確立されるスキーマに基づいています。スキーマと、スキーマの操作に関する詳細については、Remedy のマニュアルを参照してください。

Remedy アダプタは、次のプロビジョニングアクションをサポートします。

- ユーザーの作成、更新、削除
- パスワードの設定
- アカウントの反復処理
- アカウントの一覧表示
- 大文字と小文字を区別しない ID の許可
- アカウントログインおよびパスワード認証

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	適用不可
パスワードの期限切れ	使用不可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>• Active Sync</li><li>• リソースからインポート</li></ul>

## アカウント属性

Remedy アダプタにはデフォルトのアカウント属性が用意されていません。カスタム属性を追加する場合は、次のガイドラインを使用してください。

- フォームとワークフローでは、Waveset ユーザー属性値を使用できます。この属性は、有効な Remedy フィールド ID である必要があります。Remedy フォームのすべてのフィールドには、そのフォーム内で一意である整数フィールド ID が必要です。

Remedy Administrator の内部でフィールドの ID を表示するには、フォームを開いてそのフィールドを選択します。フィールド ID が「Find Field」ドロップダウンメニューに括弧付きで表示されます。

- リソースユーザー属性が「Remedy Diary」フィールドに対応している場合、その属性は複数の値を取ります。値リストの各値は、次の形式を取ります。

*Timestamp User Message*

各表記の意味は次のとおりです。

*Timestamp* - 1970 年 1 月 1 日 (UTC) を起点とする秒数を示す整数。

*User* - ダイアリにメッセージを追加した Remedy ユーザー。

*Message* - ダイアリのエントリ。

- Remedy アダプタにパスワードの変更を許可するには、次を実行してください。
  - 「パスワードのサポート」リソースパラメータを選択します。
  - アイデンティティシステムユーザー属性名が password で、属性タイプが暗号化されているアカウント属性を、スキーママップに追加します。このリソースユーザー属性は、ユーザーパスワードを保持する Remedy フィールド ID にします。

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

Remedy のアイデンティティテンプレートは、Remedy システムによって生成されます。Identity Manager によって構築されたアイデンティティテンプレートは無視されます。

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.RemedyResourceAdapter
```

また、リソースインスタンスに対して次の Identity Manager ログインパラメータを設定できます。

- ログファイルパス
- ログレベル
- アーカイブの最大数
- 最大有効期間の単位
- 最大有効期間
- ログファイルの最大サイズ

ゲートウェイへの接続の問題を診断するために、次のメソッドでトレースを有効にすることもできます。

- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#sendRequest`
- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#getResponse`

SAP リソースアダプタは、SAP R/3 および SAP R/3 Enterprise をサポートします。リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.SAPResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

ユーザーが自分自身の SAP パスワードを変更できるようにするには、次の手順を実行します。

1. 「変更時にユーザーがパスワードを入力」リソース属性を設定します。
2. スキーママップの両側に `WS_USER_PASSWORD` を追加します。ユーザーフォームやその他のフォームを変更する必要はありません。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

SAP リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. <http://service.sap.com/connectors> から JCo (Java Connection) ツールキットをダウンロードします。SAP JCo ダウンロードページにアクセスするには、ログインとパスワードが必要です。このツールキットには、`sapjco-ntintel-2.10.6.zip` のような名前が付けられます。この名前は、選択したプラットフォームやバージョンによって異なります。

---

**注**                   ダウンロードする JCo ツールキットが、アプリケーションサーバーが動作する Java のビットバージョンと一致していることを確認します。たとえば、JCo は Solaris x86 プラットフォーム上の 64 ビットバージョンでのみ使用できます。したがって、アプリケーションサーバーが Solaris x86 プラットフォーム上の 64 ビットバージョンで実行されている必要があります。

---

2. ツールキットを解凍し、インストール手順に従います。必ずライブラリファイルを正しい場所に配置し、環境変数を指示どおりに設定してください。
3. `sapjco.jar` ファイルを `InstallDir\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。
4. SAP リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.SAPResourceAdapter
```

## 使用上の注意

ここでは、SAP リソースアダプタの使用に関する情報を示します。次のトピックで構成されています。

- [全般的な注意事項](#)
- [SNC \(Secure Network Communications\) 接続の有効化](#)
- [SAP JCO および RFC のトレース](#)
- [アカウントの名前の変更](#)
- [Global Trade Services \(GTS\) のサポート](#)
- [追加のテーブルのサポート](#)

### 全般的な注意事項

このリソースに関する全般的な注意事項は次のとおりです。

- 開始日と終了日をアクティビティグループ単位で編集できるようにするには、`SAPUserForm_with_RoleEffectiveDates_Timezone.xml` フォームを読み込みます。このフォームは、ユーザーのタイムゾーンを選択する機能も備えています。
- `waveset.properties` ファイル内の `sources.ResourceName.hosts` プロパティを使用して、**Active Sync** を使用してリソースの同期を行うのにクラスタ内のどのホストを使用するかを制御できます。`ResourceName` は、リソースオブジェクトの名前に置き換えてください。
- 現在、サンプルユーザーフォーム `SAPUserForm.xml` と `SAPUserForm_with_RoleEffectiveDates_Timezone.xml` には、ユーザーのパスワードを事前に期限切れにするフィールドの定義が含まれています。このフィールドの値が `true` で、**Identity Manager** 管理者がユーザーのパスワードを作成または変更した場合、そのユーザーは SAP へのログイン時に新しいパスワードを指定する必要があります。

### SNC (Secure Network Communications) 接続の有効化

デフォルトでは、SAP アダプタは SAP Java Connector (JCo) を使用して SAP アダプタと通信します。SNC 接続の実装の詳細については、[551 ページの「SNC \(Secure Network Communications\) 接続の有効化」](#)を参照してください。

### SAP JCO および RFC のトレース

`SAPResourceAdapter` と `SAPHRActiveSyncAdapter` には、SAP JCO および RFC のトレース用のリソース属性が用意されています。これらを使用して、**Identity Manager** と SAP システムの通信をトレースできます。属性名は、「SAP JCO トレースレベル」と「SAP JCO トレースディレクトリ」です。

環境内に次の環境変数を設定すると、SAP RFC トレースを有効にできます。これらの変数は、アプリケーションサーバーを起動する前に環境内に設定してください。これらの変数は、JCO が SAP システムとの通信に使用する共有ライブラリを制御します。

- RFC\_TRACE: 0 または 1
- RFC\_TRACE\_DUMP: 0 または 1
- RFC\_TRACE\_DIR: トレースファイルのディレクトリへのパス
- CPIC\_TRACE\_DIR: トレースファイルのディレクトリへのパス

---

**注** JCO のトレースが必要でない場合は、トレースファイルが作成されないように、RFC\_TRACE を 0 に設定してください。

---

## アカウントの名前の変更

SAP アダプタは、CUA モードがアダプタで有効な場合を除き、アカウントの名前の変更をサポートするようになりました。アダプタは、この機能を実行するために、既存のアカウントを新しいアカウントにコピーして元のアカウントを削除します。SAP は、アカウントの名前の変更を推奨していませんが、SAP GUI から使用する Transaction SU01 というユーザー管理アプリケーションではこのオプションを提供しています。そのため、Identity Manager でもこのオプションをサポートします。SAP では名前の変更機能を将来のリリースでサポートしなくなる可能性があることに注意してください。

SAP GUI では非公開 API および SAP カーネルにアクセスできるため、名前の変更には別の方法を使用します。次の手順では、名前の変更操作を実行する方法について概要を説明します。

1. 既存のユーザーのユーザー情報を取得します。
2. ALIAS 属性が存在する場合は、ALIAS 属性を保存します。
3. 新しいユーザーを作成します。
4. 新しいユーザーでアクティビティグループを設定します。
5. 新しいユーザーでプロファイルを設定します。
6. 古いユーザーの個別設定データを取得します。
7. 新しいユーザーの個別設定データを設定します。
8. 古いユーザーを削除します。
9. 古いユーザーで別名が設定されていた場合は、新しいユーザーで別名を設定します。

手順 1 ～ 3 でエラーが発生した場合は、操作がただちに失敗します。手順 4 ～ 7 でエラーが発生した場合は、新しいユーザーが削除され、操作全体が失敗します。新しいユーザーが削除できない場合は、警告が `WavesetResult` に設定されます。手順 8 ～ 9 でエラーが発生した場合は、警告が `WavesetResult` に追加されますが、操作は成功します。

名前の変更操作では、新しいパスワードを新しいユーザーに設定する必要があります。設定する最も簡単な方法は、`Change User Password` タスクを呼び出すように `Rename User` タスクをカスタマイズすることです。

## Global Trade Services (GTS) のサポート

SAP アダプタの SAP Global Trade Services のサポートを有効にするには、次の表の「ロール名」に一覧表示された該当するロールを有効にします。SAP は、この表の「生成されるロール」列に一覧表示されたロールを生成します。生成されたロールを SAP GTS の該当するユーザープロフィールに割り当ててください。

ロールラベル	ロール名	生成されるロール
通関処理スペシャリスト	SAP_BW_SLL_CUS	SAP_BWC_SLL_CUS
特惠処理スペシャリスト	SAP_BW_SLL_PRE	SAP_BWC_SLL_PRE
還付金スペシャリスト	SAP_BW_SLL_RES	SAP_BWC_SLL_RES
法規制スペシャリスト	SAP_BW_SLL_LCO	SAP_BWC_SLL_LCO

## 追加のテーブルのサポート

SAP アダプタは、`BAPI_USER_CREATE1` および `BAPI_USER_CHANGE` によって呼び出された任意の SAP テーブル、特に `GROUPS` テーブルおよび `PARAMETER` テーブルにプロビジョニングできます。`GROUPS` 以外の任意のテーブルについてこの機能を有効にするには、リソースユーザー属性を `SAP_Table_Name->Table` という形式でスキーママップに追加する必要があります。たとえば、`PARAMETER->Table` とします。属性は、複合データ型を割り当てられる必要があります。

アダプタは、`GROUPS->USERGROUP` アカウント属性という名前で、タイプが `String` であるアカウント属性を提供します。この属性は、`GROUPS` テーブルのデータを処理します。デフォルトでこの属性のタイプは `String` です。この属性のタイプが `String` に設定されている場合、アダプタは値を文字列のリストとして処理します。アダプタがほかのテーブルと同じ方法でこのテーブルのデータを処理するようにするには、データ型を複合に変更する必要があります。

\$WSHOME/web/sample/forms/SAPUserForm.xml ファイルには、String のアカウント属性タイプおよび複合属性タイプを使用して GROUP テーブルを管理する方法を示すユーザーフォームの例が含まれています。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

- SAP Java Connector (JCo) 経由の BAPI
- SAP Secure Network Communications

### 必要な管理特権

SAP に接続するユーザー名を、SAP ユーザーにアクセスできるロールに割り当ててください。

## プロビジョニングに関する注意事項

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可。ただし CUA が有効な場合を除きます。
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>• リソースから直接インポート</li><li>• 調整</li></ul>

# アカウント属性

次の表に、デフォルトの SAPaccount 属性に関する情報を示します。「**Enable SAP GRC Access Enforcer?**」リソースパラメータが選択されている場合は、追加属性も提供されます。属性タイプはすべて String です。

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソース 属性名	説明
accountId	USERNAME->BAPIBNAME	必須。ユーザーのアカウント ID。
firstname	ADDRESS->FIRSTNAME	ユーザーの名。
fullname	ADDRESS->FULLNAME	ユーザーの姓名
email	ADDRESS->E_MAIL	ユーザーの電子メールアドレス
lastname	ADDRESS->LASTNAME	必須。ユーザーの姓
groups	GROUPS->USERGROUP	SAP GROUPS テーブルのプロビジョニング。
expirePassword	WS_PasswordExpired	ログイン時にユーザーに新しいパスワードを強制的に入力させます。
accountLockedNoPwd	ISLOCKED->NO_USER_PW	Boolean。ユーザーがパスワードを設定していないためにアカウントがロックされているかどうかを示します。
accountLockedWrngPwd	ISLOCKED->WRNG_LOGON	Boolean。ログイン試行が失敗したためにアカウントがロックされているかどうかを示します。
personNumber	ADDRESS->PERS_NO	ユーザーを特定するための内部キー
addressNumber	ADDRESS->ADDR_NO	一元的なアドレス管理に使用される、アドレスを特定するための内部キー
birthName	ADDRESS->BIRTH_NAME	旧姓 (出生時に与えられた姓)
middleName	ADDRESS->MIDDLENAME	ユーザーのミドルネーム
secondLastName	ADDRESS->SECONDNAME	第二姓
academicTitle	ADDRESS->TITLE_ACA1	学位 (Dr.、Prof. など)
academicTitle2	ADDRESS->TITLE_ACA3	第二学位
namePrefix	ADDRESS->PREFIX1	姓の前置語 (von、van der、de la など)
namePrefix2	ADDRESS->PREFIX2	姓の 2 つ目の前置語
titleSupplement	ADDRESS->TITLE_SPPL	名前の補足 (Lord、Lady など)

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソース 属性名	説明
nickname	ADDRESS->NICKNAME	ユーザーのニックネーム
initials	ADDRESS->INITIALS	ミドルネームのイニシャル
nameFormat	ADDRESS->NAMEFORMAT	ユーザーの名前を完全な形式で表示する場合の、名前の構成要素の配置順序。この順序は、国ごとに異なる場合があります。
nameFormatCountry	ADDRESS->NAMCOUNTRY	名前の形式を判定するために使用される国名
languageKey	ADDRESS->LANGU_P	テキストの入力と表示に使用される言語
iso639Language	ADDRESS->LANGUP_ISO	ISO 639 言語コード
sortKey1	ADDRESS->SORT1_P	検索用語
sortKey2	ADDRESS->SORT2_P	二次検索用語
department	ADDRESS->DEPARTMENT	会社の住所の一部としての社内の部署
function	ADDRESS->FUNCTION	ユーザーの職能
buildingNumber	ADDRESS->BUILDING_P	ユーザーの職場があるビル番号
buildingFloor	ADDRESS->FLOOR_P	ユーザーの職場がある階
roomNumber	ADDRESS->ROOM_NO_P	ユーザーの職場がある部屋番号
correspondenceCode	ADDRESS->INITS_SIG	通信コード
inhouseMailCode	ADDRESS->INHOUSE_ML	内部郵便コード
communicationType	ADDRESS->COMM_TYPE	ユーザーがどのような方法でビジネスパートナーと文書やメッセージを交換するかを示します。
title	ADDRESS->TITLE	敬称 (Mr.、Mrs. など)
titleP	ADDRESS->TITLE_P	敬称 (Mr.、Mrs. など)
addressName	ADDRESS->NAME	宛名
addressName2	ADDRESS->NAME_2	宛名の 2 行目
addressName3	ADDRESS->NAME_3	宛名の 3 行目
addressName4	ADDRESS->NAME_4	宛名の 4 行目
careOfName	ADDRESS->C_O_NAME	受取人が居住者と異なる場合の宛名部分 (c/o = 気付)
city	ADDRESS->CITY	ユーザーの市

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソース 属性名	説明
district	ADDRESS->DISTRICT	市または地区の追加部分
cityNumber	ADDRESS->CITY_N	都市コード
districtNumber	ADDRESS->DISTRCT_NO	地区コード
cityPostalCode	ADDRESS->POSTL_COD1	ユーザーの郵便番号
poBoxPostalCode	ADDRESS->POSTL_COD2	私書箱を一意に割り当てるために必要な郵便コード。
companyPostalCode	ADDRESS->POSTL_COD3	企業に直接割り当てられる郵便コード。
poBox	ADDRESS->PO_BOX	ユーザーの私書箱
poBoxCity	ADDRESS->PO_BOX_CIT	私書箱の市
poBoxCityCode	ADDRESS->PBOXCIT_NO	私書箱の市 (宛名の市と異なる場合)。
postalDeliveryDistrict	ADDRESS->DELIV_DIS	郵便配達区域
transportZone	ADDRESS->TRANSPZONE	品物の受取人または供給元の地域圏
street	ADDRESS->STREET	ユーザーの街路
streetNumber	ADDRESS->STREET_NO	街路コード
streetAbbreviation	ADDRESS->STR_ABBR	街路の略称
houseNumber	ADDRESS->HOUSE_NO	街路住所の番号部分
houseNumber2	ADDRESS->HOUSE_NO2	第二住所番号
street2	ADDRESS->STR_SUPPL1	街路行の上に出力される追加の住所フィールド。
street3	ADDRESS->STR_SUPPL2	街路行の上に出力される追加の住所フィールド。
street4	ADDRESS->STR_SUPPL3	街路行の下に出力される追加の住所フィールド。
street5	ADDRESS->LOCATION	街路行の下に出力される追加の住所フィールド。
oldBuilding	ADDRESS->BUILDING	連絡窓口住所のビルの番号または ID。
floor	ADDRESS->FLOOR	住所の階数
roomNumber	ADDRESS->ROOM_NO	住所の部屋番号
countryCode	ADDRESS->COUNTRY	住所の国名
countryCodeISO	ADDRESS->COUNTRYISO	住所の国を表す 2 文字の ISO コード

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソース 属性名	説明
languageKey	ADDRESS->LANGU	テキストの入力と表示に使用される言語
languageKeyISO	ADDRESS->LANGU_ISO	ISO 639 言語コード
region	ADDRESS->REGION	州または都道府県
sort2	ADDRESS->SORT2	二次検索用語
timeZone	LOGONDATA->TZONE	タイムゾーンと UTC との時差 (時 / 分単位)
taxJurisdictionCode	ADDRESS->TAXJURCODE	税金の納入先となる税務機関。常に、品物が配達された市です。
telephoneNumber	ADDRESS->TEL1_NUMBR	電話番号 (市外局番を含み、国番号を除く)
telephoneExtension	ADDRESS->TEL1_EXT	内線電話番号
faxNumber	ADDRESS->FAX_NUMBER	FAX 番号 (市外局番を含み、国番号を除く)
faxExtension	ADDRESS->FAX_EXTENS	内線 FAX 番号
buildingNumber	ADDRESS->BUILD_LONG	住所のビルの番号または略称。
cuaSystems	SYSTEMS->CUASYSTEMS	Central User Administration システム名
profiles	PROFILES->BAPIPROF	ユーザーに割り当てられたプロファイル。
activityGroups	ACTIVITYGROUPOBJECTS	ユーザーに割り当てられたロール。
lastLoginTime	LOGONDATA->LTIME	最新のログイン時間を一覧表示する読み取り専用属性。

## リソースオブジェクトのサポート

### 管理対象オブジェクト

このアダプタは、SAP リソース上のオブジェクトを管理しません。

### 一覧表示可能なオブジェクト

次の表では、ユーザーフォーム内で listAllObjects メソッドを使用して呼び出すことのできる SAP オブジェクトについて説明します。

オブジェクト	説明
account	SAP リソースで定義されたユーザーを一覧表示します。
activityGroups	ユーザーが使用できるアクティビティグループ (またはロール) を一覧表示します。(非 CUA モードのみ)
cuaSystems	CUA が有効な場合に、CUA 子の名前を一覧表示します。
Group	SAP リソースで使用可能なグループを一覧表示します。
localActivityGroups	CUA が有効な場合に、CUA 環境で特定の子システムに存在するアクティビティグループを一覧表示します。
profiles	認証プロファイルの名前を一覧表示します。
table	SAP テーブルの列の内容を一覧表示します。option マップには次のパラメータが必要です。 name — SAP テーブル名 offset — テーブルの開始文字の列 length — データフィールドの長さ これらの値の判断については、BAPI RFC_GET_TABLE_ENTRIES に関する SAP のマニュアルを参照してください。詳細については、 <a href="#">324 ページの「追加のテーブルのサポート」</a> を参照してください。
timeZones	SAP システムでサポートされる、使用可能なタイムゾーンを一覧表示します。
usertype	SAP システムで使用可能なユーザータイプを一覧表示します。

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

SAPForm.xml

SAPUserForm\_with\_RoleEffectiveDates\_Timezone.xml

SAPHRActiveSyncForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.SAPResourceAdapter`

インストールされている **SAP Java Connector (JCO)** のバージョンを判定し、それが正しくインストールされているかどうかを判定するには、次のコマンドを実行します。

```
java -jar sapjco.jar
```

このコマンドは、JCO のバージョンとともに、SAP システムと通信する JNI プラットフォーム依存ライブラリおよび RFC ライブラリを返します。

プラットフォーム依存ライブラリが見つからない場合は、SAP のマニュアルを参照して、SAP Java Connector の正しいインストール方法を調べてください。



# SAP HR Active Sync

Identity Manager には、次のバージョンの SAP HR をサポートするためのリソースアダプタが用意されています。

- SAP HR 4.5、4.6、4.7 (読み取り専用アクセス)

次の表に、SAP HR Active Sync アダプタの属性の概要を示します。

GUI 名	クラス名
SAP HR Active Sync	com.waveset.adapter.SAPHRActiveSyncAdapter

**注** Identity Manager 6.0 から、SAP HR Active Sync のアカウント属性の形式が新しくなりました。スキーママップ内のリソースユーザー属性は現在、\_ (下線) ではなく **:** (コロン) で区切られます。これにより、SAP HR の属性を、情報タイプ内の単純な属性ではなく、任意の深さの属性へのパスにすることができます。前述の製品のいずれかを前のバージョンから更新すると、デフォルトでは更新スクリプトの一部としてデフォルトの属性名が変更されます。属性の変換に問題があった場合は、**ResourceUpdater** がメッセージを出力します。ただし、変換が成功したことを確実にするため、アカウント属性を見直すようにしてください。

## リソースを設定する際の注意事項

ここでは、SAP リソースアダプタと SAP HR Active Sync アダプタに特有の設定の注意点を示します。

- 論理システムの作成
- 論理システムへのクライアントの割り当て
- 分散モデルの作成
- RFC サーバーモジュールの SAP ゲートウェイへの登録
- ポート定義の作成
- パートナープロファイルの生成
- ポート定義の修正
- IDoc の生成
- 変更ポイントの有効化
- 変更ポイント処理のジョブのスケジューリング
- ジョブのスケジューリング
- 変更ポイントの設定のテスト

- CPIC ユーザーの作成

SAP Application Link Enabling (ALE) テクノロジは、SAP と外部システム (Identity Manager など) との通信を可能にしています。SAP HR Active Sync アダプタは、アウトバウンド ALE インタフェースを使用します。アウトバウンド ALE インタフェースでは、ベース論理システムがアウトバウンドメッセージの送信側およびインバウンドメッセージの受信側になります。SAP ユーザーは通常、従業員の雇用、役職データの更新、従業員の解雇などのデータベースの変更時に、ベース論理システム / クライアントにログインします。論理システム / クライアントは、受信側クライアントにも定義されている必要があります。この論理システムは、アウトバウンドメッセージの受信側として動作します。Active Sync アダプタは、2 つのシステム間のメッセージタイプとして HRMD\_A メッセージタイプを使用します。メッセージタイプにより、システム間で送信されるデータの特性が設定され、IDoc タイプとも呼ばれるデータの構造 (たとえば、HRMD\_A05) への関連付けが行われます。

---

**注** HRMD\_A IDoc を Application Link Enabling (ALE) で処理できるように SAP システムパラメータを設定してください。これにより、2 つのアプリケーションシステム間でデータ配布が可能になります。これは「メッセージング」とも呼ばれます。

---

## 論理システムの作成

現在の SAP 環境によっては、論理システムの作成が不要な場合があります。以前に設定されたモデルビューに HRMD\_A メッセージタイプを追加して、既存の分散モデルを変更するだけでよい場合もあります。ただし、論理システムと ALE ネットワークの設定については、SAP の推奨事項に従うことが重要です。次の手順では、新しい論理システムと新しいモデルビューを作成することを想定しています。

1. トランザクションコード SPRO を入力し、SAP 完全版 IMG (または組織に適用できるプロジェクト) を表示します。
2. 使用している SAP のバージョンに応じて、次のいずれかを実行します。
  - **SAP HR 4.6** では、「ベースコンポーネント」>「Application Link Enabling (ALE)」>「システムの送信と受信」>「論理システム」>「定義: 論理システム」をクリックします。
  - **SAP HR 4.7** では、「アプリケーションサーバー」>「Application Link Enabling (ALE)」>「システムの送信と受信」>「論理システム」>「定義: 論理システム」をクリックします。
  - **SAP HR 5.0** では、「SAP Netweaver」>「アプリケーションサーバー」>「IDOC インタフェース / Application Link Enabling (ALE)」>「基本設定」>「論理システム」>「定義: 論理システム」をクリックします。

- **SAP HR 6.0** では、「SAP Netweaver」 > 「Web アプリケーションサーバー」 > 「IDOC インタフェース /Application Link Enabling (ALE)」 > 「基本設定」 > 「論理システム」 > 「定義: 論理システム」をクリックします。
3. 「編集」 > 「新規エントリ」をクリックします。
  4. 作成する論理システム (IDMGR) の名前と説明を入力します。
  5. エントリを保存します。

## 論理システムへのクライアントの割り当て

1. トランザクションコード SPRO を入力し、SAP 完全版 IMG (または組織に適用できるプロジェクト) を表示します。
2. 使用している SAP のバージョンに応じて、次のいずれかを実行します。
  - **SAP 4.6** では、「ベースコンポーネント」 > 「Application Link Enabling (ALE)」 > 「システムの送信と受信」 > 「論理システム」 > 「割当: 論理システム->クライアント」をクリックします。
  - **SAP 4.7** では、「アプリケーションサーバー」 > 「Application Link Enabling (ALE)」 > 「システムの送信と受信」 > 「論理システム」 > 「割当: 論理システム->クライアント」をクリックします。
  - **SAP 5.0** では、「SAP Netweaver」 > 「アプリケーションサーバー」 > 「IDOC インタフェース /Application Link Enabling (ALE)」 > 「基本設定」 > 「論理システム」 > 「割当: 論理システム->クライアント」をクリックします。
  - **SAP HR 6.0** では、「SAP Netweaver」 > 「Web アプリケーションサーバー」 > 「IDOC インタフェース /Application Link Enabling (ALE)」 > 「基本設定」 > 「論理システム」 > 「定義: 論理システム」をクリックします。
3. クライアントを選択します。
4. 「ジャンプ」 > 「詳細」をクリックして、「クライアント変更: 詳細」ダイアログボックスを表示します。
5. 「論理システム」フィールドに、このクライアントに割り当てる論理システムを入力します。
6. 「クライアント依存オブジェクトの変更と移送」セクションの「変更の自動記録」をクリックします。
7. エントリを保存します。

## 分散モデルの作成

分散モデルを作成するには、次の手順に従います。

1. 送信側のシステム / クライアントにログインしていることを確認します。

2. トランザクションコード **BD64** を入力します。変更モードになっていることを確認します。
3. 「編集」 > 「モデルビュー」 > 「登録」 をクリックします。
4. 作成するビューの技術的な短い名前、および開始日と終了日を入力し、「続行」 をクリックします。
5. 作成したビューを選択し、「メッセージタイプの追加」 をクリックします。
6. 送信側 / 論理システム名を定義します。
7. 受信側 / サーバー名を定義します。
8. 「保護クライアントコピーと比較ツール」 セクションの「保護レベル:制限なし」 をクリックします。
9. 使用するメッセージタイプ (**HRMD\_A**) を定義し、「続行」 をクリックします。
10. 「保存」 をクリックします。

## RFC サーバーモジュールの SAP ゲートウェイへの登録

初期化中に、Active Sync アダプタは SAP ゲートウェイに登録されます。ID には「IDMRFC」が使用されます。この値は、SAP アプリケーションに設定された値と一致する必要があります。RFC サーバーモジュールでハンドルを作成できるように SAP アプリケーションを設定してください。RFC サーバーモジュールを RFC 宛先として登録するには、次の手順に従います。

1. SAP アプリケーションで、トランザクション **SM59** に移動します。
2. TCP/IP 接続ディレクトリを展開します。
3. 「登録 (F8)」 をクリックします。
4. 「RFC 宛先」 フィールドに RFC 宛先システムの名前 (**IDMRFC**) を入力します。
5. 接続タイプを **T (TCP/IP 接続)** に設定します。
6. 新しい RFC 宛先の説明を入力し、「保存」 をクリックします。
7. 「起動型」 区画の「登録サーバープログラム」 ラジオボタンをクリックします。
8. 「アプリケーションサーバーで起動」 区画の「プログラム ID」 を設定します。RFC 宛先 (**IDMRFC**) と同じ値を使用するようにしてください。次に、「保存」 をクリックします。
9. SAP システムが Unicode システムの場合は、ポートを Unicode 用に設定してください。「**特殊オプション**」 タブ (一部のシステムでは「**MDMP & Unicode**」 タブ) をクリックして、「対象システムとの通信タイプ」 セクションを探します。Unicode と非 Unicode の設定があります。

10. 上の方にある「**接続テスト**」ボタンと「**ユニコードテスト**」ボタンを使用して、Identity Manager リソースへの接続をテストします。テストにパスするには、アダプタを起動しておきます。

## ポート定義の作成

ポートは、IDoc の送信先となる通信チャンネルです。ポートには、送信側システムと受信側システム間の技術的なリンクが記述されます。このソリューションには RFC ポートを設定するようにしてください。ポート定義を作成するには、次の手順に従います。

1. トランザクションコード WE21 を入力します。
2. 「トランザクション RFC」を選択し、「作成」アイコンをクリックします。「RFC 宛先」に IDMRFC と入力します。
3. 変更を保存します。

## パートナープロファイルの生成

パートナープロファイルは、システムによって自動的に生成されます。また、ユーザーは手動でプロファイルを維持できます。

---

**注** 既存の分散モデルとパートナープロファイルを使用する場合は、パートナープロファイルを自動的に生成する必要はありません。代わりに、パートナープロファイルを変更して HRMD\_A メッセージタイプを含めることができます。パートナープロファイルを自動的に生成するには、次の手順に従います。

---

1. トランザクションコード BD82 を入力します。
2. モデルビューを選択します。これは、以前に作成されたモデルビューであるはずです。
3. 「すぐに IDoc をファイルへ転送」ラジオボタンと「即時開始」ラジオボタンが選択されていることを確認します。
4. 「実行」をクリックします。

## ポート定義の修正

パートナープロファイルを生成したときに、ポート定義が間違っって入力されている可能性があります。システムが正しく動作するには、ポート定義を修正する必要があります。

1. トランザクションコード WE20 を入力します。
2. 「パートナータイプ LS」を選択します。

- 受信側のパートナープロファイルを選択します。
- 「送信パラメータ」を選択し、「表示」をクリックします。一部のシステムでは、「送信パラメータ」ボックスの下にある「+」アイコンをクリックします。
- メッセージタイプ **HRMD\_A** を選択します。
- 「送信オプション」をクリックし、受信側ポートを、作成した RFC ポート名 (**IDMGR**) に変更します。
- IDoc** を作成後すぐに送信するため、「出力モード」の「**IDoc の即時転送**」を選択します。
- 「**IDoc タイプ**」セクションから「基本タイプ」を選択します。
  - SAP HR 4.6 では、**HRMD\_A05** を選択します。
  - SAP HR 4.7 または 5.0 では、**HRMD\_A06** を選択します。
- 「続行 / 保存」をクリックします。

## IDoc の生成

- トランザクションコード **PFAL** を入力します。
- オブジェクトタイプに、**person** オブジェクトの **P** を挿入します。
- オブジェクト **ID** として従業員の **ID** を入力するか、従業員の範囲を選択します。
- 「実行」をクリックします。
- ステータスが「ポートへのデータ受け渡し **OK**」に設定されていることを確認します。
- IDoc** が作成されました。**Active Sync** アダプタのログファイルを調べ、更新が受信されたことを確認します。

## 変更ポイントの有効化

変更ポイントをグローバルに有効化するには、次の手順に従います。

- トランザクションコード **BD61** を入力します。
- 変更ポイントを有効にします。

あるメッセージタイプに関して変更ポイントを有効にするには、次の手順に従います。

- トランザクションコード **BD50** を入力します。
- HRMD\_A** メッセージタイプまでスクロールします。
- 「**HRMD\_A**」チェックボックスを選択し、「保存」をクリックします。

## 変更ポインタ処理のジョブのスケジューリング

1. トランザクションコード SE38 を入力してバリエーションの定義を開始します。
2. RBDMIDOC プログラムを選択し、「作成」アイコンをクリックします。
3. バリエーションに名前を付け、説明を入力します。バリエーション名は、ジョブをスケジューリングするときに使用できるように記録しておきます。
4. HRMD\_A メッセージタイプを選択し、「保存」をクリックします。バリエーションの属性を選択するように求められます。バックグラウンド処理属性を選択します。
5. 「保存」をクリックします。

## ジョブのスケジューリング

1. トランザクションコード SM36 を入力します。
2. ジョブに名前を付けます。
3. ジョブクラスを割り当てます。ジョブクラスは、ジョブを処理する優先順位です。クラス A は優先順位がもっとも高く、最初に処理されます。本稼働環境では、クラス B または C を割り当てます。
4. 開始時間をスケジューリングします。「開始条件」をクリックし、「日付 / 時刻」をクリックします。スケジューリングする開始時刻を入力します。これは未来のイベントである必要があります。
  - a. このジョブを周期的ジョブとして指定します。「周期値」をクリックし、ジョブを実行する頻度を指定して、Enter キーを押します。テストのため、この期間を 5 分に設定します。
  - b. 「保存」をクリックします。
5. ジョブステップを定義します。
  - a. ABAP プログラム名 (RBDMIDOC) を入力します。
  - b. 前の手順で作成したバリエーションを選択します。
6. 「保存」をクリックします (注意: 「保存」は 1 回だけクリックする。2 回以上クリックすると、ジョブが複数回実行されるようにスケジューリングされる)。

## 変更ポインタの設定のテスト

1. SAP クライアントで、従業員を雇用します。
2. IDoc が作成されたことを確認します。IDoc が作成されたことは、次の 2 か所で確認できます。
  - トランザクションコード WE02 を入力し、検索日付パラメータを入力して、生成された IDOC のリストを生成します。
  - SAP HR Active Sync アダプタのログを確認します。

## CPIC ユーザーの作成

ユーザーは、クライアントに依存しません。このドライバを使用する SAP HR Active Sync アダプタごとに、CPIC にアクセスするシステムユーザーを作成します。

1. SAP の「ユーザー管理」で、ユーザーダイアログボックスにユーザー名を入力し、「作成」アイコンをクリックします。
2. 「アドレス」タブをクリックし、姓フィールドと書式フィールドにデータを入力します。
3. 「Logon データ」タブをクリックし、初期パスワードを定義して、ユーザータイプを通信データに設定します。
4. 「Profile」タブをクリックし、SAP\_ALL、SAP\_NEW、および S\_A.CPIC の各プロファイルを追加します。
5. 「保存」をクリックします。

---

**注** 最初に、ダイアログユーザーを作成して、SAP システムの設定をテストできます。処理に問題がある場合は、デバッガでダイアログユーザーを分析できます。また、SAP システムに一度ログインして、このユーザーのパスワードを設定するようにしてください。システムがテストされ、正常に動作したあとは、セキュリティ対策のために CPIC ユーザーに切り替えるようにしてください。

---

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

SAP リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. <http://service.sap.com/connectors> から JCo (Java Connector) ツールキットをダウンロードします。SAP JCO ダウンロードページにアクセスするには、ログインとパスワードが必要です。このツールキットには、sapjco-ntintel-2.1.8.zip のような名前が付けられます。この名前は、選択したプラットフォームやバージョンによって異なります。

---

**注** ダウンロードする JCo ツールキットが、アプリケーションサーバーが動作する Java のビットバージョンと一致していることを確認します。たとえば、JCo は Solaris x86 プラットフォーム上の 64 ビットバージョンでのみ使用できます。したがって、アプリケーションサーバーが Solaris x86 プラットフォーム上の 64 ビットバージョンで実行されている必要があります。

---

2. ツールキットを解凍し、インストール手順に従います。必ずライブラリファイルを正しい場所に配置し、環境変数を指示どおりに設定してください。

3. `sapjco.jar` ファイルを `InstallDir\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。
4. **SAP Java Base IDoc Class Library** をダウンロードします。このライブラリは、`sapidoc-1.0.1.zip` のような名前の ZIP ファイルに格納されています。
5. ライブラリを解凍し、インストール手順に従います。
6. `sapidoc.jar` ファイルを `InstallDir\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。
7. **SAP Java Connector IDoc Class Library** をダウンロードします。このライブラリは、`sapidocjco-1.0.1.zip` のような名前の ZIP ファイルに格納されています。
8. ライブラリを解凍し、インストール手順に従います。
9. `sapidocjco.jar` ファイルを `InstallDir\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

## 使用上の注意

ここでは、SAP HR Active Sync リソースアダプタの使用に関する情報を示します。次のトピックで構成されています。

- [全般的な注意事項](#)
- [SNC \(Secure Network Communications\) 接続の有効化](#)
- [SAP JCO および RFC のトレース](#)

### 全般的な注意事項

このリソースに関する全般的な注意事項は次のとおりです。

- `waveset.properties` ファイル内の `sources.ResourceName.hosts` プロパティを使用して、Active Sync を使用してリソースの同期を行うのにクラスタ内のどのホストを使用するかを制御できます。`ResourceName` は、リソースオブジェクトの名前に置き換えてください。

### SNC (Secure Network Communications) 接続の有効化

デフォルトでは、SAP アダプタは SAP Java Connector (JCo) を使用して SAP アダプタと通信します。SNC 接続の実装の詳細については、[551 ページの「SNC \(Secure Network Communications\) 接続の有効化」](#)を参照してください。

## SAP JCO および RFC のトレース

SAPHRActiveSyncAdapter には、SAP JCO および RFC のトレース用のリソース属性が用意されています。これらを使用して、Identity Manager と SAP システムの通信をトレースできます。属性名は、「SAP JCO トレースレベル」と「SAP JCO トレースディレクトリ」です。

環境内に次の環境変数を設定すると、SAP RFC トレースを有効にできます。これらの変数は、アプリケーションサーバーを起動する前に環境内に設定してください。これらの変数は、JCO が SAP システムとの通信に使用する共有ライブラリを制御します。

- RFC\_TRACE: 0 または 1
- RFC\_TRACE\_DUMP: 0 または 1
- RFC\_TRACE\_DIR: トレースファイルのディレクトリへのパス
- CPIC\_TRACE\_DIR: トレースファイルのディレクトリへのパス

---

**注** JCO のトレースが必要でない場合は、トレースファイルが作成されないように、RFC\_TRACE を 0 に設定してください。

---

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SAP Java Connector (JCo) 経由の BAPI を使用して SAP アダプタと通信します。

### 必要な管理特権

SAP HR に接続するユーザー名を、SAP HR ユーザーにアクセスできるロールに割り当ててください。

## プロビジョニングに関する注意事項

デフォルトの SAP HR Active Sync アダプタは読み取り専用です。このアダプタを使用してアカウントを作成または変更することはできません。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用不可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>Active Sync (SAP HR Active Sync アダプタのみ)</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

スキーママップ内のアカウント属性は現在、\_(下線)ではなく:(コロン)で区切られます。これにより、SAP HR の属性を、情報タイプ内の単純な属性ではなく、任意の深さの属性へのパスにすることができます。

属性パスの基本形式は次のとおりです。

```
infoType:subType:iDocDef:attrName
```

---

**注** 属性パスの *iDocDef* (IDoc 定義) セグメントと *attrName* セグメントは拡張できます。

---

有効な属性パスの例は、0105:MAIL:E2P0105001:ID などです。この場合は、*infoType* が 0105、*subType* が MAIL、*iDocDef* が E2P0105001、*attrName* が ID です。

必要な属性が最初の IDoc 定義よりも深い場合は、*attrName* の前に任意の数の IDoc 定義をそれぞれ区切り文字の:(コロン)で区切って指定できます。たとえば、0002::E2P0002001:E2Q0002002:PERNR には次の要素が含まれています。

*infoType* - 0002

*subType* - なし。属性にサブタイプがない場合は、NULL フィールドまたは空白文字を使用します。

*iDocDef1* - E2P0002001

*iDocDef2* - E2Q0002002

*attrName* - PERNR

IDoc 定義オブジェクトは **GenericObject** として返される場合もあります。前述の例を使用すると、E2Q0002002 の IDoc 定義を **GenericObject** として取得するには、リソースユーザー属性を 0002::E2P0002001:E2Q0002002 としてスキーママップに指定します。

さらに、属性がリストであることを示すために、[ ] (左角括弧と右角括弧) をパス名に付加できます。たとえば、ある特定の属性が複数の値を持つことができる場合、属性名に [ ] を付加すると、その属性の値はリストとして返されます。これは、たとえば次のようになります。

1001:B008:E2P1001001:VARYF[ ]

属性が複数の値を取るが、属性名に [ ] が付加されていない場合は、最後の値が属性の値として使用されます。

デフォルトでは、次の情報タイプがサポートされます。

情報タイプ	名前	サポートされるサブタイプ
0000	アクション	適用不可
0001	所属	適用不可
0002	個人データ	適用不可
0006	住所	01 (現住所)、03 (帰省先住所)
0105	通信	MAIL (電子メール)。0010 (電子メール)

次の表に、SAP HR Active Sync のアカウント属性に関する情報を示します。

### アクション属性

ユーザー属性	リソース属性名	説明
actions_end_date	0000::E2P0000001:ENDDA	終了日
actions_start_date	0000::E2P0000001:BEGDA	開始日
actions_sequence_number	0000::E2P0000001:SEQNR	同じキーを持つ情報タイプレコード数
actions_last_changed_by	0000::E2P0000001:UNAME	オブジェクトの変更者名

ユーザー属性	リソース属性名	説明
actions_last_changed	0000::E2P0000001:AEDTM	最終変更日
actions_change_reason	0000::E2P0000001:PREAS	マスターデータの変更理由
actions_flag1	0000::E2P0000001:FLAG1	予約項目 / 未使用項目
actions_flag2	0000::E2P0000001:FLAG2	予約項目 / 未使用項目
actions_flag3	0000::E2P0000001:FLAG3	予約項目 / 未使用項目
actions_flag4	0000::E2P0000001:FLAG4	予約項目 / 未使用項目
actions_reserved1	0000::E2P0000001:RESE1	予約項目 / 未使用項目 (項目長 2)
actions_reserved2	0000::E2P0000001:RESE2	予約項目 / 未使用項目 (項目長 2)
actions_type	0000::E2P0000001:MASSN	アクションタイプ
actions_reason	0000::E2P0000001:MASSG	アクションの理由
actions_customer_status	0000::E2P0000001:STAT1	カスタマ定義区分ステータス
actions_employment_status	0000::E2P0000001:STAT2	在籍区分ステータス
actions_special_payment_status	0000::E2P0000001:STAT3	特給区分ステータス

### 所属属性

ユーザー属性	リソース属性名	説明
org_admingroup	0001::E2P0001001:ADMINGROUP	管理者グループ
org_bus_area	0001::E2P0001001:BUS_AREA	事業領域
org_ch_on	0001::E2P0001001:CH_ON	最終変更日
org_changed_by	0001::E2P0001001:CHANGED_BY	オブジェクトの変更者名
org_cnfrm_flag	0001::E2P0001001:CNFRM_FLAG	確認フィールドの有無
org_co_area	0001::E2P0001001:CO_AREA	管理領域
org_comp_code	0001::E2P0001001:COMP_CODE	会社コード
org_contract	0001::E2P0001001:CONTRACT	労働契約
org_costcenter	0001::E2P0001001:COSTCENTER	コストセンター
org_egroup	0001::E2P0001001:EGROUP	従業員グループ
org_esubgroup	0001::E2P0001001:ESUBGROUP	従業員サブグループ
org_flag1	0001::E2P0001001:FLAG1	予約項目 / 未使用項目

ユーザー属性	リソース属性名	説明
org_flag2	0001::E2P0001001:FLAG2	予約項目 / 未使用項目
org_flag3	0001::E2P0001001:FLAG3	予約項目 / 未使用項目
org_flag4	0001::E2P0001001:FLAG4	予約項目 / 未使用項目
org_from_date	0001::E2P0001001:FROM_DATE	開始日
org_fund	0001::E2P0001001:FUND	基金
org_funds_ctr	0001::E2P0001001:FUNDS_CTR	基金センター
org_hist_flag	0001::E2P0001001:HIST_FLAG	履歴レコードフラグ
org_infotype	0001::E2P0001001:INFOTYPE	情報タイプ
org_job	0001::E2P0001001:JOB	ジョブ
org_jobtxt	0001::E2P0001001:JOBTXT	
org_leg_person	0001::E2P0001001:LEG_PERSON	法人
org_lock_ind	0001::E2P0001001:LOCK_IND	HR マスターデータレコードの ロックインジケータ
org_name	0001::E2P0001001:NAME	従業員または応募者の、形式に合 わせた名前
org_object_id	0001::E2P0001001:OBJECT_ID	オブジェクト識別
org_objecttype	0001::E2P0001001:OBJECTTYPE	オブジェクトタイプ
org_org_key	0001::E2P0001001:ORG_KEY	組織キー
org_org_unit	0001::E2P0001001:ORG_UNIT	Organizational Unit
org_orgtxt	0001::E2P0001001:ORGTXT	
org_p_subarea	0001::E2P0001001:P_SUBAREA	担当者のサブ領域
org_payarea	0001::E2P0001001:PAYAREA	給与支払領域
org_payr_admin	0001::E2P0001001:PAYR_ADMIN	給与支払管理者
org_perono	0001::E2P0001001:PERNO	担当者番号
org_pers_admin	0001::E2P0001001:PERS_ADMIN	HR マスターデータの管理者
org_pers_area	0001::E2P0001001:PERS_AREA	担当者領域
org_position	0001::E2P0001001:POSITION	Position
org_postxt	0001::E2P0001001:POSTXT	
org_reason	0001::E2P0001001:REASON	マスターデータの変更理由

ユーザー属性	リソース属性名	説明
org_ref_flag	0001::E2P0001001:REF_FLAG	参照フィールドの有無 (一次 / 二次コスト)
org_reserved1	0001::E2P0001001:RESERVED1	予約項目 / 未使用項目 (項目長 2)
org_reserved2	0001::E2P0001001:RESERVED2	予約項目 / 未使用項目 (項目長 2)
org_screenctrl	0001::E2P0001001:SCREENCTRL	情報タイプ画面制御
org_seqno	0001::E2P0001001:SEQNO	同じキーを持つ情報タイプレコード数
org_sort_name	0001::E2P0001001:SORT_NAME	従業員の名前 (姓でソート可能)
org_subtype	0001::E2P0001001:SUBTYPE	サブタイプ
org_supervisor	0001::E2P0001001:SUPERVISOR	スーパーバイザ領域
org_textflag	0001::E2P0001001:TEXTFLAG	情報タイプのテキストの有無
org_time_admin	0001::E2P0001001:TIME_ADMIN	時間記録の管理者
org_to_date	0001::E2P0001001:TO_DATE	終了日

### 個人データリソース

ユーザー属性	リソース属性名	説明
academicgrade	0002::E2P0002001:ACADEMICGRADE	学位
aristocratictitle	0002::E2P0002001:ARISTOCRATICTITLE	名前の補足 (Lord、Lady など)
birthplace	0002::E2P0002001:BIRTHPLACE	従業員の出生地
countryofbirth	0002::E2P0002001:COUNTRYOFBIRTH	従業員の出生国
dateofbirth	0002::E2P0002001:DATEOFBIRTH	従業員の誕生日
employeeeno	0002::E2P0002001:EMPLOYEEENO	必須。従業員番号
firstname	0002::E2P0002001:FIRSTNAME	従業員の名。必須。
formofaddress	0002::E2P0002001:FORMOFADDRESS	敬称キー
fullname	0002::E2P0002001:FULLNAME	従業員のフルネーム
gender	0002::E2P0002001:GENDER	従業員の性別を示します
idnumber	0002::E2P0002001:IDNUMBER	担当者の ID 番号 (社会保障番号など)
initials	0002::E2P0002001:INITIALS	従業員のイニシャル

ユーザー属性	リソース属性名	説明
knownas	0002::E2P0002001:KNOWNAS	従業員が希望する呼び名。
language	0002::E2P0002001:LANGUAGE	言語キー
language_iso	0002::E2P0002001:LANGUAGE_ISO	ISO 639 言語コード
lastname	0002::E2P0002001:LASTNAME	従業員の姓
maritalstatus	0002::E2P0002001:MARITALSTATUS	結婚歴キー
maritalstatussince	0002::E2P0002001:MARITALSTATUSSINCE	現在の結婚歴の有効開始日
middlename	0002::E2P0002001:MIDDLENAME	従業員の名前のミドルネーム
name_format_indicator	0002::E2P0002001:NAME_FORMAT_INDICATOR	リスト内の従業員の名前形式 ID
nameatbirth	0002::E2P0002001:NAMEATBIRTH	出生時の名前または姓
nameofcountryofbirth	0002::E2P0002001:NAMEOFCOUNTRYOFBIRTH	出生国
nameofformofaddress	0002::E2P0002001:NAMEOFFORMOFADDRESS	敬称の名前
nameofgender	0002::E2P0002001:NAMEOFGENDER	性別の名前
nameoflanguage	0002::E2P0002001:NAMEOFLANGUAGE	言語の名前
nameofmaritalstatus	0002::E2P0002001:NAMEOFMARITALSTATUS	結婚歴の名前
nameofnationality	0002::E2P0002001:NAMEOFNATIONALITY	国籍の名前
nameofreligion	0002::E2P0002001:NAMEOFRELIGION	宗教の名前
nameofsecondnationality	0002::E2P0002001:NAMEOFSECONDNATIONALITY	第二国籍の名前
nameofstateofbirth	0002::E2P0002001:NAMEOFSTATEOFBIRTH	出生州の名前
nameofthirdnationality	0002::E2P0002001:NAMEOFTHIRDNATIONALITY	第三国籍の名前
nationality	0002::E2P0002001:NATIONALITY	従業員の第一国籍
numberofchildren	0002::E2P0002001:NUMBEROFCHILDREN	従業員の子供の数。
recordnr	0002::E2P0002001:RECORDNR	同じキーを持つ情報タイプレコード数
religion	0002::E2P0002001:RELIGION	宗教団体を特定するために使用される 2 文字のコード。

ユーザー属性	リソース属性名	説明
secondacadgrade	0002::E2P0002001:SECONDACADGRADE	第二学位
secondname	0002::E2P0002001:SECONDNAME	姓
secondnameprefix	0002::E2P0002001:SECONDNAMEPREFIX	姓の前置語
secondnationality	0002::E2P0002001:SECONDNATIONALITY	従業員の第二国籍
stateofbirth	0002::E2P0002001:STATEOFBIRTH	従業員が出生した州または都道府県
surnameprefix	0002::E2P0002001:SURNAMEPREFIX	姓の前置語 (von、van der、de la など)
thirdnationality	0002::E2P0002001:THIRDNATIONALITY	第三国籍
validbegin	0002::E2P0002001:VALIDBEGIN	従業員データが有効になる日付
validend	0002::E2P0002001:VALIDEND	従業員データが無効になる日付

### 住所リソース

ユーザー属性	リソース属性名	説明
addresstype_permanent_address	0006:1:E2P0006001:ADDRESSTYPE	現住所のアドレスタイプ
addresstype_home_address	0006:3:E2P0006003:ADDRESSTYPE	自宅住所のアドレスタイプ
city_permanent_address	0006:1:E2P0006001:CITY	現住所の市
city_home_address	0006:3:E2P0006003:CITY	自宅住所の市
coname_permanent_address	0006:1:E2P0006001:CONAME	従業員の現住所の気付(c/o)の情報。
coname_home_address	0006:3:E2P0006003:CONAME	従業員の自宅住所の気付(c/o)の情報。
country_permanent_address	0006:1:E2P0006001:COUNTRY	現住所の国コード
country_home_address	0006:3:E2P0006003:COUNTRY	自宅住所の国コード
district_permanent_address	0006:1:E2P0006001:DISTRICT	現住所の地区
district_home_address	0006:3:E2P0006003:DISTRICT	自宅住所の地区

ユーザー属性	リソース属性名	説明
nameofaddressstype_permanent_address	0006:1:E2P0006001:NAMEOFADDRESSSTYPE	現住所に割り当てられたアドレスタイプ。
nameofaddressstype_home_address	0006:3:E2P0006003:NAMEOFADDRESSSTYPE	自宅住所に割り当てられたアドレスタイプ
nameofcountry_permanent_address	0006:1:E2P0006001:NAMEOFCOUNTRY	現住所の国
nameofcountry_home_address	0006:3:E2P0006003:NAMEOFCOUNTRY	自宅住所の国
nameofstate_permanent_address	0006:1:E2P0006001:NAMEOFSTATE	現住所の州名または都道府県名
nameofstate_home_address	0006:3:E2P0006003:NAMEOFSTATE	自宅住所の州名または都道府県名
postalcodecity_permanent_address	0006:1:E2P0006001:POSTALCODECITY	現住所の郵便番号の市部分
postalcodecity_home_address	0006:3:E2P0006003:POSTALCODECITY	自宅住所の郵便番号の市部分
recordnr_permanent_address	0006:1:E2P0006001:RECORDNR	
recordnr_home_address	0006:3:E2P0006003:RECORDNR	
scndaddressline_permanent_address	0006:1:E2P0006001:SCNDADDRESSLINE	現住所の第二住所行。
scndaddressline_home_address	0006:3:E2P0006003:SCNDADDRESSLINE	自宅住所の第二住所行。
state_permanent_address	0006:1:E2P0006001:STATE	現住所の州または都道府県
state_home_address	0006:3:E2P0006003:STATE	自宅住所の州または都道府県
streetandhouse_no_permanent_address	0006:1:E2P0006001:STREETANDHOUSENO	現住所の街路名および番地
streetandhouse_no_home_address	0006:3:E2P0006003:STREETANDHOUSENO	自宅住所の街路名および番地
telephonenumber_permanent_address	0006:1:E2P0006001:TELEPHONENUMBER	現住所の第一電話番号
telephonenumber_home_address	0006:3:E2P0006003:TELEPHONENUMBER	自宅住所の第一電話番号

ユーザー属性	リソース属性名	説明
validbegin_permanent_address	0006:1:E2P0006001:VALIDBEGIN	現住所が有効になる日付
validbegin_home_address	0006:3:E2P0006003:VALIDBEGIN	自宅住所が有効になる日付
validend_permanent_address	0006:1:E2P0006001:VALIDEND	現住所が無効になる日付
validend_home_address	0006:3:E2P0006003:VALIDEND	自宅住所が無効になる日付

### 通信リソース

ユーザー属性	リソース属性名	説明
commtypes_communication_EMail	0105:0010:E2P0105001:COMMTYPE	通信タイプのキー (インターネット)
commtypes_communication_EMail2	0105:MAIL:E2P0105001:COMMTYPE	通信タイプのキー (電子メール)
delimit_date_communication_EMail	0105:0010:E2P0105001:DELIMIT_DATE	インターネットアドレスを区切るためのキー日付
delimit_date_communication_EMail2	0105:MAIL:E2P0105001:DELIMIT_DATE	電子メールアドレスを区切るためのキー日付
email_communication_EMail	0105:0010:E2P0105001:ID	インターネットアドレス
email	0105:MAIL:E2P0105001:ID	電子メールアドレス
nameofcommtypes_communication_EMail	0105:0010:E2P0105001:NAMEOFCOMMTYPE	通信タイプの名前 (インターネット)
nameofcommtypes_communication_EMail2	0105:MAIL:E2P0105001:NAMEOFCOMMTYPE	通信タイプの名前 (電子メール)
recordnr_communication_EMail	0105:0010:E2P0105001:RECORDNR	
recordnr_communication_EMail2	0105:MAIL:E2P0105001:RECORDNR	
validbegin_communication_EMail	0105:0010:E2P0105001:VALIDBEGIN	インターネットアドレスが有効になる日付

ユーザー属性	リソース属性名	説明
validbegin_communication_EMail2	0105:MAIL:E2P0105001:VALIDBEGIN	電子メールアドレスが有効になる日付
validend_communication_EMail	0105:0010:E2P0105001:VALIDEND	インターネットアドレスが期限切れになる日付
validend_communication_EMail2	0105:MAIL:E2P0105001:VALIDEND	電子メールアドレスが期限切れになる日付

## リソースオブジェクトの管理

適用不可

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

SAPForm.xml

SAPUserForm\_with\_RoleEffectiveDates\_Timezone.xml

SAPHRActiveSyncForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.SAPHRActiveSyncAdapter`

インストールされている SAP Java Connector (JCO) のバージョンを判定し、それが正しくインストールされているかどうかを判定するには、次のコマンドを実行します。

```
java -jar sapjco.jar
```

このコマンドは、JCO のバージョンとともに、SAP システムと通信する JNI プラットフォーム依存ライブラリおよび RFC ライブラリを返します。

プラットフォーム依存ライブラリが見つからない場合は、SAP のマニュアルを参照して、SAP Java Connector の正しいインストール方法を調べてください。



# SAP Enterprise Portal

SAP Enterprise Portal リソースアダプタは、SAP NetWeaver Enterprise Portal をサポートします。このアダプタは、`com.waveset.adapter.SAPPortalResourceAdapter` クラスで定義されます。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

SAP Enterprise Portal アダプタに必要な追加のインストール手順はありません。

## リソースを設定する際の注意事項

SAP Enterprise Portal に、`idmservice.par` ポータルアーカイブファイルを配備します。`idmservice.par` ファイルは、インストールイメージのルートフォルダにあります。

ポータルアーカイブは、SAP Enterprise Portal アダプタに必要な `com.sap.portal.prt.soap.IDMService` ポータルサービスを定義します。アダプタは、SOAP 呼び出し経由でポータルサービスと通信して、Portal 上のオブジェクトを管理します。

Portal 管理者は、`idmservice.par` をインストールする必要があります。この作業は、SAP Enterprise Portal の管理ユーザーインターフェースを使用して、アップロードするファイルとして `idmservice.par` を選択することによって、行います。

## 使用上の注意

SAP Enterprise Portal アダプタは、SAP User Management Engine (UME) を間接的に使用してユーザープロビジョニングを実行します。アダプタが Identity Manager ポータルサービスと通信し、ポータルサービスが UME を順に直接呼び出します。

SAP Portal にインストールされた Identity Manager サービスと通信するには、「Identity Manager ポータルサービスのエンドポイント」リソース属性を設定する必要があります。

エンドポイントの例を次に示します。

```
https://myhost:50000/irj/servlet/prt/soap/com.sap.portal.prt.soap.IDMService
```

「SAP Portal 管理者」リソース属性と「SAP Portal 管理者のパスワード」リソース属性は、SAP Portal の管理者のユーザー名とパスワードを定義します。

「設定のテスト」ボタンでは、Identity Manager ポータルサービスに対するステータス呼び出しを実行することにより、エンドポイント、ユーザー名、およびパスワードが有効かどうかを確認されます。

## セキュリティに関する注意事項

セキュリティを向上させるため、次のように設定してください。

- `com.sap.portal.prt.soap.IDMService` ポータルサービスは、SAP Portal によって公開されている SSL 暗号化ポートを使用した場合にのみアクセスできるようにしてください。
- `com.sap.portal.prt.soap.IDMService/high_safety` セキュリティーゾーンを変更して、SAP `super_admin` ロールのみが含まれるようにしてください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>• リソースから直接インポート</li><li>• リソースの調整</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、SAP Enterprise Portal のユーザーアカウント属性の一覧を示します。特に記載されていないかぎり、すべてのアカウント属性のデータ型は String です。

Identity Manager ユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
<code>sap_groups</code>	<code>groups</code>	ユーザーが直接のメンバーである SAP グループ

Identity Manager ユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
sap_roles	roles	ユーザーがディレクトリメンバーである SAP ロール
title	title	ユーザーの学位または貴族の称号
firstname	firstName	ユーザーの名
lastname	lastName	ユーザーの姓
fullname	displayName	ユーザーの表示名
email	email	ユーザーのデフォルトの電子メールアドレス
telephone	telephone	ユーザーのデフォルトの電話番号
fax	fax	ユーザーのデフォルトの FAX 番号
cellPhone	cellPhone	ユーザーのデフォルトの携帯電話番号
street	street	ユーザーの自宅住所の街路
city	city	ユーザーの自宅住所の市
state	state	ユーザーの自宅住所の州または都道府県
zipcode	zip	ユーザーの自宅住所の郵便番号
country	country	ユーザーが居住する国を表す 2 つの英大文字による ISO 3166 コード。この値は、ロケールで指定された国と必ずしも一致しません。
timeZone	timeZone	ユーザーのタイムゾーン。
locale	locale	ユーザーのロケール (en_US、fr_CA など)。
currency	currency	ユーザーの通貨を表す 3 文字の英大文字によるコード (USD、EUR、YEN など)
screenReader	screenReader	Boolean。ユーザーに対する画面表示を有効または無効にします。
department	department	ユーザーの部署
jobTitle	jobTitle	ユーザーの役職
salutation	salutation	ユーザーの敬称 (Mr.、Mrs.、Dr. など)

## リソースオブジェクトの管理

SAP のグループとロールがサポートされます。

# アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

サンプルフォームとして、`sample/forms/SAPPortalUserForm.xml` を使用できます。このサンプルフォームを使用する場合は、`sample/rules/SAPPortalUserFormRules.xml` もインポートしてください。

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.SAPPortalResourceAdapter
```

また、リソースインスタンスに対して次の Identity Manager ログングパラメータを設定できます。

- ログファイルパス
- ログファイルの最大サイズ
- ログレベル

SAP Enterprise Portal サーバーのポータルサービスのログを表示するには、SAP サーバーのインストールファイルの `WEB-INF/portal/logs/idm.log` ファイルを参照してください。

ポータルサービスは、`PORTAL-INF/logger/logger.xml` ファイルの **PAR** で定義されているロガー `idm_logger` を使用します。デフォルトでは、`idm_logger` はすべてのメッセージのログを記録するように設定されています。

# スクリプトゲートウェイ

スクリプトゲートウェイアダプタは、Sun Identity Manager Gateway 上で実行されるバッチファイルによって制御されるリソースを管理します。このアダプタは汎用アダプタであるため、高度な設定が可能です。

このアダプタは、`com.waveset.adapter.ScriptedGatewayResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

スクリプトホストリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタム リソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.ScriptedGatewayResourceAdapter
```

アダプタの「ホスト」フィールドに指定されたホストに、Sun Identity Manager Gateway (`gateway.exe`) をインストールしてください。

## 使用上の注意

- [リソースアクション](#)
- [スクリプト](#)
- [結果処理](#)
- [ゲートウェイタイムアウト](#)

### リソースアクション

スクリプトゲートウェイアダプタでは、ユーザーアカウントの作成、更新、削除、取得などの基本的なプロビジョニング機能を実行する一連のアクションを作成できます。これらの各アクションは、それぞれ Windows のバッチファイルに定義されます。

このアダプタは、次のプロビジョニングアクションをサポートします。

アクション	目的	必須性
create	新しいユーザーを作成します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを作成できません。
delete	既存のユーザーを削除します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを削除できません。
getAllUsers	リソース上のすべてのユーザーに関する情報を取得します。	使用可。
getUser	既存ユーザーの属性を取得します。	使用可。
update	既存ユーザーの属性を更新します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを更新できません。

\$WSHOME/sample/ScriptedGateway ディレクトリには、理論上のゲートウェイスクリプトベースのホストアプリケーションにユーザーをプロビジョニングするのに使用できるリソースアクション定義のサンプルセットが格納されています。環境に合わせてそれらの定義をカスタマイズしてください。

リソースアクションに関する全般的な情報については、[509 ページの第 3 章「リソースへのアクションの追加」](#)を参照してください。

## スクリプト

スクリプトゲートウェイアダプタは、ゲートウェイ上で実行するバッチファイルとしてアクションを実装します。これらのスクリプトは、スクリプトを実行するマシンにインストールされているバージョンの Windows で動作するように記述してください。ゲートウェイを実行するアカウントと同じアカウントが、スクリプトも実行します。

スクリプトは、Windows の規則に従い、成功を示すリターンコード 0 で終了するようにしてください。0 以外のコード (スクリプトの作成者が定めた) を返すことは、操作が正しく完了しなかった可能性があるという意味になります。

スクリプトは、Windows の標準エラーや標準出力ストリームにテキストを出力できません。操作の種類、操作のコンテキスト、および失敗のタイプによっては、その操作の結果にテキストを表示することができます。

getUser および getAllUsers 操作では、このテキストは、各ユーザーの属性を特定するために標準出力ストリームで解析されます。

以下のタイプの環境変数は、スクリプトにエクスポートできます。

- スキーママップのアイデンティティシステム リソース属性列で定義されたアカウント属性はどれも、そのアカウント属性の先頭に `WSUSER_` を付加すると、スクリプトで利用できるようにできます。たとえば、アカウント属性の名前が `FullName` の場合、その環境変数は `WSUSER_Full Name` という名前になります。
- `WSRSRC_` で始まる環境変数で、アダプタの設定を渡すことができます。もっとも重要な変数は、アダプタの名前を定義する `WSRSRC_Name` です。異なるリソースで同じスクリプトを実行する場合は、この変数を実装すると、それぞれのゲートウェイで同じ操作を行うスクリプトの複数のコピーを維持する手間を省けます。
- `WSOBJ_ID` 変数と `WSOBJ_NAME` 変数は、それぞれアカウント ID とアカウント名を定義します。これらの変数は、スクリプトゲートウェイアダプタでのみ使用できます。

次の例は、サンプルで生成される環境を示しています。

```
WSUSER_Email=testuser@waveset.com
WSUSER_First Name=JUnit
WSUSER_Full Name=JUnit TestUser
WSUSER_Last Name=TestUser
WSUSER_User ID=USER5647
WSUSER_ws_action_type=WindowsBatch
WSOBJ_ID=testuser
WSOBJ_NAME=testuser
WSRSRC_NAME=Scripted Gateway
WSRSRC_CLASS=com.waveset.adapter.ScriptedGatewayResourceAdapter
WSRSRC_Host=localhost
WSRSRC_List Objects Timeout=900000
WSRSRC_Request Timeout=30000
WSRSRC_TCP Port=9278
WSRSRC_connectionLimit=10
```

一般に、属性の値が `NULL` の場合は、対応する環境変数に長さが 0 の文字列が設定されるのではなく、その環境変数は省略されます。

スクリプトで使用可能な変数の詳細については、[509 ページの第 3 章「リソースへのアクションの追加」](#) を参照してください。

## 結果処理

`AttrParse` メカニズムは、標準出力ストリームを介して `getUser` アクションと `getAllUsers` アクションから返された結果を処理します。`AttrParse` オブジェクトの実装の詳細については、[493 ページの第 2 章「AttrParse オブジェクトの実装」](#) を参照してください。

`AttrParse` は、`getUser` アクションに対してユーザー属性のマップを返します。`getAllUsers` アクションの場合は、マップのマップを生成します。返されるマップの各エントリには、次の内容が含まれます。

- 通常 AttrParse によって返されるようなユーザー属性のマップである値。
- アカウント ID または (ID が不明の場合は) 名前を示すキー。

属性と値を判定するには、AttrParse トークンである collectCsvHeader および collectCsvLines を使用してください。同じような操作を行うほかの AttrParse トークンを使用しないでください。

## ゲートウェイタイムアウト

スクリプトゲートウェイでは、RA\_HANGTIMEOUT リソース属性を使用してタイムアウト値を秒単位で指定できます。この属性は、ゲートウェイに対する要求がタイムアウトしてハングしているとみなされるまでの時間を制御します。

次のように、この属性を Resource オブジェクトに手動で追加する必要があります。

```
<ResourceAttribute name='Hang Timeout'  
displayName='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT' type='int'  
description='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT_HELP'  
value='NewValue'>  
</ResourceAttribute>
```

この属性のデフォルト値は 0 であり、これは Identity Manager がハングした接続を確認しないことを示します。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Sun Identity Manager Gateway は必須です。

### 必要な管理特権

スクリプトを実行する管理アカウントは、ゲートウェイで定義されているすべての操作について承認されている必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、スクリプトゲートウェイアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの作成	使用可
アカウントの更新	使用可
アカウントの削除	使用可
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	リソースから直接インポート 調整

## アカウント属性

アカウント属性は多種多様であるため、スクリプトゲートウェイアダプタにはデフォルトのアカウント属性が用意されていません。

アイデンティティシステムユーザー属性の名前が `accountId` であるアカウント属性を定義してください。

## リソースオブジェクトの管理

サポート対象外。

## アイデンティティテンプレート

なし。有効な値を持つアイデンティティテンプレートを設定してください。

# サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.ScriptedGatewayResourceAdapter
```

# スクリプトホスト

スクリプトホストリソースアダプタは、OS/390 メインフレーム上のアプリケーションユーザーアカウントの管理をサポートします。このアダプタは、TN3270 エミュレータセッションでホストアプリケーションを管理します。

このアダプタは汎用アダプタであるため、高度な設定が可能です。このアダプタには、管理対象のホストアプリケーションに関する前提条件はありません。代わりに、顧客が提供するスクリプトセットを呼び出すことによってホストアプリケーションとの対話を実行します。

スクリプトホストリソースアダプタは、`com.waveset.adapter.ScriptedHostResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

スクリプトホストリソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. スクリプトホストリソースを **Identity Manager** のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.ScriptedHostResourceAdapter
```

2. 適切な JAR ファイルを **Identity Manager** インストールの `WEB-INF/lib` ディレクトリにコピーします。

コネクションマネージャー	JAR ファイル
Host On Demand	<p>IBM Host Access Class Library (HACL) は、メインフレームへの接続を管理します。HACL が含まれる推奨 JAR ファイルは <code>habeans.jar</code> です。これは、HOD に付属する HOD Toolkit (または Host Access Toolkit) とともにインストールされます。HACL のサポートされるバージョンは、HOD V7.0、V8.0、V9.0、および V10 に含まれるバージョンです。</p> <p><code>habeans.jar</code> ファイルただし、このツールキットを利用できない場合は、HOD のインストールに含まれる次の JAR ファイルを <code>habeans.jar</code> の代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>habase.jar</code></li> <li>• <code>hacp.jar</code></li> <li>• <code>ha3270.jar</code></li> <li>• <code>hassl.jar</code></li> <li>• <code>hodbase.jar</code></li> </ul> <p>詳細は、  <a href="http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/">http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/</a> を参照してください。</p>
Attachmate WRQ	<p>Sun 製品向け Attachmate 3270 メインフレームアダプタには、メインフレームへの接続の管理に必要なファイルが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>RWebSDK.jar</code></li> <li>• <code>wrqtls12.jar</code></li> <li>• <code>profile.jaw</code></li> </ul> <p>この製品の入手については、Sun プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。</p>

3. `Waveset.properties` ファイルに次の定義を追加して、端末セッションを管理するサービスを定義します。

```
serverSettings.serverId.mainframeSessionType=Value
serverSettings.default.mainframeSessionType=Value
```

*Value* は、次のように設定できます。

- 1 - IBM Host On-Demand (HOD)
- 3 - Attachmate WRQ

これらのプロパティが明示的に設定されていなければ、Identity Manager はまず WRQ を使用し、次に HOD を使用します。

4. Attachmate ライブラリが WebSphere または WebLogic アプリケーションサーバーにインストールされている場合は、`com.wrq.profile.dir=LibraryDirectory` プロパティを `WebSphere/AppServer/configuration/config.ini` または `startWeblogic.sh` ファイルに追加します。

これにより、Attachmate コードでライセンスファイルを検索できます。

5. スクリプトホストアダプタは、顧客が提供する Javascript を必要とします。それらのスクリプトは Mozilla Rhino と互換性がある必要があります。Mozilla Rhino v1\_5R2 は、Identity Manager に添付されており、`$WSHOME/WEB-INF/lib/javascript.jar` にあります。

改善された Javascript エラー報告機能が必要な場合は、最新バージョンの Mozilla Rhino (<http://www.mozilla.org/rhino/>) を使うことで、構文エラーやその他のエラーに対するより適確なエラーメッセージを参照することができます。デフォルトの `javascript.jar` を、Mozilla から入手した新しいバージョンに置き換えてもかまいません。

6. `Waveset.properties` ファイルに加えた変更を有効にするために、アプリケーションサーバーを再起動します。
7. リソースへの SSL 接続を設定する詳細は、547 ページの「メインフレーム接続」を参照してください。

## 使用上の注意

ここでは、スクリプトホストリソースアダプタの使用に関連する情報を提供します。次のトピックで構成されています。

- [管理者](#)
- [リソースアクションの指定](#)
- [SSL 設定](#)

### 管理者

ホストリソースアダプタは、同じホストに接続している複数のホストリソースでの親和性管理者に対して最大接続数を強制しません。代わりに、各ホストリソース内部の親和性管理者に対して最大接続数が強制されます。

同じシステムを管理する複数のホストリソースがあり、現在それらが同じ管理者アカウントを使用するように設定されている場合は、同じ管理者がリソースに対して同時に複数のアクションを実行しようとしていないことを確認するために、それらのリソースを更新しなければならない可能性があります。

## リソースアクションの指定

スクリプトホストアダプタのリソースウィザードの「リソースパラメータ」ページに表示される一連のテキストボックスで、ログイン、作成、削除、繰り返しなどのさまざまなプロビジョニングアクションをリソースアクションに指定できます。これらのフィールドは、リポジトリに読み込まれる Rhino Javascript が格納された ResourceAction オブジェクトを参照します。

実行時に、アダプタは次の処理を行います。

1. 現在のプロビジョニングアクションに対応する ResourceAction から Javascript を読み込む。
2. 必要な Java 入力オブジェクトを Javascript で利用できるように準備する。
3. Javascript を起動する。
4. Javascript から返された結果 (または例外やエラー) を処理する。

\$WSHOME/sample/ScriptedHost/ScreenSampleActions.xml ファイルには、理論上のスクリーンベースのホストアプリケーションにユーザーをプロビジョニングするのに使用できるリソースアクション定義のサンプルセットが格納されています。それらの定義を、アプリケーションに合わせてカスタマイズする必要があります。

スクリプトホストアダプタは、次のプロビジョニングアクションに関するエンドユーザーのスクリプティングをサポートします。

アクション	説明	必須性
create	新しいユーザーを作成します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを作成できません。
delete	既存のユーザーを削除します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを削除できません。
disable	既存のユーザーを無効にします。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを無効にできません。
enable	既存のユーザーを有効にします。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを有効にできません。
getAccountIterator	既存ユーザーの繰り返しの実行に使用されるオブジェクトを返します。	省略可能。ただし、getAccountIterator も listAll も指定されていない場合は、アカウントの反復処理を実行できません。

アクション	説明	必須性
getUser	既存ユーザーの属性を取得します。	使用可。
login	アプリケーションにログインします。	使用可。
logout	アプリケーションからログオフします。	使用可。
listAll	既存ユーザー ID のリストを返します。	省略可能。ただし、 <code>getAccountIterator</code> も <code>listAll</code> も指定されていない場合は、アカウントの反復処理を実行できません。
update	既存ユーザーの属性を更新します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを更新できません。

どのアクションスクリプトも、`java.util.Map` クラスで定義されているように、`actionContext` マップを受け取ります。マップに格納できる内容は、アクションごとに異なります。次のそれぞれの節では、各アクションについて説明し、そのアクションに関する次の情報を示します。

- コンテキスト - スクリプトの実行前にアダプタが **Javascript** 実行コンテキストに追加する `actionContext` マップで使用できる一連のエントリについて説明します。
- エラー処理 - 異常やエラーの状況をスクリプトがどのように処理する必要があるかを説明します。

前の表に示されたアクションの詳細については、次の各項を参照してください。

- [370 ページの「create アクション」](#)
- [371 ページの「delete アクション」](#)
- [372 ページの「disable アクション」](#)
- [373 ページの「enable アクション」](#)
- [374 ページの「getAccountIterator アクション」](#)
- [375 ページの「getUser アクション」](#)
- [377 ページの「listAll アクション」](#)
- [378 ページの「login アクション」](#)
- [379 ページの「logout アクション」](#)

- [380 ページの「update アクション」](#)

### create アクション

create アクションは、ホストアプリケーションにユーザーを作成します。create アクションが定義されていない場合は、新しいユーザーをホストアプリケーションに追加できません。

#### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
adapter	com.waveset.object.ScriptedHostResourceAdapter	アダプタインスタンス。
action	java.lang.String	「create」という文字列。
id	java.lang.String	作成するユーザーのアカウント ID。
パスワード	java.lang.String	存在する場合、これは新しいユーザーの復号化されたパスワードです。
属性	java.lang.Map	新しいユーザーに設定する属性のマップ。キーは、設定する属性を識別します。値は、その属性に設定する復号化された値です。
errors	java.util.List	これは、最初は空のリストです。処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加するように設定する必要があります。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

#### エラー処理

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

errors リストに項目が存在する場合は、作成の失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、作成の失敗とみなされます。

### delete アクション

delete アクションは、指定されたユーザーをホストアプリケーションから削除します。delete アクションが定義されていない場合は、ホストアプリケーションからユーザーを削除できません。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
id	java.lang.String	削除するユーザーのアカウント ID。
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
adapter	com.waveset.object.ScriptedHostResourceAdapter	アダプティンスタンス
action	java.lang.String	「delete」という文字列。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。
errors	java.util.List	これは、最初は空のリストです。処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに <b>java.lang.String</b> オブジェクトを追加するように設定する必要があります。

### エラー処理

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

errors リストに項目が存在する場合は、削除の失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、削除の失敗とみなされます。

## disable アクション

disable アクションは、ホストアプリケーション内の既存のユーザーを無効にします。このアクションが定義されていない場合は、ホストアプリケーションのユーザーを無効にできません。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
action	java.lang.String	「disable」という文字列。
id	java.lang.String	無効にするアカウント ID。
errors	java.util.List	これは、最初は空のリストです。処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加するように設定する必要があります。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### エラー処理

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

errors リストに項目が存在する場合は、無効化の失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、無効化の失敗とみなされます。

## enable アクション

enable アクションは、ホストアプリケーション内の既存のユーザーを有効にします。このアクションが定義されていない場合は、ホストアプリケーションのユーザーを有効にできません。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
action	java.lang.String	「enable」という文字列。
id	java.lang.String	有効にするアカウント ID。
errors	java.util.List	これは、最初は空のリストです。処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加するように設定する必要があります。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### エラー処理

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

errors リストに項目が存在する場合は、有効化の失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、有効化の失敗とみなされます。

## getAccountIterator アクション

getAccountIterator アクションは、既存ユーザーの繰り返しの実行に使用されるオブジェクトを返します。

アカウントの反復処理 ( 調整、「リソースから読み込み」 ) を実行する場合は、このアクションまたは listAll アクションのどちらかを定義してください。

getAccountIterator アクションが定義されていない場合は、listAll を呼び出してから listAll のリスト内の ID ごとに getUser を呼び出すことによって、アカウントの反復処理が実行されます。

getAccountIterator アクションが定義されておらず、listAll アクションも定義されていない場合は、アカウントの反復処理はサポートされません。

### 入力

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
adapter	com.waveset.object.ScriptedHostResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「getAccountIterator」という文字列。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### 戻り値

スクリプトは、Java インタフェースの

com.waveset.adapter.ScriptedHostAccessAdapter.ObjectIterator を実装する Java オブジェクトを返します。

```
public interface ObjectIterator {
    public boolean hasNext();
    public void next(java.util.Map nextObj);
    public void close();
}
```

next() メソッドへの nextObj マップ引数は、getUser アクションで説明している result エントリと同じ方法で、スクリプトによって入力されます。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、繰り返しの失敗とみなされます。

スクリプトから返された Java オブジェクトでメソッドを呼び出しているときに例外のスローが発生した場合も、繰り返しの失敗とみなされます。

## getUser アクション

getUser アクションは、ホストアプリケーションから次のいずれかを取得します。

- アダプタが特定ユーザーのユーザー属性を解析できる、画面または応答の文字列。
- 特定ユーザーのユーザー属性のマップ。

getUser アクションは、必ず定義してください。

## コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
adapter	com.waveset.object.ScriptedHostResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「getUser」という文字列。
attrsToGet	java.util.List	取得するユーザー属性を識別する文字列のリスト。このリストは、スキーママップの右側から取得されます。
id	java.lang.String	取得するユーザーのアカウント ID。
errors	java.util.List	これは、最初は空のリストです。処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに <b>java.lang.String</b> オブジェクトを追加するように設定する必要があります。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。
result	java.util.Map	スクリプトは、マップにエントリを追加して、ユーザー属性を返します。後述のエントリテーブルを参照してください。

result マップには、スクリプトによって次のエントリが入力される必要があります。

キー	値の型	値の説明
text	String	ユーザー属性に解析されるテキストを含みます。1つ以上の画面または応答の内容であることもあります。  あとで、このマップの attrParse エントリで指定された AttrParse オブジェクトを使用して、この文字列からユーザー属性が抽出されます。一致するユーザーが見つからない場合は、このエントリをマップに入れしないでください。  このフィールドをマップに追加しないでください。代わりに attrMap マップを入力します。
attrParse	String	このマップの text エントリの文字列からユーザー属性を解析するためにアダプタが使用する AttrParse オブジェクトの名前。このエントリは、常に text エントリと一緒に設定します。
attrMap	java.util.Map	スクリプトがユーザー属性を直接取得できる場合は、ユーザー属性のマップでこのエントリを設定できます。この attrMap エントリは、このマップの text エントリが存在しない場合にのみ適用されます。

## エラー処理

一致するユーザーが見つからない場合、**result** マップは空のままにするようにしてください。

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが **errors** キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

**errors** リストに項目が存在する場合は、取得の失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、取得の失敗とみなされます。

## listAll アクション

listAll アクションは、ホストアプリケーションで見つかったユーザー ID のリストを取得します。

listAll アクションが定義されていない場合は、このリソースインスタンスの `FormUtil.listResourceObjects` メソッドをフォームから呼び出すことはできません。

listAll アクションが定義されておらず、`getAccountIterator` アクションも定義されていない場合は、アカウントの反復処理 (調整、「リソースから読み込み」) はサポートされません。

## コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	<code>com.waveset.adapter.HostAccess</code>	メインフレームへの 3270 エミュレーション アクセスを提供します。
adapter	<code>com.waveset.object.ScriptedHostResourceAdapter</code>	アダプタインスタンス
action	<code>java.lang.String</code>	「listAll」という文字列。
resultList	<code>java.util.List</code>	スクリプトがこのリストにエントリを追加します。スクリプトがリストに追加する各項目は、ホストアカウント ID に対応する文字列です。
errors	<code>java.util.List</code>	これは、最初は空のリストです。処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加するように設定する必要があります。
trace	<code>com.waveset.adapter.Trace</code>	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが `errors` キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

`errors` リストに項目が存在する場合は、取得の失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、取得の失敗とみなされます。

## login アクション

login アクションは、認証されたセッションについて、カスタムホストアプリケーションのユーザー管理に必要なホストとのネゴシエーションを行います。このアクションは、必ず定義してください。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
action	java.lang.String	「login」という文字列。
user	java.lang.String	ホストアプリケーション管理ユーザーのユーザー名。
パスワード	com.waveset.util.EncryptedData	ホストアプリケーション管理ユーザーのパスワードを格納する暗号化されたオブジェクト。プレーンテキストに変換するには、decryptToString() を使用します。
errors	java.util.List	処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに java.lang.String オブジェクトを追加するように設定する必要があります。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### エラー処理

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

errors リストに項目が存在する場合は、ログインの失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、ログインの失敗とみなされます。

## logoff アクション

logoff アクションは、ホストからの切断を実行します。これは、接続が不要になった場合に呼び出されます。このアクションは、必ず定義してください。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
action	java.lang.String	「logoff」という文字列。
errors	java.util.List	これは、最初は空のリストです。処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加するように設定する必要があります。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### エラー処理

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

errors リストに項目が存在する場合は、ログオフの失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、ログオフの失敗とみなされます。

## update アクション

update アクションは、ホストアプリケーションのユーザーを更新します。update アクションが定義されていない場合は、ホストアプリケーションのユーザーを更新できません。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
hostAccess	com.waveset.adapter.HostAccess	メインフレームへの 3270 エミュレーションアクセスを提供します。
adapter	com.waveset.object.ScriptedHostResourceAdapter	アダプティンスタンス
action	java.lang.String	「update」という文字列。
id	java.lang.String	変更するユーザーのアカウント ID。
パスワード	java.lang.String	存在する場合、これはユーザーの新しい復号化されたパスワードです。
属性	java.lang.Map	既存のユーザーで更新する属性のマップ。キーは、設定する属性を識別します。値は、その属性に設定する復号化された値です。
errors	java.util.List	これは、最初は空のリストです。処理中にエラーが発生した場合にスクリプトがこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加するように設定する必要があります。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### エラー処理

アプリケーション固有のエラーが画面または応答に発生した場合、スクリプトが errors キーに適切な文字列を追加します。エラーが発生したと判断するために、さまざまな既知のエラー文字列の検索が必要になることがあります。

errors リストに項目が存在する場合は、更新の失敗とみなされます。さらに、スクリプト内から例外がスローされた場合は、更新の失敗とみなされます。

## SSL 設定

Identity Manager は TN3270 接続を使用してリソースと通信します。

RACF リソースへの SSL 接続に関する詳細については、[547 ページの「メインフレーム接続」](#)を参照してください。

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、TN3270 を使用してスクリプトホストアダプタと通信します。

### 必要な管理特権

ホストアプリケーションに接続する Identity Manager 管理者には、ホストアプリケーション内でユーザーの作成と管理を行うための十分な特権が与えられている必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
アカウントの作成	使用可
アカウントの更新	使用可
アカウントの削除	使用可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

アカウント属性は管理対象のホストアプリケーションによって異なるため、スクリプトホストアダプタにはデフォルトのアカウント属性が用意されていません。

## リソースオブジェクトの管理

サポート対象外

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

なし

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.ScriptedHostResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.HostAccess`

`HostAccess` クラスのトラブルシューティングの詳細については、`TopSecret` アダプタの「トラブルシューティング」を参照してください。

JavaScript へのコンテキストには、渡される `com.waveset.adapter.Trace` オブジェクトが常に存在します。`com.waveset.adapter.ScriptedHostResourceAdapter` でトレースを有効にすると、JavaScript でのトレースが有効になります。

また、一時的なトレースを標準出力に表示する場合は、JavaScript で `Java System.out.println()` メソッドを呼び出すことができます。たとえば、次のようにします。

```
java.lang.System.out.println("Hello World");
```

# スクリプト JDBC

Identity Manager には、すべてのデータベーススキーマおよび JDBC でアクセス可能なすべてのデータベースのユーザーアカウントの管理をサポートするためのスクリプト JDBC リソースアダプタが用意されています。このアダプタは、データベース内のアカウント変更をポーリングする Active Sync もサポートします。

スクリプト JDBC リソースアダプタは汎用アダプタであるため、高度な設定が可能です。このアダプタには、管理対象のデータベーススキーマに関する前提条件はありません。代わりに、顧客が提供するスクリプトセットを呼び出すことによって JDBC によるデータベースとの対話を実行します。現在、顧客が提供するスクリプトは、Javascript (Rhino) または BeanShell で記述できます。

スクリプト JDBC リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter` クラスで定義されます。

---

**注** SQL Server へのすべての接続は、同じバージョンの Microsoft SQL Server JDBC ドライバを使用して実行してください。使用可能なバージョンは 2005 または 2000 です。これには、リポジトリだけではなく、SQL Server のアカウントまたはテーブルを管理または要求するすべてのリソースアダプタ (Microsoft SQL アダプタ、Microsoft Identity Integration Server アダプタ、データベーステーブルアダプタ、スクリプト JDBC アダプタ、これらのアダプタをベースとするすべてのカスタムアダプタなど) が含まれます。異なるバージョンのドライバを使用しようとすると、競合エラーが発生します。

---

## 上で設定する際の注意事項

管理するデータベースに適した JDBC ドライバの jar を、Identity Manager がインストールされた `WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## 使用上の注意

スクリプト JDBC アダプタが呼び出す顧客提供のスクリプトは、Javascript または BeanShell で記述してください。Identity Manager では、それらのスクリプトは名前付きの ResourceAction オブジェクトとして Identity Manager リポジトリに格納されません。

各スクリプト JDBC リソースインスタンスは、名前に基づいて適切な ResourceAction オブジェクトを参照するリソース属性セットによって設定されます。実行時に、アダプタは次の処理を行います。

1. 現在のプロビジョニングアクション (作成、削除、更新など) に対応する ResourceAction からスクリプトを読み込む。
2. 必要な Java 入力オブジェクトをスクリプトで利用できるように準備する。
3. スクリプトを起動する。
4. スクリプトから返された結果 (または例外やエラー) を処理する。

この「使用上の注意」の残りの部分では、スクリプト JDBC アダプタのプロビジョニングアクション、および各プロビジョニングアクションに割り当てられたスクリプトに対して必要な動作について説明します。

スクリプトは、それ自体に渡された JDBC 接続を閉じることはできません。アダプタが適切な時期に自動的に接続を閉じます。

sample/ScriptedJdbc フォルダの下のファイル階層を参照してください。

各サンプルサブフォルダ (SimpleTable、MultiValue、および StoredProc) には、そのサンプルで使用するファイルセットについて説明する README.txt ファイルがあります。

スクリプト JDBC アダプタは、次のプロビジョニングアクションに関するエンドユーザーのスクリプティングをサポートします。

アクション	説明	必須性
create	新しいユーザーを作成します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを作成できません。
delete	既存のユーザーを削除します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを削除できません。
disable	既存のユーザーをネイティブで無効にします。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーをネイティブで無効にできません。
enable	既存のユーザーをネイティブで有効にします。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーをネイティブで有効にできません。

アクション	説明	必須性
getAccountIterator	既存ユーザーの繰り返しの実行に使用されるオブジェクトを返します。	省略可能。ただし、getAccountIterator も listAll も指定されていない場合は、アカウントの反復処理を実行できません。
getActiveSyncIterator	Active Sync 繰り返しの実行に使用されるオブジェクトを返します。	省略可能。ただし、指定されていない場合、Active Sync はサポートされません。
test	「設定のテスト」の間にカスタムテストを実行します。	省略可能。
getUser	既存ユーザーの属性を取得します。	省略可能。ただし、指定されていない場合、ユーザーアクションはサポートされません。
listAll	既存ユーザー (またはほかのオブジェクトタイプ) の ID のリストを返します。	省略可能。ただし、getAccountIterator も listAll も指定されていない場合は、アカウントの反復処理を実行できません。
update	既存ユーザーの属性の更新、名前の変更、またはパスワードの変更を行います。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーの属性、名前、またはパスワードを変更できません。
authenticate	ユーザー ID とパスワードを確認します。	省略可能。ただし、パズル認証を実行する場合は必須です。

どの action スクリプトも、java.util.Map クラスで定義されているように、actionContext マップを受け取ります。マップに格納できる内容は、アクションごとに異なります。

前の表に示されたアクションの詳細については、この章内の次の各項を参照してください。

- [create アクション](#)
- [getUser アクション](#)
- [delete アクション](#)
- [update アクション](#)
- [enable アクション](#)
- [disable アクション](#)
- [listAll アクション](#)
- [getAccountIterator アクション](#)
- [getActiveSyncIterator アクション](#)

- [authenticate アクション](#)
- [test アクション](#)
- [getActiveSyncIterator アクション](#)

各項では、これらのアクションの説明に加えて、次の情報を提供しています。

- **コンテキスト** - スクリプトの実行前にアダプタが Javascript 実行コンテキストに追加する `actionContext` マップで使用できる一連のエントリについて説明します。
- **エラー処理** - 異常やエラー条件をスクリプトがどのように処理する必要があるかを説明します。

## create アクション

顧客のデータベースのユーザーを作成するには、`create` アクションを使用します。`create` アクションが定義されていない場合は、アダプタは新しいユーザーを顧客のデータベースに作成できません。

### コンテキスト

`actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
<code>conn</code>	<code>java.sql.Connection</code>	顧客のデータベースへの JDBC 接続
<code>adapter</code>	<code>com.waveset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter</code>	アダプタインスタンス
<code>action</code>	<code>java.lang.String</code>	「createUser」という文字列
<code>id</code>	<code>java.lang.String</code>	作成するユーザーのアカウント ID
パスワード	<code>java.lang.String</code>	存在する場合、この値は、新しいユーザーの復号化されたパスワードです
属性	<code>java.util.Map</code>	新しいユーザーに設定する属性のマップ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• キーは、設定する属性を識別します</li> <li>• 値は、その属性に設定する復号化された値を指定します。</li> </ul>

キー	値の型	値の説明
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。  処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに java.lang.String オブジェクトを追加できます。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって errors キーに適切な文字列を追加することもできます。errors リストに項目が存在する場合は、作成の失敗とみなされます。

## getUser アクション

getUser アクションは、顧客のデータベースから既存のユーザー属性のマップを取得します。getUser アクションが定義されていない場合は、アダプタはユーザーアクションを実行できません。

## コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	顧客のデータベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「getUser」という文字列
id	java.lang.String	取得するユーザーアカウント ID。

キー	値の型	値の説明
attrsToGet	java.util.List	取得するユーザー属性を識別する文字列のリスト。このリストは、スキーママップの右側から取得されます。
result	java.util.Map	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザーが現在データベースに存在しない場合、スクリプトはこのマップを空のままにします。</li> <li>ユーザーが存在する場合は、このあとにある、想定されるマップの説明を参照してください。</li> </ul>
errors	java.util.List	<p>最初は、この値は空のリストです。</p> <p>処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。</p>
trace	com.waveset.adapter.Trace	<p>実行のトレースに使用されるオブジェクト。</p> <p>スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。</p>

アダプタは、result マップに次のエントリが入力されることを想定しています。

キー	値の型	値の説明
attrMap	java.util.Map	スクリプトがユーザー属性を直接取得できる場合は、ユーザー属性のマップでこのエントリを設定できます。属性名は、リソースのスキーママップの「リソースユーザー属性」列で定義されます。
isDisabled	java.lang.Boolean または java.lang.String	スクリプトによって <code>Boolean.TRUE</code> または <code>true</code> の文字列に設定されている場合、そのユーザーは無効とみなされます。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって errors キーに適切な文字列を追加できます。errors リストに項目が存在する場合は、取得の失敗とみなされません。

## delete アクション

顧客のデータベースからユーザーを削除するには、delete アクションを使用します。delete アクションが定義されていない場合は、アダプタは顧客のデータベースからユーザーを削除できません。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	顧客のデータベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter. ScriptedJdbcResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「deleteUser」という文字列
id	java.lang.String	削除するユーザーアカウント ID。
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。  処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに java.lang.String オブジェクトを追加できます。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって errors キーに適切な文字列を追加できます。errors リストに項目が存在する場合は、削除の失敗とみなされず。

## update アクション

顧客のデータベース内の既存ユーザーを更新するには、update アクションを使用します。更新には、属性の変更、パスワードの変更、または名前の変更を含めることができます。update アクションが定義されていない場合は、顧客のデータベース内のユーザーを更新できません。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	顧客のデータベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter. ScriptedJdbcResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「updateUser」という文字列
id	java.lang.String	既存ユーザーのアカウント ID
属性	java.util.Map	新しいユーザーに設定する属性のマップ。 <ul style="list-style-type: none"><li>• キーは、設定する属性を識別します</li><li>• 値は、その属性に設定する復号化された値です。</li></ul> 属性のマップエントリが存在しない場合は、その属性を変更しないでください。
newId	java.lang.String	存在する場合、スクリプトは既存ユーザーのアカウント ID (id 属性の値で識別される) を、newId 属性値で指定された新しいアカウント ID に変更する必要があります。
パスワード	java.lang.String	存在する場合、この値はユーザーの新しいパスワードの復号化された値です。
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。 処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに java.lang.String オブジェクトを追加できます。

キー	値の型	値の説明
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトが `errors` キーに適切な文字列を追加することもできます。`errors` リストに項目が存在する場合は、更新の失敗とみなされます。

## enable アクション

顧客のデータベース内のユーザーを有効にするには、`enable` アクションを使用します。顧客のデータベース内のユーザーのスキーマが有効 / 無効の概念をサポートする場合に、このアクションを実装します。`enable` アクションが定義されていない場合は、アダプタは顧客のデータベース内のユーザーを直接有効にすることはできません。

## コンテキスト

`actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	顧客のデータベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「enableUser」という文字列
id	java.lang.String	無効にするユーザーアカウント ID
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。  処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。

キー	値の型	値の説明
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトが `errors` キーに適切な文字列を追加することもできます。`errors` リストに項目が存在する場合は、失敗とみなされません。

## disable アクション

顧客のデータベース内のユーザーを無効にするには、`disable` アクションを使用します。顧客のデータベース内のユーザーのスキーマが有効 / 無効の概念をサポートする場合に、このアクションを実装します。`disable` アクションが定義されていない場合は、アダプタは顧客のデータベース内のユーザーを直接無効にすることはできません。

## コンテキスト

`actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	顧客のデータベースへの JDBC 接続
adapter	com.waveset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「disableUser」という文字列
id	java.lang.String	無効にするユーザーアカウント ID
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。  処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。

キー	値の型	値の説明
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。 スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトが `errors` キーに適切な文字列を追加することもできます。`errors` リストに項目が存在する場合は、失敗とみなされません。

## listAll アクション

顧客のデータベース内にあるユーザー (またはほかのオブジェクトタイプ) の ID のリストを取得するには、`listAll` アクションを使用します。`listAll` アクションが定義されていない場合は、`FormUtil.listResourceObjects` メソッドをこのリソースインスタンスのためにフォームから呼び出すことはできません。

さらに、`listAll` アクションまたは `getAccountIterator` アクションが定義されていない場合、アカウントの反復処理 (調整、「リソースから読み込み」) はサポートされません。

## コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	顧客のデータベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「listAllObjects」という文字列。
objectType	java.lang.String	リストするオブジェクト ID のタイプを示します。 通常、ユーザー ID を表示するには account オブジェクトタイプを使用します。ほかのオブジェクトタイプの ID を生成するようにスクリプトが記述されている場合は、ほかのオブジェクトタイプの ID (group など) を使用できます。
options	java.util.Map	listResourceObjects 呼び出しに渡すことができる追加の (省略可能な) オプション。
resultList	java.util.List	スクリプトがこのリストにエントリを追加します。 スクリプトがこのリストに追加する各項目は文字列 ID です。
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。 処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに java.lang.String オブジェクトを追加できます。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。 スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって errors キーに適切な文字列を追加することもできます。errors リストに項目が存在する場合は、失敗とみなされます。

## getAccountIterator アクション

既存ユーザーの繰り返しの実行に使用されるアダプタにオブジェクトを返すには、`getAccountIterator` アクションを使用します。

アカウントの反復処理 (調整、「リソースから読み込み」) を実行するには、このアクションまたは `listAll` アクションを定義してください。`getAccountIterator` アクションが定義されていない場合は、`listAll` を呼び出してから `listAll` のリスト内の ID ごとに `getUser` を呼び出すことによって、アカウントの反復処理が実行されます。

さらに、`getAccountIterator` アクションまたは `listAll` アクションが定義されていない場合は、アカウントの反復処理はサポートされません。

### コンテキスト

`actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
<code>conn</code>	<code>java.sql.Connection</code>	顧客のデータベースへの JDBC 接続。
<code>adapter</code>	<code>com.wavset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter</code>	アダプタインスタンス
<code>action</code>	<code>java.lang.String</code>	「 <code>getAccountIterator</code> 」という文字列。
<code>result</code>	<code>java.util.Map</code>	後述の <code>result</code> の説明を参照してください。
<code>errors</code>	<code>java.util.List</code>	最初は、この値は空のリストです。 処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。
<code>trace</code>	<code>com.waveset.adapter.Trace</code>	実行のトレースに使用されるオブジェクト。 スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

アダプタは、result マップに次のエントリが入力されることを想定しています。

キー	値の型	値の説明
iterator	com.waveset.adapter.script. ScriptedIterator	<p>スクリプトによって、この値を <b>ScriptedIterator</b> インタフェースの生成インスタンスに設定する必要があります。</p> <pre>public interface ScriptedIterator {     public boolean hasNext();     public void next(java.util.Map nextObj);     public void close(); }</pre> <p>nextObj マップについては、次の表を参照してください。</p> <p>オブジェクトは、顧客のデータベース内のすべてのユーザーを繰り返してできる必要があります。</p> <p>サンプルは、BeanShell および Javascript でこれを行う方法を示しています。</p>

アダプタは、next メソッドに渡される nextObj マップに、**iterator** によって各繰り返しユーザーの属性が入力されることを想定しています。

キー	値の型	値の説明
attrMap	java.util.Map	スクリプトがユーザー属性を直接取得できる場合は、ユーザー属性のマップでこのエントリを設定できます。属性名は、リソースのスキーママップの「リソースユーザー属性」列で定義されます。
isDisabled	java.lang.Boolean または java.lang.String	スクリプトによって Boolean.TRUE または true の文字列に設定されている場合、そのユーザーは無効とみなされます。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって errors キーに適切な文字列を追加することもできます。errors リストに項目が存在する場合は、失敗とみなされます。

## getActiveSyncIterator アクション

getActiveSyncIterator アクションは、Active Sync 繰り返しの実行に使用されるアダプタにオブジェクトを返します。

リソースで Active Sync をサポートする場合は、このアクションを定義してください。

### コンテキスト

actionContext マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
conn	java.sql.Connection	顧客のデータベースへの JDBC 接続
adapter	com.wavset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter	アダプタインスタンス
action	java.lang.String	「getActiveSyncIterator」という文字列。
options	java.util.Map	このマップには、lastProcessed キーを持つエントリを含めることができます。このエントリ値は、Active Sync で正常に処理された最後のユーザーの属性のマップです。  lastProcessed エントリを使用して iterator から対象外のユーザーを除外するクエリーを作成する方法の例については、SimpleTable サンプル (SimpleTable-activeSyncIter-bsh.xml スクリプト) を参照してください。
activeSyncLogger	com.waveset.adapter.logging.IActiveSyncLogger	リソースの Active Sync ログファイルへのログエントリの書き込みに使用されるオブジェクト。
result	java.util.Map	後述の result の説明を参照してください。
errors	java.util.List	最初は、この値は空のリストです。  処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに java.lang.String オブジェクトを追加できます。
trace	com.waveset.adapter.Trace	実行のトレースに使用されるオブジェクト。  スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

アダプタは、result マップに次のエントリが入力されることを想定しています。

キー	値の型	値の説明
iterator	com.waveset.adapter.script.ScriptedIterator	<p>スクリプトによって、この値を ScriptedIterator インタフェースの生成インスタンスに設定する必要があります。</p> <pre>public interface ScriptedIterator {     public boolean hasNext();     public void next(java.util.Map nextObj);     public void close(); }</pre> <p>nextObj マップについては、次の表を参照してください。</p> <p>オブジェクトは、顧客のデータベース内のすべてのユーザーを繰り返してできる必要があります。</p> <p>サンプルは、BeanShell および Javascript でこれを行う方法を示しています。</p>

アダプタは、next メソッドに渡される nextObj マップに、iterator によって各繰り返しのユーザーの属性が入力されることを想定しています。

キー	値の型	値の説明
attrMap	java.util.Map	スクリプトがユーザー属性を直接取得できる場合は、ユーザー属性のマップでこのエントリを設定できます。属性名は、リソースのスキーママップの「リソースユーザー属性」列で定義されます。
isDisabled	java.lang.Boolean または java.lang.String	スクリプトによって Boolean.TRUE または true の文字列に設定されている場合、そのユーザーは無効とみなされます。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって errors キーに適切な文字列を追加することもできます。errors リストに項目が存在する場合は、失敗とみなされます。

## authenticate アクション

顧客のデータベースに対してユーザー ID/ パスワードを認証するには、`authentication` アクションを使用します。`authentication` アクションが定義されていない場合、そのリソースではパスワード認証をサポートできません。

### コンテキスト

`actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
<code>conn</code>	<code>java.sql.Connection</code>	顧客のデータベースへの JDBC 接続
<code>adapter</code>	<code>com.wavset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter</code>	アダプタインスタンス
<code>action</code>	<code>java.lang.String</code>	「 <code>authenticateUser</code> 」という文字列。
<code>id</code>	<code>java.lang.String</code>	認証するユーザーのアカウント ID。
<code>パスワード</code>	<code>java.lang.String</code>	認証対象の復号化されたパスワード。
<code>result</code>	<code>java.util.Map</code>	スクリプトは、ユーザーのパスワードが期限切れになっていることを示す <code>expired</code> キーと <code>Boolean.TRUE</code> 値を持つエントリを追加できます。
<code>errors</code>	<code>java.util.List</code>	最初は、この値は空のリストです。 処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。
<code>trace</code>	<code>com.waveset.adapter.Trace</code>	実行のトレースに使用されるオブジェクト。 スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

### エラー処理

スクリプトが失敗なく実行された場合、ID とパスワードは有効とみなされます。

スクリプト内から例外がスローされた場合は、認証の失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトによって適切な文字列を `errors` キーにエイリアスすることができます。errors リストに項目が存在する場合は、認証の失敗とみなされます。

## test アクション

定義されている場合、test アクションは、リソースの「設定のテスト」の間に呼び出されます。通常、test スクリプトは、必要なデータベーステーブルにアダプタがアクセスできることを確認するために使用されます

## コンテキスト

`actionContext` マップには次のエントリが含まれます。

キー	値の型	値の説明
<code>conn</code>	<code>java.sql.Connection</code>	顧客のデータベースへの JDBC 接続
<code>adapter</code>	<code>com.wavset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter</code>	アダプタインスタンス
<code>action</code>	<code>java.lang.String</code>	「test」という文字列。
<code>errors</code>	<code>java.util.List</code>	最初は、この値は空のリストです。 処理中にエラーが発生した場合、スクリプトによってこのリストに <code>java.lang.String</code> オブジェクトを追加できます。
<code>trace</code>	<code>com.waveset.adapter.Trace</code>	実行のトレースに使用されるオブジェクト。 スクリプトは、このクラスのメソッドを使用することで、顧客の環境でデバッグ可能なものとなります。

## エラー処理

スクリプト内から例外がスローされた場合は、失敗とみなされます。

スクリプトでエラーが発生した場合、スクリプトが `errors` キーに適切な文字列を追加することもできます。errors リストに項目が存在する場合は、テストの失敗とみなされます。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
アカウントの作成	使用可
アカウントの更新	使用可
アカウントの削除	使用可
パススルー認証	使用可
パスワードの更新	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>調整</li><li>Active Sync</li></ul>

### アカウント属性

アカウント属性は管理対象のデータベーススキーマによってかなり異なるため、スクリプト JDBC アダプタにはデフォルトのアカウント属性が用意されていません。

このアダプタでは、Oracle の BLOB などのバイナリデータ型がサポートされます。対応する属性は、スキーママップでバイナリとしてマークされている必要があります。バイナリ属性の例には、グラフィックスファイル、オーディオファイル、証明書などがあります。

### セキュリティーに関する注意事項

サポートされる接続および必要な管理特権を確認するには、管理するデータベースの製品マニュアルを参照してください。

## リソースオブジェクトの管理

リソースオブジェクトの管理では、すべてのオブジェクトを表示する機能のみがサポートされます。このアダプタでは、すべてのリソースオブジェクトタイプの ID のリストを取得できます。

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

- `MultiValueUserForm.xml`
- `SimpleTableUserForm.xml`

## トラブルシューティング

**Identity Manager** のデバッグページを使用して、次のクラスまたはパッケージでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.JdbcResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.script`

スクリプトに渡されるアクションコンテキストでは `com.sun.idm.logging.trace.Trace` オブジェクトが常に渡されます。

スクリプトのトレースを有効にするには、`com.waveset.adapter.ScriptedJdbcResourceAdapter` でトレースを有効にします。

さらに、次のスクリプトを使用して、出力のトレースや書き込みを実行できます。

- **BeanShell** では、次の行で行トレースを有効にします。

```
this.interpreter.TRACE=true;
```
- **BeanShell** では、次の Java 形式の文によって標準出力に文字列を書き込みます。

```
java.lang.System.out.println("Hello World");
```
- **Javascript** では、次の Java 形式の文によって標準出力に文字列を書き込みます。

```
Packages.java.lang.System.out.println("Hello World");
```

Active Sync が実行されている場合は、リソースインスタンスに対して次の Identity Manager Active Sync ログインパラメータを設定できます。

- ログアーカイブの最大数
- アクティブログの最大有効期間
- ログファイルの最大サイズ
- ログファイルパス
- ログレベル



# SecurID ACE/Server

Identity Manager には、RSA SecurID ACE/Server をサポートするためのリソースアダプタが用意されています。次の表に、これらのアダプタの属性を要約します。

GUI 名	クラス名
SecurID ACE/Server	com.waveset.adapter.SecurIdResourceAdapter
SecurID ACE/Server UNIX	com.waveset.adapter.SecurIdUnixResourceAdapter

## リソースを設定する際の注意事項

SecurID が Windows 上にインストールされている場合、このアダプタは、インストールされているバージョンの RSA ACE/Server に付属する `apidemon` と接続します。ACE/Server がインストールされたディレクトリ (デフォルトでは `c:\ace\utils\toolkit\apidemon.exe`) から、`c:\winnt\system32` または `c:\windows\system32` に `apidemon` をコピーします。

UNIX アダプタは、RSA ACE/Server Administration Toolkit TCL API を使用します。この API は、`ACEInstallDir/utils/tcl/bin` ディレクトリに置かれている必要があります。`ACEInstallDir` の値は、リソースパラメータとして指定されます。ツールキットは、RSA 発行の『*Customizing Your RSA ACE/Server Administration*』に記載されているとおりに設定してください。

さらに、Identity Manager で RSA ユーザーやほかの ACE データベースオブジェクトを管理できるように、次の条件に適合していることを必ず確認してください。

- 「**管理者ログイン**」(Windows アダプタの場合) または 「**ログインユーザー**」(UNIX アダプタの場合) のリソースパラメータで指定された SecurID ユーザー名が、ACE/Server に存在している。存在しない場合は、同じデフォルトログイン名で ACE ユーザーを作成します。
- この SecurID ユーザーは、トークンコードではなくパスワードを使用して ACE/Server にログインする必要がある。RSA ACE/Server ユーザーのパスワードは、アダプタで指定されたものと同じ値に設定します。

現在の RSA ACE/Server システムポリシーでは必要な文字 (たとえば英数字による PIN) を使用したパスワードの設定が許可されない場合や、ユーザーパスワードの有効期限のデフォルト設定を変更する必要がある場合は、RSA ACE/Server Database コンソールでシステムパラメータを編集します。

RSA ACE/Server の管理者コンソールで変更したパスワードは、このユーザーが最初にログインしたときに期限切れになるワンタイムパスワードです。RSA ACE Agent の Test Authentication 機能を使用してログインすると、このユーザーのパスワードを、すぐに期限切れにならないパスワードに変更できます。パスワードを同じ値に変更してもかまいません。そうすれば、リソースアダプタで指定されたパスワードとも同じままになります。

- Windows では、Identity Manager のゲートウェイが稼働するホスト用に RSA ACE Agent Host を追加してください。これは、RSA ACE Server が稼働しているシステムの Database Administration - Host Mode コンソールインタフェースで設定できます。DNS のホスト名とネットワークアドレスを設定し、アクセスできるユーザーを指定してください。さらに、エージェントタイプを「Net OS Agent」に設定してください。
- SecurID グループ名またはサイト名にコンマが含まれていると、Identity Manager は名前を正しく解析できない場合があります。SecurID グループ名およびサイト名にはコンマを使用しないでください。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

SecurID が Windows 上にインストールされている場合、Identity Manager のゲートウェイは、RSA ACE/Server がインストールされているシステムと同じシステム上で稼働させてください。

## 使用上の注意

ここでは、SecurID ACE/Server リソースアダプタの使用に関連する情報を提供しません。次のトピックで構成されています。

- [UNIX でのパススルー認証の有効化](#)
- [複数のトークンの有効化](#)
- [パスワードポリシー](#)

## UNIX でのパススルー認証の有効化

UNIX では RSA C API がサポートされないため、SecurID ACE/Server UNIX アダプタでパススルー認証を有効にするプロセスは単純ではありません。このアダプタでパススルー認証を実行するには、次のようなコンポーネント間の対話が必要になります。

Identity Manager <--> SecurID Unix リソースアダプタ <--> SecurID Windows アダプタ <--> Sun Identity Manager Gateway <--> RSA ACE Agent for Windows <--> RSA Unix Server

SecurID ACE/Server UNIX アダプタでパススルー認証を有効にするときは、設定および実装で次の点に注意してください。

- Sun Identity Manager Gateway と RSA ACE Agent Host は、同じ Windows ホスト上にある必要があります。詳細については、「リソースを設定する際の注意事項」を参照してください。

- UNIX RSA サーバー自体がクライアントとして表示される場合、ユーザーの認証に使用するアカウントは UNIX リソースで定義されている必要があります。詳細については、「リソースを設定する際の注意事項」を参照してください。
- SecurID ACE/Server UNIX アダプタで「ACE サーバー認証リソース」リソースパラメータの値を指定してください。この値は、有効な SecurID ACE/Server (Windows 用) アダプタで指定されたリソース名と一致している必要があります。
- SecurID の認証ポリシーでは、UNIX SecurID サーバーが RSA ACE Agent for Windows を認識する必要があります。sdconf.rec ファイルを Windows ホスト上に存在させ、正しく設定してください。
- ユーザーがパススルー認証を使用するには、RSA ACE Agent for Windows をアクティブにしてください。
- Identity Manager が、SecurID ACE/Server または SecurID ACE/Server UNIX のログインモジュールを使用するように設定してください。
- 認証対象のユーザーは、Identity Manager ロールと組織で設定されている必要があります。

## 複数のトークンの有効化

どちらの SecurID リソースアダプタでも、デフォルトのスキーママップは、管理者が 1 つのトークンを指定できるように設定されます。InstallDir\samples\forms ディレクトリにある SecurID User Form を使用する場合は、次の手順を実行して最大 3 つのトークンを有効にします。

1. 次の SecurID User Form のセクションを編集します。

```
<FieldLoop for='tokenNum'>
  <expression>
    <ref>oneTokenList</ref>
  </expression>
```

oneTokenList を threeTokenList に変更します。

2. このユーザーフォームを Identity Manager に読み込みます。
3. SecurID ACE/Server スキーママップの左側で、次の Identity Manager ユーザー属性の名前を変更します。

元の Identity Manager ユーザー属性	名前変更後の Identity Manager ユーザー属性
tokenClearPin	token1ClearPin
tokenDisabled	token1Disabled
tokenLost	token1Lost
tokenLostPassword	token1LostPassword

元の Identity Manager ユーザー属性	名前変更後の Identity Manager ユーザー属性
tokenLostExpireDate	token1LostExpireDate
tokenLostExpireHour	token1LostExpireHour
tokenLostLifeTime	token1LostLifeTime
tokenPinToNTC	token1PinToNTC
tokenPinToNTCSequence	token1PinToNTCSequence
expirePassword	token1NewPinMode
パスワード	token1Pin
tokenResync	token1Resync
tokenFirstSequence	token1FirstSequence
tokenNextSequence	token1NextSequence
tokenSerialNumber	token1SerialNumber
tokenUnassign	token1Unassign

4. 2 番目のトークンを格納するために、次のフィールドをスキーママップに追加します。

Identity Manager ユーザー属性	リソースユーザー属性
token2ClearPin	token2ClearPin
token2Disabled	token2Disabled
token2Lost	token2Lost
token2LostPassword	token2LostPassword
token2LostExpireDate	token2LostExpireDate
token2LostExpireHour	token2LostExpireHour
token2LostLifeTime	token2LostLifeTime
token2NewPinMode	token2NewPinMode
token2PinToNTC	token2PinToNTC
token2PinToNTCSequence	token2PinToNTCSequence
パスワード	token2Pin
token2Resync	token2Resync

Identity Manager ユーザー属性	リソースユーザー属性
token2FirstSequence	token2FirstSequence
token2NextSequence	token2NextSequence
token2SerialNumber	token2SerialNumber
token2Unassign	token2Unassign

5. 2 番目のトークンを格納するために、次のフィールドをスキーママップに追加します。

Identity Manager ユーザー属性	リソースユーザー属性
token3ClearPin	token3ClearPin
token3Disabled	token3Disabled
token3Lost	token3Lost
token3LostPassword	token3LostPassword
token3LostExpireDate	token3LostExpireDate
token3LostExpireHour	token3LostExpireHour
token3LostLifeTime	token3LostLifeTime
token3NewPinMode	token3NewPinMode
token3PinToNTC	token3PinToNTC
token3PinToNTCSequence	token3PinToNTCSequence
パスワード	token3Pin
token3Resync	token3Resync
token3FirstSequence	token3FirstSequence
token3NextSequence	token3NextSequence
token3SerialNumber	token3SerialNumber
token3Unassign	token3Unassign

## ステータスによるトークンの取得

SecurId アダプタは、トークン型、ステータス、有効期限など、指定された特性セットに適合するトークンのリストを返すことができます。たとえば、ユーザーフォームの次の部分は、割り当てられていない 128 ビットトークンすべてのリストを返します。

```
<defvar name='unassignedTokens'>
  <invoke name='listResourceObjects' class='com.waveset.ui.FormUtil'>
    <ref>:display.session</ref>
    <s>ListTokensByField</s>
    <ref>resource</ref>
    <map>
      <s>field</s>
      <s>7</s>
      <s>compareType</s>
      <s>2</s>
      <s>value</s>
      <s>128</s>
      <s>templateParameters</s>
      <ref>accounts[$(resource)].templateParameters</ref>
    </map>
    <s>>false</s>
  </invoke>
</defvar>
```

field、compareType、および value の各文字列に代入できる値は、RSA Sd\_ListTokensByField 関数のマニュアルに定義されています。詳細については、RSA 発行の『Customizing Your RSA ACE/Server Administration』を参照してください。

## パスワードポリシー

Identity Manager で英字を含むパスワードを使用していて、SecurID では PIN に英字が許可されない場合は、次のメッセージが表示されます。

```
SecurId ACE/Server: (realUpdateObject) Sd_SetPin Error Alpha
characters not allowed
```

このエラーを解決するには、リソースの Identity Manager パスワードポリシーが英字を含めないように変更するか、またはリソースの PIN 制限が英字を許可するように変更します。

## ゲートウェイタイムアウト

SecurID ACE/Server for Windows アダプタでは、RA\_HANGTIMEOUT リソース属性を使用してタイムアウト値を秒単位で指定できます。この属性は、ゲートウェイに対する要求がタイムアウトしてハングしているとみなされるまでの時間を制御します。

次のように、この属性を **Resource** オブジェクトに手動で追加する必要があります。

```
<ResourceAttribute name='Hang Timeout'  
displayName='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT' type='int'  
description='com.waveset.adapter.RAMessages:RESATTR_HANGTIMEOUT_HELP'  
value='NewValue'>  
</ResourceAttribute>
```

この属性のデフォルト値は 0 であり、これは **Identity Manager** がハングした接続を確認しないことを示します。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

**Identity Manager** は、次のどちらかを使用して **SecurID ACE/Server** アダプタと通信することができます。

- Sun Identity Manager Gateway (Windows のみ)
- SecurID TCL インタフェース (UNIX のみ)
- SSHPubKey (UNIX のみ)

SSHPubKey 接続の場合、「リソースパラメータ」ページで非公開鍵を指定する必要があります。この鍵には --- BEGIN PRIVATE KEY --- および --- END PRIVATE KEY -- のような注釈行を含める必要があります。公開鍵は、サーバー上の /.ssh/authorized\_keys ファイルに配置する必要があります。

### 必要な管理特権

「ログインユーザー」リソースパラメータ (UNIX の場合) または「管理者ログイン」リソースパラメータ (Windows の場合) で指定されたユーザーは、ユーザー関連タスクとトークン関連タスクを実行できる管理者ロールに割り当てられている必要があります。

テスト接続を使用して次のテストができます。

- 各コマンドが管理ユーザーのパスに存在するかどうか
- 管理ユーザーが /tmp に書き込めるかどうか
- 管理ユーザーに、特定のコマンドを実行する権限があるかどうか

テスト接続では、通常のプロビジョニング実行とは異なるコマンドオプションを使用できます。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースからインポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、SecurID ACE/Server アカウント属性に関する情報を示します。特に記載されていないかぎり、属性のデータ型はすべて **String** です。

SecurID ACE/Server アダプタは、複数の値を含むカスタムアカウント属性 (SecurID では User Extension Data と呼ばれる) をサポートしません。

Identity Manager ユーザー属性	リソース ユーザー属性	説明
adminGroup	adminGroup	管理者がメンバーになっているグループ。これは読み取り専用属性です。
adminLevel	adminLevel	ユーザーの管理レベル。値には、レルム、サイト、またはグループを指定できます。これは読み取り専用属性です。
adminSite	adminSite	管理者がアクセスできるサイト。これは読み取り専用属性です。
adminTaskList	adminTaskList	管理者が実行できるタスクセットの名前。これは読み取り専用属性です。
adminTaskListTasks	adminTaskListTasks	管理者が実行できる個々のタスク。これは読み取り専用属性です。

Identity Manager ユーザー属性	リソース ユーザー属性	説明
allowedToCreatePin	allowedToCreatePin	ユーザーが PIN の指定を許可されていることを示す読み取り専用の <b>boolean</b> 型属性。PIN が指定されていない場合は、システムによってユーザーの PIN が生成されます。
clients	clients	ユーザーがメンバーになっているクライアントを指定します。
accountId	defaultLogin	ACE/Server のユーザーのアカウント ID。最大 48 文字。
defaultShell	defaultShell	ユーザーのデフォルトシェル。最大 256 文字。
expirePassword	WS_PasswordExpired	パスワードが期限切れになるかどうかを示します。パスワードが期限切れになると、SecurID アカウントは <b>New PIN</b> モードに配置されます。これは書き込み専用属性です。
firstname	firstname	必須。ユーザーの名。最大 24 文字。
groups	groups	ユーザーがメンバーになっているグループを指定します。
lastname	lastname	必須。ユーザーの姓。最大 24 文字。
remoteAlias	remoteAlias	リモートレルムでのユーザーのログイン名。
remoteRealm	remoteRealm	リモートユーザーの場合にユーザーが所属するレルム。
requiredToCreatePin	requiredToCreatePin	ユーザーが PIN を指定する必要があることを示す読み取り専用の <b>boolean</b> 型属性。
tempEndDate	tempEndDate	一時モードが終了する日付。
tempEndHour	tempEndHour	一時モードが終了する時間。
tempStartDate	tempStartDate	一時モードが開始する日付。
tempStartHour	tempStartHour	一時モードが開始する時間。
tempUser	tempUser	一時モードに入るユーザーまたは一時モードから抜けるユーザーを設定します。
tokenClearPin	token1ClearPin	ユーザー更新で設定されている場合、ユーザーの PIN がクリアされます。
tokenDisabled	token1Disabled	ユーザー更新で設定されている場合、ユーザーの PIN が無効になります。

Identity Manager ユーザー属性	リソース ユーザー属性	説明
tokenLost	token1Lost	ユーザー更新で <b>true</b> に設定されている場合、アカウントは RSA 内で緊急アクセスモードになります。
tokenLostPassword	token1LostPassword	値がブランクではない場合、LOST トークンは、指定された値を一時的なパスワードとして使用します。値がブランクの場合は、RSA が一時的なパスワードを割り当てるという従来の動作が実行されます。これは書き込み専用属性です。
tokenLostExpireDate	token1LostExpireDate	LOST トークンの一時パスワードが期限切れになる日付を指定します。この属性は、 <b>tokenLostPassword</b> がブランクではなく、 <b>tokenLostLifeTime</b> がブランクか 0 の場合にのみ意味を持ちます。これは書き込み専用属性です。  この属性は、サンプルユーザーフォームには実装されていません。
tokenLostExpireHour	token1LostExpireHour	LOST トークンの一時パスワードが期限切れになる時間を指定します。たとえば、午後 4 時を表すには 16 と指定します。この属性は、 <b>tokenLostPassword</b> がブランクではなく、 <b>tokenLostLifeTime</b> がブランクか 0 の場合にのみ意味を持ちます。これは書き込み専用属性です。  この属性は、サンプルユーザーフォームには実装されていません。
tokenLostLifeTime	token1LostLifeTime	一時的なパスワードを受け付ける期間を時間単位で指定します。このフィールドは、 <b>tokenLostPassword</b> の値に関係なく使用できます。これは書き込み専用属性です。
tokenFirstSequence	token1FirstSequence	トークンを再同期する必要がある場合に、元のトークンを指定します。これは書き込み専用属性です。
tokenNewPinMode	token1NewPinMode	ユーザーアカウントが New PIN モードに配置されている場合に、ユーザーの新しい PIN を指定します。
tokenNextSequence	token1NextSequence	トークンを再同期する必要がある場合に、新しいトークンを指定します。これは書き込み専用属性です。
tokenPin	token1Pin	暗号化された値。ユーザーの PIN。

Identity Manager ユーザー属性	リソース ユーザー属性	説明
tokenPinToNTC	token1PinToNTC	true に設定されている場合、指定された割り当て済みトークンの PIN を次のトークンコードに設定するプロセスを開始します。
tokenPinToNTCSequence	token1PinToNTCSequence	ユーザーの現在のトークンコードを指定します。
tokenResync	token1Resync	トークンを再同期するかどうかを示します。この属性は、tokenFirstSequence 属性と tokenNextSequence 属性を有効にします。これは書き込み専用属性です。
tokenSerialNumber	token1SerialNumber	トークンシリアル番号。12 文字にしてください。この要件を満たすように、必要な数の 0 を先頭に挿入します。
tokenUnassign	token1Unassign	ユーザーから削除するトークンを指定します。これは書き込み専用属性です。
userType	userType	Remote か Local のどちらかにしてください。

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

SecurID User Form

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.SecurIdResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SecurIdUnixResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SVIDResourceAdapter`

Windows システムのゲートウェイへの接続に伴う問題を診断するため、次のメソッドでもトレースを有効にすることができます。

- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#sendRequest`
- `com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter#getResponse`

# シェルスクリプト

Identity Manager には、リソースをホストするシステム上で実行されるシェルスクリプトによって制御されるリソースを管理するためのシェルスクリプトリソースアダプタが用意されています。このアダプタは汎用アダプタであるため、高度な設定が可能です。

このアダプタは、`com.waveset.adapter.ShellScriptResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.ShellScriptResourceAdapter
```

## 使用上の注意

### リソースアクション

シェルスクリプトアダプタでは、ユーザーアカウントの作成、更新、削除、取得などの基本的なプロビジョニング機能を実行する一連のアクションを作成できます。これらの各アクションは、シェルスクリプトで定義されます。

このアダプタでは、次の表に示すプロビジョニングアクションがサポートされます。

アクション	目的	必須性
create	新しいユーザーを作成します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを作成できません。
delete	既存のユーザーを削除します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを削除できません。
getAllUsers	リソース上のすべてのユーザーに関する情報を取得します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、調整や「リソースから読み込み」などのアカウント反復処理に依存する操作は実行できません。
getUser	既存ユーザーの属性を取得します。	使用可。

アクション	目的	必須性
update	既存ユーザーの属性を更新します。	省略可能。ただし、指定されていない場合は、ユーザーを更新できません。

\$WSHOME/sample/ShellScript ディレクトリには、理論上のシェルスクリプトベースのホストアプリケーションにユーザーをプロビジョニングするのに使用できるリソースアクション定義のサンプルセットが格納されています。環境に合わせてそれらの定義をカスタマイズしてください。

リソースアクションに関する全般的な情報については、[509 ページの「リソースへのアクションの追加」](#)を参照してください。

## スクリプト

シェルスクリプトアダプタは、リソースホスト上で実行するシェルスクリプトファイルとしてアクションを実装します。これらのスクリプトは、リソースホスト上でスクリプトを実行するアカウント用に設定されているシェルで動作するように記述してください。

スクリプトは規則に従い、成功を示すリターンコード 0 で終了するようにしてください。0 以外のコード (スクリプトの作成者が定めた) を返すことは、操作が正しく完了しなかった可能性があるという意味になります。

スクリプトは、標準エラーや標準出力ストリームにテキストを出力できます。操作の種類、操作のコンテキスト、および失敗のタイプによっては、その操作の結果にテキストを表示することができます。

`getUser` および `getAllUsers` 操作では、このテキストは、各ユーザーの属性を特定するために標準出力ストリームで解析されます。

以下のタイプの環境変数は、スクリプトにエクスポートできます。

- スキーママップのアイデンティティシステム リソース属性列で定義されたアカウント属性はどれも、そのアカウント属性の先頭に `WSUSER_` を付加すると、スクリプトで利用できるようになります。たとえば、アカウント属性の名前が `FullName` の場合、その環境変数は `WSUSER_Full_Name` という名前になります。スペースは下線に置き換えられます。
- `WSRSRC_` で始まる環境変数で、アダプタの設定を渡すことができます。もっとも重要な変数は、アダプタの名前を定義する `WSRSRC_Name` です。異なるリソースで同じスクリプトを実行する場合は、この変数を実装すると、それぞれのホストで同じ操作を行うスクリプトの複数のコピーを維持する手間を省けます。

次のコード例は、サンプルで生成される環境を示しています。

---

```
WSRSRC_Host='129.153.147.151'; export WSR SRC_Host
WSRSRC_Port='22'; export WSR SRC_Port
WSRSRC_Login_User='root'; export WSR SRC_Login_User
WSRSRC_password='074B7E28F5927C90:1C65216:108540A69DE:-7FFD|zGEBDGD3VRs='; export
WSRSRC_password
WSRSRC_Login_Shell_Prompt=]#'; export WSR SRC_Login_Shell_Prompt
WSRSRC_Root_User='root'; export WSR SRC_Root_User
WSRSRC_credentials='074B7E28F5927C90:1C65216:108540A69DE:-7FFD|zGEBDGD3VRs='; export
WSRSRC_credentials
WSRSRC_Root_Shell_Prompt=]#'; export WSR SRC_Root_Shell_Prompt"
WSRSRC_Connection_Type='SSH'; export WSR SRC_Connection_Type"
WSRSRC_Maximum_Connections='10'; export WSR SRC_Maximum_Connections"
WSRSRC_Connection_Idle_Timeout='900'; export WSR SRC_Connection_Idle_Timeout"
WSRSRC_Display_Name_Attribute='accountId'; export WSR SRC_Display_Name_Attribute"
WSRSRC_NAME='ShellTest'; export WSR SRC_NAME"
WSRSRC_ID='#ID#074B7E28F5927C90:B122A1:108E3E4CFAA:-7FFC'; export WSR SRC_ID"
WSRSRC_TYPE='Resource'; export WSR SRC_TYPE"
WSRSRC_CLASS='class com.waveset.object.Resource'; export WSR SRC_CLASS"
```

---

一般に、属性の値が NULL の場合は、対応する環境変数に長さが 0 の文字列が設定されるのではなく、その環境変数は省略されます。

スクリプトで使用可能な変数の詳細については、[509 ページの「リソースへのアクションの追加」](#)を参照してください。

## 結果処理

AttrParse メカニズムは、標準出力ストリームを通して getUser アクションと getAllUsers アクションから返された結果を処理します。このメカニズムの詳細については、[493 ページの第 2 章「AttrParse オブジェクトの実装」](#)を参照してください。

getUser アクションの場合、AttrParse はユーザー属性のマップを返します。  
getAllUsers アクションの場合は、マップのマップを生成します。返されるマップの  
各エントリには、次の内容が含まれます。

- 通常 AttrParse で返されるものと同様のユーザー属性のマップを示す値。
- アカウント ID または (ID が不明の場合は) 名前を示すキー。

collectCsvHeader および collectCsvLines AttrParse トークンを使用すると、属性  
と値を特定できます。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、次の接続を使用してシェルスクリプトアダプタと通信します。

- Telnet
- SSH (SSH はリソース上に個別にインストールする)
- SSHPubKey

SSHPubKey 接続の場合、「リソースパラメータ」 ページで非公開鍵を指定する必要があります。この鍵には --- BEGIN PRIVATE KEY --- および --- END PRIVATE KEY  
-- のような注釈行を含める必要があります。公開鍵は、サーバー上の  
/.ssh/authorized\_keys ファイルに配置する必要があります。

### 必要な管理特権

スクリプトを実行する管理アカウントは、スクリプトで定義されているすべての操作  
について承認されている必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、シェルスクリプトアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの作成	使用可
アカウントの更新	使用可
アカウントの削除	使用可
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	getAllUsers アクションが定義されている場合は、次のデータ読み込みメソッドがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>調整</li></ul>

## アカウント属性

アカウント属性は多種多様であるため、シェルスクリプトアダプタにはデフォルトのアカウント属性が用意されていません。

アカウントは、アイデンティティシステムユーザー属性の名前が `accountId` であるアカウント属性を持つ必要があります。

## リソースオブジェクトの管理

サポート対象外。

## アイデンティティテンプレート

なし。有効な値を持つアイデンティティテンプレートを設定してください。

## サンプルフォーム

サンプルユーザーフォームはありませんが、リソースと AttrParse 定義の例が次の場所にあります。

```
$WSHOME/sample/ShellScript/ShellScriptResourceObjects55.xml
```

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.ShellScriptResouceAdapter
```

# Siebel CRM

Siebel CRM リソースアダプタは、  
`com.waveset.adapter.SiebelCRMResourceAdapter` クラスで定義されます。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

Siebel CRM リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. Siebel CRM リソースをリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタム リソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.SiebelCRMResourceAdapter
```

2. 次の表に従って、該当する JAR ファイルを `InstallDir\idm\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。

JAR ファイルのバージョンは、Siebel CRM リソースのバージョンと一致している必要があります。

Siebel 6.0	Siebel 7.0	Siebel 7.7、7.8、8.0
<ul style="list-style-type: none"><li>• SiebelDataBean.jar</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• SiebelJI_Common.jar</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Siebel.jar</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• SiebelTC_enu.jar</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• SiebelJI_enu.jar</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• SiebelJI_enu.jar</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• SiebelTcCommon.jar</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• SiebelJI.jar</li></ul>	
<ul style="list-style-type: none"><li>• SiebelTcOM.jar</li></ul>		

---

**注** 複数バージョンの Siebel の JAR ファイルを `InstallDir\idm\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーしないでください。バージョン間で競合が発生する可能性があります。

---

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## 使用上の注意

### ビジネスオブジェクトとビジネスコンポーネントの選択

デフォルトでは、Siebel CRM アダプタでのアカウントプロビジョニングには *Employee Siebel* ビジネスオブジェクトの *Employee Siebel* ビジネスコンポーネントが使用されます。ただし、アカウントプロビジョニングにどの Siebel ビジネスオブジェクトのどの Siebel ビジネスコンポーネントを使用するかを、アダプタに設定できます。

- 異なるビジネスオブジェクトを使用するには、「**アカウントビジネスオブジェクト**」リソースパラメータを、それに応じた設定にします。
- 異なるビジネスコンポーネントを使用するには、「**アカウントビジネスコンポーネント**」リソースパラメータに目的のビジネスコンポーネントの名前を設定します。

---

**注** 指定したビジネスオブジェクトに含まれるビジネスコンポーネントを指定してください。

---

Siebel Tools Client を使用してビジネスコンポーネントを検査し、プロビジョニングに使用可能な属性を確認できます。デフォルトのスキーママップには、デフォルトの *Employee* ビジネスコンポーネントで利用できる一般的な属性がいくつか含まれています。

Siebel 環境を管理するために属性の追加、削除、または変更が必要になることがあります。特に、デフォルト以外のビジネスオブジェクトやビジネスコンポーネントを使用するようにアダプタを設定した場合はその可能性が高くなります。

次の手順は、Siebel Tools クライアントを使用して Identity Manager が Siebel 環境に対してプロビジョニングできる属性を検索する基本的な方法を示します。

1. Siebel Tools の Object Explorer を開きます。
2. 「**Business Component**」アイコンをクリックします。
3. スクロールダウンするか、またはクエリーを作成して、目的のビジネスコンポーネントを選択します。
4. Object Explorer 内で「**Fields**」を選択します。

そのビジネスコンポーネントで使用可能なフィールドのリストが表示されます。

Object Explorer に表示されるフィールドの「*Name*」列の値は、通常、設定した Siebel CRM リソースのスキーママップ内の右側 (リソースユーザー属性) で使用されます。

一般に、これらのフィールドはどれでもある程度まで管理できます。ただし、複数値フィールドや選択リストフィールドを管理する場合は、次に示すように、異なる形式でスキーママップの右側に指定してください。

- **複数値フィールドの場合** : 右側には *field@@keyAttr* の形式を使用してください。各表記の意味は次のとおりです。
  - *field* は、複数値フィールドの名前を表します。
  - *keyAttr* は、複数値リストの各項目を一意に識別するために使用する、関連付けられた複数値ビジネスコンポーネント内のフィールドの名前を表します。

例 : Position@@Name

- **選択リストフィールドの場合** : 右側には *field!!keyAttr* の形式を使用してください。各表記の意味は次のとおりです。
  - *field* は、選択リストフィールドの名前を表します。
  - *keyAttr* は、選択リストの項目を一意に識別するために使用する、関連付けられた選択リストビジネスコンポーネント内のフィールドの名前を表します。

例 : Employee Organization!!Name

## 複数値グループの第一の値の管理

複数値グループ (MVG) に、第一として指定された単一のメンバーがすでに含まれている場合、アダプタは次のアクションを実行します。

- 受信する MVG に、Identity Manager に現在定義されている値とは異なる単一の値が含まれている場合は、新しい値が挿入され、第一としてマークされます。このとき、以前の値は Identity Manager から削除されます。
- 第一以外の値が追加された場合、デフォルトでは、第一の値はそのまま変わりません。

現在 MVG に複数の値があり、そのうちの 1 つが第一として指定されている場合は、次のようになります。

- 第一以外の値がセットから削除された場合、現在の第一が第一のままになります。
- MVG の値セットが新しい単一の値で置き換えられた場合は、新しい単一の値が挿入されて第一として指定されます。このとき、以前の値はすべて削除されます。
- 第一以外の値が追加された場合、デフォルトでは、第一の値はそのまま変わりません。

複数の値が存在する場合に第一マーカーを既存の値から新しい値に移動するには、スキーママップにアカウント属性を追加してください。この属性の名前は、「Primary MVG\_Name」の形式にしてください。ここで、MVG\_Name は、Employee Organization Id、Position などの値です。したがって、その属性は、Primary Employee Organization Id や Primary Position のような名前になります。その後、ユーザーフォームで、Primary 属性に目的の値を設定します。

## 高度なナビゲーション

Siebel CRM アダプタの高度なナビゲーション機能を使用すると、子ビジネスコンポーネントを作成および更新できます。これは、Identity Manager に通常は実装されない高度な機能です。

高度なナビゲーション機能により、子ビジネスコンポーネントの作成および更新に必要な次の情報を任意で指定できます。

- ビジネスオブジェクト名
- 親ビジネスコンポーネント名
- 親検索属性
- ターゲットビジネスコンポーネント
- ターゲット検索属性
- インスコープ属性 (ビジネスコンポーネントで設定 / 更新対象となる属性)
- オプションの協働動作 (co-action)

作成および更新動作時に、高度なナビゲーション規則を使用できます。この規則はほかの種類の動作には使用できません。

Siebel CRM アダプタの高度なナビゲーション機能を実装するには、次の作業を実行してください。

- 右側のリソースユーザー属性の名前が PARENT\_COMP\_ID となっているスキーママップに属性を追加します。
- デバッグページを使用して、リソースの XML に次の ResourceAttribute を手動で追加します。

```
<ResourceAttribute name='AdvancedNavRule'  
    displayName='Advanced Nav Rule'  
    value='MY_SIEBEL_NAV_RULE'>  
  
</ResourceAttribute>
```

MY\_SIEBEL\_NAV\_RULE を有効な規則名に置き換えてください。

- 高度なナビゲーション規則を記述します。この規則には、次の 2 つの変数が存在するようにしてください。

resource.action - この値は create または update のいずれかにしてください。

resource.objectType - 通常のアカウント保守の場合、この値は account になります。

この規則から、次の名前と値のペアが 1 つ以上含まれるマップを返す必要があります。

属性	定義
busObj	ビジネスオブジェクトの名前。
parentBusComp	busObj の親ビジネスコンポーネントの名前。このビジネスコンポーネントの最初の修飾された (parentSearchAttr を参照) レコードに移動することで、ビジネスオブジェクトのコンテキストが更新されません。
parentSearchAttr	parentBusComp で検索フィールドとして使用する属性。検索する値は、リソースユーザー属性名が PARENT_COMP_ID の属性に対する値として存在している必要があります。
busComp	作成または更新するファイナルビジネスコンポーネントの名前。作成の場合、このビジネスコンポーネントの新規レコードがビジネスオブジェクト内に作成されます。更新の場合、このビジネスコンポーネントの最初の修飾された (searchAttr を参照) レコードに移動することで、更新するビジネスコンポーネントレコードが選択されます。
searchAttr	busComp で検索フィールドとして使用する属性。検索する値はユーザーのアカウント ID です。
属性	設定または更新される busComp 内のフィールドセットを指定する文字列のリスト。このリストは、実行されるアクション用にリソースのスキーママップで定義された属性よりも優先されます。
coAction	要求されたアクション (resource.action) が create の場合、作成後すぐに更新も実行するようにアダプタに指示するには、coAction の値に update を指定します。Create では設定できない必須フィールドがあり、そのために create を論理的に完了するには update も実行する必要があります。この指定が必要になることがあります。resource.action が create で、coAction が update に設定されていないかぎり、この属性は無視されます。

ナビゲーション規則の例については、  
\$WSHOME/sample/rules/SiebelNavigationRule.xml を参照してください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用不可

機能	サポート状況
アカウントの名前の変更	使用可
アカウントの作成	使用可
アカウントの更新	使用可
アカウントの削除	使用可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>リソースから直接インポート</li> <li>調整</li> </ul>

## アカウント属性

デフォルトのスキーママップは、Employee ビジネスオブジェクトと Employee ビジネスコンポーネントが設定されていることを前提としています。Siebel 環境を管理するために属性の追加、削除、または変更が必要になることがあります。特に、デフォルト以外のビジネスオブジェクトやビジネスコンポーネントを使用するようにアダプタを設定した場合はその可能性が高くなります。

アイデンティティシステムユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
accountId	Login Name	ユーザーのログイン名。
firstname	First Name	ユーザーの名
lastname	Last Name	ユーザーの姓
Responsibility	Responsibility@@Name	<p>従業員に割り当てる責任のリストを含む複数值属性。この属性は、ユーザーフォームで複数選択ボックスを使用して管理してください。</p> <p>「<b>Responsibility</b>」フィールドは、サンプルの Siebel CRM User Form で複数選択ボックスとして設定されています。</p>

アイデンティティシステムユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
Position	Position@@Name	<p>従業員に割り当てる役職名のリストを含む複数值属性。</p> <p>割り当てる役職名はすべて Siebel に存在している必要があります。</p> <p>第一役職名を割り当てるには、スキーママップに Primary Position 属性を追加して、第一にする役職名を設定します。</p>

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、HTTP または RSA を使用して Siebel CRM アダプタと通信できます。詳細については、Siebel のユーザーマニュアルを参照してください。

### 必要な管理特権

アダプタで設定された管理ユーザー名およびパスワードに、指定されたビジネスコンポーネントの新規レコードの作成および既存レコードの更新を行うための十分な特権が Siebel 内で与えられていることを必ず確認してください。

## リソースオブジェクトの管理

デフォルトでは、Siebel CRM アダプタは、次の Siebel オブジェクトをサポートしません。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Employee:Position	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Create</li> <li>• 更新</li> <li>• 削除</li> <li>• 名前の変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 名前</li> <li>• Division</li> <li>• Primary Employee</li> <li>• 説明</li> </ul>

必要に応じて、追加のリソースオブジェクトタイプをサポートするようにアダプタを手動で設定できます。

1. これを行うには、次の手順に従ってリソースプロトタイプXMLを編集します。デフォルトの *Employee:Position* オブジェクトタイプの例に続けて、新しい `<ObjectType>` 要素をXMLに追加します。
2. `Employee` を、目的の Siebel ビジネスオブジェクトの名前に置き換えます。
3. `Position` を、目的の Siebel ビジネスコンポーネントの名前に置き換えます。
4. 組み込まれている `<ObjectAttributes>` 要素に、ビジネスコンポーネントの各項目を一意に識別するために使用される `<ObjectAttribute>` を指定する `idAttr` 属性が含まれていることを確認します。

## アイデンティティテンプレート

デフォルトのアイデンティティテンプレートは `$accountId$` です。

## サンプルフォーム

このリソースアダプタには、次のサンプルフォームが用意されています。

フォーム	ファイル
SiebelCRM ユーザーフォーム	sample/SiebelCRMUserForm.xml
SiebelCRM Update Employee:Position Form	sample/SiebelCRMpositioncreate.xml
SiebelCRM Update Employee:Position Form	sample/SiebelCRMpositionupdate.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.SiebelCRMResourceAdapter
```

さらに、リソースインスタンスに対して次の Identity Manager Active Sync ロギングパラメータを設定できます。

- ログアーカイブの最大数

- アクティブログの最大有効期間
- ログファイルの最大サイズ
- ログファイルパス
- ログレベル



# SiteMinder

Identity Manager は、次の SiteMinder 機能をサポートするためのアダプタを提供します。

- 管理者アカウント
- LDAP リポジトリユーザー
- データベーステーブルリポジトリユーザー

次の表に、これらのアダプタの目的を要約します。

GUI 名	クラス名
SiteminderAdmin	com.waveset.adapter.SiteminderAdminResourceAdapter
SiteminderLDAP	com.waveset.adapter.SiteminderLDAPResourceAdapter
SiteminderExampleTable	com.waveset.adapter.SiteminderExampleTableResourceAdapter

## リソースを設定する際の注意事項

Identity Manager で SiteMinder リソースアダプタをセットアップする前に、SiteMinder でこれらの手順を完了してください。

1. 信頼できるホストを登録します。
  - a. Web アプリケーションサーバーのホスト設定オブジェクト (ポリシーサーバー IP によるデフォルト設定のコピー) を作成します。
  - b. エージェントのインストールディレクトリから smreghost を使用して、アプリケーションサーバーを登録します。
2. エージェントを作成します。
  - a. エージェントの名前を入力します。
  - b. 「Support 4.x Agents」を選択します。
  - c. エージェントタイプとして「Siteminder / WebAgent」を選択します。
  - d. クライアントの IP アドレスを入力します。
  - e. 共有キーを入力します。

Identity Manager で SiteMinder リソースアダプタを正常に設定するには、エージェント名および共有キーを知っている必要があります。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

SiteMinder リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 「管理するリソースの設定」ページの「カスタム リソース」セクションに、次のいずれかの値を追加します。
  - `com.waveset.adapter.SiteminderAdminResourceAdapter`
  - `com.waveset.adapter.SiteminderLDAPResourceAdapter`
  - `com.waveset.adapter.SiteminderExampleTableResourceAdapter`
2. 次の JAR ファイルを `$WSHOME/WEB-INF/lib` ディレクトリにコピーします。
  - `smjavaagentapi.jar`
  - `smjavasdk2.jar`

---

**注** バージョンの競合が発生しないようにするために、Web エージェントディレクトリから JAR ファイルを取得します。これらのファイルが Web エージェントディレクトリに見つからない場合、これらのファイルは `Netegrity\SiteMinder\SDK-2.2\java` ディレクトリにもあります。

---

3. SiteMinder Admin リソースアダプタを使用する予定の場合は、アプリケーションサーバー起動スクリプトか、またはアプリケーションサーバーの起動前の環境に、`LIBPATH` (アプリケーションサーバープラットフォームによっては `LD_LIBPATH` または `SHLIB_PATH`) を設定してください。

たとえば Solaris では、Web エージェントは次のディレクトリにインストールされ、そこに `nete_wa_env.sh` というファイルが含まれます。

```
/opt/netegrity/siteminder/webagent
```

WebLogic の場合は、`/bea/wlserver_Version/config/mydomain` に、`Weblogic.sh` を起動するための次の行を追加します。

```
# Siteminder ライブラリを収容するために、Netegrity
# Web エージェントライブラリに LIBPATH、
# LD_LIBRARY_PATH、および SHLIB_PATH を追加する必要がある
. . /opt/netegrity/siteminder/webagent/nete_wa_env.sh
```

これらの行によって、SiteMinder Admin リソースアダプタが使用する Java ネイティブインタフェースメソッドに適した変数が設定されます。

作業が完了したら、Identity Manager アプリケーションサーバーを再起動します。

## 使用上の注意

なし

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL 経由の JNDI を使用して SiteMinder と通信します。

### 必要な管理特権

「User DN」リソースパラメータで指定されたユーザーに、ユーザーの読み取り、書き込み、削除、および追加のアクセス権を付与する必要があります。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	SiteMinder LDAP および Table では使用可 SiteMinder Admin では使用不可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	リソースからインポート

# アカウント属性

## SiteMinder Admin

次の表に、SiteMinder Admin アダプタのデフォルトのアカウント属性を示します。

アイデンティティシステム ユーザー属性	タイプ	説明
description	String	管理者の説明
smAdminAuth	String	管理者承認が定義されたユーザー
smAdminDomains	String	ドメインを管理する管理者権限
smAdminAuthDir	String	ユーザーディレクトリ - LDAP、ODBC、WinNT、カスタム、AD
smAdminAuthScheme	String	管理者の認証スキーム：フォームを使用した「基本」認証、または接続中にクライアント証明書を使用した「X.509」
smAdminScope	String	クレデンシャルが適用されるホスト、ポート、および認証に対して定義された管理者スコープ
smManageSystemDomainObjects	String	エージェント、エージェントグループ、エージェント設定オブジェクト、ホスト設定オブジェクト、ユーザーディレクトリ、ポリシードメイン、アフィリエイトドメイン、管理者、認証スキーマ、登録スキーマ、エージェントタイプ、SQL クエリースキーマ、パスワードポリシー、信頼できるホスト、アイデンティティ環境などのシステムオブジェクトを管理する管理者の権限
smManageDomainObjects	String	十分な特権を持つ管理者が、レルム、規則、規則グループ、応答、応答グループ、変数、ポリシーなどのドメインオブジェクトを管理する管理者の権限
smManageUsers	String	ユーザーを管理する作成 / 編集 / 削除特権を使用して設定 / 設定解除する管理者権限
smManageKeysPwdPolicies	String	キーや、ユーザーに適用されるパスワードポリシーを管理する特権を持つ管理者
smManageReports	String	レポートを管理する管理者権限
smManageTrustedHosts	String	サーバーが信頼しているホスト

## SiteMinder サンプルテーブル

次の表に、SiteMinder サンプルテーブルアダプタのデフォルトのアカウント属性を示します。

アイデンティティシステムユーザー属性	タイプ	説明
userID	Integer	ユーザーの一意の ID。
firstName	String	ユーザーの名。
lastName	String	ユーザーの姓。
email	String	ユーザーの電子メールアドレス。
telephoneNumber	String	ユーザーの電話番号。
expirePassword	Boolean	ログイン時にユーザーに新しいパスワードを強制的に入力させます。
pin	String	ユーザーの PIN。
mileage	Integer	SiteMinder のマニュアルを参照してください。
groups	String	アカウントが所属するグループ ID。

## SiteMinder LDAP

次の表に、SiteMinder LDAP アダプタのデフォルトのアカウント属性を示します。

アイデンティティシステムユーザー属性	タイプ	説明
accountId	String	ユーザー ID。この属性は、uid リソースユーザー属性に対応します。
accountId	String	必須。ユーザーのフルネーム。この属性は、cn リソースユーザー属性に対応します。
パスワード	暗号化されています	ユーザーのパスワード。
firstname	String	ユーザーの名。
lastname	String	ユーザーの姓。
expirePassword	Boolean	ログイン時にユーザーに新しいパスワードを強制的に入力させます。
statusFlags	String	SiteMinder のマニュアルを参照してください。

アイデンティティシステムユーザー属性	タイプ	説明
ldapGroups	String	ユーザーのLDAP グループメンバーシップ。
modifyTimeStamp	String	ユーザーエントリが変更された日時を示します。
objectClass	String	ユーザーのオブジェクトクラス。

## リソースオブジェクトの管理

なし

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

SiteminderAdminUserForm.xml

SiteminderExampleTableUserForm.xml

SiteminderLDAPUserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.SiteminderAdminResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SiteminderLDAPResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SiteminderExampleTableResourceAdapter`

# Solaris

Solaris リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.SolarisResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

リソースと Identity Manager 間の通信に SSH (Secure Shell) を使用する場合は、アダプタを設定する前に、リソースで SSH を設定します。

Solaris で NIS アカウントを管理する場合は、ログインコマンドと Solaris アダプタのパフォーマンスを向上させるために、リソースにパッチ 126632-01 をインストールします。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

Solaris リソースアダプタは主に、次の Solaris コマンドのサポートを提供します。

- `useradd`、`usermod`、`userdel`
- `groupadd`、`groupmod`、`groupdel`
- `passwd`

サポートされる属性およびファイルの詳細については、これらのコマンドに関する Solaris マニュアルページを参照してください。

このアダプタは、Solaris Trusted Extensions をサポートしていません。

Solaris リソースでユーザーアカウントの名前の変更を実行すると、グループメンバーシップは新しいユーザー名に移動されます。次の条件に該当する場合は、ユーザーのホームディレクトリの名前も変更されます。

- 元のホームディレクトリの名前がユーザー名と一致していた。
- 新しいユーザー名と一致するディレクトリがまだ存在していない。

UNIX リソース (AIX、HP-UX、Solaris、または Linux) に接続するときは、`root` シェルとして Bourne 互換シェル (`sh`、`ksh`) を使用してください。

UNIX アカウントを管理する管理アカウントには、英語 (`en`) または C ロケールを使用してください。これは、ユーザーの `.profile` ファイルで設定できます。

NIS が実装されている環境では、次の機能を実装することにより、一括プロビジョニング中のパフォーマンスを向上させることができます。

- `user_make_nis` という名前のアカウント属性をスキーママップに追加し、この属性を調整やその他の一括プロビジョニングワークフローで使用します。この属性を追加した場合、リソース上の各ユーザーが更新された後は、システムで NIS データベースへの接続手順がバイパスされます。
- すべてのプロビジョニングが完了した後で NIS データベースに変更を書き込むには、ワークフローで `NIS_password_make` という名前の **ResourceAction** を作成します。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、次の接続を使用して Solaris アダプタと通信できます。

- Telnet
- SSH (SSH はリソース上に個別にインストールする)
- SSHPubKey

SSHPubKey 接続の場合、「リソースパラメータ」ページで非公開鍵を指定する必要があります。この鍵には `--- BEGIN PRIVATE KEY ---` および `--- END PRIVATE KEY ---` のような注釈行を含める必要があります。公開鍵は、サーバー上の `/.ssh/authorized_keys` ファイルに配置する必要があります。

### 必要な管理特権

このアダプタでは、一般ユーザーとしてログインしてから `su` コマンドを実行し、`root` ユーザー (または `root` ユーザーと同等のアカウント) に切り替えて管理アクティビティを実行できます。また、`root` ユーザーとして直接ログインすることもできます。

このアダプタでは、`sudo` 機能 (バージョン 1.6.6 以降) もサポートされます。この機能は付属 CD から Solaris 9 にインストールできます。`sudo` を使用すると、システム管理者は、特定のユーザー (またはユーザーグループ) が一部 (またはすべて) のコマンドを `root` ユーザーまたは別のユーザーとして実行できるように設定できます。

さらに、`sudo` がリソースで有効になっている場合は、その設定が、`root` ユーザーのリソース定義ページでの設定よりも優先されます。

sudo を使用する場合は、Identity Manager 管理者に対して有効にされたコマンドの `tty_tickets` パラメータを `true` に設定してください。詳細については、`sudoers` ファイルのマニュアルページを参照してください。

管理者は、`sudo` で次のコマンドを実行する特権が付与されている必要があります。

ユーザーとグループのコマンド	NIS コマンド	その他のコマンド		
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>auths</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>passwd</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>make</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>awk</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>ls</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>groupadd</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>profiles</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>ypcat</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>cat</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>mv</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>groupdel</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>roles</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>yptest</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>chmod</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>rm</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>groupmod</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>useradd</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>yppasswd</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>chown</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>sed</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>last</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>userdel</code></li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>cp</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>sleep</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>listusers</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>usermod</code></li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>cut</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>sort</code></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>logins</code></li></ul>			<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>diff</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>tail</code></li></ul>
			<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>echo</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>touch</code></li></ul>
			<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>grep</code></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>which</code></li></ul>

テスト接続を使用して次のテストができます。

- 各コマンドが管理ユーザーのパスに存在するかどうか
- 管理ユーザーが `/tmp` に書き込めるかどうか
- 管理ユーザーに、特定のコマンドを実行する権限があるかどうか

**注** テスト接続では、通常のプロビジョニング実行とは異なるコマンドオプションを使用できます。

このアダプタには、基本的な `sudo` 初期化機能とリセット機能が用意されています。ただし、リソースアクションが定義されていて、そこに `sudo` 認証を必要とするコマンドが含まれている場合は、UNIX コマンドとともに `sudo` コマンドを指定してください。たとえば、単に `useradd` と指定する代わりに `sudo useradd` を指定してください。`sudo` を必要とするコマンドは、ネイティブリソースに登録されている必要があります。それらのコマンドを登録するには、`visudo` を使用します。

# プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	Solaris は、ネイティブでの Identity Manager の enable アクションと disable アクションをサポートしません。 Identity Manager は、ユーザーパスワードを変更することでアカウントの有効化と無効化をシミュレートします。 enable アクションでは変更されたパスワードが公開されますが、disable アクションでは公開されません。  その結果、enable アクションと disable アクションは update アクションとして処理されます。update で動作するように設定されている前アクションと後アクションすべてが実行されます。
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

このリソース上のすべてのユーザーに対して、次のタスクを制御するリソース属性を定義できます。

- ユーザーの作成時にホームディレクトリを作成する
- ユーザーの作成時にユーザーのホームディレクトリにファイルをコピーする
- ユーザーの削除時にホームディレクトリを削除する

## アカウント属性

次の表に、Solaris ユーザーアカウント属性の一覧を示します。特に記載されていないかぎり、属性は省略可能です。属性の型はすべて **String** です。

アイデンティティシステムユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
accountId	accountId	必須。ユーザーのログイン名。
説明	comment	ユーザーのフルネーム。
ホームディレクトリ	dir	ユーザーのホームディレクトリ。このアカウント属性で指定された値はすべて、「 <b>ホームベースディレクトリ</b> 」リソース属性で指定された値よりも優先されます。
有効期限	expire	アカウントにアクセスできる最終日付。この属性は、NIS アカウントではサポートされていません。
一次グループ	group	ユーザーの一次グループ。
非アクティブ	inactive	アカウントが非アクティブになってからロックされるまでの日数。NIS アカウントではサポートされていません。
二次グループ	secondary_group	ユーザーの二次グループのコンマ区切りリスト。  ロールを有効にしてこの属性をプロビジョニングするには、'csv=true' を <b>Role</b> オブジェクト XML の <b>RoleAttribute</b> 要素に追加する必要があります。
ログインシェル	shell	ユーザーのログインシェル。  NIS マスターにプロビジョニングしている場合、ユーザーシェルの値は NIS マスターのみでチェックされます。ユーザーがログオンする可能性のあるその他のマシンに対するチェックは、実行されません。
前回のログイン日時	time_last_login	最終ログインの日時。この値は読み取り専用です。
ユーザー ID	uid	数字形式でのユーザー ID。
権限	authorization	付与された権限のコンマ区切りリスト。
Profiles	profile	プロファイルのコンマ区切りリスト。
Roles	role	ロールのコンマ区切りリスト。
expirePassword	force_change	ログイン時にユーザーに新しいパスワードを強制的に入力させます。この属性は、デフォルトではスキーママップに一覧表示されていません。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次のネイティブ Solaris オブジェクトをサポートしています。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Group	作成、更新、削除、名前の変更、名前を付けて保存	groupName、gid、users

## アイデンティティテンプレート

`$accountId$`

## サンプルフォーム

### 組み込みのフォーム

- Solaris Group Create Form
- Solaris Group Update Form

### その他の利用可能なフォーム

`SolarisUserForm.xml`

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.SolarisResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.SVIDResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.`

# Sun Access Manager

Identity Manager には、旧バージョンモードで実行されている Sun Java™ System Access Manager をサポートするための Sun Access Manager リソースアダプタが用意されています。

このアダプタは、`com.waveset.adapter.SunAccessManagerResourceAdapter` クラスで定義されます。

- 
- 注**
- Sun Access Manager リソースアダプタは、旧バージョンモードで実行されているリソースに使用します。
  - Sun Access Manager レルムリソースアダプタは、レルムモードで実行されているリソースに使用します。このアダプタについては、[455 ページの「Sun Access Manager レルム」](#)を参照してください。
- 

## リソースを設定する際の注意事項

- 
- 注** Access Manager 7 以降の場合、このアダプタでは旧バージョンモードのみがサポートされます。レルムモードはサポートされません。ただし、旧バージョンモードによる Access Manager 7 をサポートするアダプタの設定については、[455 ページの「Sun Access Manager レルム」](#)アダプタの「リソースを設定する際の注意事項」および「Identity Manager 上で設定する際の注意事項」を参照してください。
- 

Policy Agent は、シングルサインオン (SSO) を有効にするために使用できるオプションモジュールです。使用している環境内でこの製品を使用していない場合は、Policy Agent の設定手順やインストール手順を実行しないでください。

Policy Agent の詳細については、<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1322.1> を参照してください。

次に、Sun Java System Access Manager および Policy Agent のインストールと設定の方法について説明します。

### Sun Java System Access Manager (Access Manager 7.0 より前のバージョン) のインストールと設定

Sun Java System Access Manager を Identity Manager サーバーと同じシステム上にインストールする場合の設定については、[449 ページの「Sun Access Manager リソースアダプタ」](#)を参照してください。Policy Agent を使用する場合の追加情報については、[447 ページの「Policy Agent のインストールと設定」](#)を参照してください。

Access Manager が Identity Manager サーバーとは異なるシステム上にインストールされている場合は、Identity Manager システムで次の手順を実行します。

1. Sun Java System Access Manager サーバーからコピーするファイルを配置するディレクトリを作成します。この手順では、このディレクトリは *CfgDir* という名前にします。Access Manager がインストールされている場所を *AccessMgrHome* とします。
2. 次のファイルを *AccessMgrHome* から *CfgDir* にコピーします。ディレクトリ構造はコピーしないでください。
  - o lib/\*.\*
  - o locale/\*.properties
  - o config/serverconfig.xml
  - o config/SSOConfig.properties (Identity Server 2004Q2 以降)
  - o config/ums/ums.xml
3. UNIX では、全体的な読み取りアクセスを許可するために *CfgDir* 内の jar ファイルのアクセス権を変更しなければならない場合があります。アクセス権を変更するには、次のコマンドを実行します。

```
chmod a+r CfgDir/*.jar
```
4. 次のように JAVA クラスパスを付加します。
  - o Windows の場合 : *CfgDir*; *CfgDir*/am\_sdk.jar; *CfgDir*/am\_services.jar; *CfgDir*/am\_logging.jar
  - o UNIX の場合 : *CfgDir*:*CfgDir*/am\_sdk.jar:*CfgDir*/am\_services.jar:*CfgDir*/am\_logging.jar
5. Identity Server 6.0 を使用する場合は、*CfgDir* を指す Java システムプロパティーを設定します。次のようなコマンドを使用します。

```
java -Dcom.ipplanet.coreservices.configpath=CfgDir
```
6. バージョン 6.1 以降を使用する場合は、*CfgDir*/AMConfig.properties ファイルで、次の行を追加または編集します。

```
com.ipplanet.services.configpath=CfgDir
com.ipplanet.security.SecureRandomFactoryImpl=com.ipplanet.am.util.SecureRandomFactoryImpl

com.ipplanet.security.SSLSocketFactoryImpl=netscape.ldap.factory.JSSESocketFactory

com.ipplanet.security.encryptor=com.ipplanet.services.util.JCEEncryption
```

最初の行では configpath を設定しています。最後の 3 行ではセキュリティー設定を変更しています。

7. `CfgDir/am/*.jar` ファイルを `$WSHOME/WEB-INF/lib` にコピーします。Identity Server 6.0 を使用する場合は、`jss311.jar` ファイルも `$WSHOME/WEB-INF/lib` ディレクトリにコピーします。
8. Identity Manager が Windows 上で稼働している環境で Identity Server 6.0 を使用する場合は、`IdServer\lib\jss\*.dll` を `CfgDir` にコピーし、`CfgDir` をシステムパスに追加します。

---

**注** Identity Manager が Access Manager とは異なるシステム上にインストールされている環境では、以降のエラー条件を確認してください。Access Manager リソースへの接続時にエラー `java.lang.ExceptionInInitializerError` が返され、それに続く試行で `java.lang.NoClassDefFoundError` が返される場合は、設定データに誤りまたは欠落がないか確認します。

また、`java.lang.NoClassDefFoundError` で示されたクラスの `jar` ファイルも確認します。そのクラスが含まれている `jar` ファイルのクラスパスを、アプリケーションサーバーの JAVA クラスパスに付加します。

---

手順 6 で示されたすべてのデータが `CfgDir` に含まれていること、およびすべての設定プロパティが正しく割り当てられていることを確認します。

このリソース用の Identity Manager の準備についての詳細は、449 ページの「Sun Access Manager リソースアダプタ」を参照してください。

## Sun Java System Access Manager (バージョン 7.0 以降) のインストールと設定

旧バージョンモードによる Access Manager 7 をサポートするアダプタの設定については、455 ページの「Sun Access Manager レルム」アダプタの「リソースを設定する際の注意事項」および「Identity Manager 上で設定する際の注意事項」を参照してください。

## Policy Agent のインストールと設定

Identity Manager サーバーに適切な Access Manager Policy Agent をインストールします。Policy Agent は次の場所から入手できます。

[http://www.sun.com/software/download/inter\\_ecom.html#dirserv](http://www.sun.com/software/download/inter_ecom.html#dirserv)

Policy Agent に付属するインストール手順書に従ってください。その後、次に示す作業を実行します。

## AMAgent.properties ファイルの編集

Identity Manager を保護できるように AMAgent.properties ファイルを変更します。  
このファイルは次のディレクトリにあります。

- Windows の場合 : %AgentInstallDir%\es6\config\\_PathInstanceName%
- UNIX の場合 : /etc/opt/SUNWam/agents/es6/config/\_PathInstanceName/

必ず、前述したディレクトリにあるファイルを使用してください。  
AgentInstallDir\config ディレクトリにあるファイルは使用しないでください。

1. AMAgent.properties ファイル内の次の行を見つけます。

```
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.enable = false
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.name[0] =
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.domain[] =
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.path[] =
```

これらの行を次のように編集します。

```
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.enable = true
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.name[0] = AMAuthCookie
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.domain[0] = .example.com
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.path[0] = /
```

2. 次の行を追加します。

```
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.name[1] =
iPlanetDirectoryPro
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.domain[1] = .example.com
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.path[1] = /
```

3. 次の行を見つけます。

```
com.sun.identity.agents.config.profile.attribute.fetch.mode = NONE
com.sun.identity.agents.config.profile.attribute.mapping[] =
```

これらの行を次のように編集します。

```
com.sun.identity.agents.config.profile.attribute.fetch.mode =
HTTP_HEADER
com.sun.identity.agents.config.profile.attribute.mapping[uid] =
sois_user
```

4. 変更を有効にするために、Web サーバーを再起動します。

## Access Manager のポリシーの作成

1. Access Manager 上で、次の規則を設定した IDMGR という名前 (または類似する名前) の新しいポリシーを作成します。

サービスのタイプ	リソース名	アクション
URL ポリシー エージェント	http://server:port/idm	GET アクションと POST アクションを許可します
URL ポリシー エージェント	http://server:port/idm/*	GET アクションと POST アクションを許可します

2. 1つ以上の主体を IDMGR ポリシーに割り当てます。

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

ここでは、Sun Access Manager リソースアダプタおよび Policy Agent のインストールと設定の注意点について説明します。

### Sun Access Manager リソースアダプタ

Access Manager が Identity Manager サーバーとは異なるシステムにインストールされている場合は、[445 ページ](#)の「[Sun Java System Access Manager \(Access Manager 7.0 より前のバージョン\)](#)のインストールと設定」に示されている手順を実行します。

それ以外の場合は、*AccessMgrHome/lib/am\_\*.jar* ファイルを `$WSHOME/WEB-INF/lib` にコピーします。Identity Server 6.0 を使用する場合は、*js311.jar* ファイルも `$WSHOME/WEB-INF/lib` ディレクトリにコピーします。

ファイルのコピーが終了したら、Access Manager リソースを Identity Manager リソースリストに追加するため、「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加します。

```
com.waveset.adapter.SunAccessManagerResourceAdapter
```

### Policy Agent

Access Manager ログインモジュールが最初に表示されるように、管理者およびユーザーのログインモジュールを変更します。

---

**注**                   この手順を実行する前に、Access Manager リソースを設定してください。

---

1. Identity Manager 管理者インタフェースのメニューバーで、「セキュリティ」を選択します。

2. 「ログイン」タブをクリックします。
3. ページの下部にある「ログインモジュールグループの管理」ボタンをクリックします。
4. 変更するログインモジュールを選択します。たとえば、「アイデンティティシステムのデフォルトの ID/ パスワード ログインモジュールグループ」を選択します。
5. 「ログインモジュールの割り当て」選択ボックスで、「Sun Access Manager ログインモジュール」を選択します。
6. 「ログインモジュールの割り当て」オプションの横に新しく「選択」オプションが表示されたら、適切なリソースを選択します。
7. 「ログインモジュールの修正」ページが表示されたら、表示されているフィールドを必要に応じて編集し、「保存」をクリックします。「ログインモジュールグループの修正」がもう一度表示されます。
8. モジュールグループの最初のリソースとして「Sun Access Manager ログインモジュール」を指定し、「保存」をクリックします。

## 使用上の注意

WebLogic の下で Identity Manager を実行している環境で、Access Manager で行われたネイティブ変更が Identity Manager に表示されない場合は、weblogic.jar の前のクラスパスに am\_services.jar を追加します。

複数のプロトコルハンドラがある場合は、次のようにプロトコルハンドラを設定します。

```
java.protocol.handler.pkgs=com.iplanet.services.comm|sun.net.  
www.protocol
```

## セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と、基本タスクの実行に必要な認証要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL 経由の JNDI を使用してこのアダプタと通信します。

## 必要な管理特権

Access Manager に接続するユーザーに、ユーザーアカウントを追加または変更するためのアクセス権を付与してください。

## プロビジョニングに関する注意事項

ここでは、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を表に示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可。 シングルサインオンには Web Proxy Agent が必要です。
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、デフォルトでサポートされる Access Manager ユーザーアカウント属性の一覧を示します。特に記載されていないかぎり、属性はすべて省略可能です。

リソースユーザー属性	リソース属性タイプ	説明
cn	String	必須。ユーザーのフルネーム。
dynamicSubscriptionGroups	String	ユーザーが登録されている動的グループのリスト。
employeeNumber	Number	ユーザーの従業員番号。
givenname	String	ユーザーの名。
iplanet-am-user-account-life	Date	ユーザーアカウントが期限切れになる日時。この値が設定されていない場合、アカウントは期限切れになりません。
iplanet-am-user-alias-list	String	ユーザーに適用される可能性がある別名のリスト。
iplanet-am-user-failure-url	String	認証の失敗時にユーザーがリダイレクトされる URL。

リソースユーザー属性	リソース属性タイプ	説明
iplanet-am-user-success-url	String	認証の成功時にユーザーがリダイレクトされる URL。
mail	Email	ユーザーの電子メールアドレス。
postalAddress	String	ユーザーの自宅住所。
roles	String	ユーザーに割り当てられたロールのリスト。
sn	String	ユーザーの姓。
staticSubscriptionGroups	String	ユーザーが登録されている静的グループのリスト。
telephoneNumber	String	ユーザーの電話番号。
uid	String	必須。ユーザーの一意のユーザー ID。
userPassword	Password	必須。ユーザーのパスワード。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次の Access Manager オブジェクトをサポートしています。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Role	表示、更新、削除	cn、iplanet-am-role-aci-description、iplanet-am-role-description、iplanet-am-role-type、accountMembers
Static subscription group	表示、作成、更新、削除、名前を付けて保存	cn、iplanet-am-group-subscribable、uniqueMember
Filtered group	表示、作成、更新、削除、名前を付けて保存	cn、accountMembers、membershipFilter
Dynamic subscription group	表示、作成、更新、削除、名前を付けて保存	cn、accountMembers、iplanet-am-group-subscribable
Organization	表示、作成、削除、名前を付けて保存、検索	o

# アイデンティティテンプレート

デフォルトのアイデンティティテンプレートは次のとおりです。

```
uid=$uid$,ou=People,dc=MYDOMAIN,dc=com
```

デフォルトのテンプレートを有効な値に置き換えてください。

## サンプルフォーム

ここでは、組み込みのサンプルフォームと、Sun Access Manager リソースアダプタで利用できるその他のサンプルフォームの一覧を示します。

### 組み込みのフォーム

- Sun Java System Access Manager Update Static Group Form
- Sun Java System Access Manager Update Role Form
- Sun Java System Access Manager Update Organization Form
- Sun Java System Access Manager Update Filtered Group Form
- Sun Java System Access Manager Update Dynamic Group Form
- Sun Java System Access Manager Create Static Group Form
- Sun Java System Access Manager Create Role Form
- Sun Java System Access Manager Create Organization Form
- Sun Java System Access Manager Create Filtered Group Form
- Sun Java System Access Manager Create Dynamic Group Form

### その他の利用可能なフォーム

```
SunAMUserForm.xml
```

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.SunAccessManagerResourceAdapter
```



# Sun Access Manager レルム

Identity Manager には、レルムモードで実行されている Sun™ Java System Access Manager をサポートするための Sun Java System Access Manager レルムリソースアダプタが用意されています。

このアダプタは、`com.waveset.adapter.SunAccessManagerRealmResourceAdapter` クラスで定義されます。

- 
- 注**
- Sun Access Manager レルムリソースアダプタは、レルムモードで実行されているリソースに使用します。
  - Sun Access Manager リソースアダプタは、旧バージョンモードで実行されているリソースに使用します。このアダプタについては、[445 ページの「Sun Access Manager」](#)を参照してください。
- 

## リソースを設定する際の注意事項

レルムモードでも旧バージョンモードでも、設定できるのは、1つの Access Manager サーバーだけです。異なるレルムのプロビジョニングを行う場合は、複数のリソースを定義できます。

Identity Server Policy Agent は、シングルサインオン (SSO) を有効にするために使用できるオプションモジュールです。この Policy Agent は次の場所から入手できます。

[http://www.sun.com/software/download/inter\\_ecom.html#dirserv](http://www.sun.com/software/download/inter_ecom.html#dirserv)

- 
- 注**      使用している環境内でこの製品を使用していない場合は、Policy Agent のインストール手順や設定手順を実行しないでください。

Policy Agent の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1322.1>

---

Identity Manager がインストールされているサーバーと同じサーバー上に Identity Server Policy Agent をインストールします。

Policy Agent をインストールするには、Policy Agent に付属するインストール手順書に従います。その後、次の作業を実行します。

1. AMAgent.properties ファイルを編集します。
2. Sun Java System Access Manager でポリシーを作成します。

## AMAgent.properties ファイルの編集

Identity Manager を保護するように AMAgent.properties ファイルを変更します。このファイルは AgentInstallDir/config ディレクトリにあります。

1. `AMAgent.properties` ファイル内の次の行を見つけます。

```
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.enable = false
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.name[0] =
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.domain[] =
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.path[] =
```

これらの行を次のように編集します。

```
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.enable = true
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.name[0] = AMAuthCookie
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.domain[0] = .example.com
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.path[0] = /
```

2. 次の行を追加します。

```
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.name[1] =
iPlanetDirectoryPro
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.domain[1] = .example.com
com.sun.identity.agents.config.cookie.reset.path[1] = /
```

3. 次の行を見つけます。

```
com.sun.identity.agents.config.profile.attribute.fetch.mode = NONE
com.sun.identity.agents.config.profile.attribute.mapping[] =
```

これらの行を次のように編集します。

```
com.sun.identity.agents.config.profile.attribute.fetch.mode =
HTTP_HEADER
com.sun.identity.agents.config.profile.attribute.mapping[uid] =
sois_user
```

4. 変更を有効にするために、Web サーバーを再起動します。

## Sun Java System Access Manager のポリシーの作成

1. Sun Java System Access Manager 上で、次の規則を設定した IDMGR という名前 (または類似する名前) の新しいポリシーを作成します。

サービスのタイプ	リソース名	アクション
URL ポリシーエージェント	<code>http://server:port/idm</code>	GET アクションと POST アクションを許可します
URL ポリシーエージェント	<code>http://server:port/idm/*</code>	GET アクションと POST アクションを許可します

2. 1 つ以上の主体を IDMGR ポリシーに割り当てます。

# Identity Manager 上で設定する際の注意事項

ここでは、Sun Java System Access Manager レルムリソースアダプタおよび Policy Agent のインストールと設定の注意点について説明します。

## 一般的な設定

次の手順に従って、リソースアダプタのインストールと設定を行います。

1. 適切なバージョンの『Sun Java™ System Access Manager Developer's Guide』に記載された手順に従って、Sun Access Manager のインストールからクライアント SDK を構築します。

2. 生成される war ファイルから AMConfig.properties ファイルと amclientsdk.jar ファイルを抽出します。

3. 次のディレクトリに AMConfig.properties をコピーします。

```
InstallDir/WEB-INF/classes
```

4. 次のディレクトリに amclientsdk.jar をコピーします。

```
$WSHOME/WEB-INF/lib
```

5. サーバーのクラスパスに amclientsdk.jar ファイルを追加します。

6. Identity Manager アプリケーションサーバーを再起動します。

7. ファイルのコピーが終了したら、Sun Java System Access Manager レルムリソースを Identity Manager リソースリストに追加します。「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加します。

```
com.waveset.adapter.SunAccessManagerRealmResourceAdapter
```

## ログインモジュール

Sun Java System Access Manager ログインモジュールが最初に表示されるように、管理者およびユーザーのログインモジュールを変更します。

---

**注** 次の手順を実行する前に、まず、Sun Java System Access Manager レルムリソースを設定してください。

---

1. Identity Manager 管理者インタフェースのメニューバーで、「セキュリティ」を選択します。
2. 「ログイン」タブをクリックします。
3. ページの下部にある「ログインモジュールグループの管理」ボタンをクリックします。

4. 変更するログインモジュールを選択します。たとえば、「アイデンティティシステムのデフォルトの ID/ パスワード ログインモジュールグループ」を選択します。
5. 「ログインモジュールの割り当て」選択ボックスで、「Sun Access Manager レルム ログインモジュール」を選択します。
6. 「ログインモジュールの割り当て」オプションの横に新しく「選択」オプションが表示されたら、適切なリソースを選択します。
7. 「ログインモジュールの修正」ページが表示されたら、表示されているフィールドを必要に応じて編集し、「保存」をクリックします。「ログインモジュールグループの修正」がもう一度表示されます。
8. モジュールグループの最初のリソースとして「Sun Access Manager レルム ログインモジュール」を指定し、「保存」をクリックします。
9. Identity Manager からログアウトします。

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と、基本タスクの実行に必要な認証要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL を使用してこのアダプタと通信します。

### 必要な管理特権

Sun Java System Access Manager に接続するユーザーに、ユーザーアカウントを追加または変更するためのアクセス権を付与してください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可。Policy Agent 経由。
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、デフォルトでサポートされる Sun Java System Access Manager ユーザーアカウント属性の一覧を示します。特に記載されていないかぎり、属性はすべて省略可能です。

リソースユーザー属性	リソース属性タイプ	説明
uid	String	必須。ユーザーの一意のユーザー ID。
cn	String	必須。ユーザーのフルネーム
givenname	String	ユーザーの名
sn	String	ユーザーの姓
mail	Email	ユーザーの電子メールアドレス
employeeNumber	Number	ユーザーの従業員番号
telephoneNumber	String	ユーザーの電話番号
postalAddress	String	ユーザーの自宅住所
iplanet-am-user-account-life	Date	ユーザーのアカウントが期限切れになる日時
iplanet-am-user-alias-list	String	ユーザーの別名のリスト
iplanet-am-user-success-url	String	認証の成功時にユーザーがリダイレクトされる URL
iplanet-am-user-failure-url	String	認証の失敗時にユーザーがリダイレクトされる URL
roleMemberships	String	ユーザーが登録されているロールのリスト

リソースユーザー属性	リソース属性タイプ	説明
groupMemberships	String	ユーザーが登録されているグループのリスト

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、次の Sun Java System Access Manager オブジェクトをサポートしています。

リソースオブジェクト	サポートされる機能	管理される属性
Groups	表示、作成、更新、削除	name、user members
Roles	表示、作成、更新、削除	name、user members
Filtered Roles	表示、作成、更新、削除	name、nsrolefilter

## アイデンティティテンプレート

デフォルトのアイデンティティテンプレートは \$accountId\$ です。

## サンプルフォーム

ここでは、組み込みのサンプルフォームと、Sun Java System Access Manager レルムリソースアダプタで利用できるその他のサンプルフォームの一覧を示します。

### 組み込みのフォーム

- Sun Access Manager Realm Create Role Form
- Sun Access Manager Realm Update Role Form
- Sun Access Manager Realm Create Filtered Role Form
- Sun Access Manager Realm Update Filtered Role Form
- Sun Access Manager Realm Create Group Form
- Sun Access Manager Realm Update Group Form

### その他の利用可能なフォーム

SunAMRealmUserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスにトレースオプションを設定します。

```
com.waveset.adapter.SunAccessManagerRealmResourceAdapter
```



# Sun Java System Communications Services

Identity Manager には、Sun Java™ System Messaging Server (Messaging Server) および Sun Java™ System Calendar Server (Calendar Server) をサポートするための Sun Java™ System Communications Services リソースアダプタが用意されています。これらのシステムには LDAP スキーマ 2 を実装してください。また、ユーザストアには Sun Java™ System Directory Server を使用してください。

Sun Java™ System Communications Services リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.SunCommunicationsServicesResourceAdapter` クラスで定義されます。

このアダプタは、LDAP リソースアダプタを拡張します。あとのトピックに示す LDAP 固有の機能の実装については、LDAP アダプタのマニュアルを参照してください。

Communications Services アダプタは、標準の Directory Server インストールのプロビジョニングサービスを提供します。また、Directory Server のレプリケーションの更新履歴ログを読み取り、それらの変更を Identity Manager ユーザーやカスタムワークフローに適用することもできます。

## リソースを設定する際の注意事項

Communications Services アダプタで使用するための Sun Java™ System Directory Server リソースを設定するには、サーバーを設定して更新履歴ログを有効にし、変更者情報の追跡を有効にします。この操作は、ディレクトリサーバーの設定タブで行います。

1. 「レプリケーション」フォルダをクリックし、更新履歴ログを有効にします。5.0 以降のサーバーでは、RetroChangelog スナップインも有効にします。設定タブで、プラグインオブジェクトに移動し、旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインを選択して有効にします。
2. 新しく作成または変更したエントリの特異な属性を管理するようにサーバーが設定されていることを確認するには、Directory Server コンソールで、「設定」をクリックし、左側の区画でナビゲーションツリーのルートエントリを選択します。
3. 「設定」をクリックし、「エントリの変更時間を記録」ボックスにチェックマークが付いていることを確認します。

サーバーは、イベントが Identity Manager から起動されたかどうかを判断するために、新しく作成または変更したエントリに、次の属性を追加します。

- **creatorsName:** そのエントリを最初に作成したユーザーの DN。
- **modifiersName:** そのエントリを最後に変更したユーザーの DN。

# Identity Manager 上で設定する際の注意事項

このリソースでは、追加のインストール手順は必要ありません。

## 使用上の注意

### サービスアカウント

管理アカウントの CN=Directory Manager を使用するのではなく、Communications Services に接続するための Identity Manager サービスアカウントを作成します。Directory Server 管理ツールを使用して、各ベースコンテキストで ACI (アクセス制御命令) を介してアクセス権を設定します。

ACI でのアクセス権をソースに基づいて設定します。アダプタからアイデンティティ情報の源泉となるソースに接続する場合は、読み取り、検索、および (場合によっては) 比較のアクセス権のみを設定します。アダプタを書き戻し用に使用する場合は、書き込みと (場合によっては) 削除のアクセス権を設定します。

---

**注** 更新履歴ログの監視にアカウントを使用する場合は、cn=changelog で ACI も作成するようにしてください。更新履歴ログのエントリに対しては書き込みも削除もできないため、アクセス権は読み取りと検索のみに設定するとよいでしょう。

---

waveset.properties ファイル内の sources.ResourceName.hosts プロパティを使用して、Active Sync を使用してリソースの同期を行うのにクラスタ内のどのホストを使用するかを制御できます。ResourceName は、リソースオブジェクトの名前に置き換えてください。

### 前アクションと後アクション

Sun Communications Services リソースアダプタは、前アクションと後アクションを実行しません。代わりに、リソースウィザードの「アクションプロキシリソースアダプタ」フィールドを使用して、アクションを実行するように設定されたプロキシリソースアダプタを指定できます。

次のサンプルスクリプトは、ユーザーの作成後にプロキシリソースで実行できます。

```
SET PATH=c:¥Sun¥Server-Root¥lib
SET SYSTEMROOT=c:¥winnt
SET CONFIGROOT=C:/Sun/Server-Root/Config
mbxutil -c -P user/¥WSUSER_accountId%.*
```

次のサンプルスクリプトは、ユーザーが削除されたときに、そのユーザーのメールボックスを削除します

```
SET PATH=c:\Sun\Server-Root\lib
SET SYSTEMROOT=c:\winnt
SET CONFIGROOT=C:/Sun/Server-Root/Config
mboxutil -d -P user/%WSUSER_accountId%.*
```

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、TCP/IP または SSL 経由の Java Naming and Directory Interface (JNDI) を使用して Communications Services アダプタと通信します。

- TCP/IP を使用する場合は、リソース編集ページでポート 389 を指定します。
- SSL を使用する場合は、ポート 636 を指定します。

### 必要な管理特権

「ユーザー DN」リソースパラメータに値 `cn=Directory Manager` を指定すると、Identity Manager 管理者には、アカウント管理に必要なアクセス権が付与されます。別の識別名を指定する場合は、そのユーザーに、ユーザーの読み取り、書き込み、削除、および追加のアクセス権を付与してください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可。ただし、プロキシリソースアダプタを指定できます。

機能	サポート状況
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>リソースから直接インポート</li> <li>リソースの調整</li> <li>Active Sync</li> </ul>

## アカウント属性

属性がサポートされるかどうかは、通常、属性の構文 (または型) によって決まります。一般に、Identity Manager は boolean 型、文字列型、整数型、およびバイナリ型の構文をサポートします。バイナリ属性は、バイト配列としてのみ安全に表現できる属性です。

次の表に、サポートされている LDAP 構文の一覧を示します。ほかの LDAP 構文でも、事実上 boolean 型、文字列型、または整数型であれば、サポートされる可能性があります。オクテット文字列はサポートされません。

LDAP 構文	属性タイプ	オブジェクト ID
Audio	Binary	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.4
Binary	Binary	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.5
Boolean	Boolean	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.7
Country String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.11
DN	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.12
Directory String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15
Generalized Time	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.24
IA5 String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.26
Integer	Int	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.27
Postal Address	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.41
Printable String	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.44
Telephone Number	String	1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.50

## デフォルトのアカウント属性

次の属性は、Communications Services リソースアダプタの「アカウント属性」ページに表示されます。特に記載されていないかぎり、属性の型はすべて String です。

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
accountId	uid	ユーザー ID
accountId	cn	必須。ユーザーのフルネーム。
パスワード	userPassword	暗号化されています
firstname	givenname	ユーザーの名。
lastname	sn	必須。ユーザーの姓。
email	mail	ユーザーの完全修飾電子メールアドレス。
modifyTimeStamp	modifyTimeStamp	ユーザーエントリが変更された日時を示します。  デフォルトでは、この属性は Sun Communications Services アダプタでのみ表示されます。
objectClass	objectClass	変更を監視するオブジェクトクラス。
alternateEmail	mailalternateaddress	この受信者の代替電子メールアドレス。
mailDeliveryOption	maildeliveryoption	メール受信者の配信オプションを指定します。インバウンドメッセージの複数の配信経路をサポートするために、ユーザーエントリまたはグループエントリに、1 つ以上の値を指定できます。この属性が inetMailGroup または inetMailUser で使用されるかどうかによって、値の適用方法が異なります
mailHost	mailhost	この受信者に送信されたメッセージの最終宛先となる、メール転送エージェント (MTA) の完全修飾ホスト名。
mailForwardingAddress	mailforwardingaddress	インバウンドメッセージ用の 1 つ以上の転送アドレスを指定します。
inetUserStatus	inetuserstatus	グローバルサーバーアクセスに関するユーザーのアカウントのステータス。取り得る値は active、inactive、または deleted です。

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソースユーザー属性	説明
mailQuota	mailquota	ユーザーのメールボックスに許可されたディスク容量(バイト単位)。
mailAutoReplySubject	mailautoreplysubject	自動返信応答の件名として使用されるテキスト。
mailAutoReplyText	mailautoreplytext	受信者のドメイン内のユーザーを除くすべての送信者に送信された自動返信テキスト。
mailAutoReplyTextInternal	mailautoreplytextinternal	受信者のドメインから送信者に送信された自動返信テキスト。
vacationStartDate	vacationstartdate	不在返信開始日時 (YYYYMMDDHHMMSSZ 形式)。
vacationEndDate	vacationenddate	不在返信終了日時 (YYYYMMDDHHMMSSZ 形式)。
mailAutoReplyMode	mailautoreplymode	ユーザーのメールアカウントの自動返信モード。取り得る値は echo と reply です。

## デフォルトでサポートされるオブジェクトクラス

デフォルトでは、Sun Java System Communications Services リソースアダプタは、LDAP ツリーに新しいユーザーオブジェクトを作成するときに次のオブジェクトクラスを使用します。ほかのオブジェクトクラスが追加される場合もあります。

- top
- person
- inetUser
- organizationalPerson
- inetOrgPerson
- ipUser
- userPresenceProfile
- iplanet-am-managed-person
- inetMailUser
- inetLocalMailRecipient
- icscalendaruser

## top オブジェクトクラス

top オブジェクトクラスには、デフォルトでアカウント属性として表示される objectClass 属性を含めます。top オブジェクトクラスは、person などのいくつかのオブジェクトクラスによって拡張されます。

## person オブジェクトクラス

次の表に、LDAP person オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。

リソース ユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
description	Directory string	String	ユーザーの特定の関心事についての簡潔でわかりやすい説明
seeAlso	DN	String	ほかのユーザーへの参照。
telephoneNumber	Telephone number	String	第一電話番号

## inetUser オブジェクトクラス

inetUser オブジェクトクラスは、ユーザーアカウント、またはサービスが提供される任意のオブジェクトとして定義されたリソースアカウントを表します。メールアカウントを作成するために inetMailUser および ipUser とともに使用されます。ユーザーアカウントを作成するときに、このオブジェクトクラスは inetOrgPerson によって作成されたベースエントリを拡張します。

次の表に、inetUser オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。

リソース ユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
inetUserStatus	Directory string	String	グローバルサーバーアクセスに関するユーザーのアカウントのステータスを指定します。取り得る値は active、inactive、および deleted です。

## organizationalPerson オブジェクトクラス

次の表に、LDAP organizationalPerson オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。このオブジェクトクラスは、Person オブジェクトクラスから属性を継承することもできます。

リソースユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
destinationIndicator	Printable string	String	この属性は、電報サービスに使用されます。
facsimileTelephoneNumber	Facsimile telephone number	String	第一 FAX 番号。
internationaliSDNNumber	Numeric string	String	オブジェクトに関連付けられた国際 ISDN 番号を指定します。
l	Directory string	String	都市、国、その他の地理的領域などの地域の名前
ou	Directory string	String	組織単位の名前
physicalDeliveryOfficeName	Directory string	String	配達物の送付先となるオフィス。
postalAddress	Postal address	String	ユーザーの勤務先オフィスの所在地。
postalCode	Directory string	String	郵便配達用の郵便番号。
postOfficeBox	Directory string	String	このオブジェクトの私書箱番号。
preferredDeliveryMethod	Delivery method	String	受取人への優先される送付方法
registeredAddress	Postal Address	String	受信者に配達を受け入れてもらう必要がある電報や速達文書の受け取りに適した郵便の宛先。
st	Directory string	String	州名または都道府県名。
street	Directory string	String	郵便の宛先の番地部分。
teletexTerminalIdentifier	Teletex Terminal Identifier	String	オブジェクトに関連付けられたテレックス端末の識別子
telexNumber	Telex Number	String	国際表記法によるテレックス番号
title	Directory string	String	ユーザーの役職を格納します。このプロパティは、一般に、プログラマーのような職種ではなく、「シニアプログラマー」のような正式な役職を示すために使用されます。通常、Esq. や DDS などの敬称には使用されません。

リソースユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
x121Address	Numeric string	String	オブジェクトの X.121 アドレス。

## inetOrgPerson オブジェクトクラス

次の表に、LDAP inetOrgPerson オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。このオブジェクトクラスは、organizationalPerson オブジェクトクラスから属性を継承することもできます。

リソースユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
audio	Audio	Binary	オーディオファイル。
businessCategory	Directory string	String	組織で実施されているビジネスの種類。
carLicense	Directory string	String	自動車の登録番号 (ナンバープレート)
departmentNumber	Directory string	String	組織内の部署を特定します
displayName	Directory string	String	エントリを表示するときに優先的に使用されるユーザーの名前
employeeNumber	Directory string	String	組織内の従業員を数値で示します
employeeType	Directory string	String	従業員、契約社員などの雇用形態
homePhone	Telephone number	String	ユーザーの自宅電話番号。
homePostalAddress	Postal address	String	ユーザーの自宅住所。
initials	Directory string	String	ユーザーのフルネームの各部のイニシャル
jpegPhoto	JPEG	Binary	JPEG 形式のイメージ。
labeledURI	Directory string	String	ユーザーに関連付けられた URI (Universal Resource Indicator) とオプションのラベル。
mail	IA5 string	String	1 つ以上の電子メールアドレス。
manager	DN	String	ユーザーのマネージャーのディレクトリ名。

リソースユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
mobile	Telephone number	String	ユーザーの携帯電話番号。
o	Directory string	String	組織の名前。
pager	Telephone number	String	ユーザーのポケットベル番号。
preferredLanguage	Directory string	String	優先される、ユーザーの書き言葉または話し言葉の言語。
roomNumber	Directory string	String	ユーザーのオフィスまたは部屋の番号。
secretary	DN	String	ユーザーの管理補佐のディレクトリ名。
userCertificate	certificate	Binary	バイナリ形式の証明書。

## ipUser

ipUser オブジェクトクラスは、個人用アドレス帳コンテナとサービス指定子のクラスへの参照を保持します。

次の表に、ipUser オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。

リソースユーザー属性	構文	属性タイプ	説明
inetCoS	String、multi-valued	String	ユーザーエントリの属性に値を供給するサービスクラス (CoS) テンプレートの名前を指定します。
memberOfPAB	String、multi-valued	String	このエントリが属する個人用アドレス帳の一意名。
maxPabEntries	Integer、single-valued	Integer	ユーザーが個人用アドレス帳ストアに保持できる個人用アドレス帳エントリの最大数。
pabURI	String、single valued	String	このユーザーの個人用アドレス帳エントリのコンテナを指定する LDAP URI。

## userPresenceProfile

userPresenceProfile オブジェクトクラスは、ユーザーのプレゼンス情報を格納します。

このオブジェクトクラスには、デフォルトのアカウント属性として存在する vacationStartDate 属性と vacationEndDate 属性が含まれることもあります。

## iplanet-am-managed-person

iplanet-am-managed-person オブジェクトクラスには、Sun Java™ System Access Manager がユーザーの管理に必要とする属性が含まれます。

次の表に、ipUser オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。

リソース ユーザー属性	構文	属性タイプ	説明
iplanet-am-modifiable-by	DN、multi-valued	String	ユーザーエントリを変更できるアクセス権を持つ管理者のロール DN。
iplanet-am-role-aci-description	String、multi-valued	String	ロールに所属する ACI の説明。
iplanet-am-static-group-dn	DN、multi-valued	String	ユーザーが所属する静的グループの DN を定義します。
iplanet-am-user-account-life	Date string、single-valued	String	アカウントの有効期限を次の形式で指定します。 yyyy/mm/dd hh:mm:ss

## inetMailUser

inetMailUser は、メッセージングサービスのユーザーを定義するために inetOrgPerson によって作成されたベースエントリを拡張します。メールアカウントを表し、inetUser および inetLocalMailRecipient とともに使用されます。

次の表に、inetMailUser オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。

リソース ユーザー属性	構文	属性タイプ	説明
dataSource	String、single-valued	String	タグまたは識別子を格納するテキストフィールド。

リソース ユーザー属性	構文	属性タイプ	説明
mailAllowedServiceAccess	String、 single-valued	String	アクセスフィルタ (規則) を格納します。
mailAntiUBEService	String、 multi-valued	String	迷惑メールを処理するプログラムに関する指示。
mailAutoReplyTimeOut	Integer、 single-valued	Integer	任意のメール送信者への連続自動返信応答の間隔 (時間単位)。
mailConversionTag	String、 multi-valued	String	ユーザーエントリまたはグループエントリの一意の変換動作を指定するメソッド。
mailDeferProcessing	String、 single-valued	String	現在のユーザーエントリまたはグループエントリのアドレス拡張をすぐに実行するか、保留するかを制御します。
mailEquivalentAddress	String、 multi-valued	String	メールルーティングに関しては <b>mailAlternateAddress</b> と同じですが、この属性ではヘッダーは書き換えられません。
mailMessageStore	String、 single-valued	String	ユーザーのメッセージストアパーティション名を指定します。
mailMsgMaxBlocks	Integer、 single-valued	Integer	このユーザーまたはグループに送信できる最大メッセージサイズ (MTA ブロック数単位)。
mailMsgQuota	Integer、 single-valued	Integer	ユーザーに許可される最大メッセージ数
mailProgramDeliveryInfo	String、 multi-valued	String	プログラムの配信に使用される 1 つ以上のプログラムを指定します。
mailSieveRuleSource	String、 multi-valued	String	ユーザーエントリに対するメッセージフィルタスクリプトの作成に使用される SIEVE 規則 (RFC 3028 に準拠) が含まれます。
mailSMTPSubmitChannel	String、 single-valued	String	この属性は、保証付きメッセージ配信の設定、またはその他の特別なサービスクラスの設定に関連する要因となります。

リソース ユーザー属性	構文	属性タイプ	説明
mailUserStatus	String、 single-valued	String	メールユーザーの現在のステータス。active、inactive、deleted、hold、overquota、removed のいずれかにできます。
nswmExtendedUserPrefs	String、 multi-valued	String	ソート順序とメール送信者アドレスなど、Messenger Express の設定を定義するペアを保持します。

## inetLocalMailRecipient

inetLocalMailRecipient オブジェクトクラスは、ローカルの電子メール受信者を表す LDAP エントリの指定、受信者の電子メールアドレスの指定、および受信者に関するルーティング情報の提供を行う方法を示す情報を格納します。

次の表に、inetLocalMailRecipient オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。このオブジェクトクラス内のほかの属性はすべて、デフォルトでアカウント属性として存在しています。

リソース ユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
mailRoutingAddress	String、 single-valued	String	mailHost と一緒に使用して、現時点でアドレスを使用するか、別のシステムに転送するかを決定します。

## icsCalendarUser

icsCalendarUser オブジェクトクラスは、Calendar Server ユーザーを定義します。

次の表に、icsCalendarUser オブジェクトクラスで定義される追加のサポート対象属性の一覧を示します。このオブジェクトクラス内のほかの属性はすべて、デフォルトでアカウント属性として存在しています。

リソース ユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
icsAllowedServiceAccess	String、 single-valued	String	ユーザーのカレンダーサービスを無効にします。

リソース ユーザー属性	LDAP 構文	属性タイプ	説明
icsCalendar	String、 single-valued	String	ユーザーまたはリソースのデフォルトの カレンダーの ID (calid)。Calendar Manager の必須属性です。
icsCalendarOwned	String、 multi-valued	String	このユーザーが所有するカレンダー。
icsDWPHost	String、 single-valued	String	DWP (Database Wire Protocol) ホスト名を 格納します。これにより、カレンダー ID は、カレンダーとそのデータを格納する DWP サーバーに解決されます。
icsExtendedUserPrefs	String、 multi-valued	String	カレンダーのユーザー設定の拡張。
icsFirstDay	String、 single-valued	Integer	ユーザーのカレンダーに表示される週の最 初の日。
icsSet	String、 multi-valued	String	カレンダーの 1 グループを定義します。こ の属性の値は 6 つの部分からなる文字列 で、各部分はドル記号 (\$) で区切られま す。
icsStatus	String、 single-valued	String	この属性は、カレンダーサービスをドメイ ンに割り当てるときに設定します。取り 得る値は active、inactive、および deleted です。
icsSubscribed	String、 multi-valued	String	このユーザーが登録しているカレンダーの リスト。
icsTimezone	String	String	ユーザー設定で明示的に指定されていな い場合に、このユーザーカレンダーまたは リソースカレンダーで使用するデフォルト のタイムゾーン。
preferredLanguage	String、 single-valued	String	優先される、ユーザーの書き言葉または 話し言葉の言語。

## リソースオブジェクトの管理

Identity Manager は、デフォルトで次の LDAP オブジェクトをサポートします。文字列ベース、整数ベース、またはブールベースの属性も管理できます。

リソースオブジェクト	オブジェクトクラス	サポートされる機能	管理される属性
Group	groupOfUniqueNames	作成、更新、削除、 名前の変更、名前を 付けて保存、検索	cn、description、 owner、 uniqueMember
	iplanet-am-managed-group		
	iplanet-am-managed-filtered-group		
	iplanet-am-managed-assignable-group		
	iplanet-am-managed-static-group		
	inetMailGroup		
	inetLocalRecipient		
Domain	domain	検索	dc
	organization		
	inetdomainauthinfo		
	sunManagedOrganization'		
	sunNameSpace		
	mailDomain'		
	icsCalendarDomain		
Organizational Unit	organizationalUnit	作成、名前の変更、 名前を付けて保存、 検索	ou
	iplanet-am-managed-people-container		
Organization	organization	作成、名前の変更、 名前を付けて保存、 検索	o

## アイデンティティテンプレート

なし。有効な値を持つアイデンティティテンプレートを設定してください。

## サンプルフォーム

- Sun Java System Communications Services ActiveSync Form
- Sun Java System Communications Services Create Group Form
- Sun Java System Communications Services Create Organizational Unit Form
- Sun Java System Communications Services Create Organization Form
- Sun Java System Communications Services Update Group Form
- Sun Java System Communications Services Update Organizational Unit Form

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスのうち1つ以上でトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.SunCommunicationsServicesResource`  
アダプタ
- `com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapterBase`

# Sybase ASE

Sybase ASE リソースアダプタは、Sybase Adaptive Server Enterprise をサポートします。このアダプタは、`com.waveset.adapter.SybaseASEResourceAdapter` クラスで定義されます。このアダプタは、非推奨の Sybase アダプタ (`com.waveset.adapter.SybaseResourceAdapter`) を置き換えます。

このアダプタを使用して、Sybase Adaptive Server Enterprise にログインするためのユーザーアカウントをサポートします。カスタム Sybase テーブルがある場合、リソースアダプタウィザードを使用してカスタム Sybase テーブルリソースを作成する方法については、[117 ページの「データベーステーブル」](#)を参照してください。

## リソースを設定する際の注意事項

なし

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

Sybase ASE リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. `SybaseInstallDir\jConnect-5_5\classes\jconn2.jar` ファイルを `%WSHOME%\WEB-INF\lib` ディレクトリにコピーします。
2. 「管理するリソースの設定」ページの「カスタムリソース」セクションに次の値を追加します。

```
com.waveset.adapter.SybaseASEResourceAdapter
```

次に「保存」をクリックします。

## 使用上の注意

なし

## セキュリティに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

### サポートされる接続

Identity Manager は、SSL 経由の JDBC を使用してこのアダプタと通信します。

## 必要な管理特権

次の表に、システムプロシージャの実行に必要なアクセス権の一覧を示します。

システムプロシージャ	必要なアクセス権
sp_addlogin、 sp_droplogin	システム管理者またはシステムセキュリティー担当者
sp_adduser、 sp_droplogin	データベース所有者、システム管理者、またはシステムセキュリティー担当者
sp_changegroup	データベース所有者、システム管理者、またはシステムセキュリティー担当者
sp_displayroles	システム管理者またはシステムセキュリティー担当者
sp_helpuser	なし
sp_locklogin	システム管理者またはシステムセキュリティー担当者
sp_modifylogin	システム管理者のみ、sp_modifylogin を実行してデフォルトのデータベースを変更できます。すべてのユーザーは、sp_modifylogin を実行して自分のログインアカウントを変更できます。
sp_password	システムセキュリティー担当者のみ、sp_password を実行してほかのユーザーのパスワードを変更できます。すべてのユーザーは、sp_password を実行して自分のパスワードを変更できます。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用可
前アクションと後アクション	使用不可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>リソースの調整</li></ul>

## アカウント属性

次の表に、デフォルトのアカウント属性の一覧を示します。デフォルトの属性はすべて文字列です。

アイデンティティシステム ユーザー属性	リソース属性名	説明
serverRoles	serverRoles	ユーザーが割り当てられているデータベースサーバーロール。
defaultDB	defaultDB	ユーザーがデフォルトで使用するデータベース。

複数のデータベースを管理する可能性があるため、Identity Manager の管理者は、各データベースを管理するためのアカウント属性を追加する必要があります。ほかの管理対象データベースの属性と区別するため、これらの属性には属性名の一部としてデータベース名を含めてください。

アイデンティティシステム ユーザー属性	データの種類	説明
userNameDBName	String	データベース上のアカウントのユーザー名。データベースの <code>userName</code> を設定することによってアカウントにデータベースへのアクセス権が与えられ、データベースの <code>userName</code> を消去することによってアクセス権が削除されます。
groupDBName	String	データベース上のアカウントのグループ。

## リソースオブジェクトのサポート

### 管理対象オブジェクト

このアダプタは、Sybase ASE リソース上のオブジェクトを管理しません。

### 一覧表示可能なオブジェクト

次の表では、ユーザーフォーム内で `listAllObjects` メソッドを使用して呼び出すことのできる Sybase オブジェクトについて説明します。

オブジェクト	説明
allDatabases	リソース上のデータベースを一覧表示します。
dbGroups	リソース上で管理されているデータベース内のグループを一覧表示します。
managedDatabases	リソースで管理されているデータベースを一覧表示します。このリストは、「データベース」リソース属性で設定されます。
serverRoles	ユーザーが割り当てられているデータベースサーバーロールを一覧表示します。

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

SybaseASEUserForm

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.SybaseASEResourceAdapter`
- `com.waveset.adapter.JdbcResourceAdapter`

# Top Secret

Top Secret リソースアダプタは、TN3270 エミュレータセッションを利用し、OS/390 メインフレーム上のユーザーアカウントおよびメンバーシップの管理をサポートします。

Top Secret リソースアダプタは、`com.waveset.adapter.TopSecretResourceAdapter` クラスで定義されます。

## リソースを設定する際の注意事項

Top Secret Active Sync アダプタは、FTP を使用して TSSAUDIT 機能から出力を取得することにより動作します。その後、出力を解析して、アカウントの作成、変更、および削除を探します。この機能は、Top Secret Recovery ファイルのデータからレポートを生成します。そのため、Recovery ファイルを有効にし、Active Sync のポーリング間隔内に発生するすべての変更を十分保持できる大きさにします。Active Sync アダプタによる次のポーリングまでに出力が利用可能になるように TSSAUDIT ユーティリティを実行するためのジョブをスケジュールするとよいでしょう。

オプションの世代データグループ (GDG) に TSSAUDIT の出力結果を格納するように設定できます。GDG には、前のバージョンの TSSAUDIT の出力が格納されます。Active Sync アダプタでは、通常の時間に実行できないイベントが失われないようにするために、GDG からの取得がサポートされています。このアダプタを、失われた可能性があるイベントを複数の世代に戻って取得するように設定できます。

次のサンプル JCL は、TSSAUDIT バッチジョブを実行します。

```

//LITHAUS7 <<<< Supply Valid Jobcard >>>>>
//*
*****
THIS JOB RUNS THE TSS AUDIT PROGRAM 'CHANGES'
      & CREATES A GDG MEMBER FOR IDENTITY MANAGER
      You may choose to use standard MVS Delete/Defines or
      request a system programmer to establish a small GDG
//*
*****
//AUDIT01 EXEC PGM=TSSAUDIT,
          PARM='CHANGES DATE(-01) '
//AUDITOUT DD DSN=auth hlq.LITHAUS.ADMIN.DAILY(+1),
          DISP=(NEW,CATLG),UNIT=SYSDA,RECFM=FB,LRECL=133,
          BLKSIZE=2793,SPACE=(CYL,(2,1),RLSE)
//RECOVERY DD DSN=your.TSS.recovery.file ,DISP=SHR
//AUDITIN DD DUMMY

```

## Identity Manager 上で設定する際の注意事項

Top Secret リソースアダプタは、カスタムアダプタです。インストールプロセスを完了するには、次の手順を実行してください。

1. Top Secret リソースを Identity Manager のリソースリストに追加するには、「管理するリソースの設定」ページの「カスタム リソース」セクションに次の値を追加してください。

```
com.waveset.adapter.TopSecretResourceAdapter
```

2. 適切な JAR ファイルを Identity Manager インストールの WEB-INF/lib ディレクトリにコピーします。

コネクションマネージャー	JAR ファイル
Host On Demand	<p>IBM Host Access Class Library (HACL) は、メインフレームへの接続を管理します。HACL が含まれる推奨 JAR ファイルは <code>habeans.jar</code> です。これは、HOD に付属する HOD Toolkit (または Host Access Toolkit) とともにインストールされます。HACL のサポートされるバージョンは、HOD V7.0、V8.0、V9.0、および V10 に含まれるバージョンです。</p> <p><code>habeans.jar</code> ファイルただし、このツールキットを利用できない場合は、HOD のインストールに含まれる次の JAR ファイルを <code>habeans.jar</code> の代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>habase.jar</code></li> <li>• <code>hacp.jar</code></li> <li>• <code>ha3270.jar</code></li> <li>• <code>hassl.jar</code></li> <li>• <code>hodbase.jar</code></li> </ul> <p>詳細は、  <a href="http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/">http://www.ibm.com/software/webservers/hostondemand/</a> を参照してください。</p>
Attachmate WRQ	<p>Sun 製品向け Attachmate 3270 メインフレームアダプタには、メインフレームへの接続の管理に必要なファイルが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>RWebSDK.jar</code></li> <li>• <code>wrqtls12.jar</code></li> <li>• <code>profile.jaw</code></li> </ul> <p>この製品の入手については、Sun プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。</p>

3. `Waveset.properties` ファイルに次の定義を追加して、端末セッションを管理するサービスを定義します。

```
serverSettings.serverId.mainframeSessionType=Value
serverSettings.default.mainframeSessionType=Value
```

*Value* は、次のように設定できます。

- 1 - IBM Host On-Demand (HOD)
- 3 - Attachmate WRQ

これらのプロパティを明示的に設定しない場合、Identity Manager は WRQ、HOD の順に使用を試みます。

4. Attachmate ライブラリが WebSphere または WebLogic アプリケーションサーバーにインストールされている場合は、`com.wrq.profile.dir=LibraryDirectory` プロパティを `WebSphere/AppServer/configuration/config.ini` または `startWeblogic.sh` ファイルに追加します。

これにより、Attachmate コードでライセンスファイルを検索できます。

5. `Waveset.properties` ファイルに加えた変更を有効にするために、アプリケーションサーバーを再起動します。
6. リソースへの SSL 接続を設定する詳細は、[547 ページの「メインフレーム接続」](#)を参照してください。

## 使用上の注意

ここでは、Top Secret リソースアダプタの使用に関する情報を示します。次の内容で構成されています。

- [管理者](#)
- [リソースアクション](#)
- [SSL 設定](#)

### 管理者

TSO セッションでは、複数の同時接続は許可されません。Identity Manager Top Secret 操作の同時実行を実現するには、複数の管理者を作成します。たとえば、2 人の管理者を作成すると、2 つの Identity Manager Top Secret 操作を同時に実行できます。少なくとも 2 人 (できれば 3 人) の管理者を作成するようにしてください。

CICS セッションでは、1 人の管理者に 1 つのセッションという制限はありませんが、必要な場合は 2 人以上の管理者を定義できます。

クラスタ環境で実行する場合は、クラスタ内のサーバーごとに 1 人の管理者を定義します。CICS の場合のように同じ管理者であるとしても、サーバーごとに定義してください。TSO の場合は、クラスタ内のサーバーごとに異なる管理者にします。

クラスタを使用しない場合は、各行のサーバー名が同じ (Identity Manager ホストマシンの名前) になるようにしてください。

---

**注** ホストリソースアダプタは、同じホストに接続している複数のホストリソースでの親和性管理者に対して最大接続数を強制しません。代わりに、各ホストリソース内部の親和性管理者に対して最大接続数が強制されません。

同じシステムを管理する複数のホストリソースがあり、現在それらが同じ管理者アカウントを使用するように設定されている場合は、同じ管理者がリソースに対して同時に複数のアクションを実行しようとしていないことを確認するために、それらのリソースを更新しなければならない可能性があります。

---

## リソースアクション

Top Secret アダプタに必要なリソースアクションは **login** と **logout** です。login アクションは、認証されたセッションに関してメインフレームとネゴシエーションを行います。logout アクションは、そのセッションが不要になったときに接続を解除します。

login リソースアクションおよび logout リソースアクションの作成の詳細については、[521 ページの「メインフレームの例」](#)を参照してください。

## SSL 設定

Identity Manager は TN3270 接続を使用してリソースと通信します。

RACF LDAP リソースへの SSL 接続を設定する詳細は、[547 ページの「メインフレーム接続」](#)を参照してください。

## プロビジョニングに関する注意事項

次の表に、このアダプタのプロビジョニング機能の概要を示します。

---

機能	サポート状況
アカウントの有効化 / 無効化	使用可
アカウントの名前の変更	使用不可
パススルー認証	使用不可
前アクションと後アクション	使用可
データ読み込みメソッド	<ul style="list-style-type: none"><li>リソースから直接インポート</li><li>調整</li><li>Active Sync</li></ul>

---

# セキュリティーに関する注意事項

ここでは、サポートされる接続と特権の要件について説明します。

## サポートされる接続

Identity Manager は、TN3270 を使用して Top Secret アダプタと通信します。

## 必要な管理特権

管理者に次の特権を付与してください。

- TSS ADMIN 関数を介して、管理スコープ下で CREATE ACID を実行するための ACID (CREATE) 権限
- TSS ADMIN 関数を介して、リソース所有権をスコープ内の ACID に割り当てるための RESOURCE (OWN) 権限
- TSS ADMIN 関数を介して、多くのセキュリティー属性を割り当てるための MISC1、MISC2、および MISC9 権限

## アカウント属性

次の表に、デフォルトの Top Secret アカウント属性に関する情報を示します。

アイデンティティシステム属性名	リソース属性名	データの種類	説明
Profiles	PROFILE	String	ユーザーに割り当てられたプロファイル。この属性には複数の値を設定できます。
accountId	ACID	String	必須。アカウント ID
fullname	NAME	String	ユーザーの姓名
Installation Data	INSTDATA	String	インストールデータ
TSOO Access	TSO_ACCESS	Boolean	ユーザーが TSO にアクセスできるかどうかを示します
TSOLPROC	TSO.TSOLPROC	String	TSO ログインプロシージャ
OMVS Access	OMVS_ACCESS	Boolean	ユーザーが OMVS にアクセスできるかどうかを示します
Groups	GROUP	String	ユーザーに割り当てられたグループのリスト

アイデンティティシステム属性名	リソース属性名	データの種類	説明
Default Group	DFLTGRP	String	ユーザーのデフォルトグループ
UID	OMVS.UID	String	OMVS ユーザー ID
OMVSPGM	OMVS.OMVSPGM	String	ユーザーの初期 OMVS プログラム
HOME	OMVS.HOME	String	ユーザーの OMVS ホームディレクトリ
属性	ATTRIBUTE	String	アカウント属性のリスト

次の表に、デフォルトではスキーママップに一覧表示されていないサポート対象のアカウント属性の一覧を示します。これらの属性のデータの種類は **String** です。

リソース属性名	説明
CICS.OPTIME	CICS で端末ユーザーがタイムアウトになったとみなされるまでの時間を制御します。
CICS.OPID	CICS オペレータ ID を指定します。
DEPT	部署名を指定します。
DIV	部門名を指定します。
ZONE	ゾーン名を指定します。
FACILITY	ACID がアクセスできる機能またはアクセスできない機能のリストを指定します。
DATASET	ユーザーのデータセットのリストを指定します。
CORPID	企業 ID のリストを指定します。
OTRAN	所有可能なトランザクションのリストを指定します。
TSOACCT	TSO アカウント番号のリストを指定します。
SOURCE	関連付けられた ACID がシステムに入る場合に使用するソースリーダーまたは端末プレフィックスのリストを指定します。
TSO.TRBA	ブロードキャストデータセット内の、ユーザーのメールディレクトリエントリの相対ブロックアドレス (RBA) を指定します。
TSO.TSOCOMMAND	TSO ログオン時に発行されるデフォルトのコマンドを指定します。
TSO.TSODEFPRFG	デフォルトの TSO パフォーマンスグループを割り当てます。
TSO.TSODEST	TSO ユーザーに対して TSO が生成した JCL のデフォルトの出力先識別子を指定します。

リソース 属性名	説明
TSO.TSOHCLASS	TSO ユーザーに対して TSO が生成した JCL のデフォルトの保持クラスを割り当てます。
TSO.TSOJCLASS	TSO ユーザーから TSO が生成したジョブカードのデフォルトのジョブクラスを割り当てます。
TSO.TSOLACCT	TSO ログオンで使用されるデフォルトのアカウント番号を指定します。
TSO.TSOLSIZE	TSO のデフォルトの領域サイズを K バイト単位で割り当てます。
TSO.TSOMCLASS	TSO ユーザーに対して TSO が生成した JCL のデフォルトのメッセージクラスを割り当てます。
TSO.TSOMSIZE	TSO ユーザーがログオン時に指定できる最大領域サイズを K バイト単位で定義します。
TSO.TSOOPT	TSO ユーザーがログオン時に指定できるデフォルトのオプションを割り当てます。
TSO.TSOSCLASS	TSO ユーザーに対して TSO が生成した JCL のデフォルトの SYSOUT クラスを割り当てます。
TSO.TSOUDATA	サイトで定義されたデータフィールドを TSO ユーザーに割り当てます。
TSO.TSOUNIT	TSO 下での動的割り当てに使用されるデフォルトの単位名を割り当てます。
TSO.TUPT	ユーザープロファイルテーブルの値を指定します。

ほかの Top Secret リソース属性のサポートの詳細については、サービス組織にお問い合わせください。

## アイデンティティテンプレート

\$accountId\$

## サンプルフォーム

### 組み込みのフォーム

なし

## その他の利用可能なフォーム

TopSecretUserForm.xml

## トラブルシューティング

Identity Manager のデバッグページを使用して、次のクラスでトレースオプションを設定します。

- `com.waveset.adapter.HostAccess`
- `com.waveset.adapter.TopSecretResourceAdapter`

`hostAccess` オブジェクトは、Identity Manager でトレースされることもあります。デバッグページからトレースされるクラスは `com.waveset.adapter.HostAccess` です。メインフレームに送信されたキーストロークと待機メッセージを識別するにはトレースレベル 3 で十分です。トレースレベル 4 では、送信された正確なメッセージと、メインフレームからの応答が表示されます。

---

**注**           トレースファイルの場所が有効であることを確認します。デフォルトでは、トレースファイルは `InstallDir/idm/config` の下のアプリケーションディレクトリに配置されます。アプリケーションが WAR から配備されている場合は、パスにはディレクトリの絶対パスのハードコードが必要になることがあります。クラスタ環境では、トレースファイルをネットワーク共有に書き込むようにしてください。

---

ソースのトレースのほかに、キーストロークを送信する前の画面テキストを常にログに記録しておくことも役に立つ可能性があります。これは、ファイル書き込み側で実現できます。コマンドのシーケンスは次のとおりです。

```
1. var file = new java.io.File('<filename>');
   var writer = new java.io.BufferedWriter(new
   java.io.FileWriter(file));
   writer.write(hostAccess.getScreen());
   writer.flush();

2. hostAccess.sendKeysAndWait (<cmd>, <msg>);

3. writer.newLine();

4. writer.write(hostAccess.getScreen());

5. writer.flush();

6. writer.close();
```

<filename> は、アプリケーションサーバーのローカルファイルシステム上のファイルの場所を参照するようにしてください。書き込み側は、flush() メソッドが呼び出されると、その場所へのハンドルを開いて、バッファーに格納されている内容を書き込みます。close() メソッドは、ファイルへのハンドルを解放します。getScreen() メソッドをこの関数に渡すと、デバッグのために画面の内容のダンプを取得できます。このトレースは、画面が正しくナビゲートされて、ログイン/ログアウトが正常に実行されたら削除するようにしてください。

# AttrParse オブジェクトの実装

AttrParse オブジェクトは、ユーザーリストの解析に使用される文法をカプセル化します。これは主に、一度に 1 画面分のデータを受け取って目的の結果に解析するための、メインフレームベースのリソースアダプタで使用されます (この技術はスクリーンスクレーピングとも呼ばれる)。シェルスクリプトアダプタとスクリプトゲートウェイアダプタでも、`getUser` アクションと `getAllUsers` アクションで AttrParse が使用されます。

AttrParse オブジェクトを使用するアダプタでは、画面が Java 文字列としてモデル化されます。AttrParse オブジェクトのインスタンス化には、1 つ以上のトークンが含まれます。各トークンによって画面の各部分が定義されます。これらのトークンは、画面の文字列をトークン化して、アダプタがユーザーリストからユーザープロパティを検索できるようにするために使用されます。

ユーザーリストの解析後、AttrParse からユーザー属性名と値のペアのマップが返されます。

## 設定

AttrParse オブジェクトは、ほかのすべての Identity Manager オブジェクトと同じように、持続的記憶領域の XML に直列化されます。そのため、AttrParse オブジェクトを、顧客の環境の相違をサポートするように設定できます。たとえば、ACF2 メインフレームのセキュリティーシステムは、多くの場合、追加のフィールドやフィールド長を含むようにカスタマイズされます。AttrParse オブジェクトはリポジトリにあるため、それらの相違に対応するための変更や設定が可能であり、カスタムアダプタを作成する必要がありません。

すべての Identity Manager 設定オブジェクトと同じように、変更するオブジェクトをコピーして名前を変更してから、変更するようにしてください。

1. デバッグページで、「List Objects」ボタンの横にあるドロップダウンメニューから「AttrParse」を選択します。「List Objects」をクリックします。

2. 利用可能なオブジェクトのリストから、編集するオブジェクトを選択します。
3. 任意の XML エディタで、そのオブジェクトのコピー、編集、および名前の変更を行います。
4. 「設定」ページで、「交換ファイルのインポート」を選択し、新しいファイルを Identity Manager にインポートします。
5. リソースで、その AttrParse リソース属性の名前を新しい AttrParse 文字列の名前に変更します。

Identity Manager に付属する AttrParse オブジェクトの例については、`sample\attrparse.xml` ファイルを参照してください。このファイルには、スクリーンスクレーピングアダプタで使用されるデフォルトの AttrParse オブジェクトのリストが記載されています。

# AttrParse 要素とトークン

## AttrParse 要素

この AttrParse 要素は、AttrParse オブジェクトを定義します。

### 属性

属性	説明
name	AttrParse オブジェクトを一意に定義します。この値は、アダプタの「リソースパラメータ」ページで指定されます。

### データ

ユーザーリストを解析する 1 つ以上のトークン。AttrParse オブジェクトでサポートされるトークンは次のとおりです。

- [collectCsvHeader](#) トークン
- [collectCsvLines](#) トークン
- [eol](#) トークン
- [flag](#) トークン
- [int](#) トークン

- `loop` トークン
- `multiLine` トークン
- `opt` トークン
- `skip` トークン
- `skipLinesUntil` トークン
- `skipToEol` トークン
- `skipWhitespace` トークン
- `str` トークン
- `t` トークン

## 例

次の例では、行の最初の 19 文字を読み取り、余分な空白を削除し、値としてのその文字列を `USERID` リソース属性に代入します。次に、5 つの空白文字をスキップし、`NAME` リソース属性を抽出します。この属性は最大 21 文字で、空白は削除されます。このサンプルでは、「`Phone number:`」という文字列をチェックします。電話番号が解析され、`PHONE` リソース属性に代入されます。電話番号は、「`Phone number:`」の空白文字のあとから始まり、次に現れる空白文字で終わります。末尾の空白文字は削除されます。

```
<AttrParse name='Example AttrParse'>
  <str name='USERID' trim='true' len='19' />
  <skip len='5' />
  <str name='NAME' trim='true' len='21' />
  <t offset='-1'>Phone number: </t>
  <str name='PHONE' trim='true' term=' ' />
</AttrParse>
```

次の文字列は、このサンプル `AttrParse` の文法に適合します。• 記号は空白文字を表します。

```
gwashington123.....ABCD•George•Washington.....Phone•number:•123-1234•
alincoln.....XYZ•Abraham•Lincoln.....Phone•number:•321-4321•
```

1 番目の場合、解析後のユーザー属性マップには、次の内容が含まれます。

```
USERID="gwashington123", NAME="George Washington", PHONE="123-1234"
```

同様に、2 番目のユーザー属性マップには次の内容が含まれます。

```
USERID="alincoln", NAME="Abraham Lincoln", PHONE="321-4321"
```

テキストの残りの部分は無視されます。

## collectCsvHeader トークン

collectCsvHeader トークンは、コンマ区切り値 (CSV) ファイルのヘッダーとして指定された行を読み取ります。

このトークンを使用できるアダプタは、スクリプトゲートウェイアダプタだけです。このアダプタで使用できる属性を決定するトークンは、collectCsvHeader トークンと collectCsvLines トークンだけです。

ヘッダー内の各名前は、リソースアダプタのスキーママップのリソースユーザー属性と同じ名前にします。ヘッダー内の文字列がリソースユーザー属性名と一致しない場合、後続データ行内の対応する位置にある名前と値は無視されます。

### 属性

属性	説明
idHeader	ヘッダー内でアカウント ID とみなす値を指定します。この属性は省略可能ですが、指定することをお勧めします。指定されていない場合は、nameHeader 属性の値が使用されます。
nameHeader	ヘッダー内でアカウントの名前とみなす値を指定します。多くの場合、これは idHeader と同じ値です。指定されていない場合は、idHeader の値が使用されます。この属性は省略可能ですが、指定することをお勧めします。
delim	省略可能。ヘッダー内の値を区切る文字列。デフォルト値は,(コンマ)です。
minCount	ヘッダーが有効であるためには、delim 属性で指定した文字列が少なくともいくつヘッダーに存在しなければならないかを指定します。
trim	省略可能。true に設定されている場合、値の始めや終わりに空白があれば、それらの空白を削除します。デフォルトは false です。
unQuote	省略可能。true に設定されている場合、値が引用符で囲まれていれば、引用符を削除します。デフォルトは false です。

### データ

なし

### 例

次の例では、accountId を、アカウント ID に使用される値とみなします。空白と引用符は値から削除されます。

```
<collectCsvHeader idHeader='accountId' delim=',' trim='true'  
unQuote='true' />
```

## collectCsvLines トークン

collectCsvLines トークンは、コンマ区切り値 (CSV) ファイル内の行を解析します。このトークンの前に collectCsvHeader トークンを呼び出しておきます。

このトークンを使用できるアダプタは、スクリプトゲートウェイアダプタだけです。このアダプタで使用できる属性を決定するトークンは、collectCsvHeader トークンと collectCsvLines トークンだけです。

### 属性

次の属性のいずれかが指定されていない場合、その値は、前に発行された collectCsvHeader トークンから継承されます。

属性	説明
idHeader	アカウント ID とみなす値を指定します。
nameHeader	アカウントの名前とみなす値を指定します。
delim	省略可能。ヘッダー内の値を区切る文字列。デフォルト値は、(コンマ) です。
trim	省略可能。true に設定されている場合、値の始めや終わりに空白があれば、それらの空白を削除します。デフォルトは false です。
unQuote	省略可能。true に設定されている場合、値が引用符で囲まれていれば、引用符を削除します。デフォルトは false です。

### データ

なし

### 例

次の例は、値から空白と引用符を削除します。

```
<collectCsvLines trim='yes' unQuote='yes' />
```

## eol トークン

eol トークンは、行末文字 (`\n`) と一致します。解析位置は、次の行の最初の文字に進められます。

### 属性

なし

### データ

なし

### 例

例 次のトークンは、行末文字と一致します。

```
<eol/>
```

## flag トークン

flag トークンは、多くの場合、アカウントプロパティを定義するフラグがユーザーアカウントに存在するかどうかを判定するために opt トークン内で使用されます。このトークンは、指定された文字列を検索します。そのテキストが見つかったと、AttrParse は boolean 型の true を属性に代入し、そのエントリを属性マップに追加します。

解析位置は、一致したテキストのあとの最初の文字に進められます。

### 属性

属性	説明
name	属性値マップで使用する属性の名前。この名前は、通常はリソースアダプタのスキーママップ上のリソースユーザー属性と同じですが、これは必要条件ではありません。

属性	説明
offset	<p>トークンのテキストを検索する前にスキップする文字数。offset には次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 またはそれ以上 - 指定された数の文字を移動してから、トークンのテキストを検索します。</li> <li>• 0 - 現在の解析位置でテキストを検索します。これは、デフォルト値です。</li> <li>• -1 - 現在の解析位置でトークンのテキストを検索しますが、termToken 属性が存在する場合は、解析位置は termToken 属性で指定された文字列までになります。</li> </ul>
termToken	<p>検索対象のテキストが存在しないことを示すインジケータとして使用する文字列。この文字列は、多くの場合、画面出力上の次の行の最初の単語またはラベルです。</p> <p>解析位置は、termToken 文字列のあとの文字になります。</p> <p>termToken 属性は、len 属性が負の値 (-1) の場合にのみ使用できます。</p>

## データ

検索するテキスト。

## 例

1. 次のトークンは、現在の解析位置で AUDIT を検索し、見つかった場合は、ユーザー属性マップに AUDIT\_FLAG=true を追加します。

```
<flag offset='-1' name='AUDIT'>AUDIT_FLAG</flag>
```
2. 次のトークンは、現在の解析位置で xxxxCICS を検索します。xxxx は、空白文字を含む任意の 4 文字です。この文字列が見つかった場合、AttrParse は CICS=true をユーザー属性マップに追加します。

```
<flag offset='4' name='CICS'>CICS</flag>
```

# int トークン

int トークンは、整数型のアカウント属性をキャプチャーします。属性名と整数値がアカウント属性マップに追加されます。解析位置は、その整数のあとの最初の文字に進められます。

## 属性

属性	説明
name	属性値マップで使用する属性の名前。この名前は、通常はリソースアダプタのスキーママップ上のリソースユーザー属性と同じですが、これは必要条件ではありません。
len	求める整数の正確な長さを示します。長さには次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1 またはそれ以上 - 指定された数の文字をキャプチャーして、そのテキストが整数値であるかどうか、または noval 属性で指定された文字と一致するかどうかを調べます。</li><li>• -1 - 次の文字が noval 属性と等しくないかぎり、現在の解析位置から始まるもっとも長い数字の文字列を使用して解析します。これは、デフォルト値です。</li></ul>
noval	省略可能。属性が整数値を持っていないことを示す画面上のラベル。基本的には、これは <b>null</b> 値のインジケータです。解析位置は、noval 文字列のあとの最初の文字に進められます。

## データ

なし

## 例

1. 次のトークンは、6桁の整数を検索し、その桁数の整数値を SALARY 属性の属性値マップに追加します。

```
<int name='SALARY' len='6' />
```

値 010250 が見つかった場合、AttrParse は SALARY=10250 を値マップに追加します。

2. 次のトークンは、任意の桁数を検索し、その整数値を AGE 属性の属性マップに追加します。

```
<int name='AGE' len='-1' noval='NOT GIVEN' />
```

たとえば、値 34 が見つかった場合、AGE=34 が属性マップに追加されます。NOT GIVEN という文字列の場合、値は AGE 属性の属性マップに追加されません。

## loop トークン

loop トークンは、入力を使い果たされるまで、含まれている要素を繰り返し実行します。

### 属性

なし

### データ

一様ではありません。

### 例

次の例は、CSV ファイルの内容を読み取ります。

```
<loop>
  <skipLinesUntil token=', ' minCount='4' />
  <collectCsvHeader idHeader='accountId' />
  <collectCvsLines />
</loop>
```

## multiLine トークン

multiLine トークンは、複数行で繰り返されるパターンを検索します。次の行が multiLine の内部 AttrParse 文字列と一致する場合、解析後の出力は最上位のアカウント属性マップに追加されます。解析位置は、内部 AttrParse 文字列と一致しない最初の行に進められます。

### 属性

属性	説明
opt	内部 AttrParse 文字列が省略可能である可能性があることを示します。 内部 AttrParse 文字列に一致する行がない可能性があることと、次のトークンによる解析を続行することを示します。

## データ

データ行を解析する任意の AttrParse トークン。

## 例

次の multiLine トークンは、GROUPS[space][space][space]= タグと、空白文字で区切られたグループリストが含まれている複数のグループ行を検索します。

```
<multiLine opt='true'>
  <t>GROUPS[space][space][space]=</t>
  <str name='GROUP' multi='true' delim=' ' trim='true' />
  <skipToEol />
</multiLine>
```

次の文字列が入力として読み取られた場合、AttrParse は GROUPS = {Group1,Group2,Group3,Group4} をアカウント属性マップに追加します。

```
GROUPS[space][space][space]= Group1[space]Group2\n
GROUPS[space][space][space]= Group3[space]Group4\n
Unrelated text...
```

## opt トークン

opt トークンは、複数のトークンで構成される文字列など、任意的に複雑な文字列を解析します。検索トークンが存在する場合、内部 AttrParse 文字列を使用して画面の次の部分を解析します。任意セクションが存在する場合、解析位置は、任意セクションの末尾のあとの文字に進められます。それ以外の場合は、解析位置は変更されません。

## 属性

なし

## データ

apMatch トークンと、それに続く AttrParse トークンで構成されます。

apMatch - 任意セクションが存在するかどうかを判定するために検索するトークンが含まれます。apMatch は、opt トークン内でのみ使用できるサブトークンです。apMatch トークンには、常に、サブトークンとして flag トークンが含まれます。

AttrParse - 画面の任意部分の解析方法を指定します。このバージョンの AttrParse 要素では、name 引数を使用しません。それ以外のすべてのトークンを含めることができます。

## 例

次の `opt` トークンは、`CONSNAME=` テキストトークンを検索します。見つかった場合、長さ 8 の文字列を解析して、空白を削除し、その文字列を `NETVIEW.CONSNAM` 属性のアカウント属性マップに追加します。

```
<opt>
  <apMatch>
    <t offset='-1'> CONSNAME= </t>
  </apMatch>
  <AttrParse>
    <str name='NETVIEW.CONSNAM' len='8' trim='true' />
  </AttrParse>
</opt>
```

## skip トークン

`skip` トークンは、スキップできる画面領域や、解析するユーザーに関する有用な情報が含まれていない画面領域をトークン化します。解析位置は、スキップされた文字のあとの最初の文字に進められます。

## 属性

属性	説明
<code>len</code>	画面上でスキップする文字数を示します。

## データ

なし

## 例

次の例では、最初のトークンは 17 文字をスキップし、2 番目のトークンは 1 文字だけスキップします。

```
<skip len='17' />
<skip len='1' />
```

## skipLinesUntil トークン

skipLinesUntil トークンは、指定した文字列が `minCount` で指定した数以上見つかるまで、入力行をスキップします。

### 属性

属性	説明
token	検索する文字列。
minCount	必須の token 属性で指定された文字列のインスタンスの最小数。

### データ

なし

### 例

次のトークンは、2つのコンマが含まれている行の次の行まで前方にスキップします。解析位置は、その行の最初の文字になります。

```
<skipLinesUntil token=',' minCount='2' />
```

## skipToEol トークン

skipToEol トークンは、現在の解析位置から現在の行の終わりまでのすべての文字をスキップします。解析位置は、次の行の最初の文字に進められます。

### 属性

なし

### データ

なし

### 例

次のトークンは、現在の行の終わりまですべての文字をスキップします。解析位置は、次の行の最初の文字になります。

```
<skipToEol />
```

## skipWhitespace トークン

skipWhitespace トークンは、任意の数の空白文字をスキップするために使用されます。このシステムでは、Java の空白定義が使用されます。解析位置は、空白以外の最初の文字に進められます。

### 属性

なし

### データ

なし

### 例

次のトークンは、現在の解析位置ですべての空白をスキップします。

```
<skipWhitespace/>
```

## str トークン

str トークンは、文字列型のアカウント属性をキャプチャーします。属性名と文字列値がアカウント属性マップに追加されます。解析位置は、その文字列のあとの最初の文字に進められます。

### 属性

属性	説明
name	属性値マップで使用する属性の名前。この名前は、通常はリソースアダプタのスキーママップ上のリソースユーザー属性と同じですが、これは必要条件ではありません。
len	求める文字列の正確な長さを示します。長さには次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>1 またはそれ以上 - 文字が noval 属性と等しくないかぎり、指定された数の文字をキャプチャーします。</li><li>-1 - 次の文字が noval 属性と等しくないかぎり、現在の解析位置から次の空白文字までのすべての文字をキャプチャーします。これは、デフォルトです。</li></ul>

属性	説明
term	文字列を解析していて、この属性で指定した値と一致する文字をキャプチャーしたら、この str トークンの解析を停止します。len 引数が 1 またはそれ以上の場合、str トークンは、長さ len に達するかまたは term 文字をキャプチャーするか、いずれか早い方の時点で終了します。
termToken	<p>検索対象のテキストが存在しないことを示すインジケータとして使用する文字列。この文字列は、多くの場合、画面出力上の次の行の最初の単語またはラベルです。</p> <p>解析位置は、termToken 文字列のあとの文字になります。属性マップに追加される文字列は、termToken が見つかるまでのすべての文字になります。</p> <p>termToken 属性は、len 属性が負の値 (-1) の場合にのみ使用できません。</p>
trim	省略可能。アカウント属性マップに追加する前に、戻り値または複数值 (multi 属性が指定されている場合) から空白を削除するかどうかを示す true または false の値。デフォルト値は false です。
noval	属性が文字列値を持っていないことを示す画面上のラベル。基本的には、これは null 値のインジケータです。解析位置は、noval 文字列のあとの最初の文字に進められます。
multiLine	<p>文字列が画面の複数行にまたがるかどうかを示す true または false の値。</p> <p>この属性は、len 属性が存在し、0 より大きい値が指定されている場合にのみ使用できます。multiLine が存在する場合、len 属性に指定された文字数が解析されるまで、行末文字はスキップされます。</p>
multi	得られた文字列が、さらに解析して各サブ値を検索する必要がある複数值属性であるかどうかを示す true または false の値。複数值は、appendSeparator を使用してまとめて追加するか、または値のリストに変換することができます。
delim	<p>複数值文字列を解析するための区切り文字。この属性は、multi 属性が指定されている場合にのみ使用できます。</p> <p>これが指定されていない場合、複数值の str トークンは空白文字で区切られているとみなされます。</p>
append	appendSeparator を使用して複数值をまとめて文字列に追加するかどうかを示す true または false の値。append が存在しない場合、複数值はアカウント属性値マップのリストに追加されます。この属性は、multi 属性と一緒に使用されます。

属性	説明
<code>appendSeparator</code>	<code>append</code> トークンの複数値を区切る文字列を示します。この属性は、 <code>append</code> 属性が <code>true</code> に設定されている場合にのみ有効です。 <code>appendSeparator</code> が存在しない場合、 <code>append</code> 属性は区切り文字を使用しません。代わりに、複数値を連結して結果の文字列にします。

## データ

なし

## 例

1. 次のトークンは、長さが 21 文字の文字列を検索し、前後の空白を削除します。

```
<str name='NAME' trim='true' len='21' />
```

[space][space]George Washington[space][space] という文字列があった場合、`AttrParse` は `NAME="George Washington"` をアカウント属性マップに追加します。

2. 次のトークンは、) (右括弧) で終わる任意の長さの文字列を検索します。

```
<str name='STATISTICS.SEC-VIO' term=')' />
```

2 - Monday, Wednesday - )text という文字列の場合、`AttrParse` は `STATISTICS.SEC-VIO="2 - Monday, Wednesday - "` をアカウント属性マップに追加します。

3. 次のトークンは、現在の解析位置から現在の行の終わりまで、空白文字で区切られた単語のリストを検索します。

```
<str name='GROUP' multi='true' delim=' ' trim='true' />
```

Group1 Group2 newGroup lastGroup\n という文字列があった場合、`AttrParse` はグループ名文字列のリスト {Group1, Group2, newGroup, lastGroup} を `GROUP` 属性のアカウント属性マップに追加します。

4. 次のトークンも、同じような機能を果たしますが、アカウント属性マップが、次のようにコロン(:)で連結される点が前の例と異なります。

```
GROUP={Group1:Group2:newGroup:lastGroup}
```

```
<str name='GROUP' multi='true' delim=' ' trim='true' append='true'
appendSeparator=':' />
```

## t トークン

t トークンは、テキストをトークン化するために使用されます。通常は、スクリーンスクレーピング中にラベルを認識し、解析している画面上の場所に関する知識を提供するために使用されます。解析位置は、一致したテキストのあとの最初の文字に進められます。構文解析部は常に、テキスト行内の左から右に進行します。

### 属性

属性	説明
offset	トークンのテキストを検索する前にスキップする文字数。offset には次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1 またはそれ以上 - 指定された数の文字を移動してから、トークンのテキストを検索します。</li><li>• 0 - 現在の解析位置でテキストを検索します。これは、デフォルト値です。</li><li>• -1 - 現在の解析位置でトークンのテキストを検索しますが、termToken 属性が存在する場合は、解析位置は termToken 属性で指定された文字列までになります。</li></ul>
termToken	このトークンの解析を停止することを示す文字列。解析位置は、termToken 文字列のあとの文字になります。  termToken 属性は、offset 属性が負の値 (-1) の場合にのみ使用できます。

### データ

検索するテキスト

#### 例

1. 次のトークンは、現在の解析位置で Address Line 1:[space] を検索します。

```
<t offset='-1'>Address Line 1: </t>
```
2. 次のトークンは、現在の解析位置で xxZip Code:[space] を検索します。xx は、空白文字を含む任意の 2 文字です。

```
<t offset='2'>Zip Code: </t>
```
3. 次のトークンは、現在の解析位置で Phone:[space] を検索します。AttrParse は、Employee ID という文字列を最初に見つけると、エラーを生成します。

```
<t offset='-1' termToken='Employee ID'>Phone: </t>
```

# リソースへのアクションの追加

この章では、リソースアダプタのアクションを作成および実装する方法について説明します。アダプタでのこれらのアクションのサポートを確認するには、各アダプタのマニュアルを参照してください。

## アクションとは

アクションとは、スクリプトアクションのネイティブサポートが存在する場合に、管理するリソースのコンテキスト内で実行するスクリプトです。たとえば、UNIX オペレーティングシステムによるシステムでは、アクションは一連の UNIX シェルコマンドです。Microsoft Windows 環境では、アクションは CMD コンソール内で実行可能な DOS 形式のコンソールコマンドになります。アクションは Identity Manager リポジトリ内にオブジェクトとして存在します。メインフレーム環境では、アクションは、メインフレームとの間でキーストロークやコマンドを送受信できる Javascript スクリプトです。Oracle ERP では、アクションは、JDBC 接続を使用して Oracle データベースの追加カスタムフィールドを管理する Javascript または Beanshell スクリプトです。このアダプタの詳細については、[229 ページの「Oracle ERP」](#)を参照してください。

アクションは、リソースアカウントオブジェクトに対して直接実行される作業ではなく、そのリソースアカウントの作成、更新、または削除の前またはあとに実行される作業を行う場合に使用します。リソースアクションでは、ユーザーを作成したあとの、新規ユーザーのディレクトリへのファイルのコピーや、そのユーザーに関する UNIX の SUDOers ファイルの更新などのネイティブアクティビティがサポートされます。このタイプの作業は、カスタムリソースアダプタを使用することにより実行できます。ただし、カスタムリソースアダプタを配備するよりも、アクションを追加したリソースアダプタを配備するほうが簡単です。

アクションには次の 3 種類の結果メッセージが関連付けられます。

- **成功** - Identity Manager の成功メッセージを表示します。

- **アクションの出力を伴う成功** - 標準エラーや標準出力の情報とともに Identity Manager の成功メッセージを表示します。
- **失敗** - 標準エラーや標準出力の情報とともに Identity Manager の失敗メッセージを表示します。

## サポートされるプロセス

次のプロセスで、前アクションと後アクションがサポートされます。

- create
- update
- delete
- enable
- disable
- login と logout (メインフレームアダプタのみ)

## アクションの定義

アクションは、次の構造を持っています。

```
<ResourceAction name="Name">
  <ResTypeAction restype="ResourceType" actionType="Language"
  timeout="Milliseconds">
    <act>
      ...
    </act>
  </ResTypeAction>
</ResourceAction>
```

各表記の意味は次のとおりです。

- *Name* は、リソースアクションの名前です。
- *ResourceType* は、リソースのタイプ (AIX、HP-UX など) です。
- *Milliseconds* (省略可能) は、アクションの完了を待つ時間です。
- *Language* (省略可能) は、スクリプトの言語です。このパラメータは、Oracle ERP アダプタで必要です。Oracle ERP アダプタは、Javascript および Beanshell の *actionType* 値をサポートしています。

<act> 要素によって、アクションが定義されます。この要素には、リソース上で実行されるコードが含まれます。たとえば、次の XML は Solaris リソースのアクションを定義しています。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<!DOCTYPE Waveset PUBLIC 'waveset.dtd' 'waveset.dtd'>
<Waveset>
  <ResourceAction name='after-create'>
    <ResTypeAction restype='Solaris' timeout='60000'>
      <act>
        #!/bin/ksh
        echo "$WSUSER_accountId says Hello World!"
        # exit $DISPLAY_INFO_CODE if there is not a failure, but you want
        # the output to be propagated to the UI
        #exit 0
        exit $DISPLAY_INFO_CODE
      </act>
    </ResTypeAction>
  </ResourceAction>
</Waveset>
```

---

**注** <act> 要素内に含まれるコードは、UNIX スクリプト (ksh または sh) や Windows バッチスクリプトの場合と同じです。

---

## 環境変数の使用

環境変数はエクスポートされ、アクションで利用できるようになります。これらの環境変数は、ユーザーに関する値 (リソーススキーママップの「アイデンティティシステム リソース属性」列で定義される) を持つ、スキーマにマップされたすべての属性を、先頭に WSUSER\_ を付加して構成します。たとえば、前述の例では、Solaris リソーススキーママップで定義された AccountId 属性の先頭に WSUSER\_ を付加して構成された環境変数 WSUSER\_AccountId が使用されています。これらの変数は、それぞれのシェル内で環境変数として認識されるようにするため、Solaris では、変数名の前に \$ (ドル記号) が付加されます。

## 後アクションの実装

Identity Manager は更新の際に、変更された属性だけをリソースにプッシュします。アクションが、変更されていない属性にアクセスすることはできません。変更されていない可能性のある属性が必要な後アクションを記述する場合は、次の回避方法を検討してください。

1. リソースのスキーママップに、アクセスする必要のあるアカウント属性を模倣する余分な属性を追加します。たとえば、fullname アカウント属性にアクセスする必要がある場合は、shadow\_fullname という名前の属性を作成できます。この新しい属性がアダプタによって使用されないようにするために、スキーママップの「リソースユーザー属性」列に、この属性の値 IGNORE\_ATTR を追加します。
2. この属性に入力されるように、値をユーザーフォームに設定します。

```
<Field name='accounts[ResourceName].shadow_fullname'>
  <Expansion>
    <ref>accounts[ResourceName].fullname</ref>
  </Expansion>
</Field>
```

3. アクション内で %WSUSER\_shadow\_fullname% を参照して、値を取得できるようにします。

Identity Manager は、IGNORE\_ATTR に設定されている属性を取得しません。その結果、Identity Manager は shadow\_fullname などの属性の内容を新しい値と見なします。この属性は常にアダプタにプッシュされ、後アクションに使用できます。

## アクションファイルの作成

アクションファイルを作成するときは、次に示す事項に留意してください。

- スキーママップの Identity Manager の「リソースユーザー属性」列の変数名を変更する場合は、このオブジェクトでも名前を変更してください。
- アクションは XML 表現に含まれるため、一部の文字をエスケープする必要があります。それらの文字は、次のようにエスケープしてください。

& (アンパサンド): &amp;

< (小なり括弧): &lt;

- UNIX リソースでは、属性名内のスペースは\_(下線)で置き換えられます。Windows リソースでは、スペースが維持されます。
- 複数値属性は、次のようなコンマ区切りリストで構成されます。

```
WSUSER_groups=staff,admin,users
```

- ゲートウェイベースのアダプタでは、複数值属性にパイプ区切りリストが使用されます。次に例を示します。

```
WSUSER_NotesGroups=group1|group2|group3
```

- Active Directory リソースでは、アクションは、拡張機能を有効にした Windows コマンドインタプリタ cmd.exe を使用して実行されます。

ユーザー操作の前に実行するアクションでは、ゼロの値を返す必要があります。そうしないと、操作はエラー終了となります。

- 例外がスローされないかぎり、Javascript は正常に完了したとみなされます。

## Identity Manager へのアクションファイルの読み込み

アクションを Identity Manager にインポートするには、次の手順に従います。

1. Identity Manager 管理者インタフェースにログインします。
2. メニューバーで、「設定」、「交換ファイルのインポート」の順に選択します。
3. アクションが含まれている XML ファイルを入力するか、または参照して選択し、「インポート」をクリックします。

# アクションの実装

アクションの定義が完了したら、次の手順に従ってそのアクションを実装します。

1. Identity Manager ユーザーフォームのフィールドを定義します。
2. アクションを呼び出すリソースのスキーママップにエントリを追加します。

## 手順 1: Identity Manager ユーザーフォームフィールドを定義する

ユーザー操作の前またはあとに実行するアクションを割り当てるユーザーフォームフィールドを作成します。

- **フィールド名** - アクションの実行時期と操作対象を示します
- **フィールド値** - アクション名を含みます

次の例では、ユーザー作成操作のあとに実行する after-create というアクションを定義しています。

```
<Field name='global.create after action'>
  <Expansion>
    <s>after-create</s>
  </Expansion>
</Field>
```

フィールド名の形式は次のとおりです。

```
{create|update|delete} {before|after} action
```

Identity Manager のフォームの操作の詳細については、『Identity Manager ワークフロー、フォーム、およびビュー』を参照してください。

## 手順 2: スキーママップエントリを追加する

アクションを実行するリソースのスキーママップにエントリを追加します。次の手順で実行します。

1. Identity Manager メニューバーで「リソース」をクリックし、リソースを選択します。
2. 「リソースの編集」ページで、「リソーススキーマの編集」をクリックします。
3. スキーママップで、「属性の追加」をクリックして、スキーママップに行を追加します。

4. 「アイデンティティシステム ユーザー属性」列に、「**create after action**」と入力します。
5. 「リソース ユーザー属性」列に、「**IGNORE\_ATTR**」と入力します。**IGNORE\_ATTR** エントリによって、その属性は通常のアカウント属性処理では無視されます。
6. 「保存」をクリックします。

## Active Directory の例

ここでは、リソースアダプタで次の操作が実行されたあとに Active Directory リソースで実行できるアクションの例を示します。

- ユーザーの作成
- ユーザーアカウントの更新または編集
- ユーザーの削除

### 例 1: ユーザーの作成後のアクション

この手順では、Active Directory リソースで新規ユーザーの作成後に実行するアクションを含める方法を示します。

1. リソースのスキーママップの「Identity Manager ユーザー属性」列に、「**create after action**」と入力します。
2. 「属性タイプ」列で、「**string**」を選択します。
3. 「リソース ユーザー属性」列に、「**IGNORE\_ATTR**」と入力します。「必須」、「監査」、「読み取り専用」、および「書き込み専用」の各列は、チェックマークを外したままにします。
4. ユーザーの作成または編集に使用するユーザーフォームに次のコードを追加します。

```
<Field
name='resourceAccounts.currentResourceAccounts[AD].attributes.
create after action'>
  <Expansion>
    <s>AfterDelete</s>
  </Expansion>
</Field>
```

5. 次の XML ファイルを作成し、Identity Manager にインポートします。ファイルのパスは、環境に合わせて変更してください。

```

<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<!DOCTYPE Waveset PUBLIC 'waveset.dtd' 'waveset.dtd'>
<Waveset>
  <ResourceAction name='AfterCreate'>
    <ResTypeAction restype='Windows Active Directory' timeout='6000'>
      <act>
        echo create >> C:¥Temp¥%WSUSER_accountId%.txt
        exit
      </act>
    </ResTypeAction>
  </ResourceAction>
</Waveset>

```

## 例 2: ユーザーアカウントの更新または編集後のアクション

この手順では、Active Directory リソースでユーザーの更新または編集後に実行するアクションを含める方法を示します。

1. Active Directory スキーママップの「Identity Manager ユーザー属性」列に、「**update after action**」と入力します。
2. 「属性タイプ」列で、「string」を選択します。
3. 「リソース ユーザー属性」列に、「**IGNORE\_ATTR**」と入力します。「必須」、「監査」、「読み取り専用」、および「書き込み専用」の各列は、チェックマークを外したままにします。
4. ユーザーの作成および編集に使用するユーザーフォームに次のフィールドを追加します。

```

<Field name='resourceAccounts.currentResourceAccounts[AD].
attributes.update after action'>
  <Expansion>
    <s>AfterUpdate</s>
  </Expansion>
</Field>

```

5. 次の XML ファイルを作成し、Identity Manager にインポートします。ファイルのパスは、環境に合わせて変更してください。

```

<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<!DOCTYPE Waveset PUBLIC 'waveset.dtd' 'waveset.dtd'>
<Waveset>
  <ResourceAction name='AfterUpdate'>
    <ResTypeAction restype='Windows Active Directory' timeout='6000'>
      <act>
        echo update >> C:¥Temp¥%WSUSER_accountId%.txt
      </act>
    </ResTypeAction>
  </ResourceAction>
</Waveset>

```

```

        exit
      </act>
    </ResTypeAction>
  </ResourceAction>
</Waveset>

```

## 例 3: ユーザーの削除後のアクション

この手順では、Active Directory リソースでユーザーの削除後に実行するアクションを含める方法を示します。

1. リソースのスキーママップの「Identity Manager ユーザー属性」列に、「**delete after action**」と入力します。
2. 「属性タイプ」列で、「string」を選択します。
3. 「リソース ユーザー属性」列に、「**IGNORE\_ATTR**」と入力します。「必須」、「監査」、「読み取り専用」、および「書き込み専用」の各列は、チェックマークを外したままにします。
4. 「Deprovision Form」ユーザーフォームの </Include> タグのあとに次のフィールドを追加します。

```

<Field
name='resourceAccounts.currentResourceAccounts[AD].attributes.
delete after action'>
  <Expansion>
    <s>AfterDelete</s>
  </Expansion>
</Field>

```

5. 次の XML ファイルを作成し、Identity Manager にインポートします。ファイルのパスは、環境に合わせて変更してください。

```

<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?> <!DOCTYPE Waveset PUBLIC
'waveset.dtd' 'waveset.dtd'>
<Waveset>
  <ResourceAction name='AfterDelete'>
    <ResTypeAction restype='Windows Active Directory'
timeout='6000'>
      <act>
        echo delete >> C:\Temp\%WSUSER_accountId%.txt
        exit
      </act>
    </ResTypeAction>
  </ResourceAction>
</Waveset>

```

6. Active Directory リソースの XML を編集し、「delete after action」スキーママッピングに情報を追加します。新しく追加する部分を含む、このリソースの完全なスキーママッピングの例を次に示します。ここでは、ビュー関連の情報を追加します。

```
<AccountAttributeType id='12' name='delete after action'  
syntax='string' mapName='IGNORE_ATTR' mapType='string'>  
  <Views>  
    <String>Delete</String>  
  </Views>  
</AccountAttributeType>
```

## Domino の例

Domino リソースでは、前アクションと後アクションがサポートされます。

現在は、LotusScript と cmd シェルの 2 種類のアクションがサポートされています。どの操作アクションにも、実行される任意の数のアクションを実装できます。

次の例は、LotusScript および cmd シェルのリソースアクションの使用方法を示しています。

## LotusScript の例

```
<ResourceAction name='iterateAttributes' createDate='1083868010032'>  
  <ResTypeAction restype='Domino Gateway' actionType='lotusscript'>  
    <act>  
      Sub Initialize  
        Main  
      End Sub  
      Sub Main  
        Dim session As New NotesSession  
        Dim doc As NotesDocument  
        Set doc = session.DocumentContext  
        Forall i In doc.Items  
          Dim attrVal As Variant  
          attrVal = doc.GetItemValue(i.Name)  
        End Forall  
      End Sub  
    </act>  
  </ResTypeAction>  
</ResourceAction>
```

## cmd シェルの例

```
<ResourceAction name='getDirectoryContents'  
createDate='1083868010032'>  
  <ResTypeAction restype='Domino Gateway'>  
    <act>dir</act>  
  </ResTypeAction>  
</ResourceAction>
```

---

**注**           actionType が null の場合は、cmd スクリプトタイプがデフォルトとして使用されます。

---

## LotusScript の実行

Domino では、LotusScript の実行はデータベースに接続されたエージェントによって処理されます。Domino アダプタは、次のいずれかの方法で LotusScript を実行します。

入力	結果
agentName	エージェントを実行します。
agentName およびスクリプト	スクリプトを用いてエージェントを更新し、そのエージェントを実行します。
agentName、agentCreate、 およびスクリプト	スクリプトを用いてエージェントを作成し、そのエージェントを実行します。

次に示すカスタマイズされたアカウント属性は、LotusScript で使用できます。これらの属性のいずれかを使用する場合は、その属性を Domino ゲートウェイスキーママップに追加します。「リソース ユーザー属性」列には値として「IGNORE\_ATTR」を指定します。

- agentName - 実行するエージェントの名前。この属性は必ず指定します。そうしないと、エラーが返されます。
- agentServer - エージェントがインストールされている、エージェントを実行するデータベースの場所。この属性が存在しない場合は、「登録サーバー コンピュータ」リソースパラメータ (REG\_SERVER) に指定された値がデフォルトとして使用されます。
- agentDBName - エージェントを検索できるデータベースの名前。この属性では、リソースの「名前データベース」リソースパラメータ (NAB) で指定された値がデフォルトとして使用されます。

- agentCreate - 指定されたエージェントが見つからない場合にアダプタが新しいエージェントを作成すべきかどうかを示すフラグ。この属性のデフォルト値は false です。NULL 以外の値にすると、このフラグは有効になります。

---

**注** agentCreate を指定する場合は、実行する LotusScript も指定してください。

---

## LotusScript への引数

エージェントの引数は、バックエンド NotesSession クラスからの専用プロパティを介して、LotusScript へのノートハンドルで指定されます。これは次のように定義できます。

```
NotesDocument = NotesSession.DocumentContext
```

アクションスクリプトルーチンによって NotesDocument をインスタンス化し、そのフィールド値を LotusScript サブルーチンへのパラメータとして読み取ることができます。

ドキュメントに定義された任意の引数の名前と値を取得する LotusScript の例を次に示します。

```
Dim session As New NotesSession
Dim doc As NotesDocument
Set doc = session.DocumentContext

Forall i In doc.Items
    Dim attrVal As Variant
    attrVal = doc.GetItemValue(i.Name)
    Print(" Attribute Name: " + i.Name + " Value: " + attrVal(0))
End Forall
```

NT アクションの場合と同じように、アクションの呼び出し中に定義された属性はすべて、先頭に WSUSER\_ が付加された NotesDocument に配置されます。

## cmd シェルの実行

アクションは、拡張機能を有効にした Windows コマンドインタプリタ cmd.exe を使用して実行されます。ユーザー操作の前に実行するアクションでは、ゼロの値を返す必要があります。そうしないと、操作はエラー終了となります。

## cmd シェルへの引数

NT/ADSI cmd アクションと同様に、環境変数はエクスポートされ、アクションで利用できるようになります。これらの環境変数は、ユーザーに関する値 (リソーススキーママップの「Identity Manager ユーザー属性」列で定義される) を持つ、スキーマにマップされたすべての属性を、先頭に WSUSER\_ を付加して構成します。

複数值属性は、次のようなパイプ区切りリストで構成されます。

```
WSUSER_groups=staff|admin|users
```

## メインフレームの例

ACF2、RACF、および Top Secret アダプタには、login および logoff リソースアクションが必要になります。login アクションは、認証されたセッションに関してメインフレームとネゴシエーションを行います。logoff アクションは、そのセッションが不要になったときに接続を解除します。

thin クライアントのホストアクセス 3270 エミュレータは、スクリプトセッション内のコマンドの実行を簡素化するために、リソースアダプタによるリソースアクションのコンテキストに提供されます。このエミュレータは、com.waveset.object.HostAccess クラスで定義されます。リソースアクションに渡される hostAccess オブジェクトで使用可能なメソッドに関する詳細については、HostAccess に関する JavaDoc を参照してください。

## リソースアクションのコンテキスト

スクリプトアクションのコンテキスト内で、いくつかのグローバル変数が必要とされることがあります。

オブジェクト	説明
hostAccess	TN3270 エミュレータ。com.waveset.adapter.HostAccess のインスタンスです。メインフレームとの間でキーストロークとコマンドを送受信するために使用されます。
hostAccessLogin	com.waveset.adapter.HostAccessLogin インタフェースを実装するクラスのインスタンス。主に、ログインプロセス中にイベントが失敗した場合に必要なとされることがある logoff() メソッドを実装するために使用されます。
identity	リソースのユーザーの accountId を含む文字列。
user	ログオンする管理ユーザー名を含みます。

オブジェクト	説明
userAttrs	アクションで必要とされる各リソースユーザー属性の値を含む <code>java.util.Map</code> のインスタンス
パスワード	メインフレームユーザーのパスワードを格納する暗号化されたオブジェクト。プレーンテキストに変換するには <code>password.decryptToString()</code> を使用します。
system	メインフレームシステム名
out	<code>java.io.PrintStream</code> のインスタンス。JavaScript がこのストリームに書き込む場合 (たとえば <code>out.print("Hello")</code> など)、その内容がトレースされ、リソースアクションの結果として表示されるページに示されます。
err	<code>java.io.PrintStream</code> のインスタンス。JavaScript がこのストリームに書き込む場合 (たとえば <code>err.print("Error")</code> など)、その内容がトレースされ、リソースアクションの結果として表示されるページに示されます。

## SendKeys メソッドのニーモニックキーワード

次の表では、英数字以外の値のキー入力をシミュレートする 3270 エミュレータを通して実行される可能性がある特殊機能について説明します。

機能	ニーモニックキーワード	機能	ニーモニックキーワード
Attention	[attn]	F1	[pf1]
Backspace	[backspace]	F2	[pf2]
Backtab	[backtab]	F3	[pf3]
Beginning of Field	[bof]	F4	[pf4]
Clear	[clear]	F5	[pf5]
Cursor Down	[down]	F6	[pf6]
Cursor Left	[left]	F7	[pf7]
Cursor Right	[right]	F8	[pf8]
Cursor Select	[cursel]	F9	[pf9]
Cursor Up	[up]	F10	[pf10]
Delete Character	[delete]	F11	[pf11]
DUP Field	[dup]	F12	[pf12]

機能	ニーモニックキーワード	機能	ニーモニックキーワード
Enter	[enter]	F13	[pf13]
End of Field	[eof]	F14	[pf14]
Erase EOF	[eraseeof]	F15	[pf15]
Erase Field	[erasefld]	F16	[pf16]
Erase Input	[erinp]	F17	[pf17]
Field Mark	[fieldmark]	F18	[pf18]
Home	[home]	F19	[pf19]
Insert	[insert]	F20	[pf20]
New Line	[newline]	F21	[pf21]
PA1	[pa1]	F22	[pf22]
PA2	[pa2]	F23	[pf23]
PA3	[pa3]	F24	[pf24]
Page Up	[pageup]		
Page Down	[pagedn]		
Reset	[reset]		
System Request	[sysreq]		
Tab Field	[tab]		

## サンプルリソースアクション

次のコーディング例は、メインフレームのリソース上で一般に実行されるアクションを示しています。

- [Login アクション](#)
- [logoff アクション](#)
- [RACF データセット規則のアクション](#)

## Login アクション

次のコードは、**login** リソースアクションと **logoff** リソースアクションのサンプル形式です。このサンプルは、**Top Secret** リソースを使用する、ある特定の顧客の環境に合わせた内容になっています。したがって、コマンド、プロンプト、コマンドシーケンスなどのテキストは、配備環境によって異なる可能性があります。これらのリソースアクションは、XML 内の **Javascript** をラップします。

```
<ResourceAction name='ACME Logoff Action'>
  <50ResTypeAction restype='TopSecret'>
    <act>
      var TSO_MORE = " ***";
      var TSO_PROMPT = " READY";
      var TS_PROMPT = " ?";
      hostAccess.waitForString("ENTER YOUR APPLICATION NAME");
      hostAccess.sendKeys("tso[enter]");
      hostAccess.waitForString("ENTER USERID -");
      hostAccess.sendKeys(user + "[enter]");
      hostAccess.waitForString("TSO/E LOGON");
      hostAccess.sendKeys("S");
      hostAccess.sendKeys("[enter]");
      var pos = hostAccess.searchText(" -Nomail", false);
      if (pos != 0) {
        hostAccess.setCursorPos(pos);
        hostAccess.sendKeys("S");
      }
      pos = hostAccess.searchText(" -Nonnotice", false);
      if (pos != 0) {
        hostAccess.setCursorPos(pos);
        hostAccess.sendKeys("S");
      }
      hostAccess.sendKeys("[enter]");
      hostAccess.waitForStringAndInput(TSO_MORE);
      hostAccess.sendKeys("[enter]");
      hostAccess.waitForStringAndInput(TSO_MORE);
      hostAccess.sendKeys("[enter]");
      hostAccess.waitForStringAndInput("ISPF");
      hostAccess.sendKeys("=x[enter]");
      hostAccess.waitForString(TSO_PROMPT);
      var resp =hostAccess.doCmd("PROFILE NOPROMPT MSGID
NOINTERCOM NOPAUSE NOWTPMSG PLANGUAGE(ENU) SLANGUAGE(ENU)
NOPREFIX[enter]", TSO_PROMPT, TSO_MORE);
      hostAccess.waitForStringAndInput("ENTER LOGON:");
      hostAccess.sendKeys(system + "[enter]");
      hostAccess.waitForStringAndInput("USER-ID.....");
      hostAccess.sendKeys(user + "[enter]");
      hostAccess.sendKeys("[enter]");
    </act>
  </50ResTypeAction>
</ResourceAction>
```

```

        var stringsToHide = new java.util.ArrayList();
        stringsToHide.add(password.decryptToString());
        hostAccess.waitForString("==>", stringsToHide);
        hostAccess.waitForInput();
        hostAccess.sendKeys("[pf6]");
        hostAccess.waitForInput();
    </act>
</ResTypeAction>
</ResourceAction>

```

## logoff アクション

```

<ResourceAction name='ACME Logoff Action'>
  <50ResTypeAction restype='TopSecret'>
    <act>
      var TSO_PROMPT = " READY";
      hostAccess.sendKeys("[clear]end[enter]");
      hostAccess.waitForString(TSO_PROMPT);
      hostAccess.sendKeys("logoff[enter]");
    </act>
  </ResTypeAction>
</ResourceAction>

```

## RACF データセット規則のアクション

RACF リソースパラメータのページで「データセット規則の作成および削除」パラメータが選択されている場合は、Identity Manager によってデータセット規則が直接管理されます。ユーザー独自のデータセット規則を設定するには、次のようなアクションを定義します。

```

<ResourceAction name='create after action'>
  <ResTypeAction restype='RACF'>
    <act>
      var TSO_PROMPT = " READY";
      var TSO_MORE = " ***";
      var cmd1 = "addsd '"+identity+".test1.**'
owner('"+identity+"')[enter]";
      var result1 = hostAccess.doCmd(cmd1, TSO_PROMPT, TSO_MORE);
    </act>
  </ResTypeAction>
</ResourceAction>

```

# ビューの拡張

ビューに属性を追加できます。属性はすべて登録されている必要があります。

Identity Manager でのさまざまなプロビジョニングアクティビティにおいて利用できるユーザー属性は、そのアクションを完了するために必要な属性に限定されます。たとえば、ユーザーを編集する場合には、割り当てられたリソースの中で更新可能と定義されているユーザー属性のみが利用できます。一方、パスワードの変更プロセスでは、要求を実行するための属性のサブセットのみを必要とします。

## 属性の登録

属性は、次の2つの場所のどちらかに登録できます。

Location	属性をここに登録する条件
リソース内の AccountAttributeType 定義	... .. 更新する属性が、そのタイプのすべてのリソースではなく、特定のリソースに固有の属性である場合。
System Configuration オブジェクト	特定タイプのすべてのリソースに対してグローバルに登録する場合。これらの登録は XML 形式で行ってください。

ビューごとに異なる属性を登録できます。たとえば、lock 属性をパスワードビューに登録したり、firstname 属性を名前の変更ビューに登録したり、リソースアクションを有効化ビュー、無効化ビュー、またはプロビジョニング解除ビューに登録したりできます。

**注** 前アクションと後アクションの場合は、作成または更新のユーザープロセスを除くすべてのプロセスのビューを拡張してください。ビューの拡張については、「*Identity Manager Views*」を参照してください。

## グローバル登録

グローバル登録を行うには、次のパスを持つ System Configuration オブジェクトに属性を追加します。

```
updatableAttributes.ViewName.ResourceTypeName
```

ここで、ViewName は Password、Reset、Enable、Disable、Rename、または Delete のいずれかで、ResourceTypeName はリソースタイプの名前です。all というタイプ名は、すべてのリソースに適用される登録用に予約されています。

この属性の値には、<String> のリストを指定します。各文字列は、更新する属性の名前です。次の例では、delete before action という名前の属性を、すべてのリソース用のプロビジョニング解除ビューに登録します。

```
<Attribute name='updatableAttributes'>
  <オブジェクト>
    <Attribute name='Delete'>
      <オブジェクト>
        <Attribute name='all'>
          <List>
            <String>delete before action</String>
          </List>
        </Attribute>
      </Object>
    </Attribute>
    <Attribute name='Enable'>
      <オブジェクト>
        <Attribute name='all'>
          <List>
            <String>enable before action</String>
          </List>
        </Attribute>
      </Object>
    </Attribute>
  </Object>
</Attribute>
```

## リソース別登録

リソース別登録を行うには、そのリソースオブジェクトを Identity Manager デバッグページで変更し、AccountAttributeType 要素内に <Views> サブ要素を挿入します。<Views> には、この属性を更新できるビューの名前を示す文字列値のリストを含めません。

```
<AccountAttributeType name='lastname' mapName='sn' mapType='string'>
  <Views>
    <String>Rename</String>
  </Views>
</AccountAttributeType>
```

このビューでは、変更する文字列が次のオブジェクト内に配置されます。

```
resourceAccounts.currentResourceAccounts[ResourceTypeName].attributes
```

例:

```
<Field name=
'resourceAccounts.currentResourceAccounts[OS400ResourceName].attrib
utes.delete before action' hidden='true'>
  <Expansion>
    <s>os400BeforeDeleteAction</s>
  </Expansion>
</Field>
```

# LDAP パスワードの同期

この章では、Sun Java™ System Directory Server ( 以前は Sun ONE Directory Server および iPlanet Directory Server と呼ばれていた ) から Identity Manager システムへのパスワードの同期をサポートするための、Identity Manager 製品の拡張機能について説明します。

## 概要

Directory Server では、パブリックなプラグイン API を介して、サードパーティーがパスワードの変更を処理できるようになっています。カスタムプラグインであるパスワードキャプチャープラグインは、Directory Server でのパスワード変更を得るために開発されました。

パスワードキャプチャープラグインには、次の役割があります。

- LDAP ADD および LDAP MODIFY の操作時にパスワード変更を検知する。
- 共有キーを使用して新しいパスワード値を暗号化する。
- 元の LDAP 操作に対して、idmpasswd 属性とその値 ( 暗号化されたパスワード値 ) のペアを挿入します。

パスワードキャプチャープラグインを実装する前に、Directory Server の旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインをディレクトリサーバーにインストールしてください。旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインは、Directory Server コアによる操作が行われたあと、idmpasswd 属性の変更を更新履歴ログデータベースに記録します。

Active Sync を有効にしている LDAP リソースアダプタは、定期的に更新履歴ログデータベースをポーリングし、関連した変更を解析して、それらの変更を Identity Manager に送ります。LDAP アダプタは、idmpasswd 属性を解析し、共有キーを使用してパスワードを復号化し、実際のパスワードをシステムのほかの部分で利用できるようにします。

## パスワードキャプチャー処理

パスワードキャプチャープラグインは、サーバーが LDAP ADD または LDAP MODIFY 操作を処理しようとするたびに、Directory Server コアによって呼び出されます。このプラグインは変更を調べて、パスワード変更があると、idmpasswd 属性と値のペアを挿入します。この値は暗号化されたパスワードです。

パスワードキャプチャープラグインによって得られたパスワードは、共有キーを使用して暗号化されます。設定された LDAP リソースアダプタによってそのパスワードが復号化されるときに、同じ共有キーが使用されます。

変更がサーバーに受け入れられると、旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインは、旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースにその変更 (idmpasswd 属性の新しい値を含む) を記録します。LDAP リソースアダプタは、idmpasswd 属性の変更を処理し、暗号化された文字列の形式で、Identity Manager 内のほかのコンポーネントがその値を利用できるようにします。

idmpasswd 属性は、ユーザーがパスワードを変更するときに Directory Server の通常のデータベースには表示されません。

## 旧バージョン形式の更新履歴ログデータベース内のパスワード

暗号化されたパスワードは、旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースに記録されます。旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインで、旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースから定期的にエントリーを削除するように設定できます。データベースのエントリー削除の適切な設定は、ターゲットの環境によって異なります。削除間隔が短すぎると、短時間のネットワーク機能停止やほかのサービスの中断に対処できないことがあり、LDAP リソースアダプタは一部の変更を見逃す可能性があります。反対に、データベースのサイズが大きくなりすぎると、データベース内に暗号化されたパスワードを保持することに付随するセキュリティー上のリスクが増える可能性があります。

旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースのサフィックス (cn=changelog) の内容へのアクセスを制限するようにしてください。そのために、読み取りアクセス権は、LDAP リソースアダプタのみに許可します。

## スキーマの変更

idmpasswd 属性は、オペレーショナル属性として定義されます。オペレーショナル属性は、ターゲットエントリのオブジェクトクラス定義の変更を一切必要としません。そのため、パスワード同期機能を使用するために Directory Server の既存ユーザーまたは新規ユーザーを変更する必要はありません。

idmpasswd 属性は、スキーマで次のように定義されます。

```
attributeTypes: ( idmpasswd-oid NAME 'idmpasswd' DESC 'IdM Password'  
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.40{128} USAGE directoryOperation  
X-ORIGIN 'Identity Manager' )
```

# LDAP パスワード同期に関する Identity Manager の設定

LDAP アダプタを使用して LDAP パスワードを同期するには、次の作業を実行します。

- LDAP リソースアダプタを設定します。
- パスワード同期機能を有効にします。

## 手順 1: LDAP リソースアダプタを設定する

パスワード同期をサポートするように LDAP リソースアダプタを設定するには、次の手順を使用します。

1. LDAP Password ActiveSync Form を Identity Manager にインポートします。このフォームは、\$WSHOME/sample/forms/LDAPPasswordActiveSyncForm.xml に定義されています。
2. リソースの Active Sync ウィザードで、入力フォームを「LDAP Password ActiveSync Form」に設定します。

## 手順 2: パスワード同期機能を有効にする

Identity Manager には、LDAP リソースアダプタでパスワード同期を有効にするためのカスタム JSP ページが用意されており、このページで管理者は次の操作を行えます。

- 任意の LDAP リソースアダプタでパスワード同期を有効にする
- パスワードキャプチャープラグインのインストールに必要な設定 LDIF ファイルを生成する
- 必要に応じて、パスワード暗号化キーおよびパスワード暗号化ソルトを再生成する。これはオプションの機能です。

LDIF ファイルは、次の 3 つのエントリで構成されます。

- スキーマの変更 - `idmpasswd` オペレーショナル属性の使用を許可するように Directory Server スキーマを更新します。
- プラグインの定義 - プラグインを Directory Server に登録して有効にします。
- プラグインの設定 - プラグインの基本設定を指定します。たとえば、難読化されたパスワード暗号化キーは、この設定エントリに含まれます。

これらの機能を実装するには、次の手順を使用します。

1. Identity Manager の「パスワード同期の設定」ページを開きます。このページは `http://PathToIdentityManager/configure/passwordsync.jsp` にあります。
2. 「リソース」メニューから、パスワードの同期に使用する LDAP リソースを選択します。
3. 「アクション」メニューから、「パスワード同期の有効化」を選択します。
4. 「OK」をクリックします。ページが再描画され、「アクション」メニューに新しい項目が表示されます。
5. 「アクション」メニューから、「プラグイン設定 LDIF をダウンロードします」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。ページが再描画され、いくつかの新しいオプションが表示されます。
7. 「Directory Server のバージョン」メニューからバージョンを選択します。
8. 「オペレーティングシステムタイプ」メニューから、リソースのオペレーティングシステムを選択します。
9. 「プラグインのインストールディレクトリ」フィールドに、プラグインをインストールするホスト上のディレクトリを入力します。
10. 「OK」をクリックして、LDIF ファイルを生成およびダウンロードします。必要に応じて、ここで暗号化キーを再生成してもかまいません。

11. 「アクション」メニューから、「暗号化キーを再生成します」を選択します。
12. 「OK」をクリックします。暗号化パラメータが更新されます。

---

**注** Directory Server ユーザーがデフォルトのオブジェクトクラス (person、organizationalPerson、または inetorgperson) を持たない場合、「**プラグイン設定 LDIF をダウンロードします**」を選択したときに作成される LDIF ファイルを編集する必要があります。idm-objectclass 属性で指定されたデフォルト値を、環境に実装されているオブジェクトクラスに置換する必要があります。そうすると、プラグインはパスワードの変更をキャプチャーできるようになります。

たとえば、ユーザーが account、posixaccount、および shadowaccount オブジェクトクラスで定義されている場合、idm-objectclass 属性に指定されているデフォルト値を、これらのオブジェクトクラスのいずれか (複数可) で置換します。

たとえば、次のようにします。

```
idm-objectclass: account, posixaccount
```

idm-objectclass 値のいずれかに一致するエントリに対してパスワードがキャプチャーされます。

---

パスワード同期を有効にしたら、リソースの **Active Sync** ウィザードパラメータページの「リソース固有の設定」ページに、次の属性が表示されます。

- **パスワード同期の有効化**
- **パスワード暗号化キー**
- **パスワード暗号化ソルト**

「**パスワード同期の有効化**」フィールドのみは、このページで変更できます。暗号化属性は、JSP ページでのみ更新するようにしてください。

# パスワードキャプチャープラグインのインストールと設定

プラグインのインストールを開始する前に、必ずリソースの設定を完了してください。詳細については、[531 ページの「LDAP パスワード同期に関する Identity Manager の設定」](#)を参照してください。

---

**注** Directory Server インスタンスがマルチマスターレプリケーション環境にセットアップされている場合は、マスターレプリカごとにプラグインをインストールおよび設定してください。

---

パスワードキャプチャープラグインをインストールするには、次の一般的な手順を実行します。これらの作業の実行の詳細については、製品マニュアルを参照してください。

1. 設定 LDIF ファイルをターゲット Directory Server にアップロードします。Directory Server に付属する LDAP コマンド行ユーティリティを使用できます。次に例を示します。

```
/opt/iPlanet/shared/bin/ldapmodify -p 1389 -D "cn=directory manager"
-w secret -c -f /tmp/pluginconfig.ldif
```

2. Directory Server version 5.2 P4 以前の場合のみ、プラグインバイナリ (idm-plugin.so) を Directory Server が実行されているホストに配置します。この例では、/opt/SUNWidm/plugin です。ディレクトリサーバーを実行するユーザーは、プラグインライブラリを読み取れる必要があります。そうでなければ、Directory Server の起動に失敗します。
3. Directory Server を再起動します (たとえば /opt/iPlanet/slapd-examplehost/restart-slapd など)。Directory Server の再起動後、パスワードキャプチャープラグインは読み込まれません。

---

**注**

- マルチマスターレプリケーション環境では、インストールごとに新しいプラグイン設定を生成してください (各ホストでオペレーティングシステムタイプとプラグインのインストールディレクトリが同じである場合は除く)。このタイプの環境では、インストールごとに、[532 ページの「手順 2: パスワード同期機能を有効にする」](#)に記載されている手順を繰り返してください。
- プラグインの設定に変更を加えた場合は常に、Directory Server を再起動する必要があります。

---

パスワードキャプチャープラグインが有効になったあとで、クライアントがパスワード変更を行うには、userPassword 属性と idmpasswd 属性の両方に対する MODIFY 権限が必要です。それに応じて、ディレクトリツリー内のアクセス制御情報の設定を調整してください。これは通常、ディレクトリマネージャー以外の管理者がほかのユーザーのパスワードを更新できる場合に必要になります。



# Active Directory 同期フェイルオーバー

ここでは、Active Directory 同期フェイルオーバーの処理方法について説明します。このカスタマイズを実行すると、新しいドメインコントローラに切り替えたときに発生する繰り返しイベントの数を制限できます。

Active Directory 同期フェイルオーバーでは、処理を継続できる設定可能な一連のドメインコントローラから HighestCommittedUSN の履歴を定期的に収集および維持するタスクを使用します。Active Sync ドメインコントローラがダウンした場合は、もう1つのタスクを実行することで、フェイルオーバードメインコントローラの1つを指すように Active Directory リソースの設定を変更できます。Active Directory で行われた変更がすべてのドメインコントローラにレプリケートされるまで少し時間がかかることがあるため、Active Directory Active Sync では、フェイルオーバードメインコントローラで新しい変更の処理のみを開始すればよいというわけではありません。そうではなく、ダウンする前のドメインコントローラにレプリケートされていない可能性がある、フェイルオーバードメインコントローラに加えられた古い変更も調べる必要があります。このため、レプリケーションの遅延を十分に見込んだ過去の時点にそのフェイルオーバードメインコントローラに関して保存された HighestCommittedUSN を使用します。これにより、Active Sync がイベントを見逃すことを防止できますが、一部の変更が2回処理される可能性もあります。

## 必要なコンポーネント

この手順には、次のコンポーネントが必要です。

- Active Directory Synchronization Failure プロセス。Active Directory リソースで、「On Synchronization Failure Process」Active Directory リソース属性によって定義されます。
- Active Directory Recovery Collector タスク
- Active Directory Failover タスク

# 「On Synchronization Failure Process」 リソース属性

Active Directory のアクティブな同期に関する「On Synchronization Failure Process」リソース属性は、同期失敗時に実行されるプロセスの名前を指定します。デフォルトでは、このリソース属性の値は空です。

この属性は、Identity Manager 管理者が、Active Directory 同期失敗の発生時にプロセスを実行できるようにします。

## Active Directory 失敗時のプロセス

リソース属性で指定されたプロセスは、失敗時にリソースによって起動されます。同期失敗の発生を知らせる電子メールを Active Directory 管理者に送信するプロセスを起動するようにしてください。電子メールの本文に、アダプタのポーリングメソッドから返されたエラーメッセージを含むこともあります。

また、指定されたエラーが発生したときに、管理者による承認を得てから、同期フェイルオーバータスクを自動的に呼び出すビジネスプロセスを設計することもできます。

### プロセスのコンテキスト

ネイティブプロセスでは次の引数を使用できます。

引数	説明
resourceName	失敗が発生したリソースを識別します
resultErrors	ポーリングメソッドから返されたエラーを示す文字列を一覧表示します
failureTimestamp	失敗が発生した時刻を示します

## Active Directory Recovery Collector タスク

Identity Manager 管理者インタフェースの「タスク スケジュール」ページで、Active Directory Recovery Collector タスクをスケジュールおよび起動できます。このプロセスは、リソースオブジェクトインタフェースを使用して各ドメインコントローラの rootDSE オブジェクトと交信します。タスクのスケジュールによって、ドメインコントローラからデータが収集される頻度が決まります。

このタスクは、リソース復元情報を収集し、ADSyncRecovery\_resourceName という名前の設定オブジェクトに格納します。この設定オブジェクトを拡張した **GenericObject** には各ドメインコントローラで収集された HighestCommittedUSN とタイムスタンプ (ミリ秒単位) のリストが格納されます。

資格各実行中に、このタスクは HighestCommittedUSN の古い値を復元データから除去します。daysToKeepUSNS 引数で、このデータを格納する期間を設定できます。

## 引数

引数	説明
resourceName	<b>Identity Manager</b> がバックアップデータを収集する <b>Active Directory</b> リソースを指定します。
backupDCs	復元データについて問い合わせる完全修飾ドメインコントローラホスト名を一覧表示します。このリストには元のホストを含めることができるので、含めるようにしてください。これにより、 <b>Identity Manager</b> がリソースの処理を継続する必要がある場合、 <b>Identity Manager</b> はソースリソースホストを含めることができます。  グローバルカタログとの同期をとる場合は、このリストのバックアップホストがグローバルカタログと見なされます。
daysToKeepUSNS	<b>Identity Manager</b> にデータを格納する日数を指定します (デフォルトでは7日)。

## Active Directory Failover タスク

このタスクは、失敗が発生したリソースと IAPI オブジェクトが、代替ドメインコントローラと usnChanged 開始ポイントを使用するように再設定します。タスク入力フォームに、格納されたフェイルオーバーデータから、指定されたホストで利用可能な usn-changed 時間が表示されます。

いくつかのエラーから、フェイルオーバーが適している状況を識別できます。フェイルオーバータスクの自動呼出しで発生する可能性がある問題の一例に、java.net.UnknownHostException エラーメッセージがあります。このメッセージで示されるエラーは、少なくとも次の2つの理由で発生することがあります。

1. 一時的なルーティングの問題により、ゲートウェイマシンからホストに到達できない。
2. ホストに到達できず、予定された休止によりその後8時間ホストが停止される。

# フェイルオーバーモード

Active Directory フェイルオーバーを用いて問題を解決するには、次の 2 つの方法のどちらかを使用できます。

- **手動モード**。問題が発生したときに、どのバックアップドメインコントローラと USN を使用するかを管理者が指定します。これは、Identity Manager インタフェースからタスクを実行している場合にのみ利用できるモードです。
- **半自動モード**。半自動モードでは、フェイルオーバー解決プロセスを半自動化できます。半自動モードでは、タスクが、収集されたデータを使用して、使用する最適なバックアップドメインコントローラと USN を特定します。タスクは、以下の計算式で算出される TargetTimestamp の値を超えない範囲でもっとも近い収集ポイントを探します。

ここで、 $\text{TargetTimestamp} = (\text{FailureTimestamp} - \text{replicationTime})$  です。

半自動モードは、Identity Manager 管理者インタフェースからは利用できません。

## 引数

特定のエラーに半自動フェイルオーバーの起動が適していると判断した場合は、次のタスク引数を設定します。(エラー時ワークフローは、Active Directory 同期フェイルオーバータスクを起動する必要があります。)これらの引数を設定することにより、失敗が発生したリソースと IAPI オブジェクトが、代替ドメインコントローラと usnChanged 開始ポイントを使用するように再設定されます。

引数	説明
resourceName	失敗が発生した場所を名前またはリソース ID によって特定します。
autoFailover	自動フェイルオーバーを設定するかどうかを指定します。true に設定します。
failureTimestamp	失敗が発生した時刻を示します。この値は、onSync エラープロセスから取得されます。
replicationTime	Active Directory 環境でデータをレプリケートするための最長時間 (時間単位) を指定します。

処理を継続するドメインコントローラおよび開始ポイントとなる保存された HighestCommittedUSN 番号を手動で指定するには、次の引数を指定します。

引数	説明
resourceName	失敗が発生したリソースの名前または ID を指定します。
backupDC	同期プロセスを開始するホストの名前を指定します。
usnDate	収集されたデータから収集された HighestCommittedUSN の変更値に関連付けるために使われるタイムスタンプです。これは、半自動モードで targetTime が計算されるのと同じように計算されます。
restartActiveSync	新しいドメインコントローラへの切り替えが完了したあとに Active Sync を起動するかどうかを指定します。

## リソースオブジェクトの変更

Active Directory Recovery Collector タスクでは、使用されている値に基づいて LDAPHostname リソース属性値か GlobalCatalog リソース属性値のどちらかが更新されます。サブドメイン検索リソース属性が true に設定されていて、グローバルカタログ属性の値が空でない場合は、グローバルカタログサーバー属性が変更されます。それ以外の場合は、LDAPHostname がバックアップドメインコントローラの名前に変更されます。

## IAPI オブジェクトの変更

Active Directory Recovery Collector タスクでは、次回の実行時に調べる変更を Active Directory リソースアダプタに知らせるために、IAPI オブジェクトも更新されます。このタスクでは、lastUpdated 属性値と lastDeleted 属性値の両方の HighCommittedUSN 値が更新されます。

# Active Directory 同期フェイルオーバーのセットアップ

## 手順 1: Active Directory Synchronization Recovery Collector タスクを設定する

- データを保持する最大時間数を設定します。デフォルト値は7日です。この値により、どれくらい以前の HighestCommittedUSN 値を保持するかを制御します。  
設定する必要がある Active Sync リソースごとに1つのワークフローを設定します。
- Identity Manager 管理者インタフェースの「タスク」ページでこのタスクをスケジュールします。HighestCommittedUSN 値について各ホストに問い合わせる頻度を規定するポーリング間隔は、タスクスケジュールによって設定されます。

このタスクが実行されると、Active Directory アダプタは、各ドメインコントローラの rootDSE から HighestCommittedUSN 番号を取得するように求められます。その後、この値は Identity Manager 設定オブジェクトに格納されます。定義された Active Sync リソースごとに1つの設定オブジェクトが生成され、代替ドメインコントローラの HighestCommittedUSN 値が格納されます。

## 手順 2: Active Directory エラー時プロセスの Active Sync 属性を定義する

各 Active Directory Active Sync リソースでは、Identity Manager によって、リソースの同期中に失敗が発生したときに呼び出される onError プロセスが定義されます。Active Directory リソースでエラー時プロセスが定義されていると、アクティブな同期中にリソースでポーリングメソッドが呼び出されたときにエラーが発生した場合に、このプロセスが呼び出されます。このプロセスでは、IAPI オブジェクトからの結果がチェックされ、エラーが発生した場合は、定義されたプロセスが呼び出されます。

このプロセスを、エラーが発生したときに電子メールで管理者に通知するように設定します。その失敗では Identity Manager によって別のドメインコントローラに処理が継続されることが保証されているかどうかを管理者が判断できるように、電子メールの本文にエラーテキストを含めます。

そのエラーテキストにより、管理者は、長期にわたる停止の可能性があるか、すぐに解決できる一時的な問題(次回のポーリングで解決される一時的なルーティングの問題など)による障害であるかを知らされます。

## 手順 3: 失敗が発生したリソースの Active Directory 同期フェイルオーバータスクを実行する

別のドメインコントローラへのフェイルオーバーが保証されているエラーがドメインコントローラから返された場合は、「タスク」ページから Active Directory 同期フェイルオーバータスクを実行します。

手動フェイルオーバーモードの場合は、フェイルオーバータスクに次の情報が必要です。

- ダウンしたドメインコントローラまたはリソースの名前
- 処理を継続する DC ホストの名前
- 使用する収集済み HighestCommittedUSN 値のタイムスタンプ

新しいドメインコントローラへの切り替えが完了したあとに **Active Sync** を再起動するかどうかも選択してください。

### タスクの動作

Active Directory 同期フェイルオーバータスクは、実行時に次のように動作します。

1. 失敗が発生したリソースの **Active Sync** プロセスを停止する
2. フェイルオーバー設定オブジェクトを読み取る
3. 必要なリソース属性値を変更する
4. オプションで、**Active Sync** プロセスを再起動する

## 同期失敗ワークフローの例

Active Directory リソースの「On Synchronization Failure Process」リソース属性として、次のサンプルワークフローを設定できます。このワークフローでは、`java.net.UnknownHostException` エラーメッセージを探します。このメッセージが見つかった場合は、管理者に通知電子メールを送信します。

```
<TaskDefinition name='Sample AD Sync On Error Workflow'
  executor='com.waveset.workflow.WorkflowExecutor'
  syncControlAllowed='true' execMode='sync'
  taskType='Workflow'>
  <Extension>
    <WFProcess title='Example AD Sync OnError Workflow'>
      <Variable name='resultErrors' input='true'>
        <Comments>Errors returned from the resource.
        </Comments>
      </Variable>
      <Variable name='resourceName' input='true'>
        <Comments>Name of the AD resource that returned the errors.
        </Comments>
      </Variable>
```

```

<Variable name='failureTimestamp' input='true'>
  <Comments>Failure timestamp, when it occurred.
</Comments>
</Variable>

<Activity name='start'>
  <Transition to='checkErrors'/>
</Activity>
<Activity name='checkErrors'>
  <Variable name='criticalError'>
    <Comments>Local variable to hold if we need to notify
  </Comments>
  </Variable>

  <Action name='iterateMessage'>
    <dolist name='msg'>
      <ref>resultErrors</ref>
      <cond>
        <match>
          <ref>msg</ref>
          <s>java.net.UnknownHostException</s>
        </match>
        <set name='criticalError'>
          <s>true</s>
        </set>
      </cond>
    </dolist>
  </Action>

  <Transition to='notify'>
    <notnull>
      <ref>criticalError</ref>
    </notnull>
  </Transition>
  <Transition to='end'/>
</Activity>

<Activity name='notify'>
  <Action application='notify'>
    <Argument name='template'
value='#ID#EmailTemplate:ADSyncFailoverSample'/>
    <Argument name='resultErrors' value='$(resultErrors)'/>
  </Action>
  <Transition to='end'/>
</Activity>

```

```
        <Activity name='end' />
    </WFProcess>
</Extension>
</TaskDefinition>
```



# メインフレーム接続

この章では、IBM の Host On Demand または Attachmate 3270 Mainframe Adapter for Sun Emulator Class Library を使用してメインフレームのリソースへの接続を確立する方法について説明します。

## Host On Demand による SSL 設定

ここでは、このアダプタ用の SSL の設定方法について説明します。次のトピックがあります。

- [SSL または TLS を使用してアダプタを Telnet/TN3270 サーバーに接続する](#)
- [PKCS #12 ファイルの生成](#)
- [トラブルシューティング](#)

## SSL または TLS を使用してアダプタを Telnet/TN3270 サーバーに接続する

SSL または TLS を使用して RACF リソースアダプタを Telnet/TN3270 サーバーに接続するには、次の手順を使用します。

1. Telnet/TN3270 サーバーの証明書を PKCS #12 ファイル形式で取得します。このファイルのパスワードとして hod を使用します。サーバーの証明書をエクスポートする方法については、使用しているサーバーのマニュアルを参照してください。[548 ページの「PKCS #12 ファイルの生成」](#)に、一般的なガイドラインを示します。
2. PKCS #12 ファイルから CustomizedCAs.class ファイルを作成します。最新バージョンの HOD を使用している場合は、次のコマンドを使用してこの作業を行います。

```
\hod_jre\jre\bin\java -cp ../lib/ssliteV2.zip;../lib/sm.zip
com.ibm.eNetwork.HOD.convert.CVT2SSLIGHT CustomizedCAs.p12 hod
CustomizedCAs.class
```

3. CustomizedCAs.class ファイルを **Identity Manager** サーバーのクラスパス内の任意の場所 (\$WSHOME/WEB-INF/classes など) に配置します。
4. 「**セッションプロパティ**」というリソース属性がリソースにまだ存在しない場合は、**Identity Manager IDE** またはデバッグページを使用して、この属性をリソースオブジェクトに追加します。 <ResourceAttributes> セクションに、次の定義を追加します。

```
<ResourceAttribute name='Session Properties' displayName='セッションプロパティ' description='セッションプロパティ' multi='true'>
</ResourceAttribute>
```

5. リソースの「リソースパラメータ」ページに移動し、「**セッションプロパティ**」リソース属性に値を追加します。

```
SESSION_SSL
true
```

## PKCS #12 ファイルの生成

次の手順は、SSL/TLS を介して Host OnDemand (HOD) リダイレクタを使用した場合の、PKCS #12 ファイルの生成の概要を示しています。このタスクの実行の詳細については、HOD のマニュアルを参照してください。

1. **IBM 証明書管理ツール**を使用して、新しい HODServerKeyDb.kdb ファイルを作成します。このファイルの一部として、新しい自己署名付き証明書をデフォルトのプライベート証明書として作成します。

HODServerKeyDb.kdb ファイルの作成時に、「証明書データベースにキーを追加しようとしてエラーが発生した」という内容のメッセージが表示された場合は、1 つ以上の信頼できる認証局証明書の期限が切れている可能性があります。IBM の Web サイトをチェックして、最新の証明書を取得します。

2. 作成したプライベート証明書を **Base64 ASCII** として cert.arm ファイルにエクスポートします。
3. **IBM 証明書管理ツール**を使用して cert.arm ファイルから「署名者証明書」にエクスポートされた証明書を追加することにより、CustomizedCAs.p12 という名前の新しい PKCS #12 ファイルを作成します。このファイルのパスワードとして hod を使用します。

## トラブルシューティング

「セッションプロパティ」リソース属性に次の内容を追加することにより、HACL のトレースを有効にできます。

```
SESSION_TRACE
```

```
ECLSession=3 ECLPS=3 ECLCommEvent=3 ECLErr=3 DataStream=3  
Transport=3 ECLPSEvent=3
```

---

**注**            トレースパラメータは、改行文字を入れずに列挙してください。テキストボックス内でパラメータが折り返される場合は、そのままかまいません。

---

Telnet/TN3270 サーバーにも、同じように利用できるログがあります。

## WRQ による SSL 設定

Attachmate 3270 Mainframe Adapter for Sun Emulator Class Library は、IBM Host on Demand API と互換性があります。製品に付属するインストール手順に従ってください。その後、Identity Manager の手順を実行します。

1. 「セッションプロパティ」というリソース属性がリソースにまだ存在しない場合は、Identity Manager IDE またはデバッグページを使用して、この属性をリソースオブジェクトに追加します。<ResourceAttributes> セクションに、次の定義を追加します。

```
<ResourceAttribute name='Session Properties' displayName='セッションプロパティ' description='セッションプロパティ' multi='true'>  
</ResourceAttribute>
```

2. リソースの「リソースパラメータ」ページに移動し、「セッションプロパティ」リソース属性に次の値を追加します。

```
encryptStream  
true  
hostURL  
tn3270://hostname:SSLport  
keystoreLocation  
Path_To_Trusted_ps.pfx_file
```



# SNC (Secure Network Communications) 接続の有効化

この章では、Access Enforcer、SAP、および SAP HR リソースアダプタが SNC (Secure Network Communications) を使用して安全に SAP システムと通信できるようにする方法について説明します。別のサードパーティー製品である Secude セキュリティーログインを入手する必要があります。この製品の詳細については、<http://www.secude.com> を参照してください。

SNC 接続を有効にするには、この製品をインストールして、Identity Manager の PSE (Personal Security Environment) を作成する必要があります。これらの作業の実行については、Secude セキュリティーログインの製品マニュアルを参照してください。

SNC 接続を有効にするには、次の作業を実行します。

- SNC 通信のクレデンシアルを作成する
- Identity Manager の証明書を取得する
- Identity Manager の識別名 (DN) を取得する
- SAP システムの識別名 (DN) を取得する
- Identity Manager アプリケーションサーバーを設定する
- アダプタを設定する

## SNC 通信のクレデンシアルを作成する

SNC を正しく機能させるには、cred\_v2 という名前のクレデンシアルファイルを生成する必要があります。このファイルは、CREDDIR 環境変数で指定されたディレクトリに格納されます。このファイルに含まれるクレデンシアルを作成するには、secude seclogin コマンドを使用します。

```
$ secude seclogin -p idm.pse -a "Identity Manager" -O OS_User -1
```

-a "Identity Manager" 引数は省略可能です。-O 引数は、アプリケーションサーバーを実行するオペレーティングシステムユーザーの名前にするようにしてください。

## Identity Manager の証明書を取得する

SNC には、SAP システムとのセキュア接続を設定するための証明書が必要です。この証明書は、Identity Manager PSE から取得できます。この証明書を Identity Manager PSE からエクスポートし、base64 エンコーディングに変換する必要があります。

Identity Manager のアダプタ設定で使用する Base64 で符号化された証明書を取得するには、次のコマンドを使用します。最初のコマンドは、証明書を PKCS12 エンコーディングにエクスポートします。2 番目のコマンドは、この証明書を必要な base64 エンコーディングに変換します。

```
$ secude psemaint -p idm.pse export Cert PKCS12_File
$ secude encode -i 2048 PKCS12_File Base64_File
```

## Identity Manager の識別名 (DN) を取得する

Identity Manager PSE に含まれている証明書は、PSE の作成時に決定されました。PSE から Identity Manager の DN を取得するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

UNIX の場合：

```
$ secude psemaint -p idm.pse show Cert 2>&1 | grep SubjectName
```

Windows の場合：

```
C:> secude psemaint -p idm.pse show Cert | findstr SubjectName
```

## SAP システムの識別名 (DN) を取得する

SAP システムの DN は、SAP システムにインストールされている証明書に含まれています。この DN を取得するには、SAP GUI を使用して SAP システムにログインします。

1. STRUST トランザクションを選択します。
2. 「SNC (SAP Cryptolib)」ノードを展開します。

3. SAP システムの証明書をダブルクリックして選択します。
4. 右側のいちばん下の区画にある「所有者」フィールドが DN です。

## Identity Manager アプリケーションサーバーを設定する

Identity Manager のアプリケーションサーバーには、次の環境変数が定義されている必要があります。さらに、CREDDIR 変数で指定されたディレクトリに対する読み取り / 書き込み権が必要です。

CREDDIR =PathToPSELocation (すべて)

SNC\_LIB=PathToSecudeLibrary/secude\_library (すべて)

LD\_LIBRARY\_PATH =PathToSecudeLibraries (Solaris および Linux のみ)

LIBPATH =PathToSecudeLibraries (AIX のみ)

SHLIB\_PATH =PathToSecudeLibraries (HP-UX のみ)

PATH =PathToSecudeLibraries (Windows のみ)

## アダプタを設定する

SAP アダプタには、SNC が正しく機能するために設定する必要があるいくつかのリソースパラメータが必要です。この手順には、Identity Manager の証明書、Identity Manager の DN、および SAP システムの DN が必要です。

- 「**SNC 保護レベル**」- プライバシーのレベルを示す数字 (1 ~ 9)。この値は、SAP システム上の値セットに一致している必要があります。
- 「**SNC 名**」- 前に p: が付加された Identity Manager の識別名 (DN)。たとえば、p:CN=IdentityManager,OU=IDM,O=Example,C=US になります。
- 「**SNC パートナー名**」- 前に p: が付加された SAP の DN。たとえば、p:CN=SAPHost,OU=IDM,o=Example,c=us になります。
- 「**SNC X509 証明書**」- Identity Manager の証明書を入力します。BEGIN と END CERTIFICATE の行を削除し、改行文字をすべて削除する必要があります。
- 「**SNC ライブラリパス**」- SNC 暗号化ライブラリファイルのフルパス。ファイル拡張子 (.so、.a、または .dll) を含みます。



## 非推奨のリソースアダプタ

この章では、非推奨になったリソースアダプタの一覧を示します。これらの非推奨のアダプタについては、以前のバージョンの『Identity Manager リソースリファレンス』を参照してください。

表 8-1 非推奨のリソースアダプタ

アダプタ	コメント
ActivCard	置き換えのアダプタはありません。
Blackberry	代わりにスクリプトゲートウェイアダプタを使用します。  サンプルスクリプトが \$WSHOME/web/sample/ScriptedGateway/BlackberryV4SampleScriptedGatewayObjects.xml ファイルに用意されています。これらのスクリプトは、もとは「Microsoft Exchange とともに配備された場合の BlackBerry Enterprise Server, Version 4.x のユーザー管理」のために提供されたユーティリティに対してテストされました。これらのスクリプトは、正式にはサポートされていません。
Exchange 5.5	代わりに Windows Active Directory アダプタを使用します。
GroupWise	代わりに NetWare NDS アダプタを使用します。
LDAP Listener Active Sync	代わりに LDAP アダプタを使用します。
Natural	置き換えのアダプタはありません。
NDS Active Sync	代わりに NDS アダプタを使用します。
Siebel	代わりに Siebel CRM アダプタを使用します。
SQL Server	代わりに、MS SQL Server アダプタを使用します。
Sun ONE Identity Server	代わりに Sun Java System Access Manager または Sun Java System Access Manager レルムアダプタを使用します。

**表 8-1** 非推奨のリソースアダプタ ( 続き )

アダプタ	コメント
Sybase	代わりに Sybase ASE アダプタを使用します。
Windows NT	代わりに Windows Active Directory アダプタを使用します。

## A

### Access Manager アダプタ

- GSO クレデンシヤル 32
- jar ファイル 29
- アイデンティティテンプレート 34
- アカウント属性 33
- インストール 31
- 概要 5, 29
- 管理特権 33
- サポートされる接続 33
- 使用上の注意 32
- トラブルシューティング 35
- プロビジョニングに関する注意事項 33
- リソースオブジェクト 34
- リソースの設定 29

### AccessManagerUserForm.xml 35

### ACF2 アダプタ

- jar ファイルの要件 9
- SSL 設定 40
- アカウント属性 41
- インストール 37
- 概要 4, 37
- 管理者アカウント 39
- クラスタ環境 39
- サポートされる接続 40
- トラブルシューティング 49
- プロビジョニングに関する注意事項 40

### ACF2UserForm.xml 49

ACL、「アクセス制御リスト (ACL)」を参照

actionContext マップ 369, 370, 371, 372, 374, 375, 377, 378, 380

### Active Directory アダプタ

- ACL リストの管理 85
- ActiveSync の設定 58
- Microsoft Exchange Server ノサポート 56
- Sun Identity Manager Gateway 51
- アイデンティティテンプレート 92
- アカウント属性 53, 56, 63, 66
- 概要 3, 51
- サポートされる接続 60
- 証明書 66
- トラブルシューティング 93
- パススルー認証 62
- パスワードのリセット権 62
- パスワード履歴 56
- 必要な管理特権 60
- 不在メッセージ 53

### Active Directory 同期フェイルオーバー

- IAPI オブジェクトの変更 541
- コンポーネント 537
- 失敗時のプロセス 538
- セットアップ 542
- タスク 539
- 復元収集タスク 538
- モード 540
- リソースオブジェクトの変更 541
- ワークフロー 543

### Active Sync

Active Directory 用に設定 58

設定情報 13  
 属性 13  
 データベーステーブルアダプタの設定 118  
 フラットファイル、「フラットファイル Active Sync」を参照  
 ユーザーフォーム 146  
 「Active Sync の一般設定」 ページ 13  
 ADUserForm.xml 93  
 AD、「ADActive Directory」を参照  
 AIX アダプタ 4  
 アイデンティティテンプレート 100  
 アカウント属性 98  
 概要 95  
 サポートされる接続 96  
 トラブルシューティング 100  
 必要な管理特権 96  
 AIXUserForm.xml 100  
 AMAgent.properties ファイル 448, 455  
 AttrParse  
 AttrParse 494  
 collectCsvHeader トークン 496  
 collectCvsLines トークン 497  
 eol トークン 498  
 flag トークン 498  
 int トークン 500  
 loop トークン 501  
 multiLine トークン 501  
 opt トークン 502  
 skip トークン 503  
 skipLinesUntil トークン 504  
 skipToEol トークン 504  
 skipWhitespace トークン 505  
 str トークン 505  
 t トークン 508  
 アカウント属性 500, 505  
 概要 493  
 スクリプトゲートウェイ 361, 419  
 設定 493  
 AUDIT\_EFFDT\_LH ビュー、PeopleSoft 263  
 AUDIT\_PRS\_DATA テーブル、PeopleSoft 264  
 audittrigger.oracle スクリプト 271

## C

ClearTrust アダプタ  
 ClearTrust アダプタ 114  
 jar ファイルの要件 10  
 アイデンティティテンプレート 115  
 アカウント属性 115  
 概要 4, 113  
 サポートされる接続 114  
 トラブルシューティング 116  
 ClearTrustUserForm.xml 115  
 cmd シェル、Windows 520  
 collectCsvHeader トークン 496  
 collectCvsLines トークン 497  
 com.waveset.adapter  
 SmartRolesResourceAdapter クラス 101  
 com.waveset.adapter.  
 AccessManagerResourceAdapter クラス 29, 35  
 ACF2ResourceAdapter クラス 37  
 ADSIResourceAdapterceAdapter クラス 93  
 AIXResourceAdapter クラス 95, 100  
 ClearTrustResourceAdapter クラス 113  
 DatabaseTableResourceAdapter クラス 117  
 DB2ResourceAdapter クラス 123  
 DominoResourceAdapter クラス 127  
 FlatFileActiveSyncAdapter クラス 145  
 INISafeNexessResourceAdapter クラス 161  
 JmsListenerResourceAdapter クラス 165, 171  
 MIISResourceAdapter クラス 191  
 MSSQLServerResourceAdapter クラス 195  
 MySQLResourceAdapter 201  
 NDSResourceAdapter 205  
 NDSSecretStoreResourceAdapter 205  
 OS400ResourceAdapter 255  
 PeopleSoftCompIntfcAdapter クラス 279  
 PeopleSoftComponentActiveSyncAdapter クラス 261  
 RACFResourceAdapter クラス 289  
 RedHatLinuxResourceAdapter クラス 309  
 RemedyResourceAdapter クラス 315  
 SAPHRActiveSyncAdapter 333  
 SAPPortalResourceAdapter クラス 355  
 ScriptedConnection クラス 100

ScriptedHostResourceAdapter クラス 359, 365, 417  
 SecuriIdResourceAdapter 405  
 SecuriIdUnixResourceAdapter 405  
 SiebelCRMResourceAdapter 423  
 SiteminderAdminResourceAdapter 433  
 SiteminderExampleTableResourceAdapter 433  
 SiteminderLDAPResourceAdapter 433  
 SolarisResourceAdapter クラス 439  
 SunAccessManagerResourceAdapter クラス 445, 455  
 SunCommunicationsServicesResourceAdapter クラス 299, 463  
 SUSELinuxResourceAdapter クラス 309  
 TopSecretResourceAdapter クラス 483  
 CPIC ユーザー、作成 340  
 create アクション 282, 370  
 CSV ファイル、「コンマ区切り値 (CSV) ファイル」を参照

## D

DB2 Java Daemon 123  
 DB2 アダプタ  
   jar ファイルの要件 10  
   JDBC アクセス 123  
   アイデンティティテンプレート 125  
   アカウント属性 125  
   インストール 123  
   概要 2, 123  
   サポートされる接続 124  
   トラブルシューティング 126  
   必要な管理特権 124  
 DB2 と MIIS 191  
 DBADM 権限、DB2 124  
 delete アクション 371  
 DELETE\_USER\_PROFILE コンポーネントインタフェース 283  
 deleteFromRgy 属性 34  
 DER ファイル 206  
 description 属性 33

diffAction 属性 147  
 Directory Server 175  
 disable アクション 158, 312, 372, 442  
 Domino アダプタ  
   ID ファイル 133  
   searchFilter オプションを実装 136  
   アイデンティティテンプレート 142  
   アカウント属性 138  
   概要 127  
   ゲートウェイのインストール 128  
   再認証処理 129  
   削除 / 移動 134  
   サポートされる接続 137  
   サンプルアクション 518  
   証明書 139  
   すべてのオブジェクトの一覧表示 135  
   設定 127  
   パスワードの変更 129  
   フォームの更新 135  
   有効化と無効化 131  
   リソース名 134  
 Domino でのプロビジョニング解除 131  
 DominoActiveSyncForm.xml 143

## E

enable アクション 158, 312, 373, 442  
 eol トークン 498  
 expirePassword 属性 34

## F

FFAS ファイル 147  
 firstname 属性 firstname フォクセイ 33  
 flag トークン 498

## G

GET アクション [449, 456](#)  
 getAccountIterator アクション [374, 377](#)  
 getUser アクション [374, 375](#)  
 groups 属性 [34](#)  
 GroupWise アダプタ  
   アカウント属性 [210](#)  
   概要 [3](#)  
 GroupWise ポストオフィス [210](#)  
 GroupWise、NetWare NDS との統合 [210](#)  
 GSO クレデンシャル、Access Manager [32](#)  
 gsoGroupCreds 属性 [34](#)  
 gsoWebCreds 属性 [34](#)

## H

habeans.jar ファイル [38, 290, 300, 366, 485](#)  
 Host OnDemand (HOD) リダイレクタ [548](#)  
 hostAccess オブジェクト [521](#)  
 HP-UX アダプタ [4](#)  
   アイデンティティテンプレート [160](#)  
   アカウント属性 [158](#)  
   概要 [155](#)  
   サポートされる接続 [156](#)  
   トラブルシューティング [160](#)  
   必要な管理特権 [156](#)  
 HP-UXUserForm.xml [160](#)

## I

IBM Tivoli Access Manager、「Access Manager」を参照  
 IBM 証明書管理ツール [548](#)  
 icsCalendarUser オブジェクトクラス [475](#)  
 Identity Manager  
   アダプタ [8](#)  
 Identity Server アダプタ

  アカウント属性 [451, 459](#)

idmpasswd 属性 [530](#)  
 ID ファイル、Domino [133](#)  
 importFromRgy 属性 [34](#)  
 inetLocalMailRecipient オブジェクトクラス [475](#)  
 inetMailUser オブジェクトクラス [473](#)  
 inetOrgPerson オブジェクトクラス [186, 471](#)  
 inetUser オブジェクトクラス [469](#)  
 INISafe Nexess アダプタ  
   jar ファイルの要件 [10](#)  
   アイデンティティテンプレート [163](#)  
   アカウント属性 [162](#)  
   インストール [161](#)  
   概要 [3, 161](#)  
   サポートされる接続 [161](#)  
   トラブルシューティング [163](#)

int トークン [500](#)

iplanet-am-managed-person オブジェクトクラス [473](#)

ipUser オブジェクトクラス [472](#)

## J

jar ファイル  
   Access Manager [29](#)  
   インストール [8](#)  
   必須 [8](#)

Java Message Service、「JMS」を参照

Java クラス名 [7](#)

java.security ファイル [30](#)

JDBC アクセス、DB2 [123](#)

JMS リスナーアダプタ

  アイデンティティテンプレート [171](#)

  アカウント属性 [171](#)

  概要 [165](#)

  再接続 [167](#)

  サポートされる接続 [170](#)

  接続 [166](#)

  設定 [165](#)

トラブルシューティング 171  
 必要な管理特権 170  
 メッセージ配信および処理 167  
 メッセージマッピング 166  
 ライフサイクルリスナー 167  
 リソースオブジェクト 171

JNDI 165, 465

## L

lastname 属性 lastname ソクセイ 33

LDAP アダプタ

inetOrgPerson オブジェクトクラス 186  
 organizationalPerson オブジェクトクラス 185  
 person オブジェクトクラス 184  
 アカウント属性 182, 183, 304, 466  
 概要 3, 173  
 仮想リスト表示のサポート 175  
 グループ管理属性 183  
 サポートされる接続 181  
 サンプルフォーム 188  
 設定 173  
 トラブルシューティング 189  
 必要な管理特権 181  
 リソースオブジェクトの管理 187

LDAP スキーマ 531

LDAP パスワード

概要 529, 547, 551, 555  
 キャプチャー処理 530  
 旧バージョン形式の更新履歴ログデータベース  
 530  
 スキーマの変更 531  
 同期手続き 531

LDAPActiveSyncForm.xml 188

LDIF ファイル 146, 148, 532

LH\_AUDIT\_EFFDT ページ、PeopleSoft 267

LH\_EMPLOYEE\_DATA ページ、PeopleSoft 268

listAll アクション 374, 377

ListAllObjects 135

logger.xml 358

login アクション

ACF2 アダプタ 40  
 RACF アダプタ 293, 302  
 Top Secret アダプタ 487, 521  
 サンプル 524  
 スクリプトホストアダプタ 378

logoff アクション

ACF2 アダプタ 40  
 RACF アダプタ 293, 302  
 Top Secret アダプタ 487, 521  
 サンプル 525  
 スクリプトホストアダプタ 379

loop トークン 501

LotusScript サンプルアクション 518

## M

Messaging Application Programming Interface (MAPI) 53

Microsoft Active Directory アダプタ、「Active Directory アダプタ」を参照

Microsoft Exchange Server 56

Microsoft Exchange アダプタ  
 トラブルシューティング 143

Microsoft SQL Server アダプタ

jar ファイルの要件 10  
 アイデンティティテンプレート 200  
 アカウント属性 199  
 インストール 195  
 概要 2, 195  
 サポートされる接続 197  
 トラブルシューティング 200  
 必要な管理特権 197

MIIS アダプタ

アイデンティティテンプレート 193  
 アカウント属性 193  
 インストール 191  
 概要 4, 191  
 サポートされる接続 192  
 トラブルシューティング 193

## N

- 必要な管理特権 [192](#)
  - move アクション [134](#)
  - MSSQLServerUserForm.xml [200](#)
  - multiLine トークン [501](#)
  - MySQL アダプタ
    - jar ファイルの要件 [10](#)
    - アイデンティティテンプレート [28, 203](#)
    - インストール [21, 201](#)
    - 概要 [2, 21, 201](#)
    - サポートされる接続 [25, 202](#)
    - トラブルシューティング [203](#)
    - 必要な管理特権 [25, 202](#)
  - MySQL と MIIS [191](#)
- ## N
- NDSUserForm.xml [221](#)
  - Netegrity SiteMinder アダプタ、「Siteminder アダプタ」を参照
  - NetWare NDS アダプタ
    - Groupwise 属性の管理 [210](#)
    - GroupWise との統合 [210](#)
    - アイデンティティテンプレート [220](#)
    - アカウント属性 [207, 212, 214](#)
    - 概要 [3, 205](#)
    - ゲートウェイのインストール [205](#)
    - サポートされる接続 [211](#)
    - サンプルフォーム [220](#)
    - 証明書 [206, 219](#)
    - トラブルシューティング [221](#)
    - パススルー認証 [208](#)
    - 必要な管理特権 [211](#)
    - リソースオブジェクトの管理 [220](#)
  - noCascade アカウント属性 [224](#)
  - noPwdPolicy 属性 [34](#)
  - Novell GroupWise アダプタ、「Novell GroupWise アダプタ」を参照
  - Novell Netware NDS アダプタ、「Netware NDS アダプタ」を参照
  - Novell SecretStore [205](#)

## O

- opt トークン [502, 503](#)
- Oracle EBS アダプタ
  - Oracle EBS のアクセス権 [244](#)
  - アイデンティティテンプレート [252](#)
  - アカウント属性 [229, 248](#)
  - インストール [229](#)
  - 管理ユーザー責任、EBS [231](#)
  - クライアント暗号化、Oracle [231](#)
  - サポートされる接続 [244](#)
  - セキュリティ設定属性機能 [232](#)
  - トラブルシューティング [253](#)
  - パススルー認証 [246](#)
- Oracle アダプタ
  - アイデンティティテンプレート [227](#)
  - アカウント属性 [226](#)
  - インストール [223](#)
  - カスケード削除 [224](#)
  - サポートされる接続 [225](#)
  - トラブルシューティング [228](#)
  - 必要な管理特権 [226](#)
  - ユーザータイプ、Oracle [224](#)
- Oracle と MIIS [191](#)
- Oracle/Oracle ERP アダプタ
  - jar ファイルの要件 [10](#)
  - 概要 [2](#)
- OracleEBSUserForm.xml [253](#)
- organizationalPerson オブジェクトクラス [185, 470](#)
- OS/390 [37, 365, 483](#)
- OS/400 アダプタ
  - アイデンティティテンプレート [259](#)
  - アカウント属性 [257](#)
  - 概要 [4, 255](#)
  - サポートされる接続 [256](#)
  - トラブルシューティング [259](#)
  - 必要な管理特権 [256](#)
  - プロビジョニング解除フォーム [255](#)
- OS400UserForm.xml [259](#)

## P

- PeopleSoft コンポーネントアダプタ
  - ActiveSync の設定 274
  - audittrigger スクリプトの実行 271
  - jar ファイルの要件 10
  - PeopleTools の設定 271, 272
  - アイデンティティテンプレート 277
  - アカウント属性 276
  - インストール 274
  - オブジェクトの定義 262
  - 概要 2, 261
  - 監査の有効化 271
  - 監査ログ 274
  - クラスタ内のホストの制御 274
  - コンポーネントインタフェース 270
  - サポートされる接続 275
  - 設定 261
  - トラブルシューティング 277
  - プロジェクトの構築 270
  - プロジェクトの作成 269
- PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタ
  - DELETE\_USER\_PROFILE コンポーネントインタフェース 283
  - jar ファイルの要件 10
  - ROLE\_MAINT コンポーネントインタフェース 283
  - アイデンティティテンプレート 288
  - アカウント属性 282, 287
  - インストール 279
  - 概要 2, 279
  - サポートされる接続 286
  - 設定 279
  - トラブルシューティング 288
  - 必要な管理特権 286
  - マップの定義 280
  - ユーザーフォーム 285
  - ユーザープロビジョニング 280
  - リソースオブジェクト 284
- PeopleSoftCompIntfcUserFormxml 288
- PeopleSoftComponentInterfaces.xml 280
- PeopleSoftForm.xml 277
- PERS\_SRCH\_LH ビュー、PeopleSoft 265

- person オブジェクトクラス 184, 469
- POST アクション 449, 456

## R

- RACF LDAP アダプタ
  - 概要 299
- RACF アダプタ
  - jar ファイルの要件 11
  - SSL 設定 293, 547
  - Telnet/TN3270 サーバーへの接続 547
  - アイデンティティテンプレート 296
  - アカウント属性 294
  - インストール 289, 299
  - 概要 5, 289
  - 管理者 291, 301
  - サポートされる接続 293
  - トラブルシューティング 297
  - リソースアクション 293, 302, 487
- RACFUserForm.xml 296
- read アクション 282
- Red Hat Linux アダプタ
  - アイデンティティテンプレート 314
  - アカウント属性 313
  - 概要 4, 309
  - サポートされる接続 310
  - トラブルシューティング 314
  - 必要な管理特権 310
  - ユーザーアカウントの名前の変更 309
- RedHatLinuxUserForm.xml 314
- registryUID 属性 33
- 「Reliable Messaging サポート」フィールド 167
- Remedy アダプタ
  - Active Sync 315
  - アカウント属性 318
  - 概要 4, 315
  - 検索式 316
  - サポートされる接続 317
  - トラブルシューティング 320
  - 必要な管理特権 317

rename アクション 134  
 ResourceAction オブジェクト 368  
 RFC サーバーモジュール 336  
 ROLE\_MAINT コンポーネントインタフェース 283

## S

SAP Application Link Enabling (ALE) テクノロジー 334

SAP Enterprise Portal アダプタ  
 アイデンティティテンプレート 358  
 アカウント属性 356  
 概要 355  
 設定 355  
 トラブルシューティング 358  
 ポータルアーカイブファイル 355

SAP HR Active Sync 333

アダプタ jar ファイルの要件 11

SAP User Management Engine (UME) 355

SAP アダプタ

CPIC ユーザーの作成 340

IDoc の生成 338

jar ファイルの要件 11

JCO および RFC のトレース 322, 342

RFC サーバーモジュールの SAP ゲートウェイへの登録 336

アイデンティティテンプレート 330, 352

アカウント属性 326

インストール 255, 321, 340

概要 2, 321, 333

サポートされる接続 325, 342

ジョブのスケジューリング 339

設定 321, 333

トラブルシューティング 28, 331, 352

パートナープロファイルの生成 337

変更ポインタ 338

ポート定義の作成 337

ポート定義の修正 337

ユーザーパスワード 321

論理システムの作成 334

SAP ゲートウェイ 336

SAPForm.xml 330, 352

SAPHRActiveSyncForm.xml 330, 352

SAPPortalUserForm.xml 358

SAPPortalUserFormRules.xml 358

SAPUserForm.xml 322

SAPUserForm\_with\_RoleEffectiveDates\_Timezone.xml 322, 330, 352

ScreenSampleActions.xml 368

searchFilter、Domino 用に実装 136

SecretStore 205, 210

証明書 206

SecurID ACE/Server アダプタ

UNIX でのパススルー認証の有効化 406

アイデンティティテンプレート 415

アカウント属性 412

概要 5, 405

サポートされる接続 411

設定 405

トラブルシューティング 416

パスワードポリシー 410

必要な管理特権 411

複数のトークンの有効化 407

securingAttrs 属性 232

SendKeys メソッド 522

serverconfig.xml 446

Siebel CRM アダプタ 423

jar ファイルの要件 12, 423

アイデンティティテンプレート 430

アカウント属性 428

アカウントプロビジョニング 424

インストール 423

概要 2

サポートされる接続 429

トラブルシューティング 430

必要な管理特権 429

リソースオブジェクトの管理 429

Siebel Tools Client 424

SiteMinder アダプタ

jar ファイルの要件 12, 434

アイデンティティテンプレート 438

インストール 434

- 概要 5, 433
- サポートされる接続 435
- トラブルシューティング 438
- SiteminderAdminUserForm.xml 438
- SiteminderExampleTableUserForm.xml 438
- SiteminderLDAPUserForm.xml 438
- skip トークン 503
- skipLinesUntil トークン 504
- skipToEol トークン 504
- skipWhitespace トークン 505
- SmartRoles アダプタ
  - アイデンティティテンプレート 111
  - サポートされる接続 106
  - トラブルシューティング 111
- SmartRolesUserForm.xml 111
- Solaris
  - サポート xxii
  - パッチ xxii
- Solaris アダプタ
  - アイデンティティテンプレート 444
  - アカウント属性 443
  - 概要 4, 439
  - サポートされる接続 440
  - トラブルシューティング 444
  - 必要な管理特権 440
  - ユーザーアカウントの名前の変更 439
  - リソースオブジェクトの管理 444
- SolarisUserForm.xml 444
- SQL Server アダプタ
  - 「Microsoft SQL Server アダプタ」も参照
- SSL CertificateDNS オブジェクト 206
- SSL 証明書 206
- SSL 設定
  - ACF2 用 40
  - RACF 用 293, 547
  - スクリプトホスト 381
- ssoUser 属性 34
- str トークン 505
- sudo 機能 96, 156, 310, 440
- Sun Identity Manager Gateway
  - およびスクリプトゲートウェイ 359
  - サービスアカウント 51
  - 場所 51, 205
- Sun Java System Access Manager アダプタ
  - jar ファイルの要件 12
  - Policy Agent 447
  - アイデンティティテンプレート 453, 460
  - 概要 5, 445, 455
  - サポートされる接続 450, 458
  - サポートされるバージョン 455
  - 設定 445, 455
  - トラブルシューティング 453, 461
  - 必要な管理特権 451, 458
  - プロビジョニングに関する注意事項 451, 459
- Sun Java System Calendar Server 463
- Sun Java System Communications Services アダプタ
  - LDAP リソースアダプタの拡張 299, 463
  - 概要 4, 463
  - サービスアカウント 464
  - サポートされる接続 303, 465
  - サンプルフォーム 307, 478
  - 設定 299, 463
  - デフォルトでサポートされるオブジェクトクラス 307, 468
  - トラブルシューティング 307, 478
  - 必要な管理特権 303, 465
  - 前アクションと後アクション 464
  - リソースオブジェクトの管理 307, 477
- Sun Java System Directory Server 463
- Sun Java System Messaging Server 463
- SunAMRealmUserForm.xml 460
- SunAMUserForm.xml 453
- SuSE Linux アダプタ
  - アイデンティティテンプレート 314
  - アカウント属性 313
  - 概要 309
  - サポートされる接続 310
  - 必要な管理特権 310
  - ユーザーアカウントの名前の変更 309
- Sybase アダプタ
  - jar ファイルの要件 12
  - アイデンティティテンプレート 482
  - アカウント属性 481

## T

インストール 479  
概要 2, 479  
サポートされる接続 479  
トラブルシューティング 482  
必要な管理特権 480

syncGSOCreds 属性 34  
SYSADM 権限、DB2 124

## T

t トークン 508

Telnet/TN3270 サーバー、接続  
RACF アダプタ 547

TN3270 エミュレータ 37

Top Secret アダプタ

jar ファイルの要件 13  
アイデンティティテンプレート 490  
アカウント属性 488  
インストール 484  
概要 5, 483  
管理者 486  
サポートされる接続 488  
設定 483  
トラブルシューティング 491  
必要な管理特権 488

top オブジェクトクラス 469

TopSecretUserForm.xml 491

TSO 39, 291, 301, 486

## U

ums.xml 446

update アクション 282, 380

USER\_PROFILE コンポーネントインタフェース  
282  
282

userCertificate 属性 219

userPresenceProfile オブジェクトクラス 473

userSMIMECertificate 属性 219

## V

VLV 175

## W

Web Access Control、設定 31

Web シングルサインオンアダプタ 4

WebLogic アプリケーションサーバー 434

WebSphere アプリケーションサーバー 31

Windows NT アダプタ

サンプルアクション 515

Windows 認証 196

WSAttributes オブジェクト 14

WSUSER\_accountId 変数 137

WSUSER\_UNID 変数 137

## X

X.509 証明書 66

XML ファイル

AccessManagerUserForm.xml 35

ACF2UserForm.xml 49

ADUserForm.xml 93

AIXUserForm.xml 100

ClearTrustUserForm.xml 115

DominoActiveSyncForm.xml 143

HP-UXUserForm.xml 160

LDAPActiveSyncForm.xml 188

logger.xml 358

MSSQLServerUserForm.xml 200

NDSUserForm.xml 221

OracleEBSUserForm.xml 253

OS400UserForm.xml 259

PeopleSoftComponentInterfaces.xml 280, 288

PeopleSoftForm.xml 277

RACFUserForm.xml 296

RedHatLinuxUserForm.xml 314  
 SAPForm.xml 330, 352  
 SAPHRActiveSyncForm.xml 330, 352  
 SAPPortalUserForm.xml 358  
 SAPPortalUserFormRules.xml 358  
 SAPUserForm.xml 322  
 SAPUserForm\_with\_RoleEffectiveDates\_Timezone.xml 322, 330, 352  
 ScreenSampleActions.xml 368  
 serverconfig.xml 446  
 SiteminderAdminUserForm.xml 438  
 SiteminderExampleTableUserForm.xml 438  
 SiteminderLDAPUserForm.xml 438  
 SmartRolesUserForm.xml 111  
 SolarisUserForm.xml 444  
 SunAMRealmUserForm.xml 460  
 SunAMUserForm.xml 453  
 SUSELinuxUserForm.xml 314  
 TopSecretUserForm.xml 491  
 ums.xml 446

## あ

### アイデンティティテンプレート

Access Manager 34  
 Active Directory 92  
 AIX 100  
 ClearTrust 115  
 DB2 125  
 Domino 142  
 HP-UX 160  
 INISafe Nexess 163  
 JMS リスナー 171  
 Microsoft SQL Server 200  
 MIIS アダプタ 193  
 MySQL 28, 203  
 NetWare NDS 220  
 Oracle 227  
 Oracle EBS 252  
 OS/400 259  
 PeopleSoft 277  
 PeopleSoft コンポーネントインタフェース 288  
 RACF 296  
 Red Hat Linux 314  
 SAP 330, 352

SAP Enterprise Portal 358  
 SecurID ACE/Server 415  
 Siebel CRM 430  
 SiteMinder 438  
 SmartRoles 111  
 Solaris 444  
 Sun Java System Access Manager 453, 460  
 SuSE Linux アダプタ 314  
 Sybase 482  
 Top Secret 490  
 概要 17  
 スクリプトゲートウェイ 363, 421  
 スクリプトホスト 382  
 データベーステーブル 121

### アカウント

データ読み込みのメソッド 16  
 特権の要件 15  
 名前の構文の定義 17  
 名前の変更 16  
 有効化 / 無効化 16

### アカウント属性

「属性」を参照  
 Access Manager 33  
 ACF2 41  
 Active Directory 53, 56, 63, 66  
 AIX 98  
 AttrParse 500, 505  
 ClearTrust 115  
 DB2 125  
 Domino 138  
 GroupWise 210  
 HP-UX 158  
 Identity Server 451, 459  
 INISafe Nexess 162  
 JMS リスナー 171  
 LDAP 182, 183, 304, 466  
 Microsoft SQL Server 199  
 MIIS 193  
 NetWare NDS 207, 212, 214  
 Oracle 226  
 Oracle EBS 229, 248  
 Oracle データベース 226  
 OS/400 257  
 PeopleSoft 276

- PeopleSoft コンポーネントインタフェース 282, 287
- RACF 294
- Red Hat Linux 313
- Remedy 318
- SAP 326
- SAP Enterprise Portal 356
- SecurID ACE/Server 412
- Siebel CRM 428
- Solaris 443
- SuSE Linux アダプタ 313
- Sybase 481
- Top Secret 488
- スクリプトゲートウェイ 363, 421
- スクリプトホスト 382
- 定義 / 説明 6
- データベーステーブル 120
- フラットファイル Active Sync 150
- マッピング 16, 501, 503, 505
- 「アカウント属性」 ページ
  - LDAP アダプタ 183
  - NetWare NDS アダプタ 214
  - PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタ 281
  - Sun Java System Communications Services アダプタ 304, 467
- アカウントの名前の変更 16
- アクション
  - create 282, 370
  - delete 371
  - disable 158, 312, 372, 442
  - Domino の例 518
  - enable 158, 312, 373, 442
  - GET 449, 456
  - getAccountIterator 374, 377
  - getUser 374, 375
  - listAll 374, 377
  - move 134
  - POST 449, 456
  - read 282
  - rename 134
  - update 282, 380
  - Windows NT の例 515
  - WSUSER\_accountId 変数 137
  - WSUSER\_UNID 変数 137
- アクションファイルの読み込み 513
- 概要 509
- サポートされるプロセス 510
- 実行 52
- 実装 514
- 前後
  - Active Directory アダプタ 52
  - Domino アダプタ 137
  - Sun Java System Communications Services アダプタ 464
  - 概要 16
  - サポートされるプロセス 510
- 定義 510
- プロビジョニング 360, 368, 417
- ユーザー属性 344
- リソース属性名 344
- リソースへの追加 509 ~ 528
- リソース、「リソースアクション」を参照
- アクションファイル
  - 読み込み 513
- アクセス制御リスト (ACL)
  - Active Directory 85
  - Domino 127
- アダプタ
  - Identity Manager 8
  - jar ファイルの要件 8
  - Java クラス名 7
  - 依存関係 6
  - カスタム 8
  - 制限 6
  - タイプ 1
  - 提供 1
  - トラブルシューティング 18
  - パススルー認証 6
  - プロビジョニングに関する注意事項 6
  - 有効化 5
  - リソースのバージョン 7
- 後アクション、「アクション」、「前後」を参照
- 暗号化、Oracle クライアント 231

## い

依存関係 6

一致しないアカウントの作成 15

インストール

Access Manager アダプタ 31, 32

ACF2 アダプタ 37

ClearTrust アダプタ 113

DB2 アダプタ 123

Identity Manager アダプタ 8

INISafe Nexess アダプタ 161

jar ファイル 8

Microsoft SQL Server アダプタ 195

MIIS アダプタ 191

MySQL アダプタ 21, 201

Oracle EBS アダプタ 229

Oracle アダプタ 223

PeopleSoft コンポーネントアダプタ 274

PeopleSoft コンポーネントインタフェースアダプタ 279

SAP アダプタ 255, 321, 340

SiteMinder アダプタ 434

Sun Java System Access Manager 445, 447

Sybase アダプタ 479

Top Secret アダプタ 484

カスタムアダプタ 8

スクリプトホストアダプタ 365

インストールの注意点、説明 8

## え

エンタイトルメント、ClearTrust 114

## お

オブジェクト

hostAccess 521

ResourceAction 368

SSL CertificateDNS 206

WSAttributes 14

リソース上の管理 17

## か

解決プロセス規則 15

階層構造の名前空間 17

「概要」の節 7

確認規則 14

カスケード削除 224

カスタム

アダプタ 8

リソース 7

仮想リスト表示のサポート、LDAP アダプタ 175

環境変数、スクリプトゲートウェイによるエクスポート 360, 418

管理者アカウント、ACF2 39

「管理するリソースの設定」ページ 7

管理特権

Access Manager 33

Active Directory 60

AIX 96

DB2 124

HP-UX 156

JMS リスナー 170

NetWare NDS 211

Oracle 226

OS/400 256

Red Hat Linux 310

SecurID ACE/Server 411

SQL Server 197

SuSE Linux アダプタ 310

Sybase 480

スクリプトゲートウェイ 362, 420

必須 15

## き

規則、Active Sync

delete 14

確認 14

<

処理 13

相関 14

プロセス解決 15

旧バージョン形式の更新履歴ログデータベース 530

<

組み込みのフォーム 18

クライアント暗号化、Oracle 231

クラス

com.waveset.adapter

「com.waveset.adapter クラス」を参照  
トレースおよびデバッグ 6

クラスタ環境と ACF2 39

グループ管理属性、LDAP 183

クレデンシャル

GSO Web リソース 32

GSO リソースグループ 32

グローバルで利用 15

け

ゲートウェイ

Domino 用にインストール 128

NetWare NDS 用のインストール 205

こ

公開鍵証明書 206

構文

Active Directory アカウント属性 63

LDAP アカウント属性 182, 304, 466

NetWare NDS アカウント属性 212

アカウント名 17

個人データリソース、SAP HR Active Sync 347

コンマ区切り値 (CSV) ファイル 145, 148

な

再認証処理、Domino アダプタ 129

削除規則 14

サポート

Solaris xxii

サポートされているメソッド 16

サポートされる接続

Access Manager 33

ACF2 40

Active Directory 60

AIX 96

ClearTrust 114

DB2 124

Domino 137

HP-UX 156

INISafe Nexess 161

JMS リスナー 170

LDAP 181

Microsoft SQL Server 197

MIIS 192

MySQL 25, 202

NetWare NDS 211

Oracle 225

Oracle EBS 244

OS/400 256

PeopleSoft コンポーネント 275

PeopleSoft コンポーネントインタフェース 286

RACF 293

Red Hat Linux 310

Remedy 317

SAP 325, 342

SecurID ACE/Server 411

Siebel CRM 429

SiteMinder 435

SmartRoles 106

Solaris 440

Sun Java System Access Manager 450, 458

Sun Java System Communications Services アダ  
プタ 303, 465

SuSE Linux アダプタ 310

Sybase 479

Top Secret 488

スクリプトゲートウェイ 362, 420

スクリプトホスト 381

セキュリティーに関する注意事項 15

- フラットファイル Active Sync 149
- サポートされるプロセス 510
- サンプルフォーム
  - AccessManagerUserForm.xml 35
  - ACF2UserForm.xml 49
  - ADUserForm.xml 93
  - AIXUserForm.xml 100
  - ClearTrustUserForm.xml 115
  - DominoActiveSyncForm.xml 143
  - HP-UXUserForm.xml 160
  - LDAPActiveSyncForm.xml 188
  - MSSQLServerUserForm.xml 200
  - NDSUserForm.xml 221
  - OracleEBSUserForm.xml 253
  - OS400UserForm.xml 259
  - PeopleSoftComponentInterfaces.xml 280, 288
  - PeopleSoftForm.xml 277
  - RACFUserForm.xml 296
  - RedHatLinuxUserForm.xml 314
  - SAPForm.xml 330, 352
  - SAPHRActiveSyncForm.xml 330, 352
  - SAPPortalUserForm.xml 358
  - SAPPortalUserFormRules.xml 358
  - SAPUserForm.xml 322
  - SAPUserForm\_with\_RoleEffectiveDates\_Timezone.xml 322, 330, 352
  - SiteminderAdminUserForm.xml 438
  - SiteminderExampleTableUserForm.xml 438
  - SiteminderLDAPUserForm.xml 438
  - SmartRolesUserForm.xml 111
  - SolarisUserForm.xml 444
  - SunAMRealmUserForm.xml 460
  - SunAMUserForm.xml 453
  - SUSELinuxUserForm.xml 314
  - TopSecretUserForm.xml 491
  - 場所 6

## し

- 住所リソース、SAP HR Active Sync 349
- 使用上の注意 6
- 証明書
  - SecretStore 206
  - SSL 206

- Telnet/TN3270 サーバー 547
- userCertificate 219
- userSMIME 219
- X.509 66
  - エクスポート 206
  - 公開鍵証明書 206
  - 署名者 548
  - 発行 139
- 証明書のエクスポート 206
- 証明書の発行 139
- 所属属性、SAP HR Active Sync 345
- 署名者証明書 548
- 処理規則 13

## す

- スキーママップ 16
- スキーママップエントリ、追加 514
- スクリーンスクレーピング 493
- スクリプトゲートウェイアダプタ
  - アイデンティティテンプレート 363, 421
  - アカウント属性 363, 421
  - インストール 359, 417
  - 概要 4, 359
  - 環境変数 360, 418
  - 結果処理 361, 419
  - サポートされる接続 362, 420
  - スクリプト 360, 418
  - トラブルシューティング 364, 422
  - 必要な管理特権 362, 420
  - リソースアクション 359, 417
  - リソースオブジェクト 363, 421
- スクリプトホストアダプタ
  - jar ファイルの要件 11
  - Javascript 367
  - アイデンティティテンプレート 382
  - アカウント属性 382
  - インストール 365
  - 概要 3, 4, 365
  - 管理者 367

## せ

- サポートされる接続 381
- トラブルシューティング 382
- リソースアクション 368

スクリプトホストアダプタ用の Javascript 367  
スクリプト、スクリプトゲートウェイ 360, 418

## せ

- セキュリティーに関する注意事項 6, 15
- セキュリティーマネージャアダプタ 4
- 接続タイプ 6
- 接続、JMS リスナーアダプタ 166
- 接続、サポートされる 15
- 設定
  - Access Manager リソース 29
  - Active Sync 13
  - Domino アダプタ 127
  - PeopleSoft 261
  - PeopleTools 272
  - SAP および SAP HR Active Sync 321, 333
  - SecurID ACE/Server 405
  - SSL 547
  - Sun Java System Access Manager アダプタ 445, 455
  - Web Access Control 31
  - データベーステーブルアダプタ 118
  - リソース 8

## そ

- 相関規則 14
- 属性
  - 「アカウント属性」を参照
  - action 344
  - diffAction 147
  - グローバル登録 526
  - デフォルトユーザー 6
  - 登録 526

## つ

通信リソース、SAP HR Active Sync 351

## て

- 定義
  - アカウント名の構文 17
  - リソースアクション 510
- データベーステーブルアダプタ
  - Active Sync 設定 118
  - アイデンティティテンプレート 121
  - アカウント属性 120
  - 概要 3, 117
  - 設定 118
  - トラブルシューティング 121
- データベーステーブルリソースアダプタ 191
- データ読み込みメソッド 16
- デバッグ 6
- デフォルトのユーザー属性 6
- テンプレート、構築 6

## と

- トラブルシューティング
  - Access Manager 35
  - ACF2 49
  - Active Directory 93
  - AIX 100
  - ClearTrust 116
  - DB2 126
  - HP-UX 160
  - INISafe Nexess 163
  - JMS リスナー 171
  - LDAP 189
  - Microsoft Exchange 143
  - Microsoft SQL Server 200
  - MIIS 193
  - MySQL 203
  - NetWare NDS 221
  - Oracle 228

Oracle EBS 253  
 OS/400 259  
 PeopleSoft コンポーネント 277  
 PeopleSoft コンポーネントインタフェース 288  
 RACF 297  
 Red Hat Linux 314  
 Remedy 320  
 SAP 28, 331, 352  
 SAP Enterprise Portal 358  
 SecurID ACE/Server 416  
 Siebel CRM 430  
 SiteMinder 438  
 SmartRoles 111  
 Solaris 444  
 Sun Java System Access Manager 453, 461  
 Sun Java System Communications Services アダ  
 プタ 307, 478  
 Sybase 482  
 Top Secret 491  
 アダプタ 18  
 スクリプトゲートウェイ 364, 422  
 スクリプトホスト 382  
 データベーステーブル 121  
 フラットファイル Active Sync 150  
 トレース  
 SAP JCO および RFC 322, 342  
 出力の有効化 / 無効化 18  
 トレースオプションの設定 6

## な

名前空間、階層構造 17

## に

認証 16

SQL Server による 196

## は

バージョン

Sun Java System Access Manager 455

パイプ区切りファイル 145, 148

パススルー認証

Active Directory 62

NetWare NDS 208

SecurID ACE/Server 406

概要 6, 16

パスワード

Active Directory アカウントの履歴を確認 56

Active Directory でのリセット権 62

Domino での変更 129

ポリシー、SecurID ACE/Server 410

パスワードキャプチャープラグイン  
description 530

インストール 534

## ひ

必要なファイル 9

ビュー、拡張 526

## ふ

ファイル

DER 206

java.security 30

LDIF 146, 148

XML、「XML ファイル」を参照

アダプタに必要 9

コンマ区切り値 (CSV) 145, 148

パイプ区切り 145, 148

フェイルオーバーの手動モード 540

フェイルオーバーの半自動モード 540

フォーム

Domino 用に更新 135

概要 18

組み込み 18

へ

サンプル [6, 18](#)  
追加 [18](#)  
編集 [18](#)  
リポジトリ [18](#)

フォームフィールド、作成 [514](#)

不在メッセージ、Active Directory [53](#)

フラットファイル Active Sync アダプタ

アカウント属性 [150](#)

概要 [3, 145](#)

サポートされる接続 [149](#)

設定 [145, 147](#)

トラブルシューティング [150](#)

「ブロック数」リソース属性 [176](#)

「ブロックを使用」リソース属性 [176](#)

プロビジョニングアクション [360, 368, 417](#)

プロビジョニングに関する注意事項 [6, 16](#)

へ

ページ

Active Sync の一般設定 [13](#)

LH\_AUDIT\_EFFDT [267](#)

管理するリソースの設定 [7](#)

スキーママップ [16](#)

リソース [8](#)

変更ポイント、SAP [338](#)

変数

USUSER\_UNID [137](#)

WSUSER\_accountId [137](#)

ま

前アクション、「アクション」、「前後」を参照

む

無効化

Domino [131](#)

アカウント [16](#)

トレース出力 [18](#)

ユーザー [372](#)

め

メッセージ値マップ [166](#)

メッセージ配信、JMS リスナーアダプタ [167](#)

メッセージマッピング、JMS リスナーアダプタ [166](#)

「メッセージライフサイクルリスナー」フィールド  
[167](#)

ゆ

有効化

Domino [131](#)

アカウント [16](#)

トレース出力 [18](#)

リソースアダプタ [5](#)

ユーザー属性、デフォルト [6](#)

ユーザータイプ、Oracle [224](#)

「ユーザーモデル」リソースパラメータ [201](#)

り

リソース

アクションの追加 [509 ~ 528](#)

オブジェクトの管理 [17](#)

カスタム [7](#)

設定 [8](#)

表示 [8](#)

リソースアクション

login [40](#)

logoff [40](#)

RACF アダプタ [293, 302](#)

Top Secret アダプタ [487, 521](#)

サンプル [524](#)

スクリプトゲートウェイ [359, 417](#)

- スクリプトホスト [368](#)
- メインフレームアダプタ [521](#)
- リソースアダプタウィザード [195](#)
- リソースオブジェクトの管理 [6, 17](#)
- リソースオブジェクト、管理 [6](#)
- リソースのアイデンティティテンプレートの構築 [6](#)
- リソースのアイデンティティテンプレート、構築 [6](#)
- リソースの表示 [8](#)
- 「リソース」 ページ [8](#)
- リポジトリのフォームの表示 [18](#)
- リポジトリ、フォームの表示 [18](#)
- リレーショナルデータベースのサポート [117](#)

